


国立西洋美術館50年史

1959-2009



国立西洋美術館50年史

1959-2009

国立西洋美術館50年史
1959-2009 昭和34年度～平成20年度







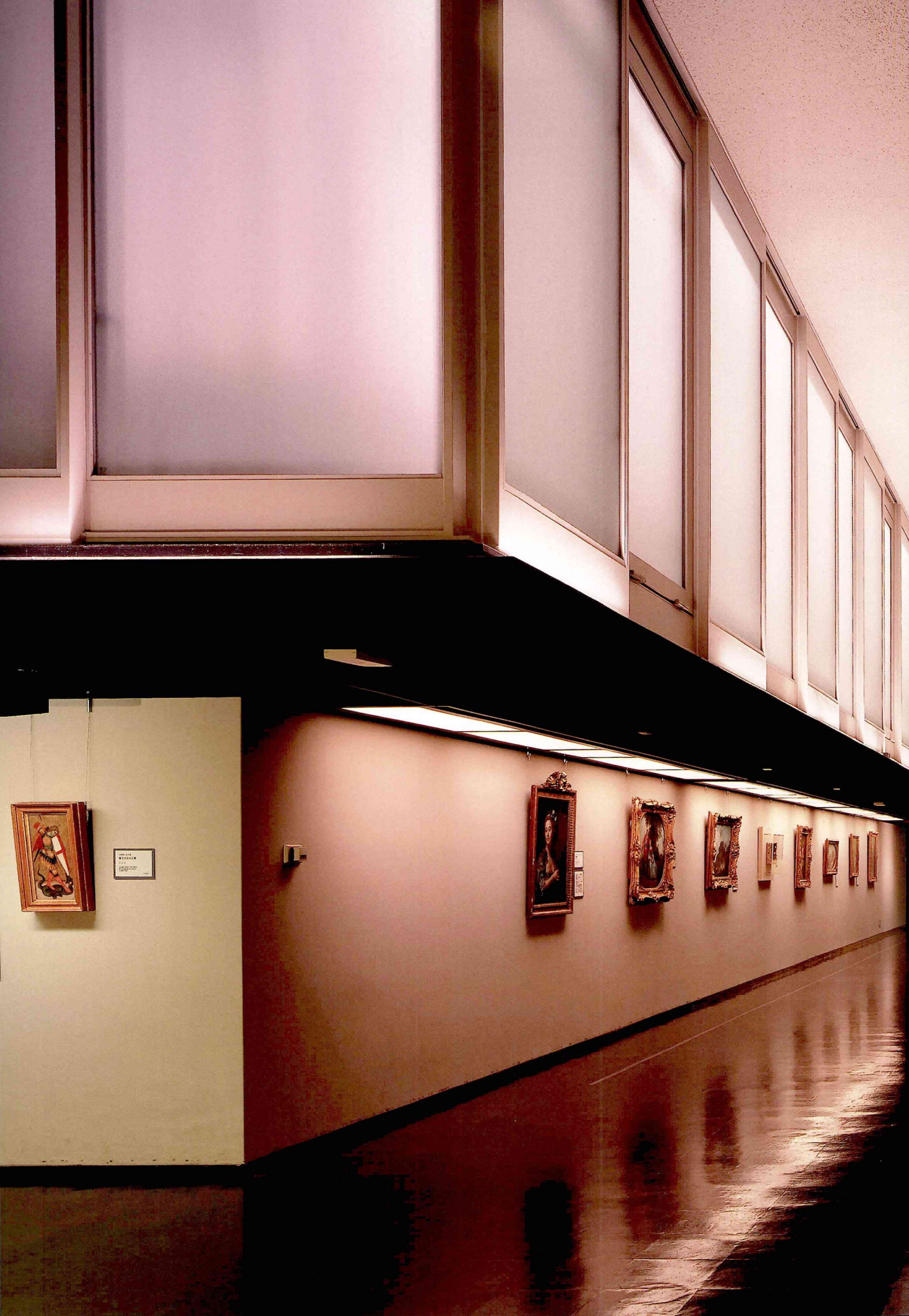
はじめに

国立西洋美術館は昭和34年6月10日の開館以来、50周年をむかえました。美術館の歴史として50年というのは決して長くはありませんが、それでもこの間、作品の保存管理や収集、調査研究、各種の展示、普及紹介、国内外の諸機関との交流など、美術館活動の様々な分野において、当館は少しずつ成長してきました。開館50周年を記念してここに刊行するこの『国立西洋美術館50年史 1959-2009』は、そうした当館の歩みを記したものです。全体は、当館の発展を概略的に振り返ってみた「設立50周年をむかえた国立西洋美術館の活動の回顧と展望」、開館までの歴史を年表でとらえた「前史」、50年間の流れを1年ごとに追った「年史」、そして各種のデータを集積した「資料」から成っていますが、それらは、50年間の歩みの総括であると同時に、未来を展望する足がかりでもあります。

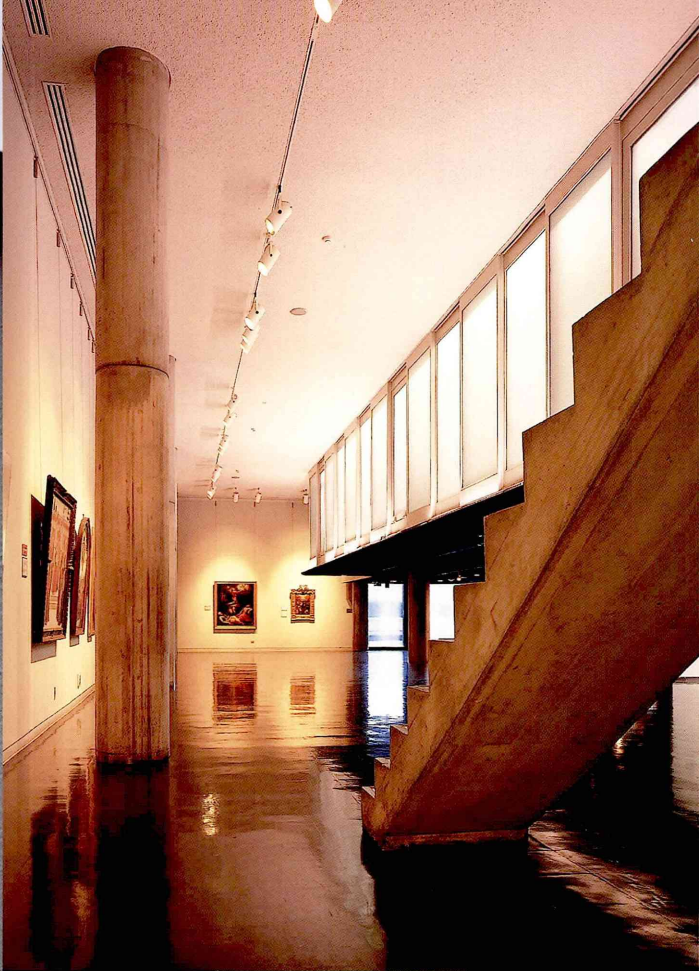
本書をご覧のうえ、国立西洋美術館のよりよい今後について、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

平成21年6月

国立西洋美術館







設立50周年をむかえた 国立西洋美術館の回顧と展望	12
前史 I 松方コレクションの成立とその運命	17
前史 II 松方コレクションの返還交渉と 国立西洋美術館の設置	21
年史 1959-2008 昭和34年度～平成20年度	25
資料	199

設立50周年をむかえた 国立西洋美術館の回顧と展望

館長 青柳正規

国立西洋美術館は今年の6月で開館50周年を迎えます。人間にたとえるなら壮年期を迎えたことになるのでしょうか。老年期に入る前にこれまでを回顧し、将来を展望するのは早計かもしれませんが、一つの区切りとして記すことにします。

現在の川崎重工業株式会社の前身である株式会社川崎造船所の初代社長だった松方幸次郎が第一次世界大戦前後にかけて私財を投入し、つくりあげた西洋美術コレクションは、日本人の手による収集としては最大のものといえましょう。イギリス、フランスを中心に幸次郎が収集活動をくりひろげていた頃、アメリカのバーンズやロシアのシチューキンもさらにひとまわり大きな収集活動を展開していました。しかし、幸次郎の美術品収集の目的は、日本の若者たちに西洋の本当の美術を知ってほしいということでした。自らの財を美術コレクションによって誇示するといった目的はまったくなかったのです。開国から半世紀ほどしかたっていない日本の実業家の、その志の高邁さに脱帽するしかありません。

幸次郎が集めた美術品は絵画や彫刻だけではなくありません。家具、タピスリー、ステンドグラスなども含まれており、総数は数千点にのぼったようです。現在東京国立博物館の浮世絵コレクションの中核をなしている約8,000点の浮世絵も幸次郎が集めたものでした。もしこのコレクションがなければ、日本美術の優品を集めた東京国立博物館に、世界に誇れる浮世絵コレクションがなかったかもしれないのです。その意味でも幸次郎はわが国の西洋美術だけでなく日本美術にとっても偉大な恩人なのです。

しかし、不幸なことに世界恐慌がおこり、その影響を受けて日本に運ばれていた松方コレクションの一部は銀行の抵当物件となって散逸してしまいました。また、ロンドンの倉庫にあった数百点の美術品も漏電火事によって焼失してしまったのです。松方コレクションの一部としてまとまりのあるものはフランスに残された400点あまりの美術品だけでした。しかしこの美術品も第二次世界大戦で日本が敗れたためフランス政府によって没収されてしまいました。

第二次世界大戦後、フランスに残されていた松方コレクションの返還運動が幸次郎周辺からおこり、やがて多くの文化人や実業家、政治家も関心を抱くようになります。昭和26年、サンフランシスコ平和会議のため渡米した吉田茂首相は、フランス政府に松方コレクション返還を打診したところ、まったく不可能というわけではない感触を得ることに成功します。返還に関しての交渉が日仏間で開始され、やがて、返還ではなくフランスから日本国民への寄贈という形でなら可能であるという方針が示されると同時に、寄贈する美術品を収蔵展示する美術館の創

設も条件の一つとして提示されました。現在、西洋美術館が所蔵する松方コレクションをフランスから「寄贈返還」されたものと称しているのは、以上のような経緯があったからです。

新たな美術館を創設するにあたって、場所は上野公園、設計者はル・コルビュジエに決定しました。すでにサヴォア邸や国際連合本部ビル（計画案）などで確固たる地位を築いていた建築家です。ところが、戦後復興の途上にあった日本の財政状態は逼迫した状況で、十分な建設費を出すことはできませんでした。そこで藤山愛一郎、司忠、松方三郎、川喜多かしこ、川端康成、安田曾太郎といった人々が寄付金集めに奔走し、足りない建築費を補填することによって建物は、戦後の復興がようやく軌道に乗り始めた1959（昭和34）年に完成しました。その前年に完成する東京タワーについて上野公園に出現したル・コルビュジエ設計による美術館の建物は、美の殿堂にふさわしい純粹形態の集積ともいえる清冽な姿によって、将来の繁栄を予見させるような魅力に満ちていました。事実、現在でも凛としたその姿は、50年を経過してもいささかも衰えるところはありません。それが、昭和34年3月のことです。その翌月、フランスからの松方コレクションも横浜港に到着しました。

開館式が行われた6月10日は、皇族や閣僚に並んでフランスの国立美術館総長なども列席する大規模な式典でした。その3日後の13日から一般公開が始まると連日行列ができるほどの盛況で、そのような状況は数年間も続きました。特別企画展ではなく、常設展にこれだけ多くの方々が来館されたことは西洋美術への高い関心からでしたが、いまでは考えることができないほど昂揚した昭和30年代という時代だからともいえましょう。その意味で、国立西洋美術館にとっては好奇心に満ちた少年期のような時代だったのかもしれません。

開館から5年がたった64年には「ミロのビーナス：特別公開」という展覧会が開催されました。《ミロのビーナス》ただ一点だけの展示であったにもかかわらず80万人をこえる来館者があり、若々しいエネルギーに満ちた時代でした。このような大規模展は、94年の「バーンズ・コレクション展」が集大成といえるのではないのでしょうか。2か月半ほどの短い会期に100万を越す入場者が押し寄せました。そのような熱気に満ちた青年期を終えて、落ち着いた壮年期に入り、西洋美術館ならではの企画展や常設展が開催されています。企画展としては、日仏の研究者が協力して構成した「ジャポニスム展」（88）、それまで本格的に紹介されることのなかった「ギュスターヴ・モロー展」（95）や「イタリアの光―クロード・ロラ

ンと理想風景」(98)や「ハンマースホイ展」(08)、変奏と過程という明確なテーマによる「マティス展」(04)など、わが国の西洋美術史に関する展望を大きく拡大させる、もしくは進化させる事業として高く評価しようと自負しています。このほか、会場が手狭なため、学芸関係の実務は西洋美術館が担当し、東京国立博物館を会場とする「モナ・リザ展」(74)、「英王室秘蔵素描展」(75)、「スペイン絵画・ペラスケスとその時代」(80)などもありました。

国立西洋美術館にとって最も重要な事業は所蔵する美術コレクションの展示と、コレクションそのものをより充実させていくということです。フランスから寄贈返還された松方コレクションは絵画196点、素描80点、版画26点、彫刻63点、それに参考作品などが5点の総計370点でした。これらの作品には、クールベの写実主義にはじまり、モネ、ルノワール、ゴーガン、ピサロなどの印象派や後期印象派があり、20世紀初頭のフランス絵画を代表する作家の作品も多く含まれています。また、ロダンの彫刻作品も53点あり、《地獄の門》や《考える人》などの代表作によって構成されています。これらの松方コレクションが国立西洋美術館のコレクションの中核ですが、その後の作品購入活動と梅原龍三郎氏や山村徳太郎氏方々からの作品寄贈によって現在では4,566点もの美術作品を収蔵するようになりました。作品購入予算は減少していますが、現在でも旧松方コレクションにあって散逸した作品などを丹念に追跡して、コレクションに加える努力を続けています。そのような継続の方針によって、ロセッティの《愛の杯》、ブリュゲル(子)の《鳥毘のある冬景色》、セガントーニの《羊の剪毛》などが加わりました。また、中世末期から1920年頃までの西洋美術の大きな流れがたどれるように、欠落した部分を埋めることのできる作品も購入しています。それらのなかには、ロヒール・ファン・デル・ウェイデン(派)の《ある男の肖像》、シニャックの《サン＝トロペの港》、ハンマースホイの《ピアノを弾く妻イーダのいる室内》などがあります。また、1980年に購入したバウツ(派)の《荊冠のキリスト》は購入時から二連画の片方であることが判明していましたが、2007年には残りの半分である《悲しみの聖母》を購入することができました。ヨーロッパの美術市場で国立西洋美術館がバウツ(派)の作品を所蔵していることが知られていたためです。その結果、ルーヴル美術館やロンドンのナショナル・ギャラリーなどとは比較することもできませんが、西洋美術の大きな流れをたどることがかなり可能になり、コレクションの性格に偏りのあるヨーロッパの地方美術館などよりも美術史の観点からはより整ったコレクションに成長したと認識しています。まず国立西洋美術館の収蔵品は世

界的な優品というよりよく吟味された良品の集まりであるということです。世界で唯一の超傑作の作品があるわけではありませんが、どうしようもない作品があるというわけでもありません。また、アジアで唯一の国立西洋美術館として、アジアの美術や文化を考える際の、貴重な比較材料を提供する施設となっています。ただし、家具や工芸品など、西洋美術の総体をみるには絵画・彫刻に偏りすぎているくらいがあり、企画展の比重が大きすぎるという面もあります。そのような課題を有しているとはいえ、展示面積当たりの来館者数、あるいは職員数当たりの来館者数は世界でも屈指の存在であると確信しております。わが国のさまざまな組織や施設は大変効率的にできていますが、当館もその例にもれず有数の効率性を実現しているのです。

以上のようにこれまでの50年をふりかえると、少年期、青年期、壮年期をそれぞれの年齢にふさわしく無事に過ごしてきたようです。さまざまな困難もありましたが、国立の美術館として国立にしかできない継続的な事業を推進し、ナショナル・センターとしての主導性を発揮してきたと自負しております。しかし、平成13年に独立行政法人国立美術館という組織になったときから、予想だにしない大波にもまれることになりました。独立行政法人化して今年で9年目を迎え、来館者は大幅に増加しているものの、文化庁からの予算は、法人化前と比べると2割以上も減少し、人件費の削減で職員も減らさざるを得なくなっています。この結果、作品購入費を減らし、調査研究費を削ってどうにかこれまでの体裁を維持している状態です。このままでは早晩1年のうち数か月を閉館しなければならないときが訪れるかもしれない状況になりつつあります。50周年を迎えようとしている現在ではありますが、これからの50年はこれまでの50年とはまったく違ったいばらの道であろうと予測しています。50周年に際して、このようなことを記さなければならないのは大変に残念なことではありますが、50周年が終わりの始まりでないように館員一同さらに一層努力していきたいと考えています。



前史 I

松方コレクションの成立とその運命

慶応元年(1865)

- 松方幸次郎、松方正義の三男として生まれる。
- 彼は大学予備門(東大の前身)に学んだのち、明治17年(1884)に渡米、ラトガーズ大学、エール大学に留学。エール大学で民法の博士号を取得したのち、ヨーロッパを遊学する。

明治23年(1890)

- 松方幸次郎、帰国。
- 翌年、父正義の内閣組閣により首相秘書官となる。明治25年(1892)には宮内省出仕。

明治29年(1896)

- 神戸に株式会社川崎造船所が創立され、松方幸次郎は社長として迎えられる。

明治32年(1899)

- 神戸新聞社発足し、松方幸次郎が社長に就任。

明治35年(1902)

- 松方幸次郎、欧米へ視察旅行。以後、明治37年(1904)の米国視察、明治40年(1907)、明治44年(1911)の欧米視察と、しばしば渡航。

明治45年(1912)

- 松方幸次郎、帝国議会衆議院議員に就任。

大正3年(1914)

- 第一次世界大戦勃発。
- 松方幸次郎は、戦争拡大を見越してストックボート(注文なしにあらかじめ作ってストックしておく船舶)の建造に着手。

大正5年(1916)

- 3月 松方幸次郎は、ストックボートの売込のため欧米へ渡航。この渡航は2年半以上にわたった。
- 美術品の収集が本格的に始まったのはこの渡欧中で、購入作品数は約1,180点ともいわれている。ストックボートの販売利益は膨大な額にのぼり、この時期に松方が手にした巨額の賞与が彼の美術品購入の最大の資金源となったと推測される。収集の相談相手はイギリスの画家フランク・ブラングインで、既に神戸に美術館を建設する構想もあり、ブラングインはその設計も依頼されていた。
- また、大正7年(1918)にはフランスの宝飾工芸家で美術収集家でもあったアンリ・ヴェヴェールの浮世絵コレクション約8,000点を購入している。

大正7年(1918)

- 11月 松方幸次郎、帰国。彼は帰国に際して、デュラン＝リュエル画廊に資金を預け、作品の購入を委託している。
- 帰国後まもなく、美術館の建設予定地は東京麻布の松方の所有地に変更され、美術館の名も「共楽美術館」と決められた。

大正8年(1919)

- ブラングインによる美術館設計図が日本に到着。友人であった黒田清輝などとその構想についての話し合いがもたれた。

大正9年(1920)

- ロダン美術館に《地獄の門》の鑄造を発注。

大正10年(1921)

- 4月 松方幸次郎、視察のため渡欧。
- この時にはすでに松方の名はコレクターとして知られていた。松方は美術史家の矢代幸雄や仏文学者の成瀬正一を伴い、盛んに収集活動を行なっている。パリにいた姪の黒木竹子夫妻の紹介でモネ邸を訪問したのもこの渡欧中のことである。現在までの調査により、松方コレクションに含まれていたモネの作品は、25点にのぼるとされている。
- ドイツでは、タピスリーを含む旧王族のコレクションを取得している。『ザ・タイムズ』誌にブラングインの共楽美術館構想図が掲載されたのも、この滞在期のことである。

大正11年(1922)

- 2月 松方幸次郎、帰国。
- ヨーロッパで収集された作品は順次日本に送られたが、なお多くのものがロンドンやパリに残されていた。パリに残してあった作品はロダン美術館に預けられていた。松方が収集の相談役にしていたリュクスンブール美術館の館長レオンス・ベネディットが、ロダン美術館館長をも兼ねていたためであった。また、これは、松方コレクションにロダンの作品が多く含まれていることとも関係する。
- 10月 「松方幸次郎氏所蔵泰西名画展覧会」開催される。
- 11月 「松方氏所蔵浮世絵版画展」開催される。

大正13年(1924)

- 7月 この年、関税が引き上げられ、コレクションの日本への輸送が中断された。松方にイギリスの作品管理を任されていた山中商会の調査によれば、松方の収集品のうち、大正末までに少なくとも9,383点の美術品が日本に到着している。内訳は油彩700点、水彩66点、彫刻32点、美術家具350点、タピスリー17点、浮世絵8,218点で、西洋美術作品の総数は1,165点になる。この他にドイツで取得した作品が30点、ロンドンのバンテクニカン社の倉庫に約300点(一説に600点)、パリのロダン美術館には428点の作品が残されていたといわれる。

大正14年(1925)

- 6月 「国民美術協会第11回展」に松方の所蔵作品の一部を特別展示。

大正15年(1926)

- 2月 「光風会第13回展」に松方の所蔵作品の一部を特別展示。
- 4月 松方幸次郎、欧州出張に出発(翌年4月まで)。

昭和2年(1927)

- 関東大震災後の経済危機により川崎造船のメインバンクであった十五銀行が休業に追いこまれる。日本に入っていた松方のコレクションはその債務処理に当てられた。作品の多くは売立によって、一部は個人的あるいは取引き上の関係を通じて売却され、コレクションは散逸した。

昭和3年(1928)

- 3月 「松方氏蒐集欧州美術展覧会」。この展覧会を含め、以下の展覧会はコレクション売立の展

覧会となる。今日国立西洋美術館に所蔵されている松方コレクションはほとんど19世紀後半のフランス美術であるが、これらの展覧会の目録中には、親交のあったブラングインはいうまでもなく、ターナー、ゲインズバラを初めとするイギリス絵画や、モーヴ、イスラエルスらの19世紀オランダ絵画も数多く含まれている。またクラナハ、ティントレット、テニールス、ヴァン・ダイク、カラッチ、ブッサン、クロード・ロランなど、ルネサンスから18世紀にかけての著名な画家の名前も見受けられる。

6月 「御大典記念徳川時代各派名作浮世絵展」

8月 松方幸次郎、川崎造船所社長を辞職。

昭和4年(1929)

4月 「松方氏蒐集欧州綴織及絵画展覧会」

昭和5年(1930)

5～6月 「第三回松方氏蒐集絵画展覧会」

昭和6年(1931)

5月 「第四回松方氏蒐集欧州美術展覧会」

昭和9年(1934)

2月 「松方氏蒐集欧州絵画展覧会」

5月 「松方氏蒐集欧州絵画展覧会」

11月 「松方氏蒐集欧州絵画小品展覧会」

昭和10年(1935)

5～6月 「時代タペストリー展」

昭和11年(1936)

1月 「松方幸次郎蒐集西欧カーテン展」

昭和13年(1938)

4月 「M氏蒐集油絵展」

昭和14年(1939)

—— パンテクニカン社の倉庫の火事により、ロンドンに残されていたコレクション焼失。

—— 第二次世界大戦勃発

昭和15年(1940)

2月 「松方氏蒐集諸大家版画展覧会」

4月 「松方氏蒐集欧州絵画展覧会」

—— パリに残されていた作品は、大正5年(1916)に川崎造船嘱託技術職員として渡仏し、現地に留まっていた日置釦三郎によって管理され、日置とともにパリ近郊の小村アボンダンに疎開。

昭和18年(1943)

—— ヴェヴェール旧蔵の浮世絵、帝室へ献上。

昭和19年(1944)

—— ヴェヴェール旧蔵の浮世絵、帝室から帝室博物館へ移管。

昭和20年(1945)

—— 第二次世界大戦終結。



《松方幸次郎の肖像》フランク・ウィリアム・ブラングイン

前史Ⅱ

松方コレクションの返還交渉と 国立西洋美術館の設置

昭和20年(1945)以降

フランスに残された松方コレクションは、私有財産として当然、松方家に返還されるものとして、松方家代理人の松本重治氏は、萩原在仏日本政府事務所長の協力を得て、フランス側保管当局との返還の折衝を進めた。

昭和25年(1950)

5月24日 松方幸次郎、逝去。

昭和26年(1951)

4月 サンフランシスコ平和条約により、在仏松方コレクションは、連合国の管理下にある日本国民の財産として、フランス政府の所有に帰した。しかし、その際、日本国全権吉田首相は、フランス国全権シューマン外相に対し、条約の規定にかかわらず同コレクションの返還を考慮されたい旨申し入れ、以後、返還交渉は日仏両国政府間に移った。

4月以降 外務省と駐日フランス大使館との間で折衝開始。

この折衝の過程において、フランス側は、(1) 返還されるべき松方コレクションは、フランス文化財を展覧するための特別の美術館に保管展示されること、(2) ロダンの《カレーの市民》については現ブロンズ作品は返還せず、新たに鋳造したものを返還すること、その鋳造費を日本側が負担すること、(3) 作品の輸送費を日本側が負担すること、について日本政府の意向を打診。

昭和27年(1952)

11月 レイノー仏元首相の来日に際し、吉田首相から、松方コレクション返還実現の斡旋を依頼。

昭和28年(1953)

3月26日 《カレーの市民》鋳造費および輸送費を負担する旨の日本側の意向を表明。

6月13日 フランス大使より、東京にフランス美術館を創設することが不可欠の条件である旨の覚書伝達。

7月 東京芸術大学より、同大学に付属してフランス美術館を設置するよう要望があった。

7月14日 外務大臣より仏大使に対し、前記覚書に対する回答として、フランス美術館(仮称)の設置に必要な措置をとること、輸送費および《カレーの市民》鋳造費を負担することを確認。

9月15日 兵庫県などから、美術館を神戸市内に設置するよう陳情があった。

12月4日 「松方コレクション受け入れについて」閣議了解。在仏松方コレクション、絵画約300点、彫刻約60点など、計約400点のフランス政府から日本政府への寄贈を受け入れるについて、輸送費等の負担に関して適切な措置をとること、日本政府が仮称「フランス美術館」を設置することを確認、具体的な準備を進めることとした。

12月10日 前記閣議了解に基づき、文部省に、「フランス美術館」(仮称)設置準備協議会(委員長 高橋誠一郎)が発足。

12月15日 閣議了解が成立した旨の口上書をフランス大使館に伝達。

12月24日 京都市より、美術館を京都市に設置するよう要望があった。

昭和29年(1954)

- 1月7日 「フランス美術館」設置準備協議会は、新美術館を東京都内に新築するよう建議。
- 2月5日 来日したルーヴル美術館長ジョルジュ・サル氏と文部大臣との懇談の際、サル氏より、(1)美術館建設のための予算を充分とるべきであること、(2)寄贈は日本の予算措置がすんでからになされるべきこと、(3)敷地は上野にすべきこと、などの意見が示された。
- 3月10日 文部大臣は、東京都、財界、美術界、文化団体等の関係者を招いて「松方コレクションに関する懇談会」を開催し、美術館建設について協力を要請。
- 3月31日 「フランス美術館」設置準備協議会は、「旧松方コレクション受け入れの具体的方策について」を答申し、建築設計の委嘱に関してはル・コルビュジエ氏を提案。
- 5月13日 文部省は、東京都関係者および寛永寺当局者と懇談し、敷地に関して寛永寺側の協力を要請。
- 5月17日 「松方氏旧蔵コレクション国立美術館建設連盟」(会長 藤山愛一郎)発会。
- 5月28日 「松方氏旧蔵コレクションの受け入れについて」閣議決定。国立の美術館を新設すること、敷地は上野公園地域内にすることなどを決定。
- 6月8日 文部大臣よりフランス文化大臣にあて、寄贈実現への協力を依頼。
- 9月30日 在仏松方コレクション管理者日置釦三郎氏、在仏日本大使館高橋参事官あての書簡で日仏両政府間の交換公文案に関し、異議のないことを表明。
- 10月6日 訪仏した吉田首相とコティエ仏大統領との懇談の際、同大統領は、松方コレクションの寄贈に関し、フランス政府が原則的に了解している旨、発言。
- 10月27日 再来日したルーヴル美術館長サル氏と日本側関係者との懇談。フランス議会での寄贈決議と日本での美術館建設を並行して進めることとする。
- 12月23日 文部省より東京都に対し、美術館建設用敷地の確保を依頼。

昭和30年(1955)

- 1月6日 在仏西村大使より、サル氏が建築設計者としてル・コルビュジエ氏を推している旨、報告。
- 3月4日 東京都より、建設予定敷地(寛永寺凌雲院跡)を東京都の財産として編入し、国に対して無償貸与する旨、回答。
- 3月9日 建築設計者としてル・コルビュジエ氏を、日本側協力者として坂倉準三氏、前川國男氏、吉阪隆正氏を決定。
- 3月17日 美術館建設敷地地鎮祭。
- 4月1日 松方三郎氏(幸次郎氏の養子)、文部大臣あての書簡により、日本政府がこのコレクションを所有し、文化のために役立てることに對して賛意を表明。
- 4月9日 文部省よりル・コルビュジエ氏に、設計契約について照会。
- 10月8日 松方コレクション寄贈に関し、日仏両国政府間で公文を交換。日本側、重光外相は、松方コレクションの寄贈が日本国政府に対して行われることを確認し、新美術館建設の準備に入ったことを報告、あわせて、その美術館を「国立西洋美術館、別名フランス美術松方コレクション」と命名する意向を表明。フランス側、レヴィ在日大使は、フランス政府による寄贈の意向を確認するとともに、必要な法案を国民議会に送ることを約束。双方でそれまでに取り決められた作品リストの確認を行なった。
- 10月26日 文部大臣とル・コルビュジエ氏との間で契約書調印。
- 11月1日 ル・コルビュジエ氏来日し、美術館建設敷地を視察。

昭和31年(1956)

- 7月18日 在仏日本大使館、ル・コルビュジエ氏の基本設計図を受領。
- 12月12日 設計案が予算を超過するため、文部大臣よりル・コルビュジエ氏に対し、実施設計の変更を依頼した。

昭和32年(1957)

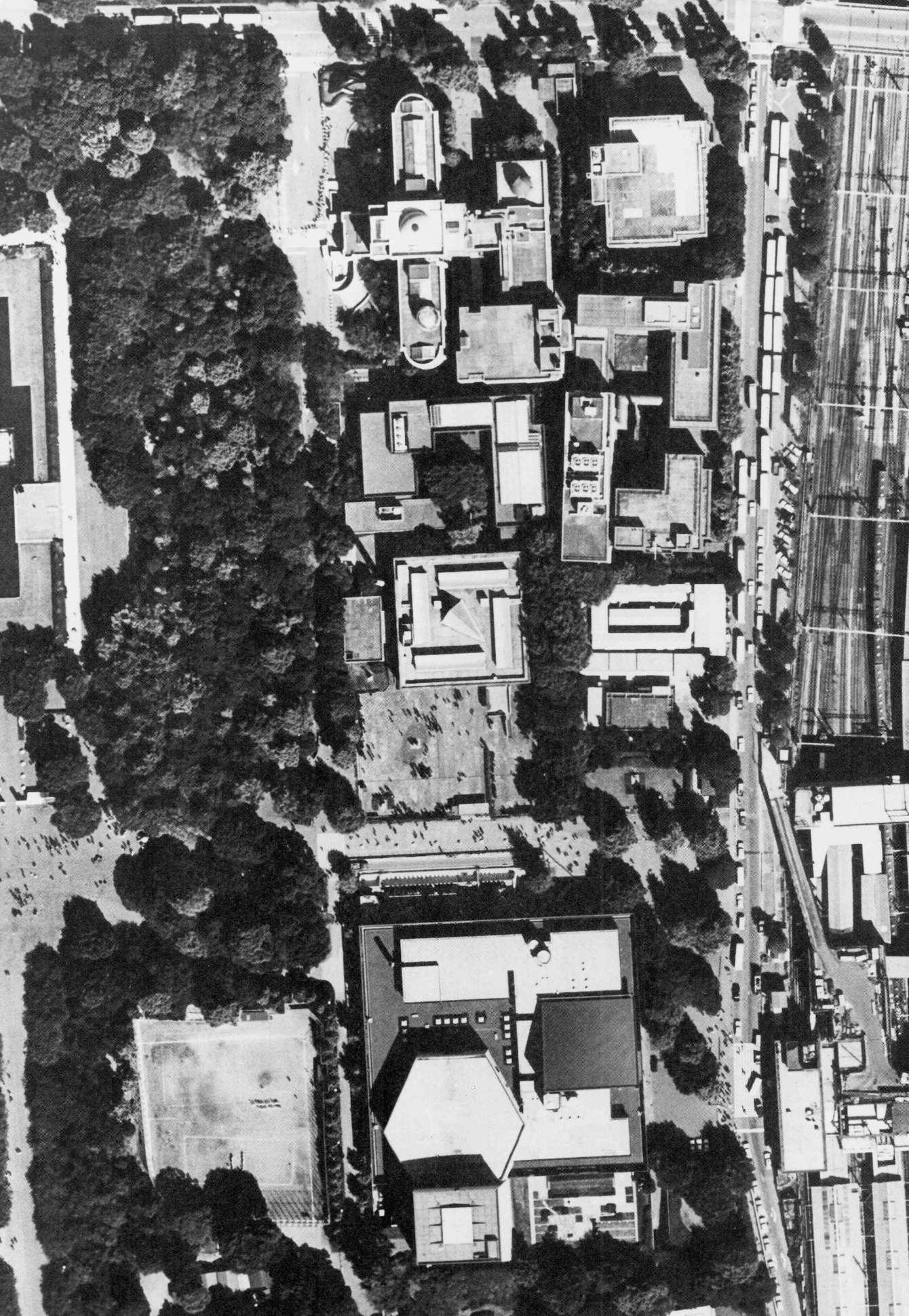
- 3月30日 在仏日本大使館、ル・コルビュジエ氏の実施設計図を受領。
- 6月14日 ル・コルビュジエ氏より、実施設計付属説明書および設計書原図を受領。
- 7月8日 松方コレクション寄贈法案が、フランス国民議会に提出された。

昭和33年(1958)

- 3月7日 松方コレクション寄贈法案が、「国立西洋美術館—フランス美術松方コレクション」の名称を冠することを条件として、フランス国民議会(下院)を通過。
- 3月21日 国立西洋美術館建築工事起工式。
- 4月24日 国立西洋美術館の設置を規定した法律が成立し、5月1日公布された。
- 8月 《カレーの市民》の鑄造完成。
- 12月1日 5月1日公布の法律に従い、昭和34年3月31日までの間、国立近代美術館の分館として西洋美術館が設置された。
- 12月17日 フランス大統領の行政命令により、松方コレクションの寄贈法施行。これにより、在仏松方コレクション中、一部を除く、絵画196点、素描80点、版画26点、彫刻63点、参考作品5点、計370点の寄贈返還が確定した。

昭和34年(1959)

- 1月23日 フランス外務省において、古垣駐仏大使、ミュルヴィル外相およびマルロー文化担当国務大臣出席のもと、松方コレクション引渡し式。
- 2月18日 国立西洋美術館運営協議会が発足。
- 2月22日 ル・アーヴルにおいて、《地獄の門》およびコッテ作《悲嘆、海の犠牲者》を浅間丸に積み込む。
- 3月11日 マルセイユにおいて、他の作品の積み込み完了。
- 3月31日 国立西洋美術館の建物が竣工し、引渡し完了。
- 4月1日 国立西洋美術館設置。



年史

1959-2008 昭和34年度～平成20年度

凡例

・以下は、国立西洋美術館における1959（昭和34）年度～2008（平成20）年度までの50年間のできごとを、各年度（4月1日から翌年3月31日）ごとにまとめた年史である。各年度に記載された事項と掲載順は次の通り。

I期：1959（昭和34）年度～1989（昭和63）年度――

「主要記事」、「新収作品」、「展覧会」、「巡回展」、
「講演会等」、「この年度の数字」

II期：1990（平成元）年度～2008（平成20）年度――

「主要記事」、「新収作品」、「保存修復」、「展覧会」、
「巡回展」、「講演会等」、「教育普及」、「情報資料」、
「この年度の数字」

なお、II期の「巡回展」の項は、「文化庁巡回展」、「国立博物館・美術館巡回展」、「地方美術館との連携協力展」などに分類して掲載した。また、1994（平成6）年度以降は、教育普及活動の拡張にともない、「講演会等」の項目は「教育普及」に一括した。

・「新収作品」の項では、絵画（P）、彫刻（S）、素描（D）、版画（G）、工芸（OA）、書籍（L）の順に記載した。

・「展覧会」の項では、年度をまたがって開催されたものについては、会期の始まりの年度に記載した。

・「講演会等」の項に記載された人名のうち、当館員には*印を付した。

・「この年度の数字」の項のうち、開館日数については年度により表記法が異なっている。これは、1979（昭和54）年の新館完成にともない、本館で常設展、新館で特別展がおもに開催されるようになったこと、あるいは全館を使った特別展示の開催や、改修工事などに起因する。

観覧者数の一日平均は、観覧者数を開館日数で割った数字である。常設展示観覧者数は、常設展示のみの観覧者数と、特別展併設時における常設展示観覧者数との合計であるが、（ ）内の一日平均は、前者のみを平均した数字である。詳細は、巻末資料の「観覧者一覧」を参照のこと。

そのほか、所蔵作品数、歳入・歳出の詳しい内訳等に関しては、巻末資料を参照のこと。

1959
60

昭和34年度

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：23,424千円

歳出予算：15,820千円

開館日数：241日

平常展示：241日

特別展：0日

観覧者数：584,861人（1日平均2,427人）

平常展示：584,861人（1日平均2,427人）

所蔵作品数：370点

主要記事

昭和34年

4月1日 文部省設置法により、国立西洋美術館が
設置された

次長に平野出見が任命された

4月3日 館長に富永惣一が任命された

4月9日 第1回国立西洋美術館評議員会

4月15日 浅間丸、横浜に到着

4月17日 国立西洋美術館に作品到着

4月18日 外務省により文部省に作品引き渡し

4月25日 第2回国立西洋美術館評議員会

5月22日 《カレーの市民》の据付け完了

5月29日 竣工式

《考える人》の据付け完了

6月4日 《地獄の門》の据付け完了

6月6日 第3回国立西洋美術館評議員会

6月10日 開館式、高松宮同妃両殿下御臨席のもと、
岸首相、藤山外相、橋本文相、ダリダン
仏大使ら多数の来賓の参会

6月11日 特別公開日

6月13日 一般公開開始

6月15日 在京外国大公使を特別招待

6月19日 吉田茂元首相来館

6月29日 天皇皇后両陛下御観覧のため御来館

7月13日 皇太子殿下、清宮貴子内親王殿下御観覧
のため御来館

9月21日 皇太子妃殿下御観覧のため御来館

11月24日 第4回国立西洋美術館評議員会

昭和35年

2月24日 フランス文化担当国務大臣アンドレ・マル
ロー氏来館

1960
1

昭和35年度

主要記事

昭和35年

- 5月10日 第5回国立西洋美術館評議員会
5月13日 開館1周年記念、「松方コレクション名作選抜展」開会式
7月10日 「松方コレクション名作選抜展」終了
9月17日 第6回国立西洋美術館評議員会
10月14日 「20世紀フランス美術展」開会式
12月11日 「20世紀フランス美術展」終了

昭和36年

- 1月23日 「ル・コルビュジエ展」開会式
2月19日 「ル・コルビュジエ展」終了

新収作品

P.1960-1

シャイム・スーティン
《狂女》1920年
油彩、カンヴァス、96×60 cm
林泰氏より寄贈

P.1960-2

レオポルド・トレス・アゲーロ
《小さな木》1956年
油彩、カンヴァス、22×35.2 cm
大阪商船株式会社より寄贈

P.1960-3

オスバルド・スバナシーニ
《絵画》
油彩、カンヴァス、45.6×55.4 cm
大阪商船株式会社より寄贈

P.1960-4

オスカル・カプリスト
《ドゥオ》1959年
油彩、カンヴァス、51.6×62.2 cm
大阪商船株式会社より寄贈

P.1960-5

ビセンテ・フォルテ
《静物》1959年
油彩、カンヴァス、60.4×50.4 cm
大阪商船株式会社より寄贈

P.1960-6

フランコ・ディ・セーニ
《絵画》1959年
油彩、板、55.2×70.4 cm
大阪商船株式会社より寄贈

S.1960-1

ビエール＝オーギュスト・ルノワール
《ココ》1907年
石膏、直径21.7 cm
梅原龍三郎氏より寄贈

G.1960-1

バーナード・チャイルズ
《ドン・キホーテからの物語》1958年
ドライポイント、ビュラン、31.5×43.5 cm
作者より寄贈

G.1960-2

バーナード・チャイルズ
《戦士》1960年
ドライポイント、ビュラン（亜鉛版）、35×35 cm
作者より寄贈

G.1960-3

バーナード・チャイルズ
《ABC》1960年
ドライポイント、ビュラン（亜鉛版）、24.3×24.5 cm
作者より寄贈

展覧会

1960-1

「松方コレクション名作選抜展」

会期：昭和35年5月14日～7月10日

主催：国立西洋美術館、朝日新聞社

出品内容：絵画114点、彫刻51点、素描18点、版画12点

観覧者数：80,825人

1960-2

「20世紀フランス美術展」

会期：昭和35年10月15日～12月11日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社

出品内容：絵画61点、彫刻2点、工芸245点

観覧者数：114,141人

1960-3

「ル・コルビュジエ展」

会期：昭和36年1月24日～2月19日

主催：国立西洋美術館、ル・コルビュジエ展組織委員会

出品内容：素描68点、版画18点、参考資料86点

観覧者数：29,118人

巡回先：大阪市立美術館（昭和35年11月6日～12月4日）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：15,166千円

歳出予算：22,981千円

開館日数：278日

平常展示：151日

特別展：127日

観覧者数：398,888人（1日平均1,435人）

平常展示：174,804人（1日平均1,158人）

特別展：224,084人（1日平均1,764人）

所蔵作品数：380点

1961
2

昭和36年度

主要記事

昭和36年

- 4月12日 第7回国立西洋美術館評議員会
- 5月1日 次長に大田周夫が任命された
- 5月8日 ロダン作《アダム》と《エヴァ》を、《地獄の門》の両側に据付けた
- 5月19日 「エドヴァルト・ムンク版画展」開会式
- 6月18日 「エドヴァルト・ムンク版画展」終了
- 11月2日 「ルーヴルを中心とするフランス美術展」開会式
- 11月18日 第8回国立西洋美術館評議員会

昭和37年

- 1月15日 「フランス美術展」終了

新収作品

D.1961-1

ピエール＝アルベール・マルケ
《二人の少女》1906年
墨、紙、20×9.7 cm
マルケ夫人より寄贈

展覧会

1961-1

「エドヴァルト・ムンク版画展」
会期：昭和36年5月20日～6月18日
主催：国立西洋美術館
出品内容：版画104点
観覧者数：33,821人

1961-2

「ルーヴルを中心とするフランス美術展」
会期：昭和36年11月3日～昭和37年1月15日
主催：東京国立博物館、国立西洋美術館、朝日新聞社
出品内容：絵画260点、彫刻60点、素描119点、版画39点
会場：東京国立博物館
観覧者数：722,082人
巡回先：京都市美術館(昭和37年1月26日～3月15日)

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：10,590千円

歳出予算：22,882千円

開館日数：295日

平常展示：269日

特別展：26日

観覧者数：280,057人(1日平均949人)

平常展示：246,236人(1日平均915人)

特別展：33,821人(1日平均1,301人)

所蔵作品数：381点

1962
3

昭和37年度

主要記事

昭和37年

- 4月1日 次長に西森馨が任命された
- 4月9日 第9回国立西洋美術館評議員会
- 9月28日 「ミロ版画展」開会式
- 10月20日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(神戸展)開催
- 10月28日 「ミロ版画展」終了
- 11月2日 「ピカソ・ゲルニカ展」開会式
- 11月17日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(名古屋展)開催
- 12月23日 「ピカソ・ゲルニカ展」終了

昭和38年

- 2月26日 第10回国立西洋美術館評議員会

新収作品

P.1962-1

アルトゥーロ・パチエーコ・アルタミラーノ
《バルディビア造船所風景》
油彩、カンヴァス、60.5×73 cm
作者より寄贈

P.1962-2

ジョン・フランクリン・ケーニグ
《キダカ》1961年
油彩、カンヴァス、100×100 cm
作者より寄贈

P.1962-3

エミリア派、16世紀
《ヴィーナスとキュービッド》
油彩、カンヴァス、104×62 cm
購入

P.1962-4

ジョヴァンニ・セガンティーニ
《風笛を吹くブリアンツァの男たち》1883-85年頃
油彩、カンヴァス、107.2×192.2 cm
購入

P.1962-5

カルロ・クリヴェッリ
《聖アウグスティヌス》1487-88年頃(?)
テンペラ、板、140.7×39.5 cm
購入

S.1962-1

オーギュスト・ロダン
《バルザック》1897年
ブロンズ、106×45×38 cm
株式会社朝日新聞社より寄贈

D.1962-1

ジョン・スローン
《睡蓮の池》1894-96年頃
ペン、紙、13.7×50.7 cm
デラウェア・アート・センター、ジョン・スローン・コレクションより寄贈

D.1962-2

フランク・ウィリアム・ブラングイン
《松方幸次郎氏の肖像》
木炭、パステル、紙、47.5×37 cm
国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1962-1

ジョン・スローン
《追憶》
エッチング、19×22 cm
デラウェア・アート・センター、ジョン・スローン・コレクションより寄贈

G.1962-2

ジョン・スローン
《五番街》1909年
エッチング、20×15 cm
デラウェア・アート・センター、ジョン・スローン・コレクションより寄贈

G.1962-3

ジョン・スローン

《版画愛好家》

エッチング、12.5×17.5 cm

デラウェア・アート・センター、ジョン・スローン・コレクションより寄贈

G.1962-4

ジョン・スローン

《夜の窓》1910年

エッチング、13×17.5 cm

デラウェア・アート・センター、ジョン・スローン・コレクションより寄贈

G.1962-5

ジョン・スローン

《メトロポリタン美術館で模写する画家》1908年

エッチング、18×22.5 cm

デラウェア・アート・センター、ジョン・スローン・コレクションより寄贈

G.1962-6

ジョン・スローン

《果物鉢のある裸婦》1931年

エッチング、13×27 cm

デラウェア・アート・センター、ジョン・スローン・コレクションより寄贈

G.1962-7

サム・フランシス

《呪われたズボン吊り》1960年

リトグラフ、91×63.5 cm

作者より寄贈

展覧会

1962-1

「ミロ版画展」

会期：昭和37年9月29日～10月28日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社

出品内容：版画236点

観覧者数：46,771人

1962-2

「ピカソ・ゲルニカ展」

会期：昭和37年11月3日～12月23日

主催：国立西洋美術館、朝日新聞社、アート・フレンド・アソシエーション

出品内容：絵画5点、素描53点、版画4点、工芸1点

観覧者数：86,959人

巡回先：京都市美術館(昭和38年1月19日～2月17日)、
愛知県美術館(3月16日～31日)

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

神戸展

会場：白鶴美術館

会期：昭和37年10月20日～11月5日

共催：神戸新聞社

観覧者数：85,301人

名古屋展

会場：愛知県文化会館美術館

会期：昭和37年11月17日～12月9日

共催：中部日本新聞社

観覧者数：151,434人

出品内容：絵画44点、彫刻16点、素描8点、版画3点

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：19,647千円

歳出予算：36,806千円

開館日数：296日

平常展示：225日

特別展：71日

観覧者数：340,570人(1日平均1,151人)

平常展示：206,840人(1日平均919人)

特別展：133,730人(1日平均1,884人)

所蔵作品数：396点

1963
4

昭和38年度

主要記事

昭和38年

- 6月16日 第11回国立西洋美術館評議員会
8月1日 「マイヨール展」開会式
9月15日 「マイヨール展」終了
9月30日 「シャガール展」開会式
高松宮殿下御臨席・御観覧
10月5日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション
展」(松江展)開催
10月26日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション
展」(久留米展)開催
11月12日 「シャガール展」終了
12月10日 第12回国立西洋美術館評議員会

新収作品

P.1963-1

ジョルジュ・パバゾフ

《戦士》

油彩、カンヴァス、116.5×80.5 cm

竹内寿恵氏より寄贈

P.1963-2

マーガレット・キーン

《三美神》1963年

油彩、カンヴァス、107.2×61.4 cm

作者より寄贈

P.1963-3

ウォルター・キーン

《地には平和を》1961年

油彩、カンヴァス、97×81.6 cm

作者より寄贈

S.1963-1

アリスティード・マイヨール

《座る女》1900年

ブロンズ、20×9×13 cm

ディナ・ヴィエルニ氏より寄贈

S.1963-2

アリスティード・マイヨール

《イル・ド・フランス》1925年

ブロンズ、167×47×49 cm

購入

S.1963-3

アリスティード・マイヨール

《ヴィーナスのトルソ》1925年

ブロンズ、114×47×30 cm

購入

S.1963-4

アリスティード・マイヨール

《両腕をあげた浴女(大)》1930年

ブロンズ、157×67×59 cm

購入

S.1963-5

アリスティード・マイヨール

《「アルモニー」のための習作》1940-41年

ブロンズ、152×43×36 cm

購入

D.1963-1

エリオット・エリソフォン

《花》

水彩、紙、73×53 cm

作者より寄贈

D.1963-2

フェルナン・レジェ

《人間と壺》1938年

グワッシュ、紙、29.5×38 cm

購入

展覧会

1963-1

「マイヨール展」

会期：昭和38年8月2日～9月15日

主催：国立西洋美術館

出品内容：彫刻64点、素描40点、版画9点、書籍3点

観覧者数：87,840人

1963-2

「シャガール展」

会期：昭和38年10月1日～11月12日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社、アート・フレンド・アソシエーション

出品内容：絵画125点、素描93点、版画172点、工芸2点

観覧者数：173,218人

会場：国立西洋美術館、白木屋（版画）

巡回先：京都市美術館、国立近代美術館京都分館
(11月20日～12月10日)

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

松江展

会場：島根県立博物館

会期：昭和38年10月5日～10月20日

共催：島根県教育委員会

観覧者数：82,778人

久留米展

会場：石橋美術館

会期：昭和38年10月26日～11月10日

共催：福岡県教育委員会、西日本新聞社、石橋美術館

観覧者数：103,030人

出品内容：絵画42点、彫刻16点、素描10点、版画2点

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：24,501千円

歳出予算：138,911千円

開館日数：276日

平常展示：199日

特別展：77日

観覧者数：443,101人（1日平均1,605人）

平常展示：182,043人（1日平均915人）

特別展：261,058人（1日平均3,390人）

所蔵作品数：406点

1964
5

昭和39年度

主要記事

昭和39年

- 4月7日 「ミロのビーナス特別公開」開会式
高松宮同妃両殿下御臨席・御観覧
- 5月15日 「ミロのビーナス特別公開」終了
- 7月20日 講堂、事務庁舎の竣工式
- 7月23日 第13回国立西洋美術館評議員会
- 8月22日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション
展」(札幌展)開催
- 11月25日 「ギュスターヴ・モロー展」開会式
- 12月22日 第14回国立西洋美術館評議員会
- 昭和40年
- 1月31日 「ギュスターヴ・モロー展」終了

新収作品

P.1964-1

テオドール・ルソー
《コロアの肖像》おそらく1860年代初頭
油彩、カンヴァス、46×36.3 cm
購入

G.1964-1

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック
《マルセル・ランデの胸像》1895年
リトグラフ、34×26 cm
購入

G.1964-2

アンリ・マティス
《庭の女》1922年
リトグラフ、40×57 cm

購入

G.1964-3/14

ワシリー・カンディンスキー
《小さな世界》12点連作 1922年
リトグラフ、木版画、エッチング、24×19.5 cm～
30×25.5 cm
購入

G.1964-15

マルク・シャガール
《赤い鶏》1952年
リトグラフ、33×48 cm
購入

G.1964-16

マルク・シャガール
《イスバスの風景》1957年
リトグラフ、37×55 cm
購入

G.1964-17

マルク・シャガール
《時計と日傘》1957年
リトグラフ、33×48 cm
購入

G.1964-18

サルバドール・ダリ
《レダ》1964年
リトグラフ、51×41 cm
購入

展覧会

1964-1

「ミロのビーナス特別公開」
会期：昭和39年4月8日～5月15日
主催：国立西洋美術館、朝日新聞社
出品内容：彫刻1点
観覧者数：831,198人
巡回先：京都市美術館（5月21日～6月25日）

1964-2

「ギュスターヴ・モロー展」
会期：昭和39年11月26日～昭和40年1月31日
主催：国立西洋美術館
出品内容：絵画53点、素描90点
観覧者数：76,386人

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

札幌展

会場：道立中島スポーツセンター

会期：昭和39年8月22日～9月13日

共催：北海道教育委員会、北海道新聞社

観覧者数：164,436人

出品内容：絵画49点、彫刻20点、素描11点、版画2点

講演会等

〔ギリシャ芸術の午後〕

第1回 昭和39年10月3日

「ギリシャ芸術とオリンピック競技」

富永惣一（*館長）

「ギリシャ音楽を訪ねて」

服部幸三（東京藝術大学助教授）

第2回 昭和39年10月17日

「ギリシャの建築」

清家清（東京工業大学教授）

「ギリシャの舞踏と現代」

江口隆哉（舞踊家）

〔ギュスターヴ・モローの午後〕

第1回 昭和39年11月28日

「モローの人と芸術」

高階秀爾（*研究員）

「同時代の音楽」

遠山一行（音楽評論家）

第2回 昭和39年12月5日

「幻想の系譜」

中山公男（*研究員）

「同時代の文学」

安東次男（詩人）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：43,998千円

歳出予算：79,689千円

開館日数：264日

平常展示：176日

特別展：88日

観覧者数：1,044,922人（1日平均3,958人）

平常展示：137,338人（1日平均780人）

特別展：907,584人（1日平均10,313人）

所蔵作品数：511点

1965
6

昭和40年度

主要記事

昭和40年

- 4月20日 第15回国立西洋美術館評議員会
- 6月1日 次長に滝本邦彦が任命された
- 9月21日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(金沢展)開催
- 10月6日 「ルオー遺作展」開会式
高松宮同妃両殿下御臨席・御観覧
- 10月26日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(岡山展)開催
- 12月5日 「ルオー遺作展」終了
- 12月23日 参議院文教委員会でデュフィ、ドランの購入問題についての質問

昭和41年

- 2月24日 第16回国立西洋美術館評議員会

新収作品

P.1965-1

ロジェ・ビシエール
《花を持つ婦人》1922年
油彩、カンヴァス、124.5×54 cm
購入

P.1965-2

フランソワ・パロン＝ルスアール
《ヒロシゲへの讃歌》1963年
油彩、カンヴァス、111.5×200 cm
作者より寄贈

P.1965-3

ジェラール・シュネデール

《コンポジションG》1963年

油彩、カンヴァス、114.5×146 cm
毎日新聞社より寄贈

P.1965-4

クロード・モネ
《セーヌ河の朝》1898年
油彩、カンヴァス、73×91.5 cm
購入

P.1965-5

マックス・エルンスト
《石化した森》1927年
油彩、カンヴァス、81×99.6 cm
山村家より寄贈

P.1965-6

ジャン・デュビュッフエ
《ご婦人のからだ(ほさほさ髪)》1950年
油彩、カンヴァス、116×90 cm
山村家より寄贈

P.1965-7

オーギュスト・エルバン
《永遠》1959年
油彩、カンヴァス、145.5×114.6 cm
山村家より寄贈

P.1965-8

ジャクソン・ポロック
《ナンバー8、1951、黒い流れ》1951年
エナメル、コットン、カンヴァス、151×185 cm
山村家より寄贈

P.1965-9

サム・フランシス
《ホワイト・ペインティング》1950年
油彩、カンヴァス、203.1×163.2 cm
山村家より寄贈

P.1965-10

フェルナン・レジェ
《赤い鶏と青い空》1953年
油彩、カンヴァス、65.3×92 cm
山村家より寄贈

P.1965-11

ジョアン・ミロ
《絵画》1953年
油彩、カンヴァス、200×200.7 cm
山村家より寄贈

D.1965-1

ジャン＝ルイ・フォラン

《踊り子》19世紀

鉛筆、紙、両面にデッサン、30×19.5 cm

購入

G.1965-1

ゲイボア・ピターディ

《北極の鳥》1964年

リトグラフ、92×58.5 cm

作者より寄贈

G.1965-2

ゲイボア・ピターディ

《北極の空・1》1964年

リトグラフ、63×92.2 cm

作者より寄贈

G.1965-3

ジュール・シェレ

《フォーリー＝ベルジェールのポスター：ロイ・ファラー》

1886年

リトグラフ、125×88.5 cm

久保貞次郎氏より寄贈

展覧会

1965-1

「ルオー遺作展」フランス国家に寄贈された未完の作品

会期：昭和40年10月7日～12月5日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社、文部省

出品内容：絵画・素描181点

観覧者数：210,362人

巡回先：大阪市立美術館（昭和40年12月12日～昭和41年1月23日）

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

金沢展

会場：石川県美術館

会期：昭和40年9月22日～10月10日

共催：石川県教育委員会、北陸中日新聞社

観覧者数：78,665人

岡山展

会場：岡山県総合文化センター

会期：昭和40年10月20日～11月7日

共催：岡山県教育委員会、山陽新聞社、岡山県総合文化センター

観覧者数：114,210人

出品内容：絵画40点、彫刻19点、素描7点、版画3点

講演会等

特別講演会

昭和40年5月8日

「フォーヴィスムとその周辺」

中山公男（*主任研究官）

昭和40年5月15日

「キュビズムとその周辺」

高階秀爾（*研究員）

昭和40年6月5日

「フィレンツェ美術散歩」

佐々木英也（*研究員）

「ボッティチェルリとフィレンツェ絵画」

摩寿意善郎（東京藝術大学教授）

昭和40年6月12日

「ヴェネツィア美術散歩」

嘉門安雄（*事業課長）

「イタリアの都市と広場」

田島勉（東京工業大学助手）

「ルオー遺作展」記念講演会

第1回 昭和40年10月9日

「ルオーの芸術」

柳宗玄（東京藝術大学助教授）

第2回 昭和40年10月16日

「ルオーの想い出」(座談会)

福島慶子（評論家）、宮田重雄（画家）、高田博厚（彫刻家）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：26,031千円

歳出予算：86,635千円

開館日数：248日

平常展示：191日

特別展：57日

観覧者数：391,947人（1日平均1,580人）

平常展示：181,585人（1日平均950人）

特別展：210,362人（1日平均3,691人）

所蔵作品数：527点

1966
7

昭和41年度

主要記事

昭和41年

- 7月22日 「ロダン展」開会式
高松宮殿下御臨席・御観覧
- 8月20日 ロダン《国の護り》を講堂裏の台座に据付けた
- 9月11日 「ロダン展」終了
- 10月14日 「ソ連国立美術館近代名画展」開会式
- 10月15日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(和歌山展)開催
- 11月12日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(大分展)開催
- 12月25日 「ソ連国立美術館近代名画展」終了

新収作品

S.1966-1

アルマン・ヴァイアンクール
《作品》1963年
木、150×32×27 cm
カナダ大使館より寄贈

S.1966-2

エミール・アントワヌ・ブールデル
《弓をひくヘラクレス》1909年
ブロンズ、250×240×90 cm
購入

S.1966-3

オーギュスト・ロダン
《ヴィクトル・ユゴー》1883年
ブロンズ、45×25×26 cm
購入

D.1966-1

クロード・モネ
《積みわり》19世紀
木炭、紙、23.3×29.2 cm
購入

D.1966-2

クロード・モネ
《ベリールの海》1886年
木炭、紙、23.4×31.5 cm
購入

D.1966-3

アンリ・マティス
《ピアニストの肖像》1924年
木炭、紙、55×62 cm
購入

G.1966-1

バブロ・ピカソ
《サルタンバンク》1905年
エングレーヴィング、28.5×33 cm
購入

展覧会

1966-1

「ロダン展 没後50年記念」
会期：昭和41年7月23日～9月11日
主催：国立西洋美術館、フランス国立ロダン美術館、読売新聞社
出品内容：彫刻106点、素描43点、版画8点
観覧者数：318,880人
巡回先：京都市美術館（9月18日～10月30日）、福岡県文化会館（11月9日～12月11日）

1966-2

「エルミタージュ、プーシュキン、ロシア、トレチャコフソ連国立美術館近代名画展」
会期：昭和41年10月15日～12月25日
主催：国立西洋美術館、日本経済新聞社、ソ連大使館
出品内容：絵画91点
観覧者数：250,889人
巡回先：京都市美術館（昭和42年1月14日～2月28日）

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

和歌山展

会場：和歌山県立美術館

会期：昭和41年10月15日～11月4日

共催：和歌山県教育委員会、和歌山県立美術館

観覧者数：77,754人

大分展

会場：大分文化会館

会期：昭和41年11月12日～11月27日

共催：松方コレクション展大分県美術委員会

観覧者数：157,946人

出品内容：絵画36点、彫刻15点、素描10点、版画4点

講演会等

「西洋美術入門講座」

第1回 昭和41年6月14日

「古代美術」

穴沢一夫（*主任研究官）

第2回 昭和41年6月17日

「中世美術」

中山公男（*主任研究官）

第3回 昭和41年6月21日

「ルネサンス美術」

佐々木英也（*研究員）

第4回 昭和41年6月24日

「近世美術」

嘉門安雄（*事業課長）

第5回 昭和41年6月28日

「近代美術」

高階秀爾（*主任研究官）

「ロダン展」記念講演会

第1回 昭和41年8月27日

「ロダン一人と作品」

富永惣一（*館長）

第2回 昭和41年9月3日

「ロダンと日本」(座談会)

有島生馬（画家）、菊池一雄（東京藝術大学教授）、

今泉篤男（国立近代美術館京都分館長）

第3回 昭和41年9月10日

「ロダンの芸術」

セシル・ゴルドシェデール（ロダン美術館長）

「ソ連国立美術館近代名画展」記念講演会

第1回 昭和41年11月4日

「ロシアとソヴィエトの芸術」

N.N.ドボヰツカヤ（トレチャコフ美術館彫刻部長）

第2回 昭和41年11月11日

「ロシアの近代音楽」

遠山一行（音楽評論家）

第3回 昭和41年11月18日

「ロシア文学の風土」

木村浩（ロシア文学研究家）

第4回 昭和41年11月25日

「フランスの近代絵画」

益田義信（画家）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：28,236千円

歳出予算：144,713千円

開館日数：207日

平常展示：101日

特別展：106日

観覧者数：689,431人（1日平均3,315人）

平常展示：119,662人（1日平均1,185人）

特別展：569,769人（1日平均5,375人）

所蔵作品数：534点

1967
8

昭和42年度

主要記事

昭和42年

3月28日 第17回国立西洋美術館評議員会

4月7日 「ボンベイ古代美術展」開会式

4月28日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(鹿児島展)開催

5月28日 「ボンベイ古代美術展」終了

8月18日 新館建設用地として、隣接する寛永寺寺有地1,488㎡を買収

11月2日 「デュフィ回顧展」開会式

11月9日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(高松展)開催

12月17日 「デュフィ回顧展」終了

昭和43年

2月15日 第18回国立西洋美術館評議員会

3月19日 「ボナール展」開会式
高松宮妃殿下御臨席・御観覧

3月21日 第19回国立西洋美術館評議員会

新収作品

P.1967-1

ピエール＝オーギュスト・ルノワール

《坐る裸婦》1918年以前

油彩、カンヴァス、32.8×33.8 cm

購入

S.1967-2

アリスティード・マイヨール

《「調和」の頭部》1940-44年

ブロンズ、24×20×21 cm

ディナ・ヴィエルニ氏寄贈

S.1967-3

ジャン・アルプ

《輪一森》1961年

ブロンズ、86.0×98.0×20.5 cm

山村徳太郎氏より寄贈

D.1967-1

アメデオ・モディリアニ

《カリアティード》20世紀

テンペラ、紙、53×43 cm

購入

G.1967-1

アントニオ・セギ

《罰もなく栄光もなく》1966年

リトグラフ、63.5×90 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1967-2

パブロ・ピカソ

《三人の女》1922年

エッチング、17.5×13 cm

購入

G.1967-3

パブロ・ピカソ

《三人の浴女》1922-23年

ドライポイント、17.5×13 cm

購入

保存修復(昭和42～44年度)

P.1959-0081

モーリス・ドニ

《トンケデックのテラス》

油彩、カルトン、75×50 cm

P.1959-0091

エミール＝オーギュスト・カロリユス＝デュラン

《母と子》

油彩、カンヴァス、190.5×127.8 cm

P.1959-0092

ジョルジュ・デスパニャ

《浴女》

油彩、カンヴァス、100.8×66 cm

P.1959-0098

ウィリアム・エッティ

《横たわる裸婦》

油彩、板、48.5×68.5 cm

D.1959-0032

藤田嗣治

《裸婦》

墨、紙、41.0×71.5 cm

P.1959-0144

エミール＝ルネ・メナール

《松林》

油彩、カンヴァス、83×120.5 cm

P.1959-0152

クロード・モネ

《陽を浴びるボブラ並木》

油彩、カンヴァス、93×73.5 cm

D.1959-0010

エドガー・ドガ

《髪をとかす女》

木炭、パステル、紙、47.6×61.5 cm

D.1959-0033

藤田嗣治

《自画像》

油彩、紙、27.5×22.3 cm

P.1959-0073

モーリス・ドニ

《若い母》

油彩、カンヴァス、160×98 cm

P.1959-0111

ジャン＝ジャック・エンネル

《婦人の肖像》

油彩、カンヴァス、127×71 cm

P.1959-0148

クロード・モネ

《舟遊び》

油彩、カンヴァス、145.5×133.5 cm

P.1959-0192

キース・ヴァン・ドンゲン

《カジノのホール》

油彩、カンヴァス、73×54.3 cm

P.1959-0030

ウジェーヌ・カリエール

《母と子》

油彩、カンヴァス、29.3×40.4 cm

P.1959-0112

ジャン＝ジャック・エンネル

《自画像(?)》

油彩、カンヴァス、49×37.5 cm

P.1959-0071

モーリス・ドニ

《字を書く少年》

油彩、カンヴァス、37×41 cm

展覧会

1967-1

「ボンベイ古代美術展」

会期：昭和42年4月8日～5月28日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社

出品内容：絵画65点、彫刻20点、工芸113点、モザイク2点、貨幣50点

観覧者数：323,302人

巡回先：大阪市立美術館（6月10日～7月16日）、福岡県文化会館（7月29日～9月3日）

1967-2

「デュフィ回顧展」

会期：昭和42年11月3日～12月17日

主催：国立西洋美術館

出品内容：絵画80点、素描84点、版画20点、工芸15点

観覧者数：61,133人

巡回先：京都国立近代美術館（昭和43年1月4日～2月18日）

1967-3

「ボナール展」

会期：昭和43年3月20日～5月5日

主催：国立西洋美術館、毎日新聞社

出品内容：絵画79点、彫刻3点、素描48点、版画21点

観覧者数：274,424人

巡回先：京都国立近代美術館（5月11日～6月16日）

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

鹿児島展

会場：鹿児島市立美術館

会期：昭和42年4月28日～5月21日

共催：鹿児島県教育委員会、鹿児島市

観覧者数：65,554人

高松展

会場：香川県文化会館

会期：昭和42年11月19日～12月10日

共催：香川県教育委員会、高松市、四国新聞社

観覧者数：106,134人

出品内容：絵画45点、彫刻16点、素描8点、版画5点

講演会等

「ボンベイ古代美術展」記念講演会

第1回 昭和42年4月9日

「古都ボンベイの歴史と文化」

アルフォンソ・デ・フランチーニ（ボンベイ展組織委員）

第2回 昭和42年4月28日

「ボンベイの歴史とその生活」

秀村欣二（東京大学教授）

第3回 昭和42年5月12日

「白銀時代の趣味と文学」

篠田一士（文芸評論家）

第4回 昭和42年5月19日

「古代演劇と仮面」

今道友信（東京大学教授）

第5回 昭和42年5月26日

「ボンベイの美術」

富永惣一（*館長）

「デュフィ回顧展」記念講演会

第1回 昭和42年11月4日

「フランスの画家デュフィ」

ベルナール・ドリヴァル（パリ国立近代美術館長）

第2回 昭和42年11月11日

「デュフィとフォーヴィスム」

富永惣一（*館長）

「ボナール展」記念講演会

第1回 昭和43年3月23日

「ボナールについて」

アントワース・テラス

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：37,088千円

歳出予算：263,385千円

開館日数：273日

平常展示：179日

特別展：94日

観覧者数：564,444人（1日平均2,068人）

平常展示：131,192（1日平均733人）

特別展：433,252人（1日平均4,609人）

所蔵作品数：542点

1968 9

昭和43年度

主要記事

昭和43年

- 4月1日 館長に山田智三郎が任命された
- 4月30日 皇太子妃殿下、「ボナール展」御観覧のため御来館
- 6月6日 前年度に続き、新館建設用地として、隣接する寛永寺寺有地720㎡を買収
- 6月15日 文部省設置法の一部が改正され、当館は文化庁付属機関となった
- 7月6日 「プールデル展」開会式
- 7月18日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(新潟展)開催
- 8月25日 「プールデル展」終了
- 9月22日 浩宮徳仁親王殿下、常設展示御観覧のため御来館
- 10月18日 「レンブラントとオランダ絵画巨匠展」開会式 三笠宮殿下御臨席・御観覧
- 10月26日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(広島展)開催
- 11月17日 浩宮徳仁親王殿下、「レンブラントとオランダ絵画巨匠展」御観覧のため御来館
- 12月22日 「レンブラントとオランダ絵画巨匠展」終了

昭和44年

- 1月21日 「ロートレック展」開会式
高松宮同妃両殿下御臨席・御観覧
- 2月23日 「ロートレック展」終了
- 3月15日 プールデル《弓を引くヘラクレス》を前庭の台座に据付けた
- 3月20日 文化庁付属機関としての第1回国立西洋美術館評議員会
- 3月31日 売札所の建物竣工

新収作品

P.1968-1

ルカス・クラーナハ(父)
《ゲッセマネの祈り》1518年頃
油彩、板、54×32 cm
購入

P.1968-2

フランチェスコ・サルヴィアーティ(に帰属)
《ある男の肖像》
油彩、カンヴァス、117×90 cm
購入

P.1968-3

シエナ派、14世紀
《聖ミカエルと龍》
テンペラ、板、40.5×19 cm
購入

D.1968-1

エミール＝アントワース・プールデル
《「勝利」の頭部》1917年
青黒インク、紙、44×32 cm
購入

D.1968-2

エミール＝アントワース・プールデル
《聖ヨハネ》19世紀
青インク、紙、17×15 cm
購入

G.1968-1

リチャード・ハミルトン
《人々》1968年
リトグラフ、40.7×60 cm
国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1968-2

リチャード・ハミルトン
《批評家は笑う》1968年
シルクスクリーン、コラージュ、35.5×27.8 cm
国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1968-3

ジャック・ヴィヨン
《父の肖像》1940年
リトグラフ、エッチング、59×48 cm
宇野俊郎氏より寄贈

G.1968-4

アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック

《女優》1898年

リトグラフ、29.5×24.2 cm

購入

展覧会

1968-1

「プールデル展」

会期：昭和43年7月7日～8月25日

主催：国立西洋美術館、プールデル美術館

出品内容：絵画4点、彫刻89点、素描36点

観覧者数：63,808人

巡回先：京都国立博物館（9月8日～10月27日）

1968-2

「レンブラントとオランダ絵画巨匠展」

会期：昭和43年10月19日～12月22日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社、オランダ文化省

出品内容：絵画78点、素描44点、版画3点

観覧者数：187,704人

巡回先：京都市美術館（昭和44年1月12日～3月2日）

1968-3

「ロートレック展」

会期：昭和44年1月22日～2月23日

主催：国立西洋美術館、京都国立近代美術館、読売新聞社、アルビ美術館

出品内容：絵画58点、素描19点、版画155点

観覧者数：200,459人

巡回先：京都国立近代美術館（昭和43年11月9日～12月27日）

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

新潟展

会場：新潟県美術博物館

会期：昭和43年7月14日～8月4日

共催：新潟県、新潟県教育委員会、新潟日報社、新潟県美術博物館

観覧者数：116,056人

広島展

会場：広島県立美術館

会期：昭和43年10月26日～11月17日

共催：広島県教育委員会

観覧者数：78,764人

出品内容：絵画44点、彫刻18点、素描10点、版画5点

講演会等

「ボナール展」記念講演会

第2回 昭和43年4月6日

「ボナールの絵と技法」

大久保泰（画家）

第3回 昭和43年4月20日

「ボナールの世界」

中山公男（*主任研究官）

「プールデル展」記念講演会

第1回 昭和43年7月13日

「プールデルの思い出」

ミシェル・デュフェ（プールデル美術館副館長）

第2回 昭和43年7月20日

「プールデルー人と芸術」

清水多嘉示（芸術院会員）

第3回 昭和43年7月27日

「モニュメントと環境」

栗津潔（栗津デザイン研究所長）

第4回 昭和43年8月3日

「ロダンとプールデル」

穴沢一夫（*事業課長）

「レンブラントとオランダ絵画巨匠展」記念講演会

第1回 昭和43年10月19日

「フェルメールの絵画」

A.B.ド・フリース（マウリッツハイス美術館長）

第2回 昭和43年10月26日

「蘭学と日本近代化」

芳賀徹（東京大学助教授）

第3回 昭和43年11月2日

「17世紀のオランダ絵画」

山田智三郎（*館長）

第4回 昭和43年11月9日

「レンブラント」

八代修次（慶應義塾大学助教授）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：53,622千円

歳出予算：197,821千円

開館日数：249日

平常展示：90日

特別展：159日

観覧者数：758,675人（1日平均3,047人）

平常展示：81,092人（1日平均901人）

特別展：677,578人（1日平均4,262人）

所蔵作品数：551点

1969
70

昭和44年度

主要記事

昭和44年

- 6月10日 開館10周年を記念して、記念碑を本館入口に掲げ、その除幕を中心に記念式典を挙行
- 10月17日 「18世紀フランス美術展」開会式
- 11月22日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(水戸展)開催
- 12月13日 「18世紀フランス美術展」終了

新収作品

P.1969-1

ジャン＝パティスト・パテル

《野営(兵士の休息)》

油彩、板、17×22 cm

購入

P.1969-2

ヤーコブ・ファン・ロイスダール

《砂丘と小さな滝のある風景》1646年

油彩、板、27.5×35.8 cm

購入

P.1969-3

バルトロメ・エステバン・ムリーリョ

《聖フスタと聖ルフィーナ》1665-66年頃

油彩、カンヴァス、32×24 cm

購入

P.1969-4

ジョシュア・レノルズ

《第四代ホルダネス伯ロバート・ダーシーの肖像》

1775年

油彩、カンヴァス、76.2×63.5 cm

購入

P.1969-5

ヨアヒム・パティニール(派)

《三連祭壇画：エジプト逃避途上の休息》

油彩、板、31×20 cm(中央)、31×9 cm(両翼)

購入

S.1969-1

エミール＝アントワーン・ブールデル

《首のあるアポロンの頭部》1900年

ブロンズ、50×22×23 cm

購入

D.1969-1

ウジェーヌ・ドラクロワ

《人々を慰める平和の女神》19世紀

鉛筆、トレーシング・ペーパー(紙に貼り付け)、20×39 cm

購入

展覧会

1969-1

「国立西洋美術館開館10周年記念 18世紀フランス美術展」

会期：昭和44年10月18日～12月13日

主催：国立西洋美術館、フランス美術館総局

出品内容：絵画42点、彫刻15点、素描47点、版画27点、書籍12点、工芸63点

観覧者数：99,558人

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

水戸展

会場：茨城県立県民文化センター

会期：昭和44年11月22日～12月21日

共催：茨城県、茨城県教育委員会、茨城県立美術館博物館、茨城県文化福祉事業団、茨城文化団体連合、茨城新聞社

観覧者数：63,514人

出品内容：絵画44点、彫刻18点、素描10点、版画5点

講演会等

国立西洋美術館夏季講座「17世紀フランス美術」

第1回 昭和44年8月2日

「ルイ14世とその時代」

高階秀爾（*主任研究官）

第2回 昭和44年8月9日

「プーサンと古典主義」

佐々木英也（*主任研究官）

第3回 昭和44年8月16日

「クロード・ロランと風景画」

千足伸行（*研究員）

第4回 昭和44年8月23日

「ジョルジュ・ド・ラトゥールと光」

黒江光彦（*主任研究官）

第5回 昭和44年8月30日

「シャンパーニュとジャンセニスム」

穴沢一夫（*事業課長）

「18世紀フランス美術展」記念講演会

第1回 昭和44年10月18日

「18世紀のヴェルサイユ」

ピエール・ルモワース（ヴェルサイユ美術館副館長）

第2回 昭和44年10月25日

「ロココの美術」

山田智三郎（*館長）

第3回 昭和44年11月1日

「ワトーの世界」

坂崎坦（美術史家）

第4回 昭和44年11月8日

「宮廷絵画と市民絵画」

高階秀爾（*主任研究官）

第5回 昭和44年11月15日

「18世紀フランスの音楽」

遠山一行（音楽評論家）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：32,647千円

歳出予算：147,443千円

開館日数：286日

平常展示：235日

特別展：51日

観覧者数：311,707人（1日平均1,090人）

平常展示：212,149人（1日平均903人）

特別展：99,558人（1日平均1,952人）

所蔵作品数：559点

1970 1

昭和45年度

主要記事

昭和45年

- 10月9日 「英国風景画展」開会式
- 10月18日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(長崎展)開催
- 10月19日 皇后陛下、「英国風景画展」を御観覧のため御来館
- 11月16日 皇太子同妃両殿下、「英国風景画展」を御観覧のため御来館
- 11月23日 「英国風景画展」終了
- 12月15日 第2回国立西洋美術館評議員会

昭和46年

- 1月14日 「ドイツ表現派展」開会式
- 3月14日 「ドイツ表現派展」終了

新収作品

P.1970-1

ウジェーヌ・ドラクロワ
《聖母の教育》1852年
油彩、カンヴァス、46×55.5 cm
東京国立博物館より管理換

P.1970-2

フランス派、19世紀(?)
《月夜の風景》
油彩、カンヴァス、57×76 cm
東京国立博物館より管理換

P.1970-3

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロセ
《ナポリの浜の思い出》1870-72年

油彩、カンヴァス、175×84 cm
購入

D.1970-1

ジョルジュ・ルオー
《乳母たち》19世紀
東京国立博物館より管理換

G.1970-1/11

アルブレヒト・デューラー
《大受難伝》12点連作のうちの11点
1511年頃
木版画、32.6×19.2 cm～39.3×28.6 cm
購入

G.1970-12

エドワード・ラッシャー
《罪》1970年
シルクスクリーン、33×55 cm
購入

G.1970-13

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック
《写真家セスコー》1894年
リトグラフ、60×80 cm
購入

G.1970-14

ジャック・カロ
《奴隷市場》(第1ステート)
エッチング、11.7×21.9 cm (版画)
購入

G.1970-15

ジャック・カロ
《奴隷市場》(第3ステート)
エッチング、11.7×21.9 cm (版画)
購入

G.1970-16

ジャック・カロ
《日本二十三聖人の殉教》
エッチング、16.7×11.4 cm (版画)
購入

G.1970-17

バプロ・ピカン
《泉》1921年
ドライポイント、ビュラン、17.8×23.8 cm (版画)
購入

G.1970-18

エミール・ノルデ

《伯爵》1918年

エッチング(銅板)、30.8×23 cm(版画)

購入

展覧会

1970-1

「ターナー／コンスタブルとその周辺 英国風景画展」

会期：昭和45年10月10日～11月23日

主催：国立西洋美術館、日本経済新聞社、プリティッシュ・カウンシル

出品内容：絵画58点、素描42点

観覧者数：184,181人

巡回先：京都国立近代美術館(昭和45年12月1日～昭和46年1月15日)

1970-2

「ドイツ表現派展」

会期：昭和46年1月15日～3月14日

主催：国立西洋美術館

出品内容：絵画59点、素描46点、版画65点

観覧者数：58,745人

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」長崎展

会場：長崎県立美術館

会期：昭和45年10月18日～11月15日

共催：長崎県、長崎県教育委員会、長崎県立美術館、長崎開港400年記念実行委員会

観覧者数：90,573人

出品内容：絵画42点、彫刻18点、素描11点、版画7点

講演会等

国立西洋美術館夏季講座「ロマン主義美術」

第1回 昭和45年8月1日

「ドイツ・ロマン派」

千足伸行(*研究員)

第2回 昭和45年8月8日

「イギリス・ロマン派の詩と風景」

八重樫春樹(*研究員)

第3回 昭和45年8月15日

「『古典主義』と『ロマン主義』」

田中英道(*研究員)

第4回 昭和45年8月22日

「ロマン主義から写実主義へ」

佐々木英也(*主任研究官)

第5回 昭和45年8月29日

「ロマン主義と近代」

高階秀爾(*主任研究官)

[英国風景画展]記念講演会

第1回 昭和45年10月10日

「イギリス風景画」

グラハム・レイノルズ(ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館絵画部長)

第2回 昭和45年10月17日

「イギリス美術の特質」

桜庭信之(東京教育大学教授)

第3回 昭和45年10月24日

「イギリスの建築と庭園」

桐敷真次郎(東京都立大学助教授)

第4回 昭和45年10月31日

「英国風景画とその風土」

友部直(共立女子大学教授)

第5回 昭和45年11月7日

「ターナーとコンスタブル」

佐々木英也(*主任研究官)

[ドイツ表現派展]記念講演会

第1回 昭和46年1月16日

「ドイツ表現派の絵画」

ゲルト・フォン・デル・オステン(ケルン市美術館総長)

第2回 昭和46年1月23日

「表現主義の音楽」

柴田南雄(東京藝術大学講師)

第3回 昭和46年1月30日

「クレーとカンディンスキー」

坂崎乙郎(美術評論家)

第4回 昭和46年2月6日

「表現主義の文芸思潮」

西尾幹二(文芸評論家)

第5回 昭和46年2月13日

「ドイツ表現派の演劇」

遠藤慎吾(共立女子大学教授)

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：32,553千円

歳出予算：162,306千円

開館日数：276日

平常展示：186日

特別展：90日

観覧者数：423,159人(1日平均1,533人)

平常展示：180,233人(1日平均969人)

特別展：242,926人(1日平均2,699人)

所蔵作品数：581点

1971 2

昭和46年度

主要記事

昭和46年

- 4月1日 次長に小林毅が任命された
- 4月30日 「ヨーロッパ巨匠水彩素描展」開会式
- 6月20日 「ヨーロッパ巨匠水彩素描展」終了
- 7月20日 第3回国立西洋美術館評議員会
- 9月23日 「ローマ・バロック展」開会式
- 10月2日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(富山展)開催
- 11月9日 「ローマ・バロック展」終了
- 11月15日 「ゴヤ展」開会式
高松宮殿下御臨席・御観覧
- 12月27日 浩宮徳仁親王殿下、「ゴヤ展」御観覧のため御来館

昭和47年

- 1月21日 スペイン国、ドン・ファン・カルロス皇太子同妃両殿下、「ゴヤ展」会場御視察のため御来館
- 1月23日 「ゴヤ展」終了
- 3月30日 昭和42・43年度に取得した新館建設用地を野外展示場として使用するための整備工事完了

新収作品

P.1971-1

聖ルチア伝の画家

《聖ヒエロニムス》15世紀末

油彩、板、46×32.5 cm

購入

P.1971-2

ティントレット(ヤコボ・ロブスティ)

《ダヴィデを装った若い男の肖像》1555-60年頃
油彩、カンヴァス、124.5×96.5 cm

購入

P.1971-3

フィレンツェ派、15世紀

《聖ヴェロニカ》

テンペラ、板、41×28 cm

購入

G.1971-1

ジュール・シェレ

《バレエ「ヴィヴィアース」のポスター》1897年

リトグラフ、73×50 cm

久保貞次郎氏より寄贈

G.1971-2

アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック

《「破産」を演ずるアントワヌとジェミエ》1893年

リトグラフ、29×39.5 cm

水嶋徳蔵氏より寄贈

G.1971-3

アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック

《ツインマーマン》1894年

リトグラフ、28×19.2 cm

水嶋徳蔵氏より寄贈

G.1971-4

スヘルテ・ア・ボルスヴェルト

《日本でのイエズス会士の殉教》

エングレーヴィング、43×26.8 cm

ロジャー・キース氏より寄贈

G.1971-5

アルフォンス・ミュシャ

《「ロレンザッチオ」のポスター、サラ・ベルナール》

1896年

リトグラフ、97×36 cm

久保貞次郎氏より寄贈

G.1971-6

ジョヴァンニ・パッティスタ・ティエポロ

《東方の農夫の家族》1775年頃(初版)

エッチング、22.5×17.5 cm

購入

G.1971-7

アルブレヒト・デューラー

《フィリップ・メランヒトンの像》1526年(第1ステート)

エングレーヴィング、17.3×12.8 cm

購入

G.1971-8

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ

《ディオクレティアヌス帝浴場の遺跡》

エッチング、42×68.5 cm

購入

展覧会

1971-1

「ニューヨーク近代美術館所蔵 ヨーロッパ巨匠水彩素描展：セザンヌからピカソまで」

会期：昭和46年5月1日～6月20日

主催：国立西洋美術館、石橋美術館、ニューヨーク近代美術館国際協議会、朝日新聞社

出品内容：絵画1点、彫刻5点、素描100点

観覧者数：124,318人

巡回先：久留米市石橋美術館(7月1日～8月1日)

1971-2

「ローマ・バロック展」

会期：昭和46年9月24日～11月9日

主催：国立西洋美術館、ローマ国立古美術館

出品内容：絵画53点、彫刻5点

観覧者数：88,376人

1971-3

「ゴヤ展」

会期：昭和46年11月16日～昭和47年1月23日

主催：国立西洋美術館、京都市、毎日新聞社、スペイン政府

出品内容：絵画39点、素描55点、版画56点、工芸5点、参考出品1点

観覧者数：574,502人

巡回先：京都市美術館(昭和47年1月29日～3月15日)

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

富山展

会場：富山県民会館美術館

会期：昭和46年10月2日～10月24日

共催：富山県、富山県教育委員会

観覧者数：88,430人

出品内容：絵画40点、彫刻18点、素描8点、版画7点

講演会等

[ヨーロッパ巨匠水彩素描展]記念講演会

昭和46年5月22日

「近代の水彩と素描」

中山公男(美術評論家)

国立西洋美術館夏季講座「フランス印象派」

第1回 昭和46年7月31日

「カフェ・ゲルボワの集い」

佐々木英也(*主任研究官)

第2回 昭和46年8月7日

「ルノワールの《アルジェリア風のパリの女たち》」

高階秀爾(東京大学助教授)

第3回 昭和46年8月14日

「北斎とフランス印象派」

田中英道(*研究員)

第4回 昭和46年8月21日

「ロダンと印象派」

穴沢一夫(*事業課長)

第5回 昭和46年8月28日

「ジヴェルニーのモネ」

黒江光彦(*主任研究官)

[ローマ・バロック展]記念講演会

第1回 昭和46年9月25日

「ローマ・バロックの建築と彫刻」

チューザレ・ブランディ(ローマ大学教授)

第2回 昭和46年10月2日

「反宗教改革とバロック美術」

若桑みどり(東京藝術大学講師)

第3回 昭和46年10月9日

「バロックの建築」

山田智三郎(*館長)

第4回 昭和46年10月16日

「17世紀イタリアの音楽」

戸口幸策(成城大学教授)

第5回 昭和46年10月23日

「バロックの町ローマ」

辻茂(東京藝術大学助教授)

[ゴヤ展]記念講演会

昭和46年11月23日

「ゴヤの黒い絵」

ハビエル・デ・サラス(ブラド美術館長)

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：61,651千円

歳出予算：190,714千円

開館日数：277日

平常展示：137日

特別展：140日

観覧者数：934,513人（1日平均3,374人）

平常展示：147,317人（1日平均1,075人）

特別展：787,196人（1日平均5,623人）

所蔵作品数：592点

1972
3

昭和47年度

主要記事

昭和47年

- 4月28日 「デューラーとドイツ・ルネッサンス展」開
会式
- 5月16日 第4回国立西洋美術館評議員会
- 6月18日 「デューラーとドイツ・ルネッサンス展」終了
- 10月11日 「フランスの中世美術」展開会式
- 10月12日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション
展」(長野展)開催
- 11月30日 「フランスの中世美術」展終了

昭和48年

- 3月22日 第5回国立西洋美術館評議員会

新収作品

P.1972-1

ペーテル・パウル・ルーベンス
《眠る二人の子供》1612-13年頃
油彩、板、50.5×65.5 cm
購入

P.1972-2

ニコラ・ド・ラルジリエール
《若い貴族の肖像》1714年頃
油彩、カンヴァス、65×53 cm
購入

D.1972-1

ピエール＝エルネスト・ブラン
《高原の雲》1896年
パステル、紙、32×46 cm
ブラン家より寄贈

保存修復

P.1959-0030

ウジェース・カリエール
《母と子》
油彩、カンヴァス、29.3×40.4 cm

P.1959-0031

ルイ・シャルロ
《羊飼いの少女》
油彩、カンヴァス、100×81 cm

P.1959-0032

ルイ・シャルロ
《田舎の聖堂》
油彩、カンヴァス、73.2×92 cm

P.1959-0033

ルイ・シャルロ
《鳥笛を吹く少年》
油彩、カンヴァス、101×81 cm

P.1959-0044

シャルル・コッテ
《裸婦》
油彩、カンヴァス、188×87 cm

P.1959-0045

シャルル・コッテ
《夕べのミサ》
油彩、カンヴァス、136.5×176 cm

P.1959-0071

モーリス・ドニ
《字を書く少年》
油彩、カンヴァス、37×41 cm

P.1959-0087

エティエンヌ・ディネ
《モスクからの帰り》
油彩、カンヴァス、162×131 cm

P.1959-0088

ヴィクトリア・デュブール (ファンタン＝ラトゥール)
《花》
油彩、カンヴァス、42.7×47.8 cm

P.1959-0089

ヴィクトリア・デュブール (ファンタン＝ラトゥール)
《花》

油彩、カンヴァス、42.5×50.5 cm

P.1959-0090

エミール＝オーギュスト・カロリユス＝デュラン

《坐せる裸婦》

油彩、カンヴァス、100×81.5 cm

P.1959-0096

ジョルジュ・デスパニャ

《風景》

油彩、カンヴァス、46.6×55.5 cm

P.1959-0100

アンソニー・ヴァンダイク・コブリー・フィールディング

《ターベット、スコットランド》

油彩、カンヴァス、117.8×184.5 cm

P.1959-0101

ジュール・レオン・フランドラン

《ヴィクトリアのボストン・ワルツ》

油彩、カンヴァス、115×163.5 cm

P.1959-0112

ジャン＝ジャック・エンネル

《自画像(?)》

油彩、カンヴァス、49×37.5 cm

P.1959-0148

クロード・モネ

《舟遊び》

油彩、カンヴァス、145.5×133.5 cm

P.1959-0152

クロード・モネ

《陽を浴びるボブラ並木》

油彩、カンヴァス、93×73.5 cm

P.1959-0164

カミーユ・ピサロ

《エラニーの秋》

油彩、カンヴァス、38×46 cm

P.1959-0181

ピエール＝オーギュスト・ルノワール

《帽子の女》

油彩、カンヴァス、56×46.5 cm

P.1959-0182

ピエール＝オーギュスト・ルノワール

《アルジェリア風のパリの女たち》

油彩、カンヴァス、156×128.8 cm

P.1964-0001

テオドル・ルスー

《コローの肖像》

油彩、カンヴァス、46×36.3 cm

P.1970-0002

フランス派、19世紀(?)

《月夜の風景》

油彩、カンヴァス、57×76 cm

展覧会

1972-1

「デューラーとドイツ・ルネッサンス展 D.D.R.の美術館から」

会期：昭和47年4月29日～6月18日

主催：国立西洋美術館、京都国立近代美術館、日本経済新聞社

出品内容：絵画21点、彫刻8点、素描30点、版画149点、書籍5点、工芸等28点

観覧者数：177,792人

巡回先：京都国立近代美術館（6月27日～7月30日）

1972-2

「フランスの中世美術」

会期：昭和47年10月12日～11月30日

主催：国立西洋美術館、フランス美術館総局

出品内容：絵画4点、彫刻40点、書籍7点、工芸35点

観覧者数：73,056人

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

長野展

会場：長野県信濃美術館

会期：昭和47年10月12日～11月5日

共催：長野県、長野県教育委員会、信濃毎日新聞社、信越放送

観覧者数：114,932人

出品内容：絵画41点、彫刻18点、素描12点、版画7点

講演会等

[デューラーとドイツ・ルネッサンス展]記念講演会

第1回 昭和47年5月13日

「デューラーの自画像」

ヴェルナー・シュミット（ドレスデン国立美術館版画部長）

第2回 昭和47年5月20日

「デューラーの生きたドイツ」

松田智雄（ケルン日本文化館長）

第3回 昭和47年5月27日

「デューラーの《マリアの七つの悲しみ》を中心として」

前川誠郎（東京大学教授）

第4回 昭和47年6月3日

「グリュネヴァルトの芸術」

高橋巖（慶應義塾大学教授）

[フランスの中世美術展]記念講演会

第1回 昭和47年10月12日

「フランス中世の建築」

フランソワーズ・パロン（ルーヴル美術館彫刻部管理官）

第2回 昭和47年10月21日

「中世美術の歴史的背景」

堀米庸三（東京大学教授）

第3回 昭和47年10月28日

「大聖堂の響き—フランス中世の音楽」

野村良雄（東京藝術大学教授）

第4回 昭和47年11月4日

「ロマネスクの彫刻」

柳宗玄（お茶の水女子大学教授）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：37,953千円

歳出予算：271,897千円

開館日数：263日

平常展示：176日

特別展：87日

観覧者数：437,414人（1日平均1,663人）

平常展示：186,566人（1日平均1,060人）

特別展：250,848人（1日平均2,883人）

所蔵作品数：595点

1973
4

昭和48年度

主要記事

昭和48年

7月17日 第6回国立西洋美術館評議員会

8月17日 「イタリア・ルネッサンスのブロンズと素描」
展開会式

10月14日 「イタリア・ルネッサンスのブロンズと素描」
展終了

10月28日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション
展」(高知展)開催

昭和49年

3月18日 第7回国立西洋美術館評議員会

3月29日 「セザンヌ展」開会式
高松宮殿下御臨席・御観覧

新収作品

P.1973-1

ドミンゴス・デ・トレド・ピサ

《静物》

油彩、カンヴァス、45×55 cm

P.M.バルディ氏より寄贈

P.1973-2

アレッサンドロ・マニヤスコ

《嵐の海の風景》1718-25年頃

油彩、カンヴァス、93×130 cm

購入

P.1973-3

ヤコボ・デル・セラリオ

《奉納祭壇画：聖三位一体、聖母マリア、聖ヨハネと
寄進者》1480-85年頃

テンペラ、板、127×75 cm

購入

P.1973-4

アンドレアス・リッツォス

《イコン：神の御座を伴うキリスト昇天》

テンペラ、板、71×47.5 cm

購入

S.1973-1

エミール・アントワース・ブールデル

《絶望の手》1893-1902年頃

ブロンズ、33.7×14×12.3 cm

購入

G.1973-1/10

ヘルマン・グレックナー

《十相の展開》10点連作 1971年

リノカット、25×32 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1973-11

ゲルハルト・アルテンブルク

《狼の足跡を追って》1968年

木版画、50.6×38.9 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1973-12

ゲルハルト・アルテンブルク

《根の憂鬱》1971年

リトグラフ、45.3×32.5 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1973-13

エドゥアール・ヴェイヤール

《料理する女》1899年

リトグラフ、35.5×27.5 cm

購入

保存修復

P.1959-0105

ポール・ゴーガン

《ブルターニュ風景》

油彩、カンヴァス、89.3×116.6 cm

P.1959-0136

アンリ＝ジャン＝ギヨーム・マルタン

《自画像》

油彩、カンヴァス、55.3×65.3 cm

P.1959-0152

クロード・モネ

《陽を浴びるポプラ並木》

油彩、カンヴァス、93×73.5 cm

P.1959-0191

キース・ヴァン・ドンゲン

《ターバンの女》

油彩、カンヴァス、64.8×54 cm

展覧会

1973-1

「ウィーンの国立美術館所蔵 イタリア・ルネッサンスのブロンズと素描」

会期：昭和48年8月18日～10月14日

主催：国立西洋美術館、ウィーン美術史博物館、ウィーン・アルベルティーナ美術館

出品内容：彫刻112点、素描33点

観覧者数：71,214人

1973-2

「セザンヌ展」

会期：昭和49年3月30日～5月19日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社

出品内容：絵画61点、素描67点、版画10点、参考資料1点

観覧者数：541,149人

巡回先：京都市美術館（6月1日～7月17日）、福岡県文化会館（7月24日～8月18日）

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

高知展

会場：高知県立郷土文化会館

会期：昭和48年10月28日～11月25日

共催：高知県、高知県教育委員会、高知市、高知市教育委員会、高知新聞社、RKC高知放送

観覧者数：105,498人

出品内容：絵画45点、彫刻19点、素描10点、版画7点

講演会等

「イタリア・ルネッサンスのブロンズと素描展」記念講演会

第1回 昭和48年9月22日

「マニエリズモの彫刻」

前川誠郎（東京大学教授）

第2回 昭和48年9月29日

「ルネッサンスと古代」

澤柳大五郎（早稲田大学教授）

第3回 昭和48年10月6日

「ウィーン美術史博物館の彫刻と工芸」

マンフレート・ライテ＝ヤスパー（ウィーン美術史博物館彫刻工芸部）

特別講演会

昭和48年9月26日

「絵画の科学的調査と芸術学的評価」

ヨハネス・タウベルト（バイエルン州文化財保護局監査官）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：31,854千円

歳出予算：224,540千円

開館日数：258日

平常展示：205日

特別展：53日

観覧者数：330,715人（1日平均1,282人）

平常展示：242,139人（1日平均1,181人）

特別展：88,576人（1日平均1,671人）

所蔵作品数：613点

1974 5

昭和49年度

主要記事

昭和49年

- 4月1日 次長に土生武則が任命された
- 4月20日 「モナ・リザ展」東京国立博物館を会場として開催
- 5月19日 「セザンヌ展」終了
- 6月10日 「モナ・リザ展」終了
- 9月20日 「ヨーロッパ絵画名作展」開会式
- 10月13日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(福岡展)開催
- 11月16日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(佐賀展)開催
- 11月24日 「ヨーロッパ絵画名作展」終了

昭和50年

- 1月24日 「ヨーロッパ素描名作展」開会式
秩父宮妃殿下御臨席・御観覧
- 3月19日 第8回国立西洋美術館評議員会
- 3月23日 「ヨーロッパ素描名作展」終了

新収作品

P.1974-1

エル・グレコ(ドメニコス・テオトコプーロス)
《十字架のキリスト》
油彩、カンヴァス、95.5×61 cm
購入

P.1974-2

ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《横たわる浴女》1906年
油彩、カンヴァス、54.8×65 cm
梅原龍三郎氏より寄贈

P.1974-4

パブロ・ピカソ
《アトリエのモデル》1965年
油彩、カンヴァス、50×61 cm
梅原龍三郎氏より寄贈

P.1974-5

パブロ・ピカソ
《男と女》1969年
油彩、カンヴァス、190×130 cm
梅原龍三郎氏より寄贈

P.1974-6

アレッサンドロ・マニャスコ
《羊飼いのいる風景》1718-25年頃
油彩、カンヴァス、93×130 cm
購入

S.1974-1

作者不詳
《女性偶像(キュクラデス彫刻)》
紀元前2500-2000年頃
大理石、4.0×8.7×34.5 cm
梅原龍三郎氏より寄贈

S.1974-2

作者不詳
《ヴァイオリン型の女性偶像(キュクラデス彫刻)》
紀元前2500-2000年頃
大理石、1.3×8.7×22.4 cm
梅原龍三郎氏より寄贈

D.1974-1

作者不詳
《帽子をかぶった老人の顔》16世紀
ペン、白のハイライト、紙、17.9×9.6 cm
宮本三郎氏より寄贈

D.1974-2

エドゥアール・ヴェイヤール
《庭》1918年頃
パステル、紙、14×12.5 cm
株式会社ウィルデンスタイン東京より寄贈

D.1974-3

エドガー・ドガ
《背中を拭く女》1888-92年頃
パステル、紙(カルトンに貼付)、70.9×62.4 cm
梅原龍三郎氏より寄贈

G.1974-1

アルブレヒト・デューラー

《キリストの復活》12点連作「キリストの受難」より

1511年

木版画、39.3×27.5 cm

購入

G.1974-2

アルブレヒト・デューラー

《ゲッセマネの祈り》1515年

エッチング、22.5×15.9 cm (版画)

購入

G.1974-3

ジャック・カロ

《聖マンスエトウス》

エッチング、23×27.8 cm (版画)

購入

G.1974-4

サルヴァトーレ・ローザ

《アレクサンドロスとディオゲネス》

エッチング、ドライポイント、45.1×27.2 cm (紙面)

購入

G.1974-5

ヤン・ボト

《モレ橋》

エッチング、19.7×27.8 cm (紙面)

購入

OA.1974-1

作者不詳

《壺》紀元前2500-2000年頃

大理石、高さ14.5 cm

梅原龍三郎氏より寄贈

保存修復

P.1959-0152

クロード・モネ

《陽を浴びるボブラ並木》

油彩、カンヴァス、93×73.5 cm

展覧会

1974-1

「モナ・リザ展」

会期：昭和49年4月20日～6月10日

主催：文化庁、東京国立博物館、国立西洋美術館

出品内容：絵画2点

会場：東京国立博物館

観覧者数：1,505,239人

1974-2

「ドイツ民主共和国ドレスデン国立美術館所蔵 ヨーロッパ絵画名作展」

会期：昭和49年9月21日～11月24日

主催：国立西洋美術館、京都国立博物館、ドレスデン国立美術館、日本経済新聞社

出品内容：絵画82点

観覧者数：264,030人

巡回先：京都国立博物館（昭和49年12月3日～昭和50年1月26日）

1974-3

「デヴォンシャー公爵所蔵 ヨーロッパ素描名作展 チャッツワース・コレクション」

会期：昭和50年1月25日～3月23日

主催：国立西洋美術館

出品内容：素描100点

観覧者数：68,397人

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

福岡展

会場：福岡県文化会館

会期：昭和49年10月13日～11月10日

共催：福岡県、福岡県教育委員会

観覧者数：88,709人

佐賀展

会場：佐賀県立博物館

会期：昭和49年11月16日～12月1日

共催：佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀新聞社

観覧者数：50,379人

出品内容：絵画43点、彫刻20点、素描10点、版画7点

講演会等

[セザンヌ展]記念講演会

第1回 昭和49年4月6日

「セザンヌの生涯と芸術における伝統と革新」

デニス・サットン(『アポロ』誌編集長)

第2回 昭和49年4月13日

「セザンヌと裸婦」

高階秀爾(東京大学助教授)

第3回 昭和49年4月20日

「セザンヌの芸術」

伊藤簾(東京藝術大学名誉教授)

第4回 昭和49年4月27日

「セザンヌとゾラ」

池上忠治(神戸大学助教授)

[ヨーロッパ絵画名作展]記念講演会

第1回 昭和49年9月28日

「ドレスデン美術館の名画」

アンナリーゼ・マイアー＝マインチェル(ドレスデン国立美術館アルテ・マイスター絵画館長)

第2回 昭和49年10月5日

「ヴェネツィアのルネサンス絵画」

摩寿意善郎(東京藝術大学教授)

第3回 昭和49年10月12日

「フランドルとオランダの絵画」

前川誠郎(東京大学教授)

第4回 昭和49年10月19日

「ロココの絵画—ワトーを中心にして」

山田智三郎(*館長)

[ヨーロッパ素描名作展]記念講演会

第1回 昭和50年2月1日

「デッサン—その本質と技法」

平山郁夫(東京藝術大学教授)

第2回 昭和50年2月8日

「デッサンの歴史」

前川誠郎(東京大学教授)

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算: 66,516千円

歳出予算: 266,198千円

開館日数: 245日

平常展示: 92日

特別展: 153日

観覧者数: 938,994人(1日平均3,833人)

平常展示: 82,780人(1日平均900人)

特別展: 856,214人(1日平均5,596人)

所蔵作品数: 629点

1975
6

昭和50年度

主要記事

昭和50年

- 4月4日 「ホドラー展」開会式
- 5月1日 「英王室秘蔵素描展」、東京国立博物館を会場として開催
- 5月20日 この年度から新館建設準備費が計上されたことに伴い、新館建設調査委員会を開催、基本構想固まる
- 5月25日 「ホドラー展」終了
- 6月1日 「英王室秘蔵素描展」終了
- 7月12日 新館基本設計を株式会社前川國男建築設計事務所に委託
- 7月21日 新館建設敷地の地盤および土質調査完了
- 10月24日 「英国の肖像画」展開会式
- 11月1日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(山形展)開催
- 12月14日 「英国の肖像画」展終了

昭和51年

- 3月5日 新館基本設計完了
- 3月17日 第9回国立西洋美術館評議員会

新収作品

P.1975-1

フランドル派、15世紀
《悲しみの聖母》
油彩、板、49.5×35.3 cm
購入

P.1975-2

ウジェーヌ・ドラクロワ
《墓に運ばれるキリスト》1859年

油彩、カンヴァス、56.3×46.3 cm
購入

P.1975-3

ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《ルーベンス作「神々の会議」の模写》1861年
油彩、カンヴァス、45.8×83.5 cm
梅原龍三郎氏より寄贈

P.1975-4

ジョン・エヴァリット・ミレイ
《あひるの子》1889年
油彩、カンヴァス、121.7×76 cm
水嶋徳蔵氏より寄贈

P.1975-5

ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《風景の中の三人》1916年
油彩、カンヴァス、65.3×54.3 cm
文化庁より管理換

P.1975-6

フィリップ・ド・シャンパーニュ
《マグダラのマリア》
油彩、カンヴァス、72.5×59 cm
購入

P.1975-7

ジョルジュ・ルオー
《リュリュ(道化の顔)》1952年
油彩、カンヴァス、着彩の額枠付、39.5×25 cm(画面のみ)、60×46 cm(額枠を含む)
購入

P.1975-8

クロード・ロラン(クロード・ジュレ)
《踊るサテュロスとニンフのいる風景》1646年
油彩、カンヴァス、98×125 cm
文化庁より管理換

S.1975-1

コルネイユ・ヴァン・クレーフ
《ヴィーナスとクビド》1700-10年頃
ブロンズ、45.7×26.0×19.0 cm
購入

S.1975-2

コルネイユ・ヴァン・クレーフ
《プシュケとクビド》1700-10年頃
ブロンズ、47.3×28.0×18.0 cm

購入

S.1975-3

作者不詳

《女性偶像（キュクラデス彫刻）》紀元前2500-2000年

大理石、6.8×13.0×60.5 cm

梅原龍三郎氏より寄贈

D.1975-1

フランソワ・ブーシェ

《へべ》18世紀

三色のチョーク、褐色紙、36×22.8 cm

購入

G.1975-1

カレル・N・フィッサー

《16のブロック》1972年

木版画、57×84 cm（紙面）

国立西洋美術館協会より寄贈

G.1975-2

オイヴィンド・ファールシュトレーム

《7つの“SOMBA”》1973年

セリグラフ、102×70 cm（紙面）

国立西洋美術館協会より寄贈

保存修復

P.1959-0175

ピエール・ピュヴィ・ド・シャヴァンヌ

《貧しき漁夫》

油彩、カンヴァス、105.8×68.6 cm

P.1970-0001

ウジェーヌ・ドラクロワ

《聖母の教育》

油彩、カンヴァス、46×55.5 cm

P.1959-0161

ギュスターヴ・モロー

《ピエタ》

油彩、板、23×16 cm

P.1959-0118

アンリ・ルバスク

《窓》

油彩、カンヴァス、81×65.5 cm

P.1959-0148

クロード・モネ

《舟遊び》

油彩、カンヴァス、145.5×133.5 cm

P.1965-0005

マックス・エルンスト

《石化した森》

油彩、カンヴァス、81×99.6 cm

P.1965-0010

フェルナン・レジェ

《赤い鶏と青い空》

油彩、カンヴァス、65.3×92 cm

展覧会

1975-1

「ホドラー展」

会期：昭和50年4月5日～5月25日

主催：国立西洋美術館、スイス・プロヘルヴェティア
文化財団、京都市、朝日新聞社

出品内容：絵画58点、彫刻1点、素描42点

観覧者数：128,155人

巡回先：京都市美術館（6月7日～7月20日）

1975-2

「英王室秘蔵素描展」

会期：昭和50年5月1日～6月1日

主催：文化庁、東京国立博物館、国立西洋美術館、
ブリティッシュ・カウンシル

出品内容：素描23点

会場：東京国立博物館

観覧者数：76,407人

1975-3

「英国の肖像画 哲学者フランシス・ベーコンから画家
フランシス・ベーコンまで」

会期：昭和50年10月25日～12月14日

主催：国立西洋美術館、ブリティッシュ・カウンシル

出品内容：絵画73点、素描55点、版画27点、ミニア
チュール31点

観覧者数：46,713人

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

山形展

会場：山形美術博物館

会期：昭和50年11月1日～11月30日

共催：山形県、山形県教育委員会、山形市、山形市教育委員会、山形美術博物館、山形新聞、山形放送

観覧者数：115,488人

出品内容：絵画43点、彫刻20点、素描11点、版画6点

講演会等

[ホドラー展]記念講演会

第1回 昭和50年4月5日

「フェルディナント・ホドラーの人と芸術」

ユラ・ブリュッシュヴァイラー（美術史家）

第2回 昭和50年4月17日

「文学と美術におけるアルプス」

トーマス・インモース（上智大学教授）

[英国の肖像画展]記念講演会

第1回 昭和50年10月25日

「英国の肖像画」

サー・トレンチャード・コックス（元ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館長）

第2回 昭和50年11月1日

「英国18世紀の生活と絵画」

サー・トレンチャード・コックス（元ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館長）

第3回 昭和50年11月8日

「ホガースとディケンズ—絵画と文学」

桜庭信之（東京教育大学教授）

乙の年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：32,995千円

歳出予算：326,111千円

開館日数：268日

平常展示：180日

特別展：88日

観覧者数：387,795人（1日平均1,447人）

平常展示：212,927人（1日平均1,183人）

特別展：174,868人（1日平均1,987人）

所蔵作品数：643点

1976 7

昭和51年度

主要記事

昭和51年

- 9月10日 「全米美術館収集世界名作展」開会式
常陸宮同妃両殿下御臨席・御観覧
- 10月9日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション
展」(鳥取展)開催
- 10月17日 「全米美術館収集世界名作展」終了
- 10月29日 「ヴァン・ゴッホ展」開会式
- 12月13日 浩宮徳仁親王殿下、「ヴァン・ゴッホ展」御
観覧のため御来館
- 12月19日 「ヴァン・ゴッホ展」終了

昭和52年

- 3月8日 第10回国立西洋美術館評議員会
- 3月30日 新館実施設計完了(株式会社前川國男建
築設計事務所)

新収作品

P.1976-1

ヤン・ステーン

《村の結婚》

油彩、板、59.5×83.5 cm

購入

P.1976-2

ユベール・ロベール

《マルクス・アウレリウス騎馬像、トラヤヌス記念柱、
神殿の見える空想のローマ景観》1786年

油彩、カンヴァス、161×107 cm

購入

P.1976-3

ヨース・ファン・クレーヴ

《三連祭壇画：キリスト磔刑》16世紀

油彩、板、116×83 cm (中央部)、117×36 cm (両翼)

購入

P.1976-4

ギュスターヴ・クールベ

《狩猟者のいる風景》1873年

油彩、カンヴァス、80.5×120.5 cm

購入

D.1976-1

アルベルト・ジャコメッティ

《人物デッサン》1956年頃

チョーク、紙、24.7×33.5 cm

皆川清彦氏より寄贈

G.1976-1

ボエティウス・ボルスヴェルト

《最後の晩餐》(ルーベンスによる)

エングレーヴィング、65.9×49.5 cm

購入

G.1976-2

ヘンドリック・ハウト

《娘を捜すケレス》(エルスハイマーによる) 1610年

エングレーヴィング、31.8×24.8 cm

購入

G.1976-3

ジャン＝バティスト・カミユー・コロー

《イタリアの想い出》1865年

エッチング、31.7×23.5 cm

購入

G.1976-4

リオネル・ファイニンガー

《緑の橋》1910-11年

エッチング、26.8×20 cm

購入

G.1976-5

ジョルジュ・ド・フル

《騎士の帰還》1897年

カラー・リトグラフ、32.5×25.8 cm

購入

保存修復

P.1959-0147

クロード・モネ

《並木道》

油彩、カンヴァス、81.6×46.4 cm

P.1959-0148

クロード・モネ

《舟遊び》

油彩、カンヴァス、145.5×133.5 cm

P.1959-0164

カミーユ・ピサロ

《エラニーの秋》

油彩、カンヴァス、38×46 cm

P.1959-0166

カミーユ・ピサロ

《冬景色》

油彩、カンヴァス、52×81 cm

P.1959-0181

ピエール＝オーギュスト・ルノワール

《帽子の女》

油彩、カンヴァス、56×46.5 cm

P.1959-0182

ピエール＝オーギュスト・ルノワール

《アルジェリア風のパリの女たち》

油彩、カンヴァス、156×128.8 cm

P.1975-0004

ジョン・エヴァリット・ミレイ

《あひるの子》

油彩、カンヴァス、121.7×76 cm

展覧会

1976-1

「全米美術館収集世界名作展 古代エジプトから現代まで」

会期：昭和51年9月11日～10月17日

主催：日米文化教育会議米側博物館交流小委員会、文化庁、国立西洋美術館、東京国立博物館、京都国立博物館

出品内容：絵画43点、彫刻28点、素描3点、工芸6点
観覧者数：64,395人

巡回先：京都国立博物館（11月2日～12月5日）

1976-2

「オランダ国立ヴァン・ゴッホ美術館所蔵 ヴァン・ゴッホ展」

会期：昭和51年10月30日～12月19日

主催：国立西洋美術館、京都国立近代美術館、オランダ国立ヴァン・ゴッホ美術館、東京新聞、中日新聞、中部日本放送

出品内容：絵画18点、素描81点、版画1点

観覧者数：435,160人

巡回先：京都国立近代美術館（昭和52年1月6日～2月20日）、愛知県美術館（2月24日～3月14日）

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

鳥取展

会場：鳥取県立博物館

会期：昭和51年10月9日～11月7日

共催：鳥取県、鳥取県教育委員会、鳥取県立博物館

観覧者数：51,809人

出品内容：絵画38点、彫刻15点、素描11点、版画6点

講演会等

「全米美術館収集世界名作展」記念講演会

第1回 昭和51年9月11日

「アメリカの美術館とそのコレクションについて」

シャーマン・リー（クリーヴランド美術館長）

第2回 昭和51年9月18日

「アルカイック彫刻の美」

澤柳大五郎（早稲田大学教授）

第3回 昭和51年9月25日

「美術における中世の秋」

辻成史（清泉女子大学教授）

第4回 昭和51年10月2日

「エル・グレコからゴヤまで」

神吉敬三（上智大学教授）

「ヴァン・ゴッホ展」記念講演会

第1回 昭和51年9月4日

映画「ヴァン・ゴッホの生涯」(オランダ政府制作)

解説 嘉門安雄（ブリヂストン美術館長）

第2回 昭和51年9月11日

「アルルのひまわり」

高階秀爾（東京大学助教授）

第3回 昭和51年9月18日

「ゴッホと浮世絵」

瀬木慎一（美術評論家）

第4回 昭和51年9月25日

「芸術と狂気—ゴッホの場合」

徳田良仁（精神病理学者）

第5回 昭和51年10月2日

「ゴッホの手紙について」

宇佐美英治（美術評論家）

第6回 昭和51年10月9日

「ゴッホ巡礼」

小川国雄（作家）

第7回 昭和51年10月16日

「ゴッホの作品から」

千足伸行（*主任研究官）

（主催：国立西洋美術館、ブリヂストン美術館、会場：
ブリヂストンホール）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：83,119千円

歳出予算：403,955千円

開館日数：274日

平常展示：198日

特別展：76日

観覧者数：734,997人（1日平均2,682人）

平常展示：235,442人（1日平均1,189人）

特別展：499,555人（1日平均6,573人）

所蔵作品数：653点

1977

8

昭和52年度

主要記事

昭和52年

- 4月18日 文部省設置法施行規則の一部を改正する省令の規定により、国立西洋美術館事業課は学芸課となり、機構の改組が行われた
- 5月10日 次長に橋本眞が任命された
- 8月27日 新館建設工事着工
- 8月31日 本館外壁補修工事完了
- 9月9日 「エルミタージュ美術館展」開会式
- 10月14日 「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」(奈良展)開催
- 10月23日 「エルミタージュ美術館展」終了
- 11月2日 「ルネッサンス装飾美術展」開会式
- 12月15日 「ルネッサンス装飾美術展」終了

昭和53年

- 3月23日 第11回国立西洋美術館評議員会

新収作品

P.1977-1

ヤン・ファン・ホイエン
《マース河口(ドルトレヒト)》1644年
油彩、板、48.5×76 cm
購入

P.1977-2

ユベール・ロペール
《モンテ・カヴァッロの巨像と聖堂の見える空想のローマ景観》1786年
油彩、カンヴァス、161×107 cm
購入

P.1977-3

イサーク・ファン・オスターデ
《宿屋の前の旅人たち》1645年
油彩、板、89×81 cm
購入

P.1977-4

作者不詳
《サン・イシドロの泉への巡礼 または 異端審問》
19世紀後半(?)
油彩、カンヴァス、33×57 cm
文化庁より管理換

P.1977-5

ジョルジュ・ルオー
《エバイ(びっくりした男)》1948-52年頃
油彩、基底材不明、着彩の額枠付、39.7×25.6 cm(画面のみ)、60.8×46.8 cm(額枠を含む)
梅原龍三郎氏より寄贈

P.1977-6

ギリス・ファン・コーニンクスロー
《「パリスの審判」が表された山岳風景》
16世紀末-17世紀初頭
油彩、板、127×185 cm
購入

P.1977-7

ユベール・ロペール
《牢獄風景》
皿絵、直径23 cm
ダニエル・ウィルデンスタイン氏より寄贈

D.1977-1

マリー=ジュスヴィエーヴ・ブリアール
《自画像》18世紀
パステル、紙、57.8×33.7 cm
購入

G.1977-1

ヴォルフガング・ゲフゲン
《十字架》
メゾティント、56×76 cm
国立西洋美術館協会より寄贈

G.1977-2

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン
《農家と大きな樹のある風景》1641年
エッチング、13×32.4 cm(画面)
購入

G.1977-3

パブロ・ピカソ

《顔》1928年

リトグラフ、20.4×14.2 cm

購入

G.1977-4

カナレット（ジョヴァンニ・アントニオ・カナル）

《司教の碑の見える町》

エッチング、30×30.2 cm

購入

G.1977-5

サミュエル・パーマー

《夕暮れ または 牧人の小屋》1850年

エッチング、12.4×10.2 cm

購入

G.1977-6

マックス・クリンガー

《溺死》

エッチング、26.2×21.5 cm

購入

G.1977-7

ジョルジュ・ブラック

《葉、色、光》1953年

リトグラフ、24×57 cm

国立西洋美術館協会より寄贈

OA.1977-1

王立ゴブラン製作所

《シャンボール城》シャルル・ル・ブラン原画によるゴ
ブラン・タピスリーのシリーズ「月暦」あるいは「王館」
のうち9月 1680-1700年頃

タピスリー、325×427 cm

購入

保存修復

P.1959-0059

ギュスターヴ・クールベ

《りんご》

油彩、カルトン、24.5×33.5 cm

P.1959-0061

ギュスターヴ・クールベ

《罌にかかった狐》

油彩、カンヴァス、81.5×100.5 cm

P.1959-0062

ギュスターヴ・クールベ

《波》

油彩、カンヴァス、72.5×92.5 cm

P.1959-0082

ジョルジュ・デヴァリエール

《聖母の訪問》

油彩、カンヴァス、77.5×164 cm

展覧会

1977-1

「エルミタージュ美術館展」

会期：昭和52年9月10日～10月23日

主催：国立西洋美術館、京都市、毎日新聞社

出品内容：絵画42点

観覧者数：216,206人

巡回先：京都市美術館（11月4日～12月11日）

1977-2

「ニューヨーク・メトロポリタン美術館所蔵 ロバート・
レーマン・コレクション ルネッサンス装飾美術展」

会期：昭和52年11月3日～12月15日

主催：国立西洋美術館

出品内容：絵画13点、工芸102点

観覧者数：51,805人

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 松方コレクション展」

奈良展

会場：奈良県立美術館

会期：昭和52年10月15日～11月13日

共催：奈良県立美術館、サンケイ新聞社

観覧者数：56,645人

出品内容：絵画39点、彫刻16点、素描11点、版画4点

講演会等

「エルミタージュ美術館展」記念講演会

第1回 昭和52年9月10日

「エルミタージュ美術館展について」

ニーナ・コサレバ（エルミタージュ美術館絵画部長）

第2回 昭和52年9月17日

「ルネッサンスからバロックへ」

若桑みどり（東京藝術大学助教授）

第3回 昭和52年9月24日

「プーサンからシャルダンまで」

中山公男（美術評論家）

第4回 昭和52年10月1日

「17世紀オランダの風景画と風俗画」

嘉門安雄（ブリヂストン美術館長）

第5回 昭和52年10月8日

「イコンについて」

高橋栄一（早稲田大学教授）

（主催：国立西洋美術館、ブリヂストン美術館、会場：
ブリヂストンホール）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：65,557千円

歳出予算：377,101千円

開館日数：272日

平常展示：197日

特別展：75日

観覧者数：497,892人（1日平均1,830人）

平常展示：229,881人（1日平均1,167人）

特別展：268,011人（1日平均3,573人）

所蔵作品数：669点

1978
9

昭和53年度

主要記事

昭和53年

- 4月24日 「ボストン美術館展」開会式
- 6月11日 「ボストン美術館展」終了
- 9月13日 「ヨーロッパの風景画」展開会式
- 10月26日 「ヨーロッパの風景画」展終了
- 11月8日 新館建設調査委員会開催
- 11月10日 「松方コレクションを中心とした 国立西洋美術館名品展」(熊本展)開催
- 12月20日 「松方コレクションを中心とした 国立西洋美術館名品展」(大分展)開催

昭和54年

- 1月16日 館長に内山正が任命された
- 3月15日 第12回国立西洋美術館評議員会

新収作品

P.1978-1

バプロ・ピカソ

《横たわる女》1960年

油彩、カンヴァス、60×73.2 cm

梅原龍三郎氏より寄贈

P.1978-2

ピエール＝オーギュスト・ルノワール

《ばらをつけた女》1910年代頃

油彩、カンヴァス、52.4×46.4 cm

梅原龍三郎氏より寄贈

P.1978-3

バルトロメオ・モンターニャ

《城の見える風景》15世紀末-16世紀初頭

油彩、板、139.7(直径)×139.7 cm

購入

P.1978-4

ペーテル・パウル・ルーベンス

《豊穡》1630年頃

油彩、板、63.7×45.8 cm

文化庁より管理換

P.1978-5

ポール・セザンヌ

《葉を落としたジャ・ド・ブッフアンの木々》1880-86年

油彩、カンヴァス、60.3×73 cm

購入

P.1978-6

ヤーコプ・ヨルダーンス

《ソドムを去るロトとその家族》1618-20年頃

油彩、カンヴァス、169.5×198.5 cm

購入

P.1978-7

ロヒール・ファン・デル・ウェイデン(派)

《ある男の肖像》1430年代

油彩、カンヴァス、33×21.5 cm

購入

S.1978-1

ピエール＝オーギュスト・ルノワール

《勝利のヴィーナス》1914年頃

ブロンズ、84×30×24 cm(台座を含む)

梅原龍三郎氏より寄贈

G.1978-1

アレクサンドル・ミハイロヴィッチ・ゲラシモフ

《街》

リノカット、39×58 cm

山田智三郎氏より寄贈

G.1978-2

クリストーフアノ・ロベッタ

《マギの礼拝》16世紀初頭

エングレーヴィング、30×28.2 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1978-4

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン

《聖母の死》1639年

エッチング、40.9×31.3 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1978-5

ロドルフ・ブレダン

《急流》1884年

リトグラフ、37.5×31.1 cm

購入

G.1978-6

ジョルジュ・ルオー

《連作「ミセレーレ」中の一点》1922-27年

アクアティント、58×41.7 cm

購入

L.1978-1

マルク・シャガール

《シェークスピア作「テンペスト」》1975年

リトグラフ挿絵49図入り本、46×36×8 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

保存修復

P.1959-0182

ピエール＝オーギュスト・ルノワール

《アルジェリア風のパリの女たち》

油彩、カンヴァス、156×128.8 cm

P.1959-0141

エミール＝ルネ・メナール

《秋の森》

油彩、カンヴァス、85.5×123 cm

P.1959-0192

キース・ヴァン・ドンゲン

《カジノのホール》

油彩、カンヴァス、73×54.3 cm

P.1959-0027

エミール・ボワイエ

《画家フジタの肖像》

油彩、カンヴァス、167.5×90.5 cm

展覧会

1978-1

「ボストン美術館 名作が語る人間像」

会期：昭和53年4月25日～6月11日

主催：国立西洋美術館、京都国立博物館、ボストン美術館、日本テレビ放送網、日本テレビ文化事業団、読売新聞社

出品内容：絵画32点、彫刻25点、素描3点、版画17点、工芸4点

観覧者数：181,845人

巡回先：京都国立博物館（6月24日～8月13日）

1978-2

「ヨーロッパの風景画」

会期：昭和53年9月14日～10月26日

主催：国立西洋美術館

出品内容：絵画76点、素描16点、版画1点

観覧者数：78,389人

巡回先：山梨県立美術館（昭和53年11月3日～昭和54年1月15日）

巡回展

「松方コレクションを中心とした 国立西洋美術館名品展」

熊本展

会場：熊本県立美術館

会期：昭和53年11月10日～12月10日

共催：熊本県、熊本県立美術館、熊本日日新聞社

観覧者数：74,884人

大分展

会場：大分県立芸術会館

会期：昭和53年12月20日～昭和54年1月31日

共催：大分県、大分県教育委員会、大分県立芸術会館、大分県美術協会、大分県芸術文化振興会議、大分合同新聞社

観覧者数：72,267人

出品内容：絵画40点、彫刻20点、素描11点、版画9点

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：75,793千円

歳出予算：859,526千円

開館日数：155日

平常展示：76日

特別展：79日

観覧者数：347,630人（1日平均2,243人）

平常展示：87,396人（1日平均1,150人）

特別展：260,234（1日平均3,294人）

所蔵作品数：683点

1979
80

昭和54年度

主要記事

昭和54年

5月31日 新館竣工

9月10日 新館増築に伴う本館改修工事完了

10月31日 新館増築に伴う環境整備工事完了

11月2日 新館竣工式

新館開館記念、「ヨーロッパ巨匠素描展」開会式

12月16日 「ヨーロッパ巨匠素描展」終了

昭和55年

3月17日 「フラゴナール展」開会式

3月25日 第13回国立西洋美術館評議員会

新収作品

P.1979-1

ロレンツォ・レオンブルーノ・ダ・マントヴァ

《キリスト降誕》1515年頃

板、44.4×36.3 cm

購入

P.1979-2

ジャン＝マルク・ナティエ

《マリー＝アンリエット・ベルトロ・ド・ブレヌフ夫人の肖像》1739年

油彩、カンヴァス、101.8×82.8 cm

購入

P.1979-3

ジャン・デュビュッフェ

《美しい尾の牝牛》1954年

油彩、カンヴァス、97×130 cm

平野逸朗氏より寄贈

P.1979-4

ジョルジョ・ヴァザーリ

《ゲッセマネの祈り》1570年頃

油彩、板、143.5×127.0 cm

購入

P.1979-5

ニコラ・ランクレ

《眠る羊飼女》1730年頃

油彩、カンヴァス、71.0×84.5 cm

購入

P.1979-6

オノレ・ドーミエ

《マグダラのマリア》1849-50年頃

油彩、カンヴァス、41×33 cm

購入

D.1979-1

ジャン・オーギュスト＝ドミニク・アングル

《ジェニー・ドラヴァレット(?)の肖像》1817年

鉛筆、16.1×11.5 cm

購入

G.1979-1/3

エレナ・アルメイダ

《人のいる絵》(1)(2)(3) 1979年

セリグラフ、各7.1×10.0 cm

作者より寄贈(1,2)、国立西洋美術館協会より寄贈(3)

G.1979-4

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン

《エジプトへの避難》1653年頃

エッチング、エングレーヴィング、ドライポイント、
20.9×28.1 cm

購入

G.1979-5

ルカス・ファン・レイデン

《洗礼者ヨハネの首をヘロデの前に運ぶ召使》

1517-18年

木版画、24.4×17.2 cm

国立西洋美術館協会より寄贈

G.1979-6

アルブレヒト・デューラー

《ネメシス(運命)》1502年

エングレーヴィング、33.1×22.9 cm

購入

G.1979-7

ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー
《庭》1880年
エッチング、30.2×23.4 cm
購入

保存修復

P.1959-0182

ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《アルジェリア風のパリの女たち》
油彩、カンヴァス、156×128.8 cm

P.1959-0106

ポール・ゴーガン
《海辺に立つブルターニュの少女たち》
油彩、カンヴァス、92.5×73.6 cm

展覧会

1979-1

「フォッグ美術館所蔵 ヨーロッパ巨匠素描展」
会期：昭和54年11月3日～12月16日
主催：国立西洋美術館
出品内容：素描100点
観覧者数：54,208人

1979-2

「フラゴナール展」
会期：昭和55年3月18日～5月11日
主催：国立西洋美術館、読売新聞社
出品内容：絵画90点、素描73点、版画13点
観覧者数：371,168人
巡回先：京都市美術館（5月24日～6月29日）

講演会等

「ヨーロッパ巨匠素描展」記念講演会
第1回 昭和54年11月10日
「フォッグ美術館の歴史と特性について」
ジョン・ローゼンフィールド（ハーヴァード大学教授
／フォッグ美術館東洋部長）
第2回 昭和54年11月17日
「素描の意味と種類—イタリア画派を中心に」
辻茂（東京藝術大学教授）
第3回 昭和54年12月1日
「フォッグ美術館所蔵素描の美術史上的位置」
アグネス・モンガン（前フォッグ美術館長）
第4回 昭和54年12月8日
「西洋の素描—北方の作品を中心に」

前川誠郎（東京大学教授）

第5回 昭和54年12月15日

「ヨーロッパの素描の歴史」

コンラート・オーバーフーバー（ハーヴァード大学教
授／フォッグ美術館素描部長）

「フラゴナール展」記念講演会

第1回 昭和55年3月22日

「ロココ美術における感覚的な自由について」

中山公男（美術評論家）

第2回 昭和55年3月29日

「ロココの音楽」

遠山一行（音楽評論家）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：35,164千円

歳出予算：519,832千円

開館日数：121日

平常展示：71日（平常展示のみ）

特別展：50日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：170,041人（1日平均1,405人）

平常展示：54,940人（1日平均768人）

特別展：115,101（1日平均2,302人）

所蔵作品数：697点

1980
1

昭和55年度

主要記事

昭和55年

- 4月3日 次長に前川誠郎が任命された
- 5月11日 「フラゴナール展」終了
- 8月25日 「ギリシャ美術の源流」展開会式
- 10月19日 「ギリシャ美術の源流」終了
- 10月29日 スペイン国王・王妃両陛下来日記念展「スペイン絵画・ベラスケスとその時代」展、東京国立博物館において開催
- 10月31日 「イタリア・ルネッサンス美術展」開会式
- 12月21日 「スペイン絵画・ベラスケスとその時代」展終了
「イタリア・ルネッサンス美術展」終了

昭和56年

- 2月6日 「ヨーロッパ版画名作展」開会式
- 3月20日 第14回国立西洋美術館評議員会
- 3月22日 「ヨーロッパ版画名作展」終了
- 3月31日 本館屋根改修工事竣工

新収作品

P.1980-1

ヘンドリク・テルブリュッヘン（派）
《聖ペテロの解放》1620年代後半
油彩、カンヴァス、137.5×172 cm
購入

P.1980-2

ヤーコブ・ファン・ロイスダール
《桧の森の道》1650年以降
油彩、カンヴァス、102.5×127 cm
文化庁より管理換

P.1980-3

ディルク・パウツ（派）
《荆冠のキリスト》
油彩、板、44×30.5 cm
購入

D.1980-1

ジャン＝オノレ・フラゴナール
《若い熊使い》1760年頃
鉛筆、ペン、淡彩、紙、30.3×39.7 cm
購入

G.1980-1

アルブレヒト・デューラー
《アダムとイヴ》1504年
エングレーヴィング、24.8×19 cm
購入

G.1980-2

マルティン・ショーンガウアー
《キリスト降誕》1471-73年頃(?)
エングレーヴィング、25.8×17 cm
購入

保存修復

P.1959-0060

ギュスターヴ・クールベ
《もの思うジブシー女》
油彩、カンヴァス、50.3×61 cm

P.1959-0012

アルベール・アンドレ
《果物》
油彩、カンヴァス、34.2×54.3 cm

P.1959-0014

アルベール・バールトソン
《雪の中の静》
油彩、カンヴァス、117×114.5 cm

P.1959-0019

ポール＝アルベール・ベナール
《眼ざめ》
油彩、板、26.5×40.8 cm

P.1959-0024

エミール・ボワイエ
《モンマルトル》
油彩、カンヴァス、65×81 cm

P.1959-0025

エミール・ボワイエ

《冬景色》

油彩、カンヴァス、64.5×81 cm

P.1959-0026

エミール・ボワイエ

《フジタ夫人の肖像》

油彩、カンヴァス、81×65 cm

P.1959-0028

エミール・ボワイエ

《スペイン情景》

油彩、カンヴァス、81.1×65.2 cm

P.1959-0031

ルイ・シャルロ

《羊飼いの少女》

油彩、カンヴァス、100×81 cm

P.1959-0034

シャルル・コッテ

《捨てられた舟》

油彩、カルトン、48.3×53.5 cm

P.1959-0037

シャルル・コッテ

《ブルターニュの海岸》

油彩、カルトン、35.8×45.9 cm

P.1959-0038

シャルル・コッテ

《琥珀の首飾りをした婦人》

油彩、カンヴァス、195×97 cm

P.1959-0041

シャルル・コッテ

《ブルターニュの入江》

油彩、カルトン、41.5×54.8 cm

P.1959-0044

シャルル・コッテ

《裸婦》

油彩、カンヴァス、188×87 cm

P.1959-0049

シャルル・コッテ

《セゴビアの窪地》

油彩、カルトン、74×54 cm

P.1959-0051

シャルル・コッテ

《タホ河》

油彩、カルトン、37.5×46.2 cm

P.1959-0053

シャルル・コッテ

《ヴェネツィア》

油彩、カルトン、61.5×88 cm

P.1959-0054

シャルル・コッテ

《霧のヴェネツィア》

油彩、カルトン、49×69 cm

P.1959-0063

アンドレ・ドーシェ

《樹と流れ》

油彩、カンヴァス、97×136.3 cm

P.1959-0066

モーリス・ドニ

《エル・ケートルの墓地》

油彩、カンヴァス、42.8×65.7 cm

P.1959-0072

モーリス・ドニ

《紫陽花》

油彩、カルトン、34.5×36.5 cm

P.1959-0075

モーリス・ドニ

《クアトロ・トルリ城、シエナ》

油彩、カルトン、43.4×35 cm

P.1959-0077

モーリス・ドニ

《ヴィラ・メディチ、ローマ》

油彩、カンヴァス、41.2×65 cm

P.1959-0079

モーリス・ドニ

《シエナの聖カテリーナ》

油彩、カルトン、70.3×47.5 cm

P.1959-0083

ビエール＝ジャン＝シャルル・ドヴァル

《ムーア風の邸の中庭》

油彩、カンヴァス、73.8×92.6 cm

P.1959-84

ビエール＝ジャン＝シャルル・ドヴァル

《姉妹》

油彩、カンヴァス、81×99.5 cm

P.1959-85

ビエール＝ジャン＝シャルル・ドヴァル

《ガルダイア》

油彩、カンヴァス、38.4×55.2 cm

P.1959-0089

ヴィクトリア・デュブル（ファンタン＝ラトゥール）

《花》

油彩、カンヴァス、42.5×50.5 cm

P.1959-0090

エミール＝オーギュスト・カロリユス＝デュラン

《坐せる裸婦》

油彩、カンヴァス、100×81.5 cm

P.1959-0096

ジョルジュ・デスパニャ

《風景》

油彩、カンヴァス、46.6×55.5 cm

P.1959-0097

ジョルジュ・デスパニャ

《少女》

油彩、カンヴァス、105×81 cm

P.1959-0116

エルネスト・ローラン

《若い婦人の肖像》

油彩、カンヴァス、60.9×50.3 cm

P.1959-0124

レオン・オーギュスタン・レルミット

《農民の家族》

油彩、カンヴァス、46×38.5 cm

P.1959-0128

アンリ＝ジャン＝ギヨーム・マルタン

《縫い物をする女》

油彩、カンヴァス、140.7×111 cm

P.1959-0147

クロード・モネ

《並木道》

油彩、カンヴァス、81.6×46.4 cm

P.1959-0179

エルネスト・クオスト

《牧場の木かげ》

油彩、カンヴァス、99×121.8 cm

P.1959-0184

アルフレッド＝フィリップ・ロール

《木かげ》

油彩、カンヴァス、80.5×100 cm

P.1959-0195

アンリ＝ジョゼフ・アルピニー

《風景》

油彩、カンヴァス、24×33.3 cm

P.1959-0196

ギュスターヴ・モロー

《牢獄のサロメ》

油彩、カンヴァス、40×32 cm

展覧会

1980-1

「エーゲ海キュクラデス諸島出土 ギリシャ美術の源流 グーランドリス・コレクション」

会期：昭和55年8月26日～10月19日

主催：国立西洋美術館、朝日新聞社

出品内容：工芸132点、石偶78点

観覧者数：138,383人

巡回先：京都国立博物館（昭和56年1月4日～2月8日）

1980-2

「スペイン国王・王妃両陛下来日記念展 スペイン絵画・ベラスケスとその時代」

会期：昭和55年10月29日～12月21日

主催：文化庁、東京国立博物館、国立西洋美術館、スペイン文化省文化財・古文書・博物館局

出品内容：絵画32点

観覧者数：219,788人

会場：東京国立博物館

1980-3

「イタリア・ルネッサンス美術展」

会期：昭和55年11月1日～12月21日

主催：国立西洋美術館、東京新聞、中部日本放送、イタリア文化財省

出品内容：絵画25点、彫刻9点、素描2点、工芸6点

観覧者数：302,473人

巡回先：京都国立近代美術館（昭和56年1月6日～2月15日）、愛知県美術館（3月5日～3月24日）

1980-4

「アルベルティーナ所蔵 ヨーロッパ版画名作展」

会期：昭和56年2月7日～3月22日

主催：国立西洋美術館、アルベルティーナ版画素描館

出品内容：版画134点

観覧者数：45,708人

巡回展

「国立美術館所蔵 内外美術名品展」

(文化庁巡回展)

会期：昭和55年10月3日～17日(広島)、10月22日～11月5日(大分)、11月11日～24日(熊本)、11月29日～12月13日(長崎)

主催：文化庁、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、広島県立美術館、大分県立芸術会館、熊本県立美術館、長崎県立美術館他

会場：広島県立美術館、大分県立芸術会館、熊本県立美術館、長崎県立美術館

出品内容：当館より絵画17点、彫刻2点を出品(全60点)

講演会等

「ギリシャ美術の源流展」記念講演会

第1回 昭和55年8月30日

「先史エーゲ海の航海者たち」

クリストス・ドゥマス(アテネ国立考古学博物館考古学主任研究官)

第2回 昭和55年9月6日

映画「先史エーゲ海の息吹き」

第3回 昭和55年9月13日

「ギリシャ美術—青銅器時代から鉄器時代へ」

水田徹(東京学芸大学助教授)

第4回 昭和55年9月20日

「キュクラデス諸島の先史美術」

友部直(共立女子大学教授)

「イタリア・ルネッサンス美術展」記念シンポジウム

「ルネッサンス美術とその世界像」

昭和55年11月1日～3日

講師・発表者：フランチェスコ・ヴァルカノーヴェル(ヴェネト地方文化財局)、ロベルト・サルヴィーニ(フィレンツェ大学)、ダンテ・ベルニーニ(ラツィオ地方文化財局)、若桑みどり(東京藝術大学)、若山映子(福井大学)、辻茂(東京藝術大学)、マルコ・キアリーニ(トスカナ地方文化財局)、ウンベルト・バルディーニ(フィレンツェ修復所)、田中英道(東北大学)、ニコラ・スピノーサ(カンパーニア地方文化財局)、山田智三郎(前国立西洋美術館長)、成瀬不二雄(大和文華館)、

アンドレイーナ・バルバヨウラ(イタリア文化会館)、高階秀爾(東京大学)[発表順]

(主催：国立西洋美術館、東京新聞、会場：国立西洋美術館講堂、日本プレスセンター)

「イタリア・ルネッサンス美術展」記念講演会

第1回 昭和55年11月8日

「イタリア・ルネッサンスの美術」

セシル・グールド(ロンドン・ナショナル・ギャラリー前副館長)

第2回 昭和55年11月15日

「イタリア・ルネッサンス美術展について」

前川誠郎(*次長)

第3回 昭和55年11月22日

「ルネッサンスとギリシャ—その根本的相違」

田中英道(東北大学助教授)

「ヨーロッパ版画名作展」記念講演会

第1回 昭和56年2月28日

「版画—その技法と鑑賞」

中林忠良(東京藝術大学助教授)

第2回 昭和56年3月7日

「ヨーロッパ版画の歴史」

八重樫春樹(*主任研究官)

第3回 昭和56年3月14日

「デューラーとレンブラント」

前川誠郎(*次長)

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：112,662千円

歳出予算：522,578千円

開館日数：288日

平常展示：122日(平常展示のみ)

特別展：166日(特別展・平常展示併設)

観覧者数：931,029人(1日平均3,233人)

平常展示：134,190人(1日平均1,067人)

特別展：796,839人(1日平均4,800人)

所蔵作品数：703点

1981
2

昭和56年度

主要記事

昭和56年

- 4月27日 「アングル展」開会式
 - 6月14日 「アングル展」終了
 - 8月31日 「モーリス・ドニ展」開会式
 - 10月18日 「モーリス・ドニ展」終了
 - 10月30日 「エミール・ノルデ展」開会式
 - 10月31日 閉障および門扉改修工事3年計画第1年次分完成
 - 12月13日 「エミール・ノルデ展」終了
- #### 昭和57年
- 3月19日 第15回国立西洋美術館評議員会

新収作品

P.1981-1

ヘーラルト・ダウ
《シャボン玉を吹く少年と静物》1635-36年頃
油彩、板、48×39.7 cm
購入

P.1981-2

モーリス・ドニ
《花束を飾った食卓》1904年
油彩、カルトン、17.5×37.6 cm
ドミニク・モーリス・ドニ氏より寄贈

P.1981-3

ダニエル・セーヘルズ、コルネリス・スフート
《花環の中の聖母子》17世紀前半
油彩、板、77×53.5 cm
購入

P.1981-4

アルフレッド・シスレー
《ルーヴシエンヌの風景》1873年
油彩、カンヴァス、54×73 cm
購入

D.1981-1

モーリス・ドニ
《池のある屋敷》1895年頃
油彩、紙、34×37.4 cm
ドミニク・モーリス・ドニ氏より寄贈

G.1981-1

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン
《病人たちを癒すキリスト（百グルデン版）》1649年頃
エッチング、ドライポイント、エングレーヴィング、
28×38.6 cm
購入

G.1981-2

アンドレア・マンテーニャ
《海神の闘い》（左半図）1494年以前
エングレーヴィング、27.6×32.9 cm
購入

G.1981-3

モーリス・ドニ
《化粧する娘》1895年
リトグラフ、53×32.5 cm
ドミニク・モーリス・ドニ氏より寄贈

G.1981-4/21

ウジェーヌ・ドラクロワ
《ゲーテ『ファウスト』による連作》18点連作
1828年（初版）
リトグラフ、53.5×35.5 cm（紙面）
国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1981-22/34

ウジェーヌ・ドラクロワ
《シェイクスピア『ハムレット』による連作》13点連作
1843年（初版）
リトグラフ、54.5×35.5 cm（紙面）
国立西洋美術館協力会より寄贈

保存修復

P.1959-0107

ボール・ゴーガン

《画家スレヴィンスキーの肖像》

油彩、カンヴァス、53.5×81.5 cm

展覧会

1981-1

「アングル展」

会期：昭和56年4月28日～6月14日

主催：国立西洋美術館、国立国際美術館、NHK

出品内容：絵画24点、素描98点、参考作品7点

観覧者数：339,491人

巡回先：国立国際美術館（6月23日～7月19日）

1981-2

「モーリス・ドニ展」

会期：昭和56年9月1日～10月18日

主催：国立西洋美術館

出品内容：絵画85点、素描59点、版画30点、書籍7点

観覧者数：52,176人

巡回先：京都国立近代美術館（10月30日～12月13日）

1981-3

「エミール・ノルデ展」

会期：昭和56年10月31日～12月13日

主催：国立西洋美術館、東京ドイツ文化センター、東京新聞

出品内容：絵画32点、素描106点、版画47点

観覧者数：83,916人

巡回先：北海道立近代美術館（昭和57年1月16日～2月7日）

巡回展

「国立美術館所蔵 内外美術名品展」

（文化庁巡回展）

会期：昭和56年10月7日～21日（青森）、10月28日～11月11日（岩手）、11月28日～12月2日（福島）

主催：文化庁、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、弘前市立博物館、岩手県民会館、福島県文化センター他

会場：弘前市立博物館、岩手県民会館、福島県文化センター

出品内容：当館より絵画17点、彫刻3点を出品（全60点）

講演会等

「アングル展」記念講演会

第1回 昭和56年5月23日

「アングルとその時代」

阿部良雄（東京大学助教授）

第2回 昭和56年5月30日

「アングルの油彩画について」

大島清次（栃木県立美術館長）

第3回 昭和56年6月6日

「アングルの素描について」

有川治男（*研究員）

「モーリス・ドニ展」記念講演会

第1回 昭和56年10月3日

「モーリス・ドニとナビ派」

中山公男（美術評論家）

第2回 昭和56年10月17日

「モーリス・ドニと日本の美術」

富山秀男（*学芸課長）

「エミール・ノルデ展」記念講演会

第1回 昭和56年10月31日

「エミール・ノルデの人と芸術—出品作品を中心に」

マルティン・ウルバン（ノルデ美術館長）

第2回 昭和56年11月14日

「エミール・ノルデの芸術—油彩画を中心に」

野村太郎（法政大学教授）

第3回 昭和56年11月21日

「描かれざる絵」

有川治男（*研究員）

第4回 昭和56年11月28日

「ノルデと表現主義の版画」

八重樫春樹（*主任研究官）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：109,674千円

歳出予算：545,954千円

開館日数：304日

平常展示：181日（平常展示のみ）

特別展：123日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：651,359人（1日平均2,143人）

平常展示：175,776人（1日平均932人）

特別展：475,583人（1日平均3,867人）

所蔵作品数：742点

1982 3

昭和57年度

主要記事

昭和57年

- 4月16日 ミッテラン仏大統領来日記念「ミレーの『晩鐘』と19世紀フランス名画展」開会式
ミッテラン仏大統領夫人御臨席・御観覧
- 6月13日 「ミレーの『晩鐘』と19世紀フランス名画展」終了
- 7月9日 館長に前川誠郎、次長に浪貝一良がそれぞれ任命された
- 7月26日 「アメリカ絵画展」開会式
- 9月19日 「アメリカ絵画展」終了
- 10月8日 「モネ展」開会式
高松宮殿下御臨席・御観覧
- 11月28日 「モネ展」終了
- #### 昭和58年
- 3月25日 第16回国立西洋美術館評議員会
- 3月30日 囲障および門扉改修工事3年計画第2年次分完成

新収作品

P.1982-1

エドゥアール・マネ

《花の中の子供》1876年

油彩、カンヴァス、60×97 cm

購入

S.1982-1

ジャン＝バティスト・カルポー

《ナボリの漁師の少年》1857年

ブロンズ、90×46×53 cm

購入

G.1982-1/15

マックス・クリンガー

《オヴィディウス『変身譚』の犠牲者の救済》

15点連作 1879年（第3版、1882年）

エッチング、アクアティント、7.8×22 cm～38.1×24.3 cm

購入

G.1982-16/21

マックス・クリンガー

《イヴと未来》6点連作 1880年（第2版、1882年）

エッチング、アクアティント、18.5×12.8 cm～26.4×22.8 cm

購入

G.1982-22/31

マックス・クリンガー

《手袋》10点連作 1881年（初版）

エッチング、アクアティント、10.1×23.4 cm～26.4×22.8 cm

購入

G.1982-32/46

マックス・クリンガー

《ある生涯》15点連作 1884年（第3版、1891年）

エッチング、エングレーヴィング、アクアティント、ドライポイント、13.8×26.3 cm～27×41.9 cm

購入

G.1982-47/56

マックス・クリンガー

《ある愛》10点連作 1887年（1903年頃の試刷）

エッチング、エングレーヴィング、アクアティント、22.8×35.3 cm～42.4×32.7 cm

購入

G.1982-57/66

マックス・クリンガー

《死についてⅠ》10点連作 1889年（第2版、1897年）

エッチング、アクアティント、12.3×13.4 cm～27.6×27.3 cm

購入

G.1982-67/78

マックス・クリンガー

《死についてⅡ》12点連作 1898-1910年（初版）

エッチング、エングレーヴィング、アクアティント、36.2×25.8 cm～49.4×33.5 cm

購入

G.1982-79/149

マックス・クリンガー

《天幕》46点連作、およびステートの異なるもの19点、
放棄された版によるもの6点 1915年(豪華版、1916年)
エッチング、アクアティント、メゾティント、ドライポイ
ント、C.21.5×16.5 cm(画面)

購入

G.1982-150

サイコロ印の版画家

《ヴィーナスとプシュケ》(ラファエルロによる)

エングレーヴィング、19×22.3 cm

購入

G.1982-151

サイコロ印の版画家

《装飾デザイン》(ラファエルロによる)

エングレーヴィング、20.4×14 cm

購入

G.1982-152/175

マックス・クリンガー

《ブラームス幻想》41点連作(24葉)

1894年(第2版、1894年)

エッチング、エングレーヴィング、アクアティント、メゾ
ティント、リトグラフ、36.1×43.2 cm(紙面)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1982-176

アルブレヒト・デューラー

《サテュロスの家族》1505年

エングレーヴィング、11.5×7 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

保存修復

P.1959-0104

ポール・ゴーガン

《水浴の女たち》

油彩、カンヴァス、38.1×46.2 cm

P.1959-0023

エミール・ボワイエ

《水族館》

油彩、カンヴァス、64.9×86 cm

展覧会

1982-1

「ミッテラン大統領来日記念 ミレーの《晩鐘》と19世
紀フランス名画展」

会期：昭和57年4月17日～6月13日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社、フランス美術
館総局

出品内容：絵画30点

観覧者数：531,144人

1982-2

「アメリカ絵画展 ロックフェラー3世夫妻コレクション」

会期：昭和57年7月27日～9月19日

主催：国立西洋美術館、ジャパン・ソサエティー、サ
ンフランシスコ美術館

出品内容：絵画61点、素描8点

観覧者数：66,231人

巡回先：福岡市美術館(10月2日～10月31日)

1982-3

「モネ展」

会期：昭和57年10月9日～11月28日

主催：国立西洋美術館、日本テレビ放送網、読売新聞社

出品内容：絵画70点、参考作品2点

観覧者数：386,181人

巡回先：京都国立近代美術館(昭和57年12月8日～
昭和58年1月30日)

巡回展

「国立美術館所蔵 内外美術名品展」

(文化庁巡回展)

会期：昭和57年10月1日～17日(鳥取)、10月23日
～11月7日(香川)、11月13日～28日(高知)

主催：文化庁、東京国立近代美術館、京都国立近代美
術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、鳥取県立
博物館、香川県文化会館、高知県立郷土文化会館、各
県教育委員会

会場：鳥取県立博物館、香川県文化会館、高知県立
郷土文化会館

出品内容：当館より絵画17点、彫刻3点を出品(全60点)

講演会等

[ミレーの「晩鐘」と19世紀フランス名画展]記念講演会

第1回 昭和57年5月8日

「ミレーの『晩鐘』と19世紀フランス名画展について」

前川誠郎(*次長)

第2回 昭和57年5月22日

「レアリスムと絵画」

佐々木英也(東京藝術大学助教授)

第3回 昭和57年5月29日

「レアリスムから印象主義へ」

高階秀爾(東京大学教授)

[アメリカ絵画展]記念講演会

第1回 昭和57年8月28日

「アメリカの美術」

桑原住雄(武蔵野美術大学教授)

第2回 昭和57年9月4日

「ユダヤ系アメリカ人の文学と芸術」

佐伯彰一(東京大学教授)

第3回 昭和57年9月11日

「アメリカ絵画展の出品作品について」

富山秀男(東京国立近代美術館次長)

[モネ展]記念講演会

第1回 昭和57年10月9日

「クロード・モネー視覚と瞑想」

ジェルマン・バザン(フランス学士院会員)

第2回 昭和57年10月30日

「モネと日本趣味」

池上忠治(神戸大学教授)

第3回 昭和57年11月6日

「現代生活の画家モネ」

高橋明也(*研究員)

第4回 昭和57年11月13日

「モネの技法」

黒江光彦(絵画修復家)

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：176,391千円

歳出予算：529,605千円

開館日数：281日

平常展示：138日(平常展示のみ)

特別展：143日(特別展・平常展示併設)

観覧者数：1,088,369人(1日平均3,873人)

平常展示：104,813人(1日平均734人)

特別展：983,556人(1日平均6,878人)

所蔵作品数：920点

1983 4

昭和58年度

主要記事

昭和58年

9月9日 「エルミタージュ美術館Ⅱ展」開会式
三笠宮殿下御臨席・御観覧

10月23日 「エルミタージュ美術館Ⅱ展」終了

11月11日 「ハインリヒ・フュースリ展」開会式

12月18日 「ハインリヒ・フュースリ展」終了

昭和59年

3月16日 第17回国立西洋美術館評議員会

3月30日 開障および門扉改修工事3年計画第3年次
分完成

新収作品

P.1983-1

ヨーハン・ハインリヒ・フュースリ

《グイド・カヴァルカンティの亡霊に会うテオドーレ》

1783年頃

油彩、カンヴァス、276×317 cm

購入

D.1983-1

モーリス・ドニ

《アーサー王》19世紀

ペン、黒インク、紙、38×32.5 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

D.1983-2

モーリス・ドニ

《レマン湖畔、トノン》

鉛筆、水彩、グワッシュ、紙、18×31 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1983-1

モーリス・ドニ

《泉に映る影》1897年（試刷り）

リトグラフ、39×25 cm

購入

G.1983-2

ポール・シニャック

《サン＝トロペの港》1897-98年

リトグラフ、44×32.7 cm

購入

G.1983-3

ハンス・ホルバイン（子）

《死と金持一連作「死の舞踏」より》1523-26年頃

木版画、6.5×5 cm

購入

G.1983-4

ブファルツ公ルブレヒト

《洗礼者ヨハネの首を持つ死刑執行人》1658年

メゾティント、64.2×44.7 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

保存修復

P.1959-0103

ジャン＝ルイ・フォラン

《聖アントニウスの誘惑》

油彩、カンヴァス、60.2×74.8 cm

展覧会

1983-1

「エルミタージュ美術館Ⅱ展」

会期：昭和58年9月10日～10月23日

主催：国立西洋美術館、毎日新聞社

出品内容：絵画49点、素描25点

観覧者数：131,717人

巡回先：大阪市立美術館（10月29日～12月11日）

1983-2

「ハインリヒ・フュースリ展」

会期：昭和58年11月12日～12月18日

主催：国立西洋美術館、スイス・プロヘルヴェティア
文化財団

出品内容：絵画25点、素描82点

観覧者数：38,414人

巡回先：北九州市立美術館（昭和58年12月25日～
昭和59年2月5日）

巡回展

「国立美術館所蔵 内外美術名品展」(文化庁巡回展)
会期：昭和58年10月1日～16日(富山)、10月21日～11月6日(福井)、11月11日～27日(豊橋)
共催：文化庁、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、富山県民会館、福井県立美術館、豊橋市美術博物館、各県教育委員会
会場：富山県民会館美術館、福井県立美術館、豊橋市美術博物館
出品内容：当館より絵画16点、彫刻3点を出品(全60点)

講演会等

特別講演会

昭和58年9月10日

「エルミタージュ美術館所蔵のラファエロの作品について」
タチヤーナ・クストジェワ(エルミタージュ美術館ヨーロッパ絵画部長)

「エルミタージュ美術館展Ⅱ」記念講演会

第1回 昭和58年10月1日

「黄金のオランダ」

堀越孝一(学習院大学教授)

第2回 昭和58年10月8日

「本展出品作品について」

雪山行二(*主任研究官)

第3回 昭和58年10月15日

「17世紀オランダの風景画と静物画」

兼重護(長崎大学教授)

「ハインリヒ・フュースリ展」記念講演会

第1回 昭和58年11月12日

「《夢魔》と《グイド・カヴァルカンティの亡霊に出会うテオドーレ》」

有川治男(*研究員)

第2回 昭和58年11月19日

「フュースリと19世紀英国絵画における幻想性」

ゲルト・シフ(ニューヨーク大学教授)

第3回 昭和58年12月3日

「フュースリと英国絵画」

大島清次(栃木県立美術館長)

特別講演会

昭和58年10月26日

「ラヴァーターとランスの仮面飾り—中世の芸術における人相と表情の問題について」

ヴィリバルト・ザウアーレンダー(ミュンヘン中央美術史研究所長)

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：64,303千円

歳出予算：540,265千円

開館日数：304日

平常展示：234日(平常展示のみ)

特別展：70日(特別展・平常展示併設)

観覧者数：403,299人(1日平均1,327人)

平常展示：233,168人(1日平均988人)

特別展：170,131人(1日平均2,430人)

所蔵作品数：927点

1984 5

昭和59年度

主要記事

昭和59年

- 4月23日 「マウリッツハイス王立美術館展」開会式
三笠宮同妃両殿下御臨席・御観覧
- 6月10日 「マウリッツハイス王立美術館展」終了
- 7月2日 「ドイツ美術展」開会式
- 8月26日 「ドイツ美術展」終了
- 8月28日 「ヨーロッパのタビスリー展」、東京国立博物館において開催
- 9月14日 「ウィーン美術史美術館展」開会式
常陸宮同妃両殿下御臨席・御観覧
- 9月30日 「ヨーロッパのタビスリー展」終了
- 11月4日 「ウィーン美術史美術館展」終了

昭和60年

- 2月1日 次長に垂木祐三が任命された
- 3月11日 第18回国立西洋美術館評議員会
- 3月31日 売札所整備工事竣工

新収作品

P.1984-1

オノレ・ドーミエ
《観劇》1856-60年頃
油彩、板、23.6×32.7 cm
松方幸次郎氏御遺族より寄贈

P.1984-2

エドゥアール・マネ
《ブラン氏の肖像》1879年
油彩、カンヴァス、192×104.2 cm
松方幸次郎氏御遺族より寄贈

P.1984-3

カミーユ・ピサロ
《収穫》1882年頃
不透明水性絵具、カンヴァス、70.3×126 cm
松方幸次郎氏御遺族より寄贈

P.1984-4

アンリ=オラース・ロラン・ド・ラ・ポルト
《桃、杏、李》1760-63年頃
油彩、カンヴァス、31.5×40.2 cm
購入

P.1984-5

ダンテ・ガブリエル・ロセッティ
《愛の杯》1867年
油彩、板、66×45.7 cm
購入

D.1984-1/2

ポール・ゴーガン
《ラ・マルティニック島の情景》(2点) 1887年
グワッシュ、紙、各12×42 cm
購入

G.1984-1/14

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ
《牢獄》16点連作 1758-59年頃(初版)
エッチング、エングレーヴィング、各葉とも約55×41 cm
(プレートマーク)
購入

G.1984-15/94

フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス
《ロス・カプリーチョス》80点連作 1799年(初版)
エッチング、アクアティント、各葉とも約21.5×24 cm
(プレートマーク)
購入

G.1984-95

ジュリオ・カンパニョーラ
《洗札者ヨハネ》1505年頃
エングレーヴィング、スティプル・エングレーヴィング、
31.2×24 cm
購入

G.1984-96

ピーテル・ブリューゲル
《賢い処女と愚かな処女のたとえ》1560-61年
エングレーヴィング、22.3×29 cm
購入

G.1984-97

ロヴィス・コリント

《ヴァルヒェン湖畔の家》1920年

ドライポイント、24.8×32.1 cm

山田智三郎氏御遺族より寄贈

保存修復

P.1973-0004

アンドレアス・リッツォス

《イコン:神の御座を伴うキリスト昇天》

テンペラ、板、71×47.5 cm

展覧会

1984-1

「マウリッツハイス王立美術館展」

会期:昭和59年4月24日～6月10日

主催:国立西洋美術館、東京新聞、中部日本放送

出品内容:絵画42点

観覧者数:152,360人

巡回先:愛知県立美術館(6月14日～7月1日)、北海道立近代美術館(7月21日～9月2日)

1984-2

「ニュルンベルク・ドイツ民族博物館所蔵 ドイツ美術展 中世から近世へ」

会期:昭和59年7月3日～8月26日

主催:国立西洋美術館、ドイツ民族博物館、東京ドイツ文化センター

出品内容:絵画13点、彫刻29点、版画45点、素描1点、書籍3点、工芸73点

観覧者数:62,555人

1984-3

「ヨーロッパのタピスリー」

会期:昭和59年8月28日～9月30日

主催:東京都、パリ市、文化庁、東京国立博物館、国立西洋美術館

出品内容:タピスリー27点

観覧者数:45,058人

会場:東京国立博物館

1984-4

「ハプスブルク家収集の名画 ウィーン美術史美術館展」

会期:昭和59年9月15日～11月4日

主催:国立西洋美術館、京都市美術館、ウィーン美術史美術館、毎日新聞社

出品内容:絵画48点

観覧者数:162,203人

巡回先:京都市美術館(11月10日～12月9日)

講演会等

「マウリッツハイス王立美術館展」記念講演会

第1回 昭和59年5月12日

「ネーデルラント絵画における室内表現について」

幸福輝(*研究員)

第2回 昭和59年5月19日

「マウリッツハイス王立美術館所蔵のレンブラント作品について」

兼重護(長崎大学教授)

第3回 昭和59年5月26日

「フェルメール作《青いターバンの少女》をめぐる」

中山公男(美術評論家)

「ドイツ美術展」記念講演会

昭和59年7月7日

「ファイト・シュトースの《天使の挨拶》」

ゲルハルト・ボット(ニュルンベルク・ドイツ民族博物館長)

シンポジウム「工房か芸術家か—中世末・近世初期の日本とドイツの美術」

昭和59年7月9～11日

発表者:カール・ボーズル(ミュンヘン大学)、網野善彦(神奈川大学)、前川誠郎(国立西洋美術館)、レオニー・フォン・ヴィルケンス(ドイツ民族博物館)、ローガー・ゲッパー(ケルン市立東アジア美術館)、田辺三郎助(国立歴史民族博物館)、辻惟雄(東京大学)、トーマス・ブラヒェルト(ドイツ民族博物館)[発表順]

「ウィーン美術史美術館展」記念講演会

第1回 昭和59年9月15日

「ウィーン美術史美術館とその収集の歴史」

ヘルマン・フィリッツ(ウィーン美術史美術館総長)

第2回 昭和59年10月6日

「ウィーン画廊の創設者、レオポルト・ヴィルヘルム大公—その収集の成立と運命」

越宏一(*主任研究官、東京藝術大学助教授)

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：99,979 千円

歳出予算：551,432 千円

開館日数：293 日

平常展示：159 日（平常展示のみ）

特別展：134 日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：504,036 人（1 日平均 1,720 人）

平常展示：126,918 人（1 日平均 738 人）

特別展：377,118 人（1 日平均 2,814 人）

所蔵作品数：1,031 点

1985
6

昭和60年度

主要記事

昭和60年

- 4月5日 「点描の画家たち」展開会式
- 5月26日 「点描の画家たち」展終了
- 9月20日 本館改修工事3年計画第1年次完成
- 10月11日 「ゴッホ展」開会式
- 12月8日 「ゴッホ展」終了

昭和61年

- 1月24日 「近世ヨーロッパ素描名作展」開会式
- 3月9日 「近世ヨーロッパ素描名作展」終了
- 3月13日 第19回国立西洋美術館評議員会

新収作品

P.1985-1

ウジェーヌ・ブーダン

《トルーヴィルの浜》1867年

油彩、カンヴァス、63×89 cm

購入

D.1985-1

エウセビオ・センペーレ

《グワッシュ 56》1956年

グワッシュ、紙、65×50 cm

作者遺贈

G.1985-1/12

マックス・クリンガー

《間奏曲》12点連作 1881年

エッチング、アクアティント、16.2×37.6 cm～
39.6×27.5 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1985-13/16

《ベックスマンのために》4人の作者による4点セット
1984年

(1) ヨアヒム・ヨーン

《マックス・ベックマンのために》

ドライポイント、40.8×33 cm

(2) フォルカー・シュテルツマン

《マックス・ベックマンのために》

エッチング、34.7×34.3 cm

(3) アンドレアス・ドレス

《情景—ベックマンに》

エッチング、アクアティント、ドライポイント、49.5×
64.7 cm

(4) ヴァルター・リプダ

《出会い—ベックマンのために》

木版画、56.4×47.6 cm

ドイツ民主共和国ホフマン文化大臣より寄贈

L.1985-1

バプロ・ピカソ

《ビュフォンの博物誌》挿絵31点入りの本 1942年

リフト・グラウンド・エッチング、スクレイパー、ドライ
ポイント、パニッシャー、エングレーヴィング、28×
36.5 cm (紙面)

国立西洋美術館協力会より寄贈

保存修復

G.1984-0015/0094

フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス

《ロス・カプリーチョス》(80点連作)

エッチング、アクアティント、ドライポイント、エンゲ
レーヴィング、21.9×15.2 cm (版寸)、29.5×20.2
cm (紙寸)

P.1959-0193

フィンセント・ファン・ゴッホ

《ばら》

油彩、カンヴァス、33×41.3 cm

P.1965-0006

ジャン・デュビュッフエ

《ご婦人のからだ(ぼさぼさ髪)》

油彩、カンヴァス、116×90 cm

P.1959-0099

アンリ・ファンタン＝ラトゥール

《聖アントニウスの誘惑》

油彩、カンヴァス、63.5×83.5 cm

P.1959-0155

クロード・モネ

《ウォータールー橋、ロンドン》

油彩、カンヴァス、65.7×100.5 cm

P.1959-0105

ポール・ゴーガン

《ブルターニュ風景》

油彩、カンヴァス、89.3×116.6 cm

P.1970-0003

ジャン＝バティスト・カミユ・コロー

《ナボリの浜の思い出》

油彩、カンヴァス、175×84 cm

展覧会

1985-1

「点描の画家たち」

会期：昭和60年4月6日～5月26日

主催：国立西洋美術館、京都市美術館、朝日新聞社

出品内容：絵画81点、水彩・素描15点、版画1点

観覧者数：159,357人

巡回先：京都市美術館（6月4日～7月14日）

1985-2

「ゴッホ展」

会期：昭和60年10月12日～12月8日

主催：国立西洋美術館、東京新聞、中部日本放送

出品内容：絵画55点、水彩・素描40点、版画4点、
その他2点

観覧者数：398,088人

巡回先：名古屋市博物館（昭和60年12月19日～
昭和61年2月2日）

1985-3

「ドイツ民主共和国ドレスデン版画素描館所蔵 近世ヨーロッパ素描名作展」

会期：昭和61年1月25日～3月9日

主催：国立西洋美術館、ドレスデン版画素描館

出品内容：素描75点

観覧者数：34,423人

講演会等

「点描の画家たち展」記念講演会

第1回 昭和60年4月20日

「点描の誕生—印象派から新印象派へ」

馬淵明子（*研究員）

第2回 昭和60年5月11日

「点描とクロワゾニスム」

八重樫春樹（*学芸課長）

「ゴッホ展」記念シンポジウム

昭和60年10月17日～19日

発表者：有川治男（国立西洋美術館）、ハン・ファン・
クリンペン（フィンセント・ファン・ゴッホ美術館）、
岡府寺司（アムステルダム大学）、八重樫春樹（国立西
洋美術館）、ヨーン・シレフィス（ハーグ市立美術館）、
フランソワーズ・カシヤン（オルセー美術館）、池上忠
治（神戸大学）、ヨハネス・ファン・デル・ウォルク（ク
レラー＝ミュラー美術館）、匠秀夫（美術史家）、ジ
ョン・リウオルド（ニューヨーク市立大学）、ロナルド・
ビックヴァンス（美術史家）、ローラント・ドルン（マン
ハイム市立美術館）、高階秀爾（東京大学）、セオドア・
アレフ（コロンビア大学）〔発表順〕

（主催：国立西洋美術館、東京新聞、中部日本放送、
会場：日本プレスセンター）

「近世ヨーロッパ素描名作展」記念講演会

昭和61年1月25日

「素描を見る愉しみ」

前川誠郎（*館長）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：140,302千円

歳出予算：556,945千円

開館日数：290日

平常展示：158日（平常展示のみ）

特別展：132日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：761,641人（1日平均2,626人）

平常展示：169,773人（1日平均1,035人）

特別展：591,868人（1日平均4,484人）

所蔵作品数：1,050点

1986
7

昭和61年度

主要記事

昭和61年

- 4月25日 「国立西洋美術館所蔵 マックス・クリンガー版画展」(長崎展)開催
- 5月16日 「国立西洋美術館所蔵 マックス・クリンガー版画展」(佐世保展)開催
- 7月31日 本館改修工事3年計画第2年次完成
- 8月15日 「ターナー展」開会式
- 9月22日 皇太子同妃両殿下、浩宮徳仁親王殿下、
「ターナー展」御観覧のため御来館
- 10月5日 「ターナー展」終了
- 10月17日 「エル・グレコ展」開会式
浩宮徳仁親王殿下、スペイン・エレナ王女
御臨席・御観覧
- 12月14日 「エル・グレコ展」終了

昭和62年

- 1月23日 「アルノルト・ベックリール展」開会式
- 3月8日 「アルノルト・ベックリール展」終了
- 3月13日 第20回国立西洋美術館評議員会
- 3月27日 「西洋の美術」展開会式
高円宮同妃両殿下御臨席・御観覧

新収作品

P.1986-1

モーリス・ドニ

《雌鶏と少女》1890年

油彩、カンヴァス、134.5×42.5 cm

購入

P.1986-2

クロード・モネ

《黄色いアイリス》1914-17年頃

油彩、カンヴァス、200×101 cm

購入

D.1986-1

ジャネット・ルロワ

《15-7-79》1979年

鉛筆、紙、38.2×57.2 cm

株式会社フジテレビ・ギャラリーより寄贈

D.1986-2

ジャネット・ルロワ

《24-8-79》1979年

鉛筆、紙、38.3×57 cm

株式会社フジテレビ・ギャラリーより寄贈

D.1986-3

ジャネット・ルロワ

《20-3-83》1983年

鉛筆、紙、38.4×45.8 cm

株式会社フジテレビ・ギャラリーより寄贈

D.1986-4

オットー・グラウ

《ファタ・モルガーナ》1978年

グワッシュ、鉛筆、紙、15×26.6 cm

ヒルデガルト・グラウ夫人より寄贈

G.1986-1

ジャン・デュヴェ

《国王の尊厳》1547年頃

エングレーヴィング、30.2×20.9 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

L.1986-1

エウセビオ・センペーレ

《十字架の聖ヨハネ「霊の賛歌」》版画7葉入りの本
1982年

シルクスクリーン、56.4×45.2 cm (紙面)

作者遺贈

保存修復(昭和61～62年度)

P.1959-0069

モーリス・ドニ

《踊る女たち》

油彩、カンヴァス、147.7×78.1 cm

P.1987-0001

ピエール・ボナール

《坐る娘と兎》

油彩、カンヴァス、96.5×43 cm

P.1959-0105

ポール・ゴーガン

《プルターニュ風景》

油彩、カンヴァス、89.3×116.6 cm

P.1960-0001

シャイム・スーティン

《狂女》

油彩、カンヴァス、96×60 cm

P.1965-0010

フェルナン・レジェ

《赤い鶏と青い空》

油彩、カンヴァス、65.3×92 cm

P.1965-0006

ジャン・デュビュッフエ

《ご婦人のからだ（ぼさぼさ髪）》

油彩、カンヴァス、116×90 cm

P.1959-0004

エドモン・アマン＝ジャン

《本を読む女たち》

油彩、カンヴァス、131×98.5 cm

P.1959-0192

キース・ヴァン・ドンゲン

《カジノのホール》

油彩、カンヴァス、73×54.3 cm

G.1959-0021

オーギュスト・ロダン

《ユーゴー（顔二つ）》

ドライポイント、賽の目紙、22.5×15.9 cm（版寸）、
30.8×22.3 cm（紙寸）

G.1959-0020

オーギュスト・ロダン

《ユーゴー》

ドライポイント、賽の目紙、21.9×15.0 cm（版寸）、
31.0×22.4 cm（紙寸）

G.1959-0023

オーギュスト・ロダン

《アントナン・ブルースト》

ドライポイント、賽の目紙、23.8×17.9 cm（版寸）、
30.6×21.8 cm（紙寸）

展覧会

1986-1

「ターナー展」

会期：昭和61年8月16日～10月5日

主催：国立西洋美術館、日本経済新聞社、ブリティッ
シュ・カウンシル

出品内容：絵画51点、素描60点

観覧者数：310,148人

巡回先：京都市美術館（10月14日～11月16日）

1986-2

「エル・グレコ展」

会期：昭和61年10月18日～12月14日

主催：国立西洋美術館、東京新聞

出品内容：絵画49点

観覧者数：252,038人

巡回先：奈良県立美術館（昭和62年1月6日～3月1日）、
愛知県美術館（3月11日～3月24日）

1986-3

「バーゼル美術館所蔵作品による アルノルト・ベック
リン展」

会期：昭和62年1月24日～3月8日

主催：国立西洋美術館、バーゼル美術館

出品内容：絵画39点、素描37点、参考出品1点

観覧者数：56,674人

1986-4

「欧州評議会特別展 西洋の美術 その空間表現の流れ」

会期：昭和62年3月28日～6月14日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社、日本テレビ放
送網、欧州評議会

出品内容：絵画71点、彫刻20点、素描8点、版画8点、
その他14点

観覧者数：611,983人

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 マックス・クリンガー版画展」
長崎展

会場：長崎県立美術博物館

会期：昭和61年4月25日～5月11日

共催：長崎県立美術博物館

観覧者数：2,133人

佐世保展

会場：佐世保市博物館島瀬美術センター

会期：昭和61年5月16日～25日

共催：佐世保市

観覧者数：1,304人

出品内容：版画90点

講演会等

[ターナー展]記念講演会

第1回 昭和61年8月16日

「あらゆる気候の画家―ターナー」

アンドリュウ・ウィルトン（テート・ギャラリー、ターナー・コレクション室長）

第2回 昭和61年8月30日

「風景画家ターナー―ドラマとしての自然」

友部直（共立女子大学教授）

第3回 昭和61年9月6日

「イギリスの絵画と文学―古典主義と浪漫主義」

桜庭信之（東京教育大学名誉教授）

第4回 昭和61年9月13日

「ターナーとイギリスの風景画」

八重樫春樹（*学芸課長）

[エル・グレコ展]記念講演会

第1回 昭和61年11月15日

「エル・グレコの祭壇衝立画」

神吉敬三（上智大学教授）

第2回 昭和61年11月29日

「反宗教改革期の宗教画とエル・グレコ」

若桑みどり（東京藝術大学教授）

第3回 昭和61年12月6日

「エル・グレコ―模倣と創造」

雪山行二（*主任研究官）

[アルノルト・ベックリ―ン展]記念講演会

第1回 昭和62年1月24日

「ベックリ―ンとその影響」

クリスティアン・ゲールハール（バーゼル美術館長）

第2回 昭和62年2月28日

「アルノルト・ベックリ―ンと19世紀のドイツ美術」

有川治男（*主任研究官）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：162,886千円

歳出予算：571,164千円

開館日数：272日

平常展示：137日（平常展示のみ）

特別展：132日（特別展・平常展示併設）

3日（特別展のみ）

観覧者数：813,777人（1日平均2,992人）

平常展示：172,374人（1日平均1,210人）

特別展：641,403人（1日平均4,751人）

所蔵作品数：1,058点

1987
8

昭和62年度

主要記事

昭和62年

4月1日 次長に森脇英一が任命された
6月8日 第21回国立西洋美術館評議員会
6月14日 「西洋の美術」展終了
10月23日 「イギリスのカリカチュア展」開会式
12月13日 「イギリスのカリカチュア展」終了
12月14日 本館冷暖房空調設備改修工事着工

新収作品

P.1987-1

ビエール・ボナール

《坐る娘と兎》1891年

油彩、カンヴァス、96.5×43 cm

購入

P.1987-2

アンソニー・ヴァン・ダイク

《ディエゴ・フェリーベ・デ・グスマン、レガネース侯爵》

1634年頃

油彩、カンヴァス、223×128 cm

購入

P.1987-3

ポール・シニャック

《サン＝トロペの港》1901年頃

油彩、カンヴァス、131×161.5 cm

購入

P.1987-4

ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ

《聖母子と三聖人》1759-62年頃

油彩、カンヴァス、135×77.8 cm

購入

S.1987-1

アリスティード・マイヨール

《夜》1902-09年

ブロンズ、106×57×108 cm

購入

G.1987-1/420

ジャック・カロ

版画420点（詳細省略）

購入

G.1987-421

ルカス・フォルステルマン（父）

《ジャック・カロの肖像》

購入

G.1987-422

ミシェル・ラスヌ

《ジャック・カロの肖像》

購入

G.1987-423/438

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ

《牢獄》16点連作 1765-70年頃（第2版）

エッチング、約55×41 cm（版画）

購入

G.1987-439

ジャン・デュビュッフエ

《密猟者》1953年

リトグラフ、50×65 cm

購入

G.1987-440

ベン・シャーン

《三輪車上の逆立ち》1968年

リトグラフ、92×62.2 cm

購入

L.1987-1/7

ジャック・カロ

版画入り書籍7冊（詳細省略）

購入

展覧会

1987-1

「ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館所蔵 イギリスのカリカチュア」

会期：昭和62年10月24日～12月13日

主催：国立西洋美術館

出品内容：絵画1点、素描73点、版画87点、その他1点

観覧者数：50,598人

講演会等

〔西洋の美術展〕記念シンポジウム

昭和62年4月2日～4日

発表者：前川誠郎（国立西洋美術館）、水野敬三郎（東京藝術大学）、田口栄一（東京藝術大学）、村重寧（東京国立博物館）、戸田禎佑（東京大学）、サルバトーレ・セッティス（ピサ高等師範学校）、ヴィリバルト・ザウアーレンダー（ミュンヘン中央美術史研究所）、ポール・フィリッポ（ブリュッセル大学）、アレックスandro・パロンキ（フィレンツェ大学）、ジャック・テュイリエ（コレージュ・ド・フランス）、リュクス・デ・フリース（フローニンゲン大学）、ロバート・ローゼンブラム（ニューヨーク大学）〔発表順〕

（主催：美術史学会、国立西洋美術館、読売新聞社、日本テレビ放送網、欧州評議会、会場：経団連会館国際会議場）

〔西洋の美術展〕記念講演会

第1回 昭和62年5月9日

「古代からバロックまで」

前川誠郎（*館長）

第2回 昭和62年5月16日

「19・20世紀まで」

八重樫春樹（*学芸課長）

〔イギリスのカリカチュア展〕記念講演会

昭和62年10月24日

「イギリスのカリカチュア」

ライオネル・ランボーン（ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館絵画版画素描部主任研究官）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：164,398千円

歳出予算：1,356,999千円

開館日数：271日

平常展示：162日（平常展示のみ）

特別展：44日（特別展・平常展示併設）

65日（特別展のみ）

観覧者数：821,773人（1日平均3,032人）

平常展示：181,735人（1日平均1,086人）

特別展：640,038人（1日平均5,872人）

所蔵作品数：1,510点

1988
9

昭和63年度

主要記事

昭和63年

- 4月22日 「マックス・クリンガー展」開会式
- 5月9日 第22回国立西洋美術館評議員会
- 5月13日 「国立西洋美術館所蔵 ロダン展」(倉吉展)開催
- 6月19日 「マックス・クリンガー展」終了
- 9月15日 本館冷暖房空調設備改修工事竣工
- 9月22日 「ジャポニスム展」開会式
- 9月23日 夜間開館試行開始
- 12月11日 「ジャポニスム展」終了
- 平成元年
- 3月20日 「ヴァチカン美術館特別展」開会式

新収作品

P.1988-1

ジョヴァンニ・パッティスタ・ティエポロ
《ヴィーナスによって天上に導かれるヴェットール・ピサーニ提督》1743年頃
油彩、カンヴァス、41×72 cm
購入

P.1988-2

ジョゼフ・ヴェルネ
《夏の夕べ、イタリア風景》1773年頃
油彩、カンヴァス、85×138 cm
購入

S.1988-1

オーギュスト・ロダン
《創造者》1900年以前(原型)

ブロンズ、41×36×13.5 cm
国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1988-1/25

《オーストラリア建国200年記念版画集》
25人の作者による25枚の版画 1988年
シルクスクリーン、リトグラフ、エッチングなど、約77
×57 cm～約26×18 cm
オーストラリア建国200年祭実行委員会より寄贈

G.1988-26

アンリ・リヴィエール
《サン＝ブリアックの三つの標識、夕暮れ》1890年
木版画、23×35 cm
購入

G.1988-27/33

ハインツ・ツァンダー
《美しき渡航、ベックリーンの「死の島」を前にして》
7点連作 1986年
エッチング、18.6×23.4 cm(版面)
ライプツィヒ美術館より寄贈

保存修復(昭和63～平成元年度)

P.1959-0160

アドルフ＝ジョゼフ＝トマ・モンティセリ
《カシスの港》
油彩、板、34.3×51 cm

P.1959-0138

アンリ＝ジャン＝ギヨーム・マルタン
《テラス》
油彩、カンヴァス、91×116.6 cm

P.1988-0001

ジョヴァンニ・パッティスタ・ティエポロ
《ヴィーナスによって天井に導かれるヴェットール・ピサーニ提督》
油彩、カンヴァス(楕円形)、41×72 cm

P.1965-0011

ジョアン・ミロ
《絵画》
油彩、カンヴァス、200×200.7 cm

P.1975-0004

ジョン・エヴァリット・ミレイ
《あひるの子》
油彩、カンヴァス、121.7×76 cm

P.1968-0003

シエナ派、14世紀

《聖ミカエルと龍》

テンペラ、板、40.5×19 cm

P.1975-0008

クロード・ロラン

《踊るサテュロスとニンフのいる風景》

油彩、カンヴァス、98×125 cm

P.1959-0039

シャルル・コッテ

《悲嘆、海の犠牲者》

油彩、カンヴァス、263×347 cm

P.1977-0003

イサーク・ファン・オスターデ

《宿屋の前の旅人たち》

油彩、板、89×81 cm

P.1981-0003

ダニエル・セーヘルス、コルネリス・スフォート

《花環の中の聖母子》

油彩、板、77×53.5 cm

P.1960-0001

シャイム・スーティン

《狂女》

油彩、カンヴァス、96×60 cm

P.1959-0123

レオン・オーギュスタン・レルミット

《落穂拾い》

油彩、カンヴァス、65.4×81.2 cm

P.1959-0126

ビエール＝アルペール・マルケ

《レ・サーブル・ドロンス》

油彩、カンヴァス、60.5×73 cm

P.1959-0027

エミール・ボワイエ

《画家フジタの肖像》

油彩、カンヴァス、167.5×90.5 cm

展覧会

1988-1

「マックス・クリンガー展 ライプツィヒ美術館／国立西洋美術館所蔵品」

会期：昭和63年4月23日～6月19日

主催：国立西洋美術館、ライプツィヒ美術館

出品内容：絵画20点、彫刻15点、素描44点、版画149点

観覧者数：73,617人

1988-2

「ジャポニスム展 19世紀西洋美術への日本の影響」

会期：昭和63年9月23日～12月11日

主催：国立西洋美術館、国際交流基金、日本放送協会、読売新聞社、フランス国立美術館連合、オルセ美術館

出品内容：絵画55点、彫刻7点、素描94点、版画56点、工芸190点、その他27点

観覧者数：466,372人

1988-3

「ヴァチカン美術館特別展 古代ギリシャからルネサンス、バロックまで」

会期：平成元年3月21日～5月21日

主催：国立西洋美術館、ヴァチカン美術館、日本テレビ放送網、読売新聞社

出品内容：絵画30点、彫刻18点、工芸11点、その他3点

観覧者数：289,976人

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 ロダン展」

会場：倉吉博物館

会期：昭和63年5月13日～6月12日

共催：倉吉市、倉吉博物館

観覧者数：15,090人

出品内容：彫刻23点、素描8点、版画5点

講演会等

「マックス・クリンガー展」記念講演会

昭和63年4月23日

「マックス・クリンガーとその芸術」

ディータ・グライスベルク（ライプツィヒ美術館長）

[ジャポニスム展]記念講演会

第1回 昭和63年9月23日

「近代美術の源泉としての日本」

ジュスヴィエーヴ・ラカンブル（オルセー美術館主任
研究官／ギュスターヴ・モロー美術館長）

第2回 昭和63年11月5日

「ジャポニスム—結晶作用の芸術」

前川誠郎（*館長）

第3回 昭和63年11月12日

「ヨーロッパから見た日本—ジャポニスムへの背景」

金井圓（東京大学名誉教授）

第4回 昭和63年11月19日

「西洋美術の中のジャポニスム」

高橋明也（*主任研究官）

第5回 昭和63年11月26日

映画「アール・ヌーヴォーと高島北海（ジャポニスム
とエミール・ガレ）」（サザンクロス・アソシエイツ制作）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：178,706千円

歳出予算：594,049千円

開館日数：270日

平常展示：141日（平常展示のみ）

特別展：79日（特別展・平常展示併設）

50日（特別展のみ）

観覧者数：736,233人（1日平均2,727人）

平常展示：153,725人（1日平均1,067人）

特別展：582,508人（1日平均4,516人）

所蔵作品数：1,546点

1989
90

平成元年度

主要記事

平成元年

- 4月1日 次長に大谷利治が就任
 - 4月15日 「国立西洋美術館所蔵 近代フランス絵画展」開催
 - 4月15日 「国立西洋美術館所蔵 マックス・クリンガー版画展」開催
 - 4月26日 三笠宮寛仁親王妃殿下、「ヴァチカン美術館特別展」御観覧のため御来館
 - 5月15日 第23回国立西洋美術館評議員会開催
 - 5月21日 「ヴァチカン美術館特別展」終了
 - 6月9日 国立西洋美術館30周年記念式典挙行及び記念展示開催
会期は6月10日から7月16日まで
国立西洋美術館30年史発行
 - 8月4日 「ドラクロワとフランス・ロマン主義展」開
会式
 - 10月1日 「ドラクロワとフランス・ロマン主義展」終了
 - 10月20日 「ロダン《地獄の門》展」開会式
 - 11月20日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審
査委員会開催
3点購入決定
 - 12月17日 「ロダン《地獄の門》展」終了
- #### 平成2年
- 3月15日 事務棟他改修建築工事竣工
 - 3月19日 「ブリュッゲルとネーデルラント風景画」展
開会式
 - 3月22日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審
査委員会開催
3点購入決定

新収作品

P.1989-1

フセーベ・デ・リベーラ
《哲学者クラテース》1636年
油彩、カンヴァス、124×98.5 cm
購入

D.1989-1

ジャン＝フランソワ・ミレー
《「四季」のための習作：秋》
鉛筆、紙、15.4×19.8 cm
ブルテ商会より寄贈

D.1989-2

ジャン＝オノレ・フラゴナール
《ドラリー・チュエ姫を連れ去る王子マンドリカルド》
1780年頃
黒チョーク、淡彩、紙、19.8×15.4 cm
購入

G.1989-1/60

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ
連作〈ローマの景観〉(全135点)より60点
1746(?) - 61年
エッチング、エングレーヴィング、厚手の賽の目紙、
紙サイズ：53.9×75.5 cm
購入

G.1989-61

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ
《ピラネージ作品カタログ》1761年
エッチング、エングレーヴィング、厚手の賽の目紙、紙
サイズ：53.9×37.8 cm (版サイズ：39.9×29.6 cm)
購入

G.1989-62/83

ウィリアム・ブレイク
〈ヨブ記への挿絵〉(扉絵及び21枚連作) 1825年
ライン・エングレーヴィング、インディアン・ペーパー (厚
手のヴォーヴ紙に張り付け)、約43.7×33.7 cm
購入

G.1989-84

ウィリアム・ブレイク
《チョーサーのカンタベリーへの巡礼》1810年
ライン・エングレーヴィング、23×93 cm (画面)、35
×95 cm (プレートマーク)、第3ステート
株式会社アルカディアより寄贈

G.1989-85/100

アルブレヒト・デューラー

〈銅版画受難伝〉(16点連作) 1507-13年

エングレーヴィング、11.7×7.4 cm

購入

G.1989-101

パウラ・モダーゾーン=ベッカー

《鳶鳥番の女》1899-1900年

エッチング、アクアティント、25.1×20.3 cm

購入

L.1989-1

ウィリアム・ブレイク

《エドワード・ヤング著『夜想：嘆きと慰め』のための挿絵》1797年刊

ライン・エングレーヴィング、33.9×29.6～40×29.8 cm (画面)

国立西洋美術館協会より寄贈

展覧会

1989-1

「ドラクロワとフランス・ロマン主義展」

会期：平成元年8月5日～10月1日

主催：国立西洋美術館、東京新聞

出品内容：絵画72点

観覧者数：181,571人

1989-2

「ロダン《地獄の門》展」

会期：平成元年10月21日～12月17日

主催：国立西洋美術館、ロダン美術館

出品内容：彫刻79点、素描30点

観覧者数：69,576人

1989-3

「ブラハ国立美術館所蔵 ブリュゲルとネーデルラント風景画」

会期：平成2年3月20日～5月27日

主催：国立西洋美術館、京都国立近代美術館、ブラハ国立美術館、朝日新聞社

出品内容：絵画58点

観覧者数：335,553人

巡回展

「国立西洋美術館所蔵 近代フランス絵画展」

会場：都城市立美術館

会期：平成元年4月15日～5月14日

主催：国立西洋美術館、都城市立美術館、宮崎日日新聞社

出品内容：絵画30点

「国立西洋美術館所蔵 マックス・クリンガー版画展」

会場：名古屋市美術館

会期：平成元年4月15日～5月14日

主催：名古屋市美術館、朝日新聞社

協力：国立西洋美術館

出品内容：版画104点

講演会等

「ヴァチカン美術館特別展」

第1回 平成元年4月15日

「法王庁と画家たち—14～15世紀を中心として」

生田圓 (*主任研究官)

第2回 平成元年4月22日

「ヴァチカンの古代彫刻とルネサンス芸術家」

越川倫明 (*研究員)

「ドラクロワとフランス・ロマン主義展」

第1回 平成元年9月16日

「フランス・ロマン主義とその時代」

阿部良雄 (東京大学教授)

第2回 平成元年9月23日

「19世紀美術とフランス・ロマン主義」

高橋明也 (*主任研究官)

「ロダン《地獄の門》展」

第1回 平成元年11月25日

「《地獄の門》—変容するモチーフ」

長谷川三郎 (*学芸課長)

第2回 平成元年12月9日

「ロダンの《地獄の門》を撮って」

安斎重男 (写真家)

第3回 平成元年12月16日

「ロダンと近代」

穴沢一夫 (美術史家)

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：178,700 千円

歳出決算：638,018 千円

開館日数：278 日

平常展示：123 日（平常展示のみ）

特別展：155 日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：685,400 人（1 日平均 2,465 人）

平常展示：139,986 人（1 日平均 1,027 人）

特別展：545,414 人（1 日平均 3,519 人）

作品点数：1,651 点

1990
1

平成2年度

主要記事

平成2年

- 4月1日 館長に三角哲生が就任
- 5月7日 天皇后両陛下、「ブリュゲルとネーデルラント風景画」展御観覧のため御来館
- 5月15日 第24回国立西洋美術館評議員会開催
- 5月27日 「ブリュゲルとネーデルラント風景画」展終了
- 7月20日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
1点購入決定
- 9月21日 「ウィリアム・ブレイク」展開会式
英国アン王女御臨席・御観覧
- 10月8日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
3点購入決定
- 11月25日 「ウィリアム・ブレイク」展終了

平成3年

- 3月15日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
3点購入決定
- 3月18日 「ドイツの素描」展開会式
- 3月30日 本館他改修建築工事竣工

新収作品

P.1990-1

エミール・ベルナール
《吟遊詩人に扮した自画像》1892年
油彩、カンヴァス、65×81 cm
購入

P.1990-2

コルネリス・ド・ヘーム
《果物籠のある静物》1654年頃
油彩、板、44.5×72.5 cm
購入

P.1990-3

エドゥアール・ヴエイヤール
《縫いものをするヴエイヤール夫人》1920年
油彩、厚紙、33.7×35.8 cm
株式会社フジカワ画廊より寄贈

P.1990-4

ジョルジュ・ルオー
《道化師》1937-38年
油彩、カンヴァス、45×28.2 cm
山本英子氏より寄贈

P.1990-5

ピエール・ラブラード
《花のある静物》
油彩、カンヴァス、48×43 cm
山本英子氏より寄贈

P.1990-6

モーリス・ド・ヴラマンク
《町役場》1920年
油彩、カンヴァス、38×46 cm
山本英子氏より寄贈

P.1990-7

ラウル・デュフィ
《モーツァルト》1943年
油彩、板、19×50.2 cm
山本英子氏より寄贈

P.1990-8

アンドレ・ドラン
《ジャン・ルノワール夫人》1923年頃
油彩、カンヴァス、90.4×75.2 cm
山本英子氏より寄贈

P.1990-9

アンドレ・ドラン
《浴女たち》
油彩、厚紙・紙、16.7×20.4 cm
山本英子氏より寄贈

P.1990-10

ベルナール・ビュッフェ

《鯨のある静物》1948年

油彩、カンヴァス、84.4×47.6 cm

山本英子氏より寄贈

S.1990-1

オーギュスト・ロダン

《鼻のつぶれた男》1863-64年

ブロンズ、31×18.8×15 cm

山本英子氏より寄贈

S.1990-2

オーギュスト・ロダン

《ロダン夫人》1880-82年

ブロンズ、25.5×16.5×15 cm

山本英子氏より寄贈

S.1990-3

エミール＝アントワース・ブールデル

《ヴェールの踊り》1910年

ブロンズ、66×56.5×17.5 cm

山本英子氏より寄贈

S.1990-4

アリスティード・マイヨール

《髪を結う浴女》1920年

ブロンズ、28.3×14×10 cm

山本英子氏より寄贈

S.1990-5

アントニ・クラークヴェ

《パイプをくわえるジュリオ》1962年

ブロンズ、高さ38.5 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-1

ウィリアム・ターナー

《アーレ溪谷》1844年(?)

鉛筆・白のハイライト、紙、18.2×23.5 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-2

ウィリアム・ターナー

《塔の見える風景》19世紀

鉛筆、紙、6.4×14 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-3

ジャン＝フランソワ・ミレー

《果物を摘みとる農婦》19世紀

鉛筆、紙、26.5×16.4 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-4

アンドレ・ドラン

《横たわる裸婦》20世紀

鉛筆、紙、23.2×31 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-5

パブロ・ピカソ

《画家の娘》1942年

鉛筆、紙、34.7×21.7 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-6

アメデオ・モディリアニ

《大きな帽子の婦人》1917年

鉛筆、紙、21.2×13.6 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-7

アンドレ・デュノワイエ・ド・スゴンザック

《ギュイアンクルの風景》1950年頃

グワッシュ、水彩、紙、49.9×63.4 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-8

ジュール・パスキン

《二人の女》1907年

鉛筆、水彩、紙、21.5×19.5 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-9

ジュール・パスキン

《青い下着の少女》1924-25年

鉛筆、色鉛筆、紙、26.7×39 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-10

バーナード・リーチ

《大木》1911年

鉛筆、紙、19.2×12.7 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-11

アントニ・クラークヴェ

《馬に乗る人物》20世紀

ペン、インク、紙、31.8×24.2 cm

山本英子氏より寄贈

D.1990-12

ベルナール・ビュッフェ

《後ろを向いた男》1949年

ペン、インク、紙、65.5×50.4 cm

山本英子氏より寄贈

G.1990-1

フェリックス・ブラックモン

《かもめ》1860年

エッチング、45.3×27.1 cm

ジャポニスム展実行委員会より寄贈

G.1990-2/34

フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス

〈ラ・タウロマキア〉(33点連作)初版(1816年発行)

25×35 cm

購入

G.1990-35

ポール・セリュジエ

《雨傘をさした飴売り女》1893年

リトグラフ、22.3×13.5 cm

ジュディエット・ル・ポール氏より寄贈

G.1990-36

パブロ・ピカソ

《1968年5月16日 VI》1968年

エッチング、ドライポイント、51×65 cm

山本英子氏より寄贈

G.1990-37

パブロ・ピカソ

《1968年3月29日 I》1968年

エッチング、ドライポイント、41.5×31.2 cm

山本英子氏より寄贈

G.1990-38

ヘンリー・ムーア

《座る女》1966年

リトグラフ、36.5×30.2 cm

山本英子氏より寄贈

G.1990-39

ルカス・ファン・レイデン

《サウロの改宗》1509年

エングレーヴィング、28.6×41 cm

購入

G.1990-40

ルカス・ファン・レイデン

《ラザロの復活》1507年

エングレーヴィング、28.5×20.3 cm

購入

G.1990-41

マルティン・ショーンガウアー

《マリアを祝福するキリスト》1475-80年頃

エングレーヴィング、16.2×15.7 cm

購入

G.1990-42

ジャン＝エミール・ラブルール

《ミュージック・ホールの踊り子》1931年

エッチング、20×17.3 cm

購入

G.1990-43

ジャン＝エミール・ラブルール

《野営の楽しみ》1916年

エングレーヴィング、17.1×13.9 cm

購入

OA.1990-1

バーナード・リーチ

《陶板：水差し》

磁器、10.1×10.1 cm

山本英子氏より寄贈

OA.1990-2

バーナード・リーチ

《陶板：登窯》

磁器、9.4×9.4 cm

山本英子氏より寄贈

L.1990-1/4

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ

《ローマの遺跡》(書籍4巻)1756年

エッチング、エングレーヴィング、賽の目紙、53.5×39.9 cm

購入

保存修復

P.1959-160

アドルフ＝ジョセフ＝トマ・モンティセリ

《カシスの港》

油彩、桎板、34.3×51×1.3 cm

展覧会

1990-1

「ウィリアム・ブレイク」

会期：平成2年9月22日～11月25日

主催：国立西洋美術館、日本経済新聞社

出品内容：版画114点、水彩・素描72点、版画114点、
その他140点

観覧者数：126,588人

1990-2

「ドイツの素描—ウィーン・アルベルティーナ版画・素描館所蔵」

会期：平成3年3月19日～5月19日

主催：国立西洋美術館、アルベルティーナ版画素描館

出品内容：素描80点

観覧者数：89,155人

文化庁巡回展

「国立西洋美術館所蔵作品による近代フランス美術展」

会場：井原市立田中美術館

会期：平成2年4月10日～4月23日

主催：文化庁、国立西洋美術館、岡山県教育委員会、
井原市教育委員会、井原市立田中美術館

出品点数：絵画35点、彫刻10点

観覧者数：6,903人

会場：香川県文化会館

会期：平成2年4月28日～5月13日

主催：文化庁、国立西洋美術館、香川県教育委員会、
香川県文化会館、四国新聞社、NHK高松放送局

出品点数：絵画35点、彫刻10点

観覧者数：26,661人

会場：豊田市民文化会館

会期：平成2年5月19日～6月3日

主催：文化庁、国立西洋美術館、愛知県教育委員会、
豊田市、豊田市教育委員会

出品点数：絵画35点、彫刻10点

観覧者数：12,437人

講演会等

「ブリューゲルとネーデルラント風景画」

第1回 平成2年4月21日

「ネーデルラントにおける風景画の成立とその展開」

中村俊春（*研究員）

第2回 平成2年4月28日

「ブリューゲルの〈干草の収穫〉と月暦表現の伝統」

森洋子（明治大学教授）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：142,817千円

歳出予算：656,657千円

開館日数：289日

平常展示：172日（平常展示のみ）

特別展：117日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：639,713人（1日平均2,213人）

平常展示：208,407人（1日平均1,127人）

特別展：431,306人（1日平均3,686人）

所蔵作品数：1,727点

1991 2

平成3年度

主要記事

平成3年

- 4月1日 次長に石藤守雄が就任
- 5月13日 第25回国立西洋美術館評議員会開催
- 5月19日 「ドイツの素描」展終了
- 6月24日 「マルティン・ショーンガウアーと15世紀ドイツ銅版画展」開会式
- 8月18日 「マルティン・ショーンガウアーと15世紀ドイツ銅版画展」終了
- 9月17日 「ルーヴル美術館特別展」開会式
- 9月28日 「国立西洋美術館所蔵作品による近代フランス美術展」開催（八戸市美術館）
- 11月1日 「国立西洋美術館所蔵作品による近代フランス美術展」開催（天童市美術館）
- 11月8日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
119点購入決定
- 11月25日 皇太子殿下、「ルーヴル美術館特別展」御観覧のため御来館

平成4年

- 2月10日 「スペイン・リアリズムの美」展開会式
クリスティーナ女王御臨席・御観覧

新収作品

P.1991-1

ダフィット・テニールス（父）
《ウルカヌスの鍛冶場を訪れたヴィーナス》1638年
油彩、銅板、47×60 cm
購入

P.1991-2

ダフィット・テニールス（子）
《聖アントニウスの誘惑》
油彩、カンヴァス、80×110 cm
購入

P.1991-3

ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《ばら》
油彩、カンヴァス、22.9×50.2 cm
山本英子氏より寄贈

P.1991-4

ピエール＝アルベール・マルケ
《ポルト・ヴェルサイユの雪景色》1904年
油彩、カンヴァス、54×65 cm
山本英子氏より寄贈

P.1991-5

アンドレ・ドラン
《果物》
油彩、カンヴァス、64.8×89.5 cm
山本英子氏より寄贈

S.1991-1

エミール＝アントワーン・プールデル
《果実》1906年
ブロンズ、58×27×14 cm
山本英子氏より寄贈

G.1991-1

作者不詳
《皇帝マティアス1世とアンヌ・ドートリッシュの寓意的肖像》
エングレーヴィング、30.5×23.5 cm
購入

G.1991-2

アブラハム・ブルーマールト、コルネリス・ブルーマールト
《寛容》
エングレーヴィング、19.5×13.5 cm
購入

G.1991-3

アブラハム・ブルーマールト、コルネリス・ブルーマールト
《牧歌的風景 1》
エングレーヴィング、13.3×20.6 cm
購入

G.1991-4

アブラハム・ブルーマールト、コルネリス・ブルーマールト

《牧歌的風景 2》

エングレーヴィング、13.3×20.6 cm

購入

G.1991-5

アブラハム・ブルーマールト、コルネリス・ブルーマールト

《牧歌的風景 3》

エングレーヴィング、13.3×20.6 cm

購入

G.1991-6

アブラハム・ブルーマールト、コルネリス・ブルーマールト

《牧歌的風景 4》

エングレーヴィング、13.3×20.6 cm

購入

G.1991-7

コルネリス・ブルーマールト

《雌鳥さわり》

エングレーヴィング、17.4×12.4 cm

購入

G.1991-8

フレデリク・ブルーマールト

《アブラハム・ブルーマールトの肖像》(第一版)

エングレーヴィング、18×15 cm

購入

G.1991-9

フレデリク・ブルーマールト

《アブラハム・ブルーマールトの肖像》(第二版)

エングレーヴィング、18×15 cm

購入

G.1991-10

フレデリク・ブルーマールト

《アブラハム・ブルーマールトの肖像》(第三版)

エングレーヴィング、18×15 cm

購入

G.1991-11

クラス・ファン・ブレン

《富める者と貧しき者》

エングレーヴィング、24.2×17.3 cm

購入

G.1991-12

ニコラス・ド・ブライン

《キリストと百卒長のいる風景》

エングレーヴィング、43.2×68 cm

購入

G.1991-13

ドメニコ・クストス

《読書する聖アンブロシウス》

エングレーヴィング、13.2×10.2 cm

購入

G.1991-14

ウィレム・ヤコプスゾーン・デルフ

《ナッサウ＝オラニエ家の諸侯たち》

エングレーヴィング、43.2×57 cm

購入

G.1991-15/24

ザカリアス・ドレンド

《キリストと使徒たち》

エングレーヴィング、直径10 cm

購入

G.1991-25

ジャック・ド・ヘイン

《食前の祈り》1595年頃

エングレーヴィング、27.5×40.7 cm

購入

G.1991-26

ジャック・ド・ヘイン

《太鼓に座る軍人》

エングレーヴィング、21×17 cm

購入

G.1991-27

ジャック・ド・ヘイン

《農家のある風景》

エッチング、20.2×30.7 cm

購入

G.1991-28

ジャック・ド・ヘイン

《アキスとガラテイとポリュフェモス》

エングレーヴィング、30.8×35.8 cm

購入

G.1991-29

ジャック・ド・ヘイン

《皇帝ルドルフ2世の将校》

エングレーヴィング、20.4×15.4 cm

購入

G.1991-30

ジャック・ド・ヘイン

《土(四大元素より)》1595-97年頃

エングレーヴィング、16.2×20.2 cm

購入

G.1991-31

ジャック・ド・ヘイン

《火(四大元素より)》1595-97年頃

エングレーヴィング、16.2×20.2 cm

購入

G.1991-32/37

ヘンドリック・ホルツィウス

《聖母の生涯》(6点連作)

エングレーヴィング

購入

G.1991-38

ヘンドリック・ホルツィウス

《ピエタ(マリアの哀悼)》1596年

エングレーヴィング、17.5×12.6 cm

購入

G.1991-39

ヘンドリック・ホルツィウス

《コールンヘルトの肖像》1591年

エングレーヴィング、42×32 cm

購入

G.1991-40

ヘンドリック・ホルツィウス

《ジャック・ド・ラ・ファージュの肖像》1580年頃

エングレーヴィング、19.9×13.1 cm

購入

G.1991-41

ヘンドリック・ホルツィウス

《ジョシナ・ハメルスの肖像》1580年

エングレーヴィング、19.7×12.7 cm

購入

G.1991-42/49

ヘンドリック・ホルツィウス

《古代の神々》(8点連作)

エングレーヴィング

購入

G.1991-50

ヘンドリック・ホルツィウス

《フィリップ・ハレの肖像》1582年

エングレーヴィング、15.2×13.5 cm

購入

G.1991-51

ヘンドリック・ホルツィウス

《イクシオン》1588年

エングレーヴィング、直径33.1 cm

購入

G.1991-52

ヘンドリック・ホルツィウス

《敗戦》

エングレーヴィング、20.2×29.5 cm

購入

G.1991-53

ヘンドリック・ホルツィウス派

《青銅時代》

エングレーヴィング、16.8×25 cm

購入

G.1991-54

ヘンドリック・ホルツィウス派

《人類の破滅を画策するネプトゥス》

エングレーヴィング、16.3×24.7 cm

購入

G.1991-55

ヘンドリック・ホルツィウス派

《大洪水》

エングレーヴィング、16.3×24.7 cm

購入

G.1991-56

ヘンドリック・ホルツィウス派

《クリュメネとファエトン》

エングレーヴィング、16.3×24.7 cm

購入

G.1991-57

ヘンドリック・ホルツィウス

《聖トマス》

エングレーヴィング、12×10 cm

購入

G.1991-58

ヘンドリック・ホルツィウス

《プブリウス・ホラティウス》

エングレーヴィング、39×25.6 cm

購入

G.1991-59

ヘンドリック・ホルツィウス

《マルキウス・スカヴォラ》

エングレーヴィング、35.3×23.2 cm

購入

G.1991-60

ヘンドリック・ホルツィウス

《マルクス・クルティウス》

エングレーヴィング、35.2×23.5 cm

購入

G.1991-61

ヘンドリック・ホルツィウス

《ティトゥス・マンリウス》

エングレーヴィング、35.3×23.3 cm

購入

G.1991-62

ヤーコブ・マータム

《ホルツィウスの肖像》1617年頃

エングレーヴィング、43×29 cm

購入

G.1991-63

ヤーコブ・マータム

《サムスン》

エングレーヴィング、26×16.6 cm

購入

G.1991-64

テオドル・マータム

《ペルス博士の肖像》

エングレーヴィング、14.5×9 cm

購入

G.1991-65

ヘルマン・ヤンスゾーン・ミュラー

《人類の墮落》

エングレーヴィング、直径22.3 cm

購入

G.1991-66

ヤン・ミュラー

《バルシャザールの供宴》1598年頃

エングレーヴィング、35×40.2 cm

購入

G.1991-67

ヤン・ミュラー

《ヘラクレスとマルスに導かれるミネルヴァ》

エングレーヴィング、23.8×16 cm

購入

G.1991-68

ヤン・ミュラー

《オラニエ公マウリッツ》1608年頃

エングレーヴィング、42×29.8 cm

購入

G.1991-69

ヤン・ミュラー

《バルトロメウス・スプランゲルの肖像》

エングレーヴィング、26.1×18.5 cm

購入

G.1991-70

クリスピン・ド・パッサ

《ケファロスとプロクリス》

エングレーヴィング、27.7×35.5 cm

購入

G.1991-71/74

クリスピン・ド・パッサ

〈四福音書記者〉(4点連作)

エングレーヴィング

購入

G.1991-75/81

クリスピン・ド・パッサ

〈美德〉(7点連作)

エングレーヴィング

購入

G.1991-82

エギディウス・サーデラー

《ボヘミア風景》

エングレーヴィング、23.7×36.7 cm

購入

G.1991-83

ウィレム・ファン・スワーネンブルフ

《預言者ザカリア》

エングレーヴィング、24.6×16.5 cm

購入

G.1991-84/102

エドヴァルド・ムンク

《アルファとオメガ (19点連作)》

リトグラフ

購入

G.1991-103

エドヴァルド・ムンク

《マドンナ》

リトグラフ、紙：80.3×44 cm/版：60.3×44 cm

購入

G.1991-104

エドヴァルド・ムンク

《ヴァンパイヤー》

リトグラフ、紙：39×55.6 cm/版：38.7×55.2 cm

購入

G.1991-105

エドヴァルド・ムンク

《スタニスラフ・ブシュビュシェフスキー》1898年

リトグラフ、紙：71×54.8 cm/版：54.5×44.1 cm

購入

G.1991-106

エドヴァルド・ムンク

《ハルピュイア》1900年

リトグラフ、紙：64.8×49.2 cm/版：36.5×32 cm

購入

G.1991-107

エドヴァルド・ムンク

《立つ男》

リトグラフ、紙：54.8×45.4 cm/版：50×37 cm

購入

G.1991-108

エドヴァルド・ムンク

《ヴァルター・ライスティコフ夫妻》1902年

リトグラフ、紙：66×100 cm/版：52.4×86.8 cm

購入

G.1991-109

エドヴァルド・ムンク

《虎の頭》1909年

リトグラフ、紙：36.5×30 cm/版：30.5×26 cm

購入

G.1991-110

エドヴァルド・ムンク

《歴史》

リトグラフ、紙：50×86 cm/版：41×77 cm

購入

G.1991-111

エドヴァルド・ムンク

《光に向かって》

カラー・リトグラフ、紙：100.7×75 cm/版：96×74 cm

購入

G.1991-112

エドヴァルド・ムンク

《中立地》

カラー・リトグラフ、紙：102×71.5 cm/版：54.3×49 cm

購入

G.1991-113

エドヴァルド・ムンク

《眼鏡を掛けた自画像》1922年

リトグラフ

紙：49.8×66.5 cm/版：42×60 cm

購入

G.1991-114

エドヴァルド・ムンク

《ローマのP. A. ムンクの墓》

リトグラフ、紙：49.5×39.6 cm/版：27×21 cm

購入

G.1991-115

エドヴァルド・ムンク

《横たわる裸婦 (大きなマドンナ)》

リトグラフ、紙：108×84.5 cm/版：82×60.5 cm

購入

G.1991-116/119

ヤーコブ・マータム

《四季》(4点連作)

エングレーヴィング、16.8×10.8 cm

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1991-120

エドモン＝フランソワ・アマン＝ジャン

《コメディール・フランセーズのモレノ嬢の肖像》

リトグラフ、45×57.2 (34×37.3) cm

有限会社アオキークラフトより寄贈

G.1991-121

アントニ・クラーヴェ

《記号》1976年

エッチング、カーボランダム、空押し、65.5×50 (35×29) cm

山本英子氏より寄贈

G.1991-122

アントニ・クラーヴェ

《手袋》1975年

リトグラフ、50.3×65.3 (36.5×59) cm

山本英子氏より寄贈

G.1991-123

アントニ・クラーヴェ

《赤い葉》1975年

リトグラフ、66×50.3 (38×31) cm

山本英子氏より寄贈

G.1991-124

アントニ・クラーヴェ

《しわの寄った紙》

リトグラフ、65.5×50.5 (39×40.5) cm

山本英子氏より寄贈

保存修復

P.1989-1

フセーペ・デ・リベーラ

《哲学者クラテース》

油彩、カンヴァス、124×98.5 cm

P.1990-2

コルネリス・ド・ヘーム

《果物籠のある静物》

油彩、桤板、44.5×72.5×0.6 cm

P.1959-146

ジャン＝フランソワ・ミレー

《春（ダフニスとクロエ）》

油彩、カンヴァス、235.5×134.5 cm

P.1959-40

シャルル・コッテ

《ムーラン・ルージュの女たち》

油彩、カルトン、36.5×51×0.4 cm

展覧会

1991-1

「マルティン・ショーンガウアーと15世紀ドイツ銅版画—ショーンガウアー歿後500年記念展／ドレスデン版画素描館所蔵」

会期：平成3年6月25日～8月18日

主催：国立西洋美術館、ドレスデン版画素描館

出品内容：版画152点

観覧者数：53,633人

1991-2

「ルーヴル美術館特別展—肖像表現の展開」

会期：平成3年9月18日～12月1日

主催：国立西洋美術館、朝日新聞社

出品内容：絵画29点、彫刻67点、素描26点、工芸8点、その他6点

観覧者数：469,426人

1991-3

「スペイン・リアリズムの美 静物画の世界」

会期：平成4年2月11日～4月12日

主催：国立西洋美術館、スペイン文化省、NHK、NHKプロモーション

出品内容：絵画63点

観覧者数：153,497人

文化庁巡回展

「国立西洋美術館所蔵作品による近代フランス美術展」

会場：八戸市美術館

会期：平成3年9月28日～10月27日

主催：文化庁、国立西洋美術館、八戸市、八戸市教育委員会

出品点数：絵画35点、彫刻10点

観覧者数：6,057人

会場：天童市美術館

会期：平成3年11月1日～11月24日

主催：文化庁、国立西洋美術館、天童市教育委員会、天童市美術館

出品点数：絵画35点、彫刻10点

観覧者数：5,013人

講演会等

[スペイン・リアリズムの美]

第1回 平成4年3月27日

「スペイン的なものをめぐって—静物画の世界—」

雪山行二（*主任研究員）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：237,971千円

歳出予算：688,637千円

開館日数：300日

平常展示：102日（平常展示のみ）

特別展：198日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：842,824人（1日平均2,809人）

平常展示：135,926人（1日平均1,059人）

特別展：706,898人（1日平均3,570人）

所蔵作品数：1,857点

1992
3

平成4年度

主要記事

平成4年

- 4月1日 館長に高階秀爾が就任
- 4月12日 「スペイン・リアリズムの美」展終了
- 4月27日 「オーストラリア絵画の200年」展開会式
- 5月15日 第26回国立西洋美術館評議員会開催
- 6月28日 「オーストラリア絵画の200年」展終了
- 6月30日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
36点購入決定
- 10月12日 「フランス近世素描展」開会式
- 11月3日 「第34回教育文化週間」のため無料観覧日実施
- 11月3日 「国立西洋美術館所蔵作品による 近代フランス美術展」開催
- 12月6日 「フランス近世素描展」終了
- 12月16日 次長に黒川征が就任

平成5年

- 1月28日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
36点購入決定

新収作品

P.1992-1

- ピエール・ボナール
- 《働く人々》1916-20年頃
- 油彩、カンヴァス、130×160 cm
- 柿沼富二郎氏ご遺族より寄贈

P.1992-2

- アンドレ・ボーシャン
- 《アルクマールの運河、オランダ》
- 油彩、カンヴァス、97×190 cm
- 柿沼富二郎氏ご遺族より寄贈

P.1992-3

- 藤田嗣治
- 《坐る女》1929年
- 油彩（背景に金箔）、カンヴァス、110×125 cm
- 柿沼富二郎氏ご遺族より寄贈

P.1992-4

- マールテン・ド・フォス
- 《最後の晩餐》
- 油彩、カンヴァス、146×212.5 cm
- 購入

P.1992-5

- ヤン・ボト
- コルネリス・ファン・ブーレンブルフ
- 《ニンフのいる風景》
- 油彩、カンヴァス、49×60 cm
- 購入

P.1992-6

- アドリアーン・ファン・ユトレヒト
- 《狐の獲物と野菜のある静物》1648年
- 油彩、カンヴァス、81.5×115.5 cm
- 購入

G.1992-1

- ヘンドリック・ホルツイウス
- 《歩兵隊長》
- エングレーヴィング、28.4×19.4 cm
- 購入

G.1992-2/7

- カレル・ヴァン・マンデル、ヤン・サーンレダム
- 〈アダムとエヴァの物語〉(6点連作)
- エングレーヴィング、27.8×19.9 cm
- 購入

G.1992-8

- カレル・ヴァン・マンデル、ヤン・サーンレダム
- 《井戸のそばのリベカとエリエゼル》
- エングレーヴィング、27.1×41.2 cm
- 購入

G.1992-9/11

ヤン・サーンレダム、ヘンドリック・ホルツィウス
〈三つの対神徳〉(3点連作)

エングレーヴィング、30×20.6 cm

購入

G.1992-12/18

ヤン・サーンレダム、ヘンドリック・ホルツィウス
〈七つの惑星の神々〉(7点連作) 1596年

エングレーヴィング、25.4×17.8 cm

購入

G.1992-19

ヤン・サーンレダム、ヘンドリック・ホルツィウス
《ユノ》

エングレーヴィング、34.2×25.5 cm

購入

G.1992-20

ヤン・サーンレダム、ヘンドリック・ホルツィウス
《ディアナのふたりのニンフ》

エングレーヴィング、22×15.9 cm

購入

G.1992-21/24

ヤン・サーンレダム、ヘンドリック・ホルツィウス
〈一日の四つの時〉(4点連作) 1594年

エングレーヴィング、21.2×15 cm

購入

G.1992-25/29

ヤン・サーンレダム、ヘンドリック・ホルツィウス
〈五感〉(5点連作)

エングレーヴィング、17.5×12.4 cm

購入

G.1992-30

ヤン・サーンレダム、ヘンドリック・ホルツィウス
《踊る若い男女》

エングレーヴィング、30.3×40.1 cm

購入

G.1992-31

ウィレム・ファン・スワーネンブルフ
《アブラハム・ブルーマールトの肖像》

エングレーヴィング、21.9×15.5 cm

購入

G.1992-32

ウィレム・ファン・スワーネンブルフ

《ペルセウスとアンドロメダ》

エングレーヴィング、26.7×19.5 cm

購入

G.1992-33/36

ウィレム・ファン・スワーネンブルフ

〈世俗財産の悪用についての寓意〉

エングレーヴィング、21.8×15.9 cm

購入

G.1992-37/54

フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス

〈妄〉(18点連作) 初版(1864年)

24×35 cm

購入

G.1992-55/58

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ

〈グロッテスキ〉(4点連作) 1747年頃

エッチング、エングレーヴィング、ドライポイント

購入

G.1992-59

コーンラート・ラウウェルス

《荒野のエリヤ》(ルーベンスの原画「聖体の秘蹟の勝利」より)

エングレーヴィング、64×50.5 cm

購入

G.1992-60

スヘルテ・ア・ボルスヴェルト

《異教の共穢に対する聖体の秘蹟の勝利》(ルーベンスの原画「聖体の秘蹟の勝利」より)

エングレーヴィング、63.5×89 cm

購入

G.1992-61

ニコラース・ラウウェルス

《カトリックの信仰の勝利》(ルーベンスの原画「聖体の秘蹟の勝利」より)

エングレーヴィング、64×89 cm

購入

G.1992-62

スヘルテ・ア・ボルスヴェルト

《無知と盲目に対する教会の勝利》(ルーベンスの原画「聖体の秘蹟の勝利」より)

エングレーヴィング、63×102.5 cm

購入

G.1992-63

スヘルテ・ア・ボルスヴェルト

《奇跡の漁り》(ルーベンスの原画による)

エングレーヴィング、55.5×83.8 cm

購入

G.1992-64

バウルス・ボンティウス

《ベツレヘムの嬰兒虐殺》(ルーベンスの原画による)

エングレーヴィング、61.8×91 cm

購入

G.1992-65

ルカス・フォルステルマン (父)

《三王礼拝》(ルーベンスの原画による)

エングレーヴィング、57×73.5 cm

購入

G.1992-66

ニコラース・ラウウェルス

《三王礼拝》(ルーベンスの原画による)

エングレーヴィング、60.8×45.2 cm

購入

G.1992-67

ウィレム・バネールス

《洗礼者ヨハネの首を持つサロメ》(ルーベンスの原画による) 1631年

エッチング、19.3×14.1 cm

購入

G.1992-68

ジャン・モワロー

《ラ・ミュゼット》(ヴァトーの原画による) 1714年頃

エッチング、36.4×52.2 cm

購入

L.1992-1

エドゥアール・マネ

《大がらす》1875年

リトグラフ、55.5×35.5 cm

購入

L.1992-2

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ

《ジュリア水道の城》1761年

エッチング、エングレーヴィング、54.3×41.2 cm

購入

L.1992-3

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ

《コラの古代遺跡》1764年

エッチング、エングレーヴィング、54.3×41.2 cm

購入

L.1992-4/29

テイラー男爵/シャルル・ノディエ/アルフォンス・ド・カイユ

《古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅》

1820-63年

リトグラフ

購入

保存修復

P.1959-88

ヴィクトリア・デュブール (ファンタン=ラトゥール)

《花》

油彩、カンヴァス、42.7×47.8 cm

P.1984-5

ダンテ・ガブリエル・ロセッティ

《愛の杯》

油彩、板、66×45.7 cm

P.1959-40

シャルル・コッテ

《ムーラン・ルージュの女たち》

油彩、カルトン、36.5×51×0.5 cm

P.1959-42

シャルル・コッテ

《「小ミサ」のための習作》

油彩、板、26.1×41×0.5 cm

P.1959-47

シャルル・コッテ

《入り陽の港》

油彩、カルトン、43.7×54×0.4 cm

P.1959-178

エルネスト・クオスト

《鉢植》

油彩、板、40.9×28.9×0.5 cm

展覧会

1992-1

「オーストラリア絵画の200年—自然、人間、芸術」

会期：平成4年4月28日～6月28日

主催：国立西洋美術館、京都国立近代美術館、豪日交流基金、日本経済新聞社

出品内容：絵画80点、水彩36点、その他3点

観覧者数：86,932人

1992-2

「フランス近世素描展 パリ国立美術学校ボラコヴィッツ・コレクション」

会期：平成4年10月13日～12月6日

主催：国立西洋美術館、パリ国立美術学校

出品内容：素描117点

観覧者数：48,507人

地方美術館との連携協力展

「国立西洋美術館所蔵作品による 近代フランス美術展」

会場：浦添市美術館

会期：平成4年11月3日～12月7日

主催：浦添市美術館、琉球新報社

協力：国立西洋美術館

出品内容：計61点

観覧者数：11,293人

講演会等

「スペイン・リアリズムの美」

第2回 平成4年4月3日

「17世紀のフランドル、オランダ静物画—スペイン静物画とくらべて—」

中村俊春（*研究員）

「オーストラリア絵画の200年」

第1回 平成4年6月5日

「オーストラリア美術の中のオーストラリア的なもの」

有川治男（*客員研究員）

第2回 平成4年6月12日

「オーストラリアにおけるモダニズムの諸相」

コーリン・ラーンスリー（展覧会出品作家）

「美術館情報処理システムの諸問題—ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館を中心に」

平成5年3月23日

ヤン・ファン・デル・ワテレン（ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館国立美術図書館館長）

情報資料

一般来館者用「アートハイビジョン：主要絵画検索システム」の運用開始

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：113,272千円

歳出予算：718,601千円

開館日数：287日

平常展示：174日（平常展示のみ）

特別展：113日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：413,117人（1日平均1,439人）

平常展示：234,840人（1日平均1,220人）

特別展：178,277人（1日平均1,578人）

所蔵作品数：1,960点

1993 4

平成5年度

主要記事

平成5年

- 4月26日 「冬の国—ムンクとノルウェー絵画」展開会式
- 5月17日 第27回国立西洋美術館評議員会開催
- 5月24日 皇太子殿下、「冬の国—ムンクとノルウェー絵画」展御観覧のため御来館
- 5月27日 常陸宮妃殿下、「冬の国—ムンクとノルウェー絵画」展御観覧のため御来館
- 6月9日 皇太子殿下御成婚 無料観覧日実施
- 6月27日 「冬の国—ムンクとノルウェー絵画」展終了
- 7月13日 「ソドムを去るロトとその家族」展開催
- 9月19日 「ヴァチカンのルネサンス美術展」開会式
- 10月 前庭地下展示場「21世紀ギャラリー」(仮称)の基本計画を策定
- 11月22日 皇太子同妃両殿下、「ヴァチカンのルネサンス美術展」御観覧のため御来館
- 11月28日 「ヴァチカンのルネサンス美術展」終了

平成6年

- 1月11日 埋蔵文化財発掘調査委員会を設置
- 1月14日 前庭地下展示場「21世紀ギャラリー」(仮称)の基本設計者が株式会社前川建築設計事務所に決定した。
- 1月21日 「バーンズ・コレクション展」開会式
- 1月24日 第28回国立西洋美術館評議員会開催
- 2月7日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
4点購入決定
- 3月14日 天皇皇后両陛下、「バーンズ・コレクション展」御観覧のため御来館
- 3月17日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
107点購入決定

3月28日 皇太子同妃両殿下、「バーンズ・コレクション展」御観覧のため御来館

新収作品

P.1993-1/3

マリOTT・ディ・ナルド

〈「聖ステパノ伝」を表した祭壇画ブレデッラ3点〉

1408年

テンペラ、板

購入

P.1993-4

ヘルマン・ファン・スワーネフェルト

《ヴィーナスとローマの神殿およびコンスタンティヌス

凱旋門の見えるローマの景観》1634年

油彩、カンヴァス、52×67 cm

購入

G.1993-1

ハンス・ゼーバルト・ペーハム

《老人と若い婦人》1530年頃

キアロスクーロ木版画、24.6×24.3 cm

購入

G.1993-2

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ

《ピラネージ作品カタログ》1761年

エッチング、39.7×29.4 cm

購入

G.1993-3/82

フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス

〈戦争の惨禍〉(80点連作) 1810-20年頃

購入

G.1993-83

フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス

《二分された闘牛場》(「ボルドーの闘牛」より) 1825年

リトグラフ、30×41.5 cm

購入

G.1993-84

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー

《幼い妹》1854年

ガラス版画、15.1×18.1 cm(画面)、16.6×20.7 cm(紙)

購入

G.1993-85

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《森の中の騎手(小)》1854年

ガラス版画、18.9×14.9 cm(画面)、20.7×15.8 cm(紙)

購入

G.1993-86

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《夢想者》1854年

ガラス版画、14.9×19.3 cm(画面)、16.7×21.2 cm(紙)

購入

G.1993-87

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《若い娘と死神》1854年

ガラス版画、18.7×13.2 cm(画面)、20.7×16.7 cm(紙)

購入

G.1993-88

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《森の中の騎手(大)》1854年

ガラス版画、28.5×22.4 cm(画面)、30.5×24.0 cm(紙)

購入

G.1993-89

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《若い羊飼(第1版)》1855年

ガラス版画、32.5×25.0 cm(画面)、36.1×28.6 cm(紙)

購入

G.1993-90

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《若い羊飼(第2版)》1855年

ガラス版画、34.0×26.0 cm(画面)

購入

G.1993-91

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《ペリクレスの庭園、画家たちの小道、なぐりがき、木こり(大)アンリ8世の塔》1856年

ガラス版画、14.9×15.7 cm、17.3×12.1 cm、14.7×10.0 cm、14.8×8.4 cm、15.9×11.6 cm(各画面)、28.6×36.2 cm(紙)

購入

G.1993-92

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《オスティアの思い出》1855年

ガラス版画、27.0×34.4 cm(画面)、29.3×36.5 cm(紙)

購入

G.1993-93

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《ホラティウスの庭園》1855年

ガラス版画、35.6×27.3 cm(画面)、38.1×30.6 cm(紙)

購入

G.1993-94

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《森の入口に立つ若い母親》1856年

ガラス版画、34.5×26.5 cm(画面)、36.3×28.8 cm(紙)

購入

G.1993-95

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《山の木々》1856年

ガラス版画、18.7×15.2 cm(画面)、20.0×16.6 cm(紙)

購入

G.1993-96

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《林間の空地での昼食》1857年

ガラス版画、14.0×18.7 cm(画面)、16.4×20.0 cm(紙)

購入

G.1993-97

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《ガリア人の輪舞》1857年

ガラス版画、18.3×14.2 cm(画面)、19.7×16.3 cm(紙)

購入

G.1993-98

ジャン＝パティスト・カミーユ・コロー

《バ＝ブレオの思い出》1858年

ガラス版画、19.0×15.7 cm(画面)、20.0×16.6 cm(紙)

購入

G.1993-99

ウジェーヌ・ドラクロワ

《立ちどまった虎》1854年

ガラス版画、15.1×19.0 cm(画面)、17.3×20.0 cm(紙)

購入

G.1993-100

ジャン・フランソワ・ミレー

《母の気づかい》1862年

ガラス版画、28.5×22.5 cm(画面)、30.1×24.2 cm(紙)

購入

G.1993-101

ジャン・フランソワ・ミレー

《瓶に水を注ぐ婦人》1862年

ガラス版画、28.5×22.5 cm(画面)、30.1×24.2 cm(紙)

購入

G.1993-102

テオドール・ルソー

《プランタ=ビオの桜の木》1862年

ガラス版画、21.9×27.7 cm(画面)、23.8×30.1 cm(紙)

購入

G.1993-103

テオドール・ルソー

《プランタ=ビオの野原》1921年

ガラス版画、22.8×28.5 cm(画面)、24.3×30.2 cm(紙)

購入

G.1993-104

シャルル=フランソワ・ドービニー

《鴨のいる沼池》1858-62年頃

ガラス版画、11.0×18.0 cm(画面)、16.5×20.2 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-105

シャルル=フランソワ・ドービニー

《鹿》1858-62年頃

ガラス版画、15.5×18.8 cm(画面)、16.7×20.3 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-106

シャルル=フランソワ・ドービニー

《小麦畑の細道》1858-62年頃

ガラス版画、15.0×18.5 cm(画面)、16.6×20.1 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-107

シャルル=フランソワ・ドービニー

《橋》1858-62年頃

ガラス版画、15.0×18.7 cm(画面)、16.5×20.3 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-108

シャルル=フランソワ・ドービニー

《林間の空地を流れる小川》1858-62年頃

ガラス版画、18.2×15.5 cm(画面)、20.3×16.8 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-109

シャルル=フランソワ・ドービニー

《羊の囲い場》1858-62年頃

ガラス版画、18.5×34.7 cm(画面)、26.9×36.5 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-110

シャルル=フランソワ・ドービニー

《川の浅瀬》1858-62年頃

ガラス版画、27.5×35.0 cm(画面)、28.9×36.0 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-111

シャルル=フランソワ・ドービニー

《羊の群の帰還》1858-62年頃

ガラス版画、34.0×27.0 cm(画面)、36.2×29.3 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-112

シャルル=フランソワ・ドービニー

《山羊飼いの女》1858-62年頃

ガラス版画、34.2×26.7 cm(画面)、34.7×27.2 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-113

シャルル=フランソワ・ドービニー

《収穫》1858-62年頃

ガラス版画、21.5×34.5 cm(画面)、27.0×36.5 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-114

シャルル=フランソワ・ドービニー

《野原にたたずむろば》1858-62年頃

ガラス版画、15.8×19.0 cm(画面)、17.0×20.4 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-115

シャルル=フランソワ・ドービニー

《夜の印象》1858-62年頃

ガラス版画、15.0×19.0 cm(画面)、16.5×20.2 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-116

シャルル=フランソワ・ドービニー

《榛木》1858-62年頃

ガラス版画、15.0×19.0 cm(画面)、16.3×19.8 cm(紙)

国立西洋美術館協力会より寄贈

G.1993-117

シャルル＝フランソワ・ドービニー

《水飼いの場の牝牛》1858-62年頃

ガラス版画、16.5×20.0 cm(画面)、17.6×21.0 cm(紙)

国立西洋美術館協会より寄贈

G.1993-118

シャルル＝フランソワ・ドービニー

《水車》1858-62年頃

ガラス版画、21.5×35.0 cm(画面)、28.0×36.9 cm(紙)

国立西洋美術館協会より寄贈

G.1993-119

シャルル＝フランソワ・ドービニー

《森の中の牝牛》1858-62年頃

ガラス版画、16.0×19.0 cm(画面)、16.0×19.0 cm(紙)

国立西洋美術館協会より寄贈

保存修復

P.1959-135

アンリ＝ジャン＝ギヨーム・マルタン

《カオールの橋》

油彩、カンヴァス、85.7×64.5 cm

P.1959-150

クロード・モネ

《雪のアルジャントゥイユ》

油彩、カンヴァス、55.5×65 cm

展覧会

1993-1

「冬の国—ムンクとノルウェー—絵画」

会期：平成5年4月27日～6月27日

主催：国立西洋美術館、リレハンメル・オリンピック
組織委員会

出品内容：絵画81点、彫刻2点、その他4点

観覧者数：113,622人

1993-2

【小企画展】

「ソドムを去るロトとその家族—ルーベンスと工房」

会期：平成5年7月13日～8月29日

主催：国立西洋美術館

出品内容：絵画3点、書籍1点、版画1点

1993-3

「ヴァチカンのルネサンス美術展」

会期：平成5年9月21日～11月28日

主催：国立西洋美術館、ヴァチカン美術館、日本テレビ放送網

出品内容：絵画17点、彫刻37点、素描20点、版画
54点、工芸9点、その他19点

観覧者数：323,514人

1993-4

「バーンズ・コレクション展」

会期：平成6年1月22日～4月3日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社

出品内容：絵画80点

観覧者数：1,071,352人

講演会等

「ソドムを去るロトとその家族—ルーベンスと工房」

平成5年7月23日「ルーベンスと工房」

アルナウト・パリス（アントウェルペン、ルーベンス研
究所）

ウォルター・リートケ（ニューヨーク、メトロポリタン
美術館）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：485,894千円

歳出予算：741,227千円

開館日数：267日

平常展示：94日（平常展示のみ）

特別展：173日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：1,569,677人（一日平均5,879人）

平常展示：138,125人（一日平均1,243人）

特別展：1,431,552人（一日平均8,275人）

所蔵作品数：2,083点

1994
5

平成6年度

主要記事

平成6年

- 4月3日 「バーンズ・コレクション展」終了
- 4月14日 21世紀ギャラリー（仮称）建設に伴う前庭地下埋蔵文化財発掘調査開始
- 4月25日 「聖なるかたち」展開会式
- 6月25日 次長に藤田不二男が就任
- 6月26日 「聖なるかたち」展終了
- 9月19日 「1874年ーパリ：〔第1回印象派展〕とその時代」展開会式
- 10月3日 21世紀ギャラリー（仮称）建設工事安全祈願祭・着工祝賀会開催
- 10月31日 埋蔵文化財発掘調査終了
- 11月12日 「国立西洋美術館所蔵作品によるヨーロッパ美術への招待」開催
- 11月27日 「1874年ーパリ：〔第1回印象派展〕とその時代」展終了
- 12月13日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
3点購入決定

平成7年

- 1月13日 「宗教改革時代のドイツ木版画」展開会式
- 1月14日 「絵画の流れー伝統と革新」展開催
- 3月5日 「宗教改革時代のドイツ木版画」展終了
- 3月16日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
17点購入決定
- 3月20日 「ギュスターヴ・モロー展」開催
- 3月31日 財団法人西洋美術振興財団設立

新収作品

P.1994-1

パオロ・ヴェロネーゼ（本名パオロ・カリアーリ）
《聖女カタリナの神秘的結婚》1547年
油彩、カンヴァス、84×100 cm
購入

P.1994-2

ゴフレード・ウォルス
《エジプト逃避途上の休息をとまう風景》1619年
油彩、銅板、24.5×34.6 cm
購入

P.1994-3

バルトロメウス・ブレーンベルフ
《バラムとろばのいる海浜風景》1634年
油彩、40×74.5 cm
購入

G.1994-1

ルカス・クラナハ（父）
《馬上の聖ゲオルギウス》1507年頃
木版画、23.4×16 cm
購入

G.1994-2

ルカス・クラナハ（父）
《鎧を着た馬上の騎士》1509年頃
木版画、24.7×16.7 cm
購入

G.1994-3

アドリアーン・ファン・オスターデ
《窓辺で歌う人々》
エッチング、24.1×19 cm
購入

G.1994-4/11

ウィリアム・ホガース
〈放蕩一代〉（8点連作）1735年初版
エッチング、エングレーヴィング
購入

G.1994-12/15

ウィリアム・ホガース
〈残酷の4段階〉（4点連作）1750-51年
エッチング、エングレーヴィング
購入

G.1994-16

オノレ・ドーミエ

《ラファイエットはくたばった!……ざまあみろ》

石版画、35.2×47.9 cm (紙)、29.2×41.8 cm (画面)
購入

G.1994-17

フェリックス・ヴァロットン

《にわか雨》

木版画、25×32.5 cm (紙)、18.2×22.5 cm (画面)
購入

G.1994-18

ハンス・ゼーバルト・ペーハム

《老人と若い婦人》1530年頃

木版、24.6×24.3 cm

ヘルムート・H. ルンブラー氏より寄贈

保存修復

P.1959-154

クロード・モネ

《チャーリングクロス橋、ロンドン》

油彩、カンヴァス、65.1×100 cm

P.1959-164

カミーユ・ピサロ

《エラニーの秋》

油彩、カンヴァス、38.1×46.2 cm

P.1992-1

ピエール・ボナール

《働く人々》

油彩、カンヴァス、130×160 cm

P.1992-2

アンドレ・ボーシャン

《アルクマールの運河、オランダ》

油彩、カンヴァス、97×190.5 cm

P.1978-6

ヤーコブ・ヨルダース (?)

《ソドムを去るロトとその家族》(ルーベンスの構図にもとづく)

油彩、カンヴァス、169.5×198.5 cm

展覧会

1994-1

「アーヘン市立ズエルモント＝ルートヴィヒ美術館蔵
聖なるかたち—後期ゴシックの木彫と板絵」

会期：平成6年4月26日～6月26日

主催：国立西洋美術館、朝日新聞社

出品内容：絵画21点、彫刻56点

観覧者数：106,517人

1994-2

「1874年—パリ：[第1回印象派展]とその時代」

会期：平成6年9月20日～11月27日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社

出品内容：絵画79点、彫刻8点、水彩・素描10点、
版画37点、その他6点

観覧者数：476,550人

1994-3

「ゴータ市美術館所蔵作品による宗教改革時代のドイツ
木版画」

会期：平成7年1月14日～3月5日

主催：国立西洋美術館、ゴータ市美術館

出品内容：版画78点

観覧者数：28,240人

1994-4

「ギュスターヴ・モロー展」

会期：平成7年3月21日～5月14日

主催：国立西洋美術館、NHK、NHKプロモーション

出品内容：絵画53点、水彩・素描136点

観覧者数：196,966人

国立博物館・美術館巡回展

「絵画の流れ—伝統と革新」

会場：八代市立博物館未来の森ミュージアム

会期：平成7年1月14日～2月5日

主催：文化庁、東京国立博物館、京都国立博物館、
東京国立近代美術館、国立西洋美術館、京都国立近
代美術館、国立国際美術館、日本芸術院、熊本県、
熊本県教育委員会、八代市、八代市教育委員会、八
代市立博物館未来の森ミュージアム

出品点数：国立西洋美術館より絵画5点

観覧者数：9,284人

「絵画の流れ—伝統と革新」

会場：兵庫県立歴史博物館、姫路市立美術館

会期：平成7年2月11日～3月12日

主催：文化庁、東京国立博物館、京都国立博物館、

東京国立近代美術館、国立西洋美術館、京都国立近代美術館、国立国際美術館、日本芸術院、兵庫県立歴史博物館、姫路市立美術館、国立博物館・美術館巡回展姫路実行委員会、兵庫県、兵庫県教育委員会、姫路市、姫路市教育委員会

出品点数：国立西洋美術館より絵画5点

観覧者数：18,590人

地方美術館との連携協力展

「国立西洋美術館所蔵作品によるヨーロッパ美術への招待」

会場：唐津市近代図書館美術ホール

会期：平成6年11月12日～12月11日

主催：唐津市近代図書館

出品点数：絵画8点、彫刻5点、素描2点、版画23点

観覧者数：5,555人

教育普及

1) 講演会

「宗教改革時代のドイツ木版画」

平成7年1月17日

「ゴータ市美術館の歴史と摺り物コレクションの由来について」

ベルント・シェーファー（ゴータ市美術館長）

「彫刻の技術—中世末期の人工性の問題」

ハンス・ケルナー（デュッセルドルフ大学教授）

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：213,640千円

歳出予算：1,709,466千円

開館日数：219日

平常展示：48日（平常展示のみ）

特別展：171日（特別展のみ）

観覧者数：772,941人（一日平均3,529人）

平常展示：64,992人（一日平均1,354人）

特別展：707,949人（一日平均4,140人）

所蔵作品数：2,104点

1995
6

平成7年度

主要記事

平成7年

- 5月14日 「ギュスターヴ・モロー展」終了
- 5月17日 第29回国立西洋美術館評議員会開催
- 5月25日 財団法人西洋美術振興財団設立祝賀会開催（赤坂プリンスホテル）
- 7月1日 次長に青木重が就任
- 7月11日 「描かれたふしぎな世界を旅する」展開催
- 8月22日 21世紀構想検討委員会設置
- 11月1日 「近代日本の美術—東洋と西洋のはざまに」展開催

平成8年

- 1月10日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
47点購入決定
- 2月5日 「大英博物館所蔵イタリア素描展」開会式
- 2月6日 「イタリア・ゴシック祭壇画の再構成：マリオット・ディ・ナルドの《聖母戴冠》」展開催
- 3月1日 埋蔵文化財発掘調査報告書刊行

新収作品

P.1995-1

フェルディナン・ロワベ
《居酒屋でチェスに興じる銃士たち》1881年
油彩、板、89×118.4 cm
ジャン・ピエール・セルツ氏より寄贈

P.1995-2

アドルフ＝ジョゼフ＝トマ・モンティセリ
《公園にて》
油彩、板、49×63 cm

上野久徳氏より寄贈

D.1995-1

ギュスターヴ・モロー
《聖なる象》1882年
水彩、グワッシュ、紙、57×43.5 cm
購入

G.1995-1/23

ハンス・ホルバイン（子）
《死の舞踏》（41点連作中の23点）
木版画
購入

G.1995-24

フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス
《マルガリータ・デ・アウストリア騎馬像》1778年
エッチング、56.3×42.7（紙）36.8×31 cm（版）
購入

G.1995-25

フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス
《メニッポ》1778年
エッチング、エングレーヴィング、41.9×29.2 cm（紙）、
30.2×21.8 cm（版）
購入

G.1995-26/38

オディロン・ルドン
《ヨハネ黙示録》（12点連作および表紙）1899年
リトグラフ
購入

G.1995-39/45

ウィリアム・ブレイク
《ダンテ神曲》（7点連作）1826-27年
エングレーヴィング、ドライポイント
購入

G.1995-46/47

モーリス・ドニ
《アッシージの聖フランチェスコ；孤独》（2点連作）
1926年
リトグラフ
購入

保存修復

P.1959-191

キース・ヴァン・ドンゲン

《ターバンを巻く女》

油彩、カンヴァス、64.8×54 cm

P.1959-150

クロード・モネ

《雪のアルジャントゥイユ》

油彩、カンヴァス、55.5×65 cm

P.1959-114

エルネスト＝ジョゼフ・ローラン

《テラスの二人の婦人》

油彩、カンヴァス、117.5×101.5 cm

P.1959-70

モーリス・ドニ

《ラ・クラルテの聖堂》

油彩、カルトン、50×37 cm

P.1959-132

アンリ＝ジャン＝ギョーム・マルタン

《娘》

油彩、カルトン、60.7×49.7 cm

P.1959-1

エドモン＝フランソワ・アマン＝ジャン

《二人の婦人》

油彩、カンヴァス、116×93 cm

展覧会

1995-1

【子どものための美術館】

「描かれたふしぎな世界を旅する」

会期：平成7年7月11日～9月10日

主催：国立西洋美術館

出品内容：絵画10点

1995-2

「大英博物館所蔵 イタリア素描展」

会期：平成8年2月6日～4月7日

主催：国立西洋美術館、東京新聞、財団法人西洋美術振興財団

出品内容：素描100点

観覧者数：69,115人

1995-3

【小企画展】

「イタリア・ゴシック祭壇画の再構成：マリオット・ディ・ナルドの《聖母戴冠》」

会期：平成8年2月6日～4月7日

主催：国立西洋美術館、財団法人西洋美術振興財団

出品内容：絵画10点

国立博物館・美術館巡回展

「近代日本の美術—東洋と西洋のはざまに」

会場：長崎県立美術博物館

主催：文化庁、東京国立博物館、東京国立近代美術館、国立西洋美術館、京都国立近代美術館、国立国際美術館、長崎県、長崎県教育委員会、長崎県立美術博物館

会期：平成7年11月1日～11月30日

出品点数：国立西洋美術館より絵画8点、彫刻2点

観覧者数：14,373人

教育普及

1) 講演会

「マリオット・ディ・ナルドの《聖母戴冠》」

平成8年2月7日

「マリオット・ディ・ナルドの祭壇画《聖母戴冠》の再構成に関する考察」

マーヴィン・アイゼンバーグ（ミシガン大学名誉教授）

「オルセー美術館展」

平成8年1月14日

「モデルニテの画家たち—マネを中心として」

高橋明也（*主任研究官）

2) ギャラリートーク

「描かれたふしぎな世界を旅する(子どものための美術展)」

実施日：

A. 学校の団体対象：平成7年7月の平日

B. 自由参加：月の第2、4土曜日午前、午後

3) ワークショップ

「描かれたふしぎな世界を旅する(子どものための美術展)」

フロッターージュの体験ワークショップ

実施日：平成7年7月25日～9月1日の平日午後

情報資料

図書情報システム、美術情報システム、メールシステムの3つから構成される本格的な美術館情報システムを構築

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：115,776千円

歳出予算：1,687,663千円

開館日数：218日

平常展示：132日（平常展示のみ）

特別展：86日（特別展のみ）

観覧者数：366,530人（一日平均1,681人）

平常展示：130,989人（一日平均992人）

特別展：235,541人（一日平均2,739人）

所蔵作品数：2,154点

1996
7

平成8年度

主要記事

平成8年

- 4月7日 「大英博物館所蔵イタリア素描展」終了
- 5月28日 本館耐震改修その他工事着工(レトロフィット工法採用)
- 6月6日 第30回国立西洋美術館評議員会開催
- 7月1日 「どうして像はつくられたの?」展開会式
- 7月19日 「交差するまなざし—ヨーロッパと近代日本美術」展開会式
- 9月1日 「どうして像はつくられたの?」展終了
- 9月8日 「交差するまなざし—ヨーロッパと近代日本美術」展終了
- 9月15日 西美からのメッセージ(国立西洋美術館21世紀将来構想)刊行
- 10月9日 「国立西洋美術館所蔵 ロダン展」開会式(萬鉄五郎記念美術館にて)
- 11月17日 「国立西洋美術館所蔵 ロダン展」終了
- 12月17日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
- 8点購入決定

平成9年

- 1月15日 「近代絵画の歩み—目と心の窓」開催
- 2月22日 「近代絵画の歩み—目と心の窓」開催
- 3月18日 国立西洋美術館ニュース「ZEPHYROS」(創刊号)発刊

新収作品

P.1996-1

ギュスターヴ・クールベ
《眠れる裸婦》1858年
油彩、カンヴァス、50×64 cm
購入

P.1996-2

ピエール・ボナール
《花》1933年頃
油彩、カンヴァス、67×38 cm、
株式会社吉井画廊より寄贈

G.1996-1

オノレ・ドーミエ
《写真術を芸術の高みにまでひきあげるナダール》
1862年
リトグラフ、40.9×31.8 cm(紙) / 27.2×22.2 cm(画面)
購入

G.1996-2/7

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ
連作〈ローマの景観〉(全135点)より6点) 1761-63年
エッチング、エングレーヴィング
購入

G.1996-8

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ
《通称マエケナス荘、ティヴォリ》(連作「ローマの景観」
より) 1763年
エッチング、エングレーヴィング、
51.5×75.5 cm(紙) / 45.6×67.7 cm(版)
財団法人西洋美術振興財団より寄贈

保存修復

P.1977-5

ジョルジュ・ルオー
《エバイ／びっくりした男》
油彩、素地不明(木板にマルフラージュ)
39.7×25.6 cm

P.1959-76

モーリス・ドニ
《レ・ロッシュ=ノワール》
油彩、カンヴァス、56×76 cm

P.1959-6

エドモン・アマン＝ジャン

《室内の少女》

油彩、カンヴァス、134.5×97.5 cm

P.1990-3

エドゥアール・ヴェイヤール

《縫いものをするヴェイヤール夫人》

油彩、カルトン、33.7×35.8 cm

P.1990-4

ジョルジュ・ルオー

《道化師》

油彩、カンヴァス、
45.9×29.1 (上辺) / 29.3 (下辺) cm

P.1975-7

ジョルジュ・ルオー

《リュリュ／道化の顔》

油彩、板、39.5×25 cm (板) / 60×46 cm (額)

P.1959-153

クロード・モネ

《しゃくやくの花園》

油彩、カンヴァス、65.3×100 cm

P.1962-2

ジョヴァンニ・セガンティーニ

《バグパイプを吹くブリアンツァの男たち》

油彩、カンヴァス、107.2×192.2 cm

P.1965-8

ジャクソン・ポロック

《黒い流れ》

エナメル、カンヴァス、151×185 cm

P.1965-9

サム・フランシス

《ホワイト・ペインティング》

油彩、カンヴァス、203.1×163.2 cm

P.1959-75

モーリス・ドニ

《クアトロ・トルリ城、シエナ》

油彩、カルトン (裏から木枠で補強)、43.4×35 cm

D.1966-1

クロード・モネ

《積みわら》

木炭、紙、23.4×50.9 cm

D.1966-2

クロード・モネ

《ベリールの海》

木炭、紙、23.5×31.4 cm (上辺)、32.0 (下辺) cm

D.1990-11

アントニ・クラージェ

《馬に乗る人物》

ペン、インク、紙、31.7×24.5 cm

D.1976-1

アルベルト・ジャコメッティ

《人物デッサン》

鉛筆、コンテ・インク、紙、24.7×33.5 cm

S.1959-15

オーギュスト・ロダン

《抱き合う子供たち》

大理石、44×26×26 cm

展覧会

1996-1

【子どものための美術展】

「どうして像はつくられたの？」

会期：平成8年7月2日～9月1日

主催：国立西洋美術館、東京国立博物館

出品内容：彫刻8点、その他6点

観覧者数：96,460人

1996-2

「東京国立近代美術館・国立西洋美術館所蔵作品による
交差するまなざし—ヨーロッパと近代の日本の美術」

会期：平成8年7月20日～9月8日

主催：国立西洋美術館、東京国立近代美術館

出品内容：絵画98点、彫刻25点、水彩2点、版画2点

観覧者数：31,916人

1996-3

「国立西洋美術館所蔵 ロダン展」

会期：平成8年10月10日～11月17日

主催：国立西洋美術館、萬鉄五郎記念美術館、東和町、
東和町教育委員会、財団法人西洋美術振興財団

出品内容：彫刻23点、素描8点、版画5点

観覧者数：6,247人

国立博物館・美術館巡回展

「近代絵画の歩み一目と心の窓」

会期：平成9年1月15日～2月16日

会場：岐阜県美術館

主催：文化庁、東京国立博物館、東京国立近代美術館、国立西洋美術館、京都国立近代美術館、国立国際美術館、東京国立文化財研究所、岐阜県美術館

出品点数：国立西洋美術館より絵画3点

観覧者数：9,498人

「近代絵画の歩み一目と心の窓」

会期：平成9年2月22日～3月23日

会場：唐津市近代美術館、財団法人河村美術館

主催：文化庁、東京国立博物館、東京国立近代美術館、国立西洋美術館、京都国立近代美術館、国立国際美術館、東京国立文化財研究所、佐賀県教育委員会、唐津市近代図書館

出品点数：国立西洋美術館より絵画3点

観覧者数：9,857人

教育普及

1) 講演会

[カラヴァッジョ作《キリストの捕縛》：再発見と修復過程について]

セルジョ・ベネデッティ（アイルランド国立美術館主任学芸員）

2) ギャラリートーク

[どうして像はつくられたの? (子どものための美術展)]

実施日：

A. 学校の団体対象

平成8年7月2日・3日・4日・5日・9日・10日・11日・12日・16日・17日・18日・23日・26日・30日

B. 自由参加

平成18年8月1日・6日・8日・13日・15日・20日・22日・27日・30日

情報資料

平成8年11月29日

ホームページの試験運用版を一般公開

平成9年1月

館内メールの本格運用

平成9年1月

「文化財情報システムフォーラム」へ参加

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：7,457千円

歳出予算：2,335,988千円

開館日数：6日

平常展示：開催なし（工事による休館）

特別展（合同企画展含む）：139日

観覧者数：145,457人（一日平均1,046人）

平常展示：なし（工事による休館）

特別展（合同企画展含む）：145,457人（一日平均1,046人）

所蔵作品数：2,164点

*工事により年度の全期間に渡り休館したため他会場を使用して合同企画展を開催した。

1997 8

平成9年度

主要記事

平成9年

- 4月11日 「国立西洋美術館展：愛と生命の響き」開
会式（新潟県立近代美術館にて）
- 4月16日 「素材と表現—国立西洋美術館所蔵作品を
中心に」開会式（国立国際美術館にて）
- 5月18日 「国立西洋美術館展：愛と生命の響き」終了
- 5月22日 第31回国立西洋美術館評議員会開催
- 6月22日 「素材と表現—国立西洋美術館所蔵作品を
中心に」終了
- 6月30日 「ものがたりの森」開会式（東京国立博物館
にて）
- 8月31日 「ものがたりの森」終了
- 10月1日 学芸課処務規程を改定
- 12月3日 21世紀ギャラリー（仮称）を「企画展示館」
に決定
- 12月24日 美術作品購入選考委員会並びに同価格審
査委員会開催
絵画1点、版画67点の購入を決定
- 12月25日 「企画展示館」竣工
- 平成10年
- 3月31日 本館耐震改修（免震化）その他工事完了

新収作品

P.1997-1

アンリ・ファンタン＝ラトゥール
《花と果物、ワイン容れのある静物》1865年
油彩、カンヴァス、59.5×51.5m
購入

D.1997-1

ポール・シニャック
《サン＝トロペの港》1906年
鉛筆のあたりづけ、ペン、褐色インク、18.4×22.2 cm
フランソワーズ・カシヤン氏より寄贈

G.1997-1/67

ジョヴァンニ・バットISTA・ピラネージ
連作〈ローマの景観〉（全135点の内67点）
1763-77年
エッチング、エングレーヴィング
購入

保存修復

P.1987-3

ポール・シニャック
《サン＝トロペの港》
油彩、カンヴァス、131×161.5 cm

P.1971-2

ヤコボ・ロブスティ（ティントレット）
《ダヴィデを装った若い男の肖像》
油彩、カンヴァス、124.5×96.5 cm

P.1959-56

ギュスターヴ・クールベ
《馬小屋》
油彩、カンヴァス、60×73.3 cm

D.1995-1

ギュスターヴ・モロー
《聖なる像》
水彩、コットン紙、62×49 cm

G.1986-1

ジャン・デュヴェ
《国王の尊厳》
エングレーヴィング、紙、30.2×20.9 cm

S.1962-1

オーギュスト・ロダン
《バルザック》
ブロンズ、106×45×38 cm

S.1959-16

オーギュスト・ロダン
《永遠の青春》
ブロンズ、65×71×38 cm

S.1959-39

オーギュスト・ロダン

《考える人》

ブロンズ、71.5×45×60 cm

S.1959-2

オーギュスト・ロダン

《青銅時代》

ブロンズ、181×70×66 cm

S.1959-27

オーギュスト・ロダン

《鼻のつぶれた男》

ブロンズ、27×20×22 cm

展覧会

1997-1

「国立西洋美術館展：愛と生命の響き」

会期：平成9年4月12日～5月18日

主催：国立西洋美術館、新潟県立近代美術館、財団法人西洋美術振興財団

出品内容：絵画23点、彫刻10点、素描8点、版画108点

観覧者数：13,233人

1997-2

「素材と表現—国立西洋美術館所蔵作品を中心に」

会期：平成9年4月17日～6月22日

主催：国立西洋美術館、国立国際美術館

出品内容：絵画42点、素描31点、版画48点、その他1点

観覧者数：13,951人

1997-3

【子どものための美術館】

「ものがたりの森」

会期：平成9年7月1日～8月31日

主催：国立西洋美術館、東京国立博物館

出品内容：絵画14点

観覧者数：98,236人

教育普及

1) 講演会

平成9年5月29日

「修道士と音楽と写本：フィレンツェ中世・ルネサンスの聖歌集挿絵」

マーヴィン・アイゼンバーグ（ミシガン大学名誉教授）

平成9年10月20日

「絵画と彫刻のあいだ」

ブルース・パウチャー（ロンドン大学教授）

平成10年3月30日

「現代彫刻の保護における修復家の役割」

ドレック・ブーレン（テート・ギャラリー彫刻修復室長）

「現代美術家の材料—その分析と取り扱い」

トム・ラーナー（テート・ギャラリー彫刻修復室）

2) ギャラリートーク

「ものがたりの森（子供のための美術展）」

実施日：

A. 学校の団体対象

平成9年7月8日・10日・15日・16日・17日・18日・23日・31日

B. 自由参加

平成9年8月2日・6日・9日・13日・16日・20日・23日・27日・30日

主催：国立西洋美術館／東京国立博物館

3種類のサブ・プログラム

・「もうひとりの自分ヒストリー」

・「しずくのぼうけん」の創作プログラム

・「宝探しゲーム」

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：4,321千円

歳出予算：2,730,607千円

開館日数：開催なし（工事による休館）

平常展示：開催なし（工事による休館）

特別展（合同企画展）：144日

観覧者数：125,420人（1日平均：871人）

平常展示：なし（工事による休館）

特別展（合同企画展）：125,420人

所蔵作品数：2,233点

*工事により年度の全期間に渡り休館したため他会場を使用して合同企画展を開催した。

1998 9

平成10年度

主要記事

平成10年

- 4月1日 次長に鈴木宏が就任
- 4月27日 企画展示館竣工・本館耐震改修完了竣工
記念式典・祝賀会を挙行
- 4月28日 本館、新館がリニューアル・オープン
前庭、ミュージアム・ショップ、レストランを一般
に開放
- 5月18日 第1回美術作品購入選考委員会並びに同
価格審査委員会開催
版画51点、書籍1点の購入を決定
- 6月1日 第32回国立西洋美術館評議員会開催
- 9月14日 「イタリアの光―クロード・ロランと理想風
景」展開会式
- 9月15日 「アサヒビール・コレクションの名品―20
世紀初頭の人物画―」開催
- 11月6日 本館が「公共建築百選」(建設省)に選ばれる
- 12月1日 第2回美術作品購入選考委員会並びに同
価格審査委員会開催
絵画6点、版画28点の購入を決定
- 12月6日 「イタリアの光―クロード・ロランと理想風
景」展終了

平成11年

- 1月11日 「ゴヤー版画にみる時代と独創」展開会式
- 3月7日 「ゴヤー版画にみる時代と独創」展終了
- 3月19日 「エルミタージュ美術館所蔵 イタリア・ルネ
サンス美術展 フィレンツェとヴェネツィア」
展開会式
- 3月19日 ロダン作《地獄の門》設置工事(修復と免
震化)竣工
- 3月29日 デジタルギャラリーシステム設置

新収作品

P.1998-1

グエルチーノ(本名ジョヴァンニ・フランチェスコ・バルビエーリ)

《ゴリアテの首を持つダヴィデ》1650年頃

油彩、カンヴァス、120.5×102 cm

購入

P.1998-2

カルロ・ドルチ

《悲しみの聖母》1655年頃

油彩、カンヴァス、82.5×67 cm(楕円形画面)

購入

P.1998-3

エドワールト・コリール

《ヴァニタス―書物と髑髏のある静物》1663年

油彩、板、56.5×70 cm

購入

P.1998-4

ピエトロ・ロンギ

《不謹慎な殿方》1740年代後半

油彩、カンヴァス、60×50 cm

購入

P.1998-5

リチャード・ウィルソン

《ティヴォリの風景(カプリッチョ)》1754年

油彩、カンヴァス、99.1×134.5 cm

購入

P.1998-6

アリ・シェフェール

《戦いの中、聖母の加護を願うギリシャの乙女たち》

1826年

油彩、カンヴァス、65×55 cm

購入

G.1998-1

フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス
(ベラスケスの原画に基づく)

《バルタサル・カルロス王子》1778年

エッチング、ドライポイント、賽の目紙、34.7×22.0
cm(版)、38.5×25.0 cm(紙)

ヘルムート・H. ルンブラー／ベトラ・ルンブラー夫妻
より寄贈

G.1998-2/7

ハンス・ブルクマイアー (父)

《9人の英雄と9人の女性英雄》(6枚連作)

1516-19年

木版

購入

G.1998-8/19

ヴェンセスラウス・ホラー

《蝶々とさまざまな昆虫》(12点連作)

エッチング、8.2×11.9 cm

購入

G.1998-20

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ

《ローマとカンパス・マルティウスの地図》1774年頃

エッチング、エングレーヴィング、三葉の賽の目紙を貼り継ぎ、121.5×75.0 cm

購入

G.1998-21/41

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ

フランチェスコ・ピラネージ

《バエストゥムの古代遺跡の景観》(21点連作) 1778年

エッチング、エングレーヴィング、賽の目紙

購入

G.1998-42

オノレ・ドーミエ

《トランスノナン街、1834年4月15日》1834年

石版画、チャイナ紙、44.2×28.7 cm (画面)、61.0×46.5 cm (紙)

購入

G.1998-43

マックス・クリンガー

《遠くの恋人 (追憶)》1894年

エッチング、メゾティント、白のエッチング紙、24.9×12.2 cm (画面)、36.3×27.4 cm (紙)

購入

G.1998-44

マックス・クリンガー

《哲学者》1885年

エッチング、アクアティント、和紙、26.6×16.1 cm (画面)、40.7×30.5 cm (紙)

購入

G.1998-45

マックス・クリンガー

《夜の書斎 (書斎のメフィストフェレス)》1880年

エッチング、チャイナ紙 (貼付け)、8.1×13.1 cm (画面)、11.7×18.2 cm (紙)

購入

G.1998-46

マックス・クリンガー

《ブシュケーとユピテルの鷲》1882年頃

エッチング、和紙、27.8×11.9 cm (画面)、32.2×16.2 cm (紙)

購入

G.1998-47

マックス・クリンガー

《女性半身像：メゾティントの実験》1891年頃

メゾティント、19世紀の賽の目紙、13.2×9.1 cm (画面)、32.6×21.5 cm (紙)

購入

G.1998-48

マックス・クリンガー

《メゾティントによる女性の頭部》1891年頃

メゾティント、19世紀の賽の目紙、18.0×13.1 cm (画面)、21.2×33.0 cm (紙)

購入

G.1998-49

マックス・クリンガー

《あこがれ》1909年頃

エッチング、アクアティント、紙、49.5×33.5 cm (画面)、60.0×43.8 cm (紙)

購入

G.1998-50

マックス・クリンガー

《アトリエからの眺め》1890年頃

エングレーヴィング、ドライポイント、紙、21.0×32.0 cm (画面)、26.8×39.0 cm (紙)

購入

G.1998-51

マックス・クリンガー

《眼鏡をかけた自画像》1909年頃

エッチング、紙、22.0×16.9 cm (画面)、26.7×20.5 cm (紙)

購入

G.1998-52

アルブレヒト・デューラー

《メランコリアI》1514年

エングレーヴィング、23.9×18.9 cm

購入

G.1998-53

アルブレヒト・デューラー

《騎士と死と悪魔》1513年

エングレーヴィング、24.6×19.0 cm

購入

G.1998-54

クロード・ロラン

《羊飼いの男女》1630年頃

エッチング、17.7×13.0 cm

購入

G.1998-55

クロード・ロラン

《嵐》1630年

エッチング、12.5×17.6 cm

購入

G.1998-56

クロード・ロラン

《山羊》1630-33年頃

エッチング、20.2×13.2 cm/20.2×13.2 cm

購入

G.1998-57

クロード・ロラン

《エジプト逃避》1630-33年頃

エッチング、10.7×17.0 cm

購入

G.1998-58

クロード・ロラン

《盗賊のいる風景》1633年

エッチング、13.2×19.9 cm

購入

G.1998-59

クロード・ロラン

《浅瀬》1634年

エッチング、10.6×17.1 cm

購入

G.1998-60

クロード・ロラン

《川岸の踊り》1634年頃

エッチング、13.1×20.0 cm

購入

G.1998-61

クロード・ロラン

《略奪されるエウロペ》1634年

エッチング、20.0×25.6 cm

購入

G.1998-62

クロード・ロラン

《朝日の見える港》1634年

エッチング、13.0×19.9 cm

購入

G.1998-63

クロード・ロラン

《フォロ・ロマーノ》1636年

エッチング、19.9×25.8 cm

購入

G.1998-64

クロード・ロラン

《牛飼いの》1636年

エッチング、13.1×20.0 cm

購入

G.1998-65

クロード・ロラン

《牧草地への出発》1638-41年頃

エッチング、12.9×18.0 cm

購入

G.1998-66

クロード・ロラン

《難破》1638-41年頃

エッチング、13.0×18.3 cm

購入

G.1998-67

クロード・ロラン

《素描する芸術家のいる海辺》1638-41年頃

エッチング、12.8×18.0 cm

購入

G.1998-68

クロード・ロラン

《燈台のある港湾風景》1638-41年頃

エッチング、13.9×19.8 cm

購入

G.1998-69

クロード・ロラン

《リベカとエリエゼル》1638-41年頃

エッチング、12.8×19.4 cm

購入

G.1998-70

クロード・ロラン

《嵐の中を帰る牛の群れ》1650-51年頃

エッチング、16.1×22.0 cm

購入

G.1998-71

クロード・ロラン

《話し込む羊飼いの男女》1651年頃

エッチング、20.0×25.8 cm

購入

G.1998-72

クロード・ロラン

《時、アポロと四季》1662年

エッチング、19.7×25.6 cm

購入

G.1998-73

クロード・ロラン

《山羊飼い》1663年

エッチング、17.3×23.1 cm

購入

G.1998-74

パブロ・ピカソ

《貧しき人々》1913年

エッチング

購入

G.1998-75

アゴスティーノ・カラッチ

《悔悛する聖ヒエロニムス》

エングレーヴィング、41.0×27.4 cm

購入

G.1998-76

シャルル＝ニコラ・コシヤン（父）

（ジャン＝バティスト・シメオン・シャルダン原画）

《洗濯女》1739年

エッチング、エングレーヴィング、28.0×31.0 cm

購入

G.1998-77

ベルナール・レビシエ

（ジャン＝バティスト・シメオン・シャルダン原画）

《女家庭教師》1739年

エッチング、エングレーヴィング、37.4×26.7 cm

購入

G.1998-78

ベルナール・レビシエ

（ジャン＝バティスト・シメオン・シャルダン原画）

《さいころ独楽で遊ぶ子供》1742年

エッチング、エングレーヴィング、37.4×26.7 cm

購入

G.1998-79

ピエール＝ルイ・シュリグ

（ジャン＝バティスト・シメオン・シャルダン原画）

《すごろく遊び》1745年

エッチング、エングレーヴィング、30.5×32.8 cm

購入

G.1998-80

ルイ・シュリグ

（ジャン＝バティスト・シメオン・シャルダン原画）

《個人生活の楽しみ》1747年

エッチング、エングレーヴィング、37.5×27.0 cm

購入

L.1998-1

アブラハム・ボッス

《銅版画の技法》1645年頃

書籍、13.5×20.0 cm

購入

保存修復

P.1959-43

シャルル・コッテ

《山の風景》

油彩、カルトン、60×85 cm

P.1959-145

エミール＝ルネ・メナール

《古代の地》

油彩、カンヴァス、50.3×73 cm

P.1960-3

オズバルド・スバナシーニ

《絵画》

油彩、カンヴァス、45.6×55.4 cm

D.1974-3

エドガー・ドガ

《背中を拭く女》

パステル、カルトンに紙貼り、本紙寸法70.9×62.4 cm

G.1998-21/41 (計21点)

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ

《パエストゥムの古代遺跡の景観》

エッチング、エングレーヴィング

G.1996-2/8

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ

《ローマ古代遺跡の景観》(計7点)

エッチング、エングレーヴィング

G.1998-20

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ

《ローマとカンパス・マルティウスの地図》(1点)

エッチング・エングレーヴィング、本紙寸法134.3×75 cm

D.1990-12

ベルナール・ビュッフェ

《後ろを向いた男》

ペン、インク、本紙寸法65.4×55 cm、台紙寸法78.3×63.5 cm

S.1959-51

オーギュスト・ロダン

《洗礼者ヨハネの首》

大理石、25×42×45 cm

S.1959-63

シャルル＝ルネ・ド・ポール・ド・サン・マルソー

《マリー・バシュキルツェフの胸像》

大理石、94×50×33 cm

S.1959-45

オーギュスト・ロダン

《地獄の門》

ブロンズ、540×390×100 cm、重量7 t

展覧会

1998-1

「イタリアの光―クロード・ロランと理想風景」

会期：平成10年9月15日～12月6日

主催：国立西洋美術館、朝日新聞社

出品内容：絵画79点、素描25点、版画20点

観覧者数：186,974人

1998-2

【小企画展】

「アサヒビール・コレクションの名品―20世紀初頭の人物画―」

会期：平成10年9月15日～平成11年3月7日

主催：国立西洋美術館

出品内容：絵画3点

1998-3

「ゴヤ 版画にみる時代と独創」

会期：平成11年1月12日～3月7日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社

出品内容：版画297点

観覧者数：56,275人

1998-4

「エルミタージュ美術館所蔵 イタリア・ルネサンス美術展：フィレンツェとヴェネツィア」展

会期：平成11年3月20日～6月20日

主催：国立西洋美術館、NHK、NHKプロモーション

出品内容：絵画56点、彫刻15点

観覧者数：402,896人

教育普及

1) 講演会

「イタリアの光―クロード・ロランと理想風景」

第1回 平成10年9月16日

「クロード・ロラン―17世紀ヨーロッパ風景画の巨匠」
マルセル・レートリスベルガー（ジュネーヴ大学教授）

第2回 平成10年10月17日

「クロード・ロラン―魅惑の風景の設計師」

高階秀爾（*館長）

第3回 平成10年11月7日

「クロード・ロラン―『理想』と『自然らしさ』」

幸福輝（*学芸課長）

「オランダ美術史研究と情報処理」

（文化庁外国人芸術家・文化財専門家招聘事業による講演会）

平成11年3月24日

①「巨人の肩に乗って……オンライン美術史情報：ファン・エイク・システムその他のアプローチ」

ヤン・ファン・デル・スタール（オランダ国立美術史研究所情報部門主幹）

②「風景：新しいデータベースと17世紀オランダの美術市場」ラインデルト・ファンケンブルク（オランダ国立美術史研究所副所長）

主催：国立西洋美術館、美術史学会東支部、アート・ドキュメンテーション研究会

2) シンポジウム

[ゴヤ 版画にみる時代と独創]

平成11年1月12日

司会：大高保二郎（上智大学教授）

パネリスト：ナイジェル・グレンディニング（ロンドン大学名誉教授）、フアン・カレーテ（スペイン国立銅版画院長）、ヘスーサ・ペーガ（マドリード・コンプルテンセ大学助教授）、雪山行二（愛知県美術館副館長）、木下亮（昭和女子大学助教授）

3) ギャラリートーク

[イタリアの光ークロード・ロランと理想風景]

実施日：平成10年9月18日、10月16日、11月20日

4) スライドトーク

[ゴヤ 版画にみる時代と独創]

①平成11年1月22日

雪山行二（愛知県美術館副館長）

②平成11年2月19日

木下亮（昭和女子大学助教授）

5) 創作・体験プログラム

[夏休み子どもプログラム]

①体でコミュニケーション

実施日：平成10年7月23日・28日

多田慶子（俳優・表現指導者／演劇集団“かもねぎショット”主宰）

実施日：平成10年8月4日・11日

北島尚志（表現活動指導者／“アフタフ・バーバン”主宰）

②色の不思議

実施日：平成10年7月24日・31日、8月7日・14日

加藤良次（染色作家／ドレスメーカー学院・杉野女子大学講師）

情報資料

平成10年4月28日

ホームページ一般公開に移行

平成11年3月7日

「アートハイビジョン」公開運用終了

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：129,777千円

歳出予算：1,285,082千円

開館日数：250日

平常展示：120日（平常展示のみ）

特別展：130日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：414,367人（1日平均1,657人）

平常展示：114,658人（1日平均220人）

特別展：299,709人（1日平均2,305人）

所蔵作品数：2,320点

1999
2000

平成11年度

主要記事

平成11年

- 4月12日 修復、免震化が完了した《地獄の門》の一般公開
- 5月18日 美術情報エリア（デジタル・ギャラリー・資料コーナー）の一般公開
- 5月19日 第1回美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
版画61点、書籍4点の購入を決定
- 5月31日 第33回国立西洋美術館評議員会開催
- 6月2日 衆議院文教委員会視察
- 6月20日 「エルミタージュ美術館所蔵 イタリア・ルネサンス美術展 フィレンツェとベネチア」展終了
- 6月25日 金曜日の夜間開館の時間延長（午後8時まで）
- 7月5日 「記憶された身体—アビ・ヴァールブルクのイメージの宝庫」展開会式
- 7月～8月 ‘99夏休み子どもプログラム開催
- 8月24日 「《地獄の門》の免震化と修復」開催
- 8月29日 「記憶された身体—アビ・ヴァールブルクのイメージの宝庫」展終了
- 9月13日 「オルセー美術館展1999—19世紀の夢と現実」展開会式
- 9月27日 天皇皇后両陛下、「オルセー美術館展1999—19世紀の夢と現実」展御観覧のため御来館
- 11月12日 天皇陛下御在位十年記念無料観覧日（常設展・企画展は小中学生のみ無料）
- 12月3日 第2回美術作品購入選考委員会並びに同価格審査委員会開催
絵画3点、版画2点の購入を決定
- 12月12日 「オルセー美術館展1999—19世紀の夢と

現実」展終了

平成12年

- 1月4日 「東京国立近代美術館所蔵20世紀前半のヨーロッパ前衛絵画」開催
- 1月11日 「顔 絵画を突き動かすもの」展開会式
- 2月13日 「顔 絵画を突き動かすもの」展終了
- 3月13日 「ピカソ 子供の世界」展開会式
- 3月23日 新館第三展示室改修工事竣工
- 3月24日 前庭彫刻（ロダン作《考える人》《カレーの市民》）免震化工事竣工
- 3月31日 高階秀爾館長、任期満了退館

新収作品

P.1999-1

ヨアヒム・ブーケラール
《十字架を運ぶキリスト》1562年
油彩、板、96.5×79 cm
購入

P.1999-2

ベルナルド・カヴァッリーノ
《ヘラクレスとオンファレ》1640年頃
油彩、カンヴァス、127×180.3 cm
購入

P.1999-3

レアンドロ・パッサーノ
《最後の審判》1595-96年頃
油彩、板、73.2×51 cm
購入

G.1999-1/7

エミール・ベルナル
〈「レ・カンティース」のための挿絵〉（7点連作）
1892年頃
ジンコグラフ
購入

G.1999-8/18

オディロン・ルドン
〈聖アントワースの誘惑、第1集〉（10点連作）1888年
リトグラフ、雁皮紙貼付
購入

G.1999-19/37

ステーファノ・デッラ・ベッラ
〈騎兵隊の様々な訓練〉（19点連作）1645年頃
エッチング
購入

G.1999-38/47

ハンス・ゼーバルト・ペーハム

〈農民の祝祭、あるいは12の月〉(10点連作)

1546-47年

エングレーヴィング

購入

G.1999-48/57

漆原木虫 (由次郎)

〈木版画十選 (フランク・ブラングインの原画に基づく)〉

(全10点) 1924年

木版画

購入

G.1999-58

アゴステイーノ・ヴェネツィアーノ

《死と名声の寓意 (ロツ・フィオレンティーノの原画に基づく)》1518年

エングレーヴィング、31.5×50.8 cm

購入

G.1999-59

エネア・ヴィーコ

《ラビタイ族とケンタウロスの戦い (ロツ・フィオレンティーノの原画に基づく)》1542年

エングレーヴィング、28.8×42.5 cm

購入

G.1999-60

15世紀後半フィレンツェ派

《鷺に乗るキュービッド》

エングレーヴィング、直径6.4 cm

購入

G.1999-61

15世紀後半フィレンツェ派の版画家

《若者に冠を授ける乙女》

エングレーヴィング、直径6.3 cm

購入

G.1999-62

パブロ・ピカソ

《静物、瓶 (あるいは、「マール瓶のある静物」)》

1911 (1912年発行)

ドライポイント、アルシュ紙、64.0×46.5 cm (紙)、

50.0×30.6 cm (画面)

購入

G.1999-63

ジョルジュ・ブラック

《フォックス》1911 (1912年発行)

ドライポイント、アルシュ紙、64.0×52.0 cm (紙)、
54.8×38.0 cm (画面)

購入

G.1999-64

ブロスベル＝アルフォンス・イサーク

《バター容れとナブキン》1920年頃

木版画、彩色、12.5×18.3 cm

購入

G.1999-65

ジュール・シャデル

《雄鳥》1920年

木版画、26.8×36.3 cm

購入

G.1999-66

ジュール・シャデル

《「エスタンプ・ヌーヴェル」誌のためのメニュー》

1920年

木版画、25.4×14.0 cm

購入

G.1999-67

ジュール・シャデル

《ジョルジュ・ゼイのための名刺》

木版画、11.4×8.1 cm

購入

G.1999-68

15世紀後半ドイツ派

《幼児キリストの神殿奉獻》1450-60年頃

木版画、手彩色、6.7×5.6 cm

購入

L.1999-1

ジョヴァンニ・バッティスタ・デッラ・ポルタ

《人間観相学について》1586年

書籍、32.0×23.2 cm

購入

L.1999-2

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ

《アルバーノとカステル・ガンドルフォの古代遺跡 (3作
合本のうちの1)》1764年

書籍、41.5×55.0×5.0 cm

購入

L.1999-3

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ

《アルバーノ湖運河の記述と素描版画(3作合本のうちの2)》1762年

書籍、41.5×55.0×5.0 cm

購入

L.1999-4

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ

《アルバーノ湖の畔にある古代人の装飾した二つの洞窟(3作合本のうちの3)》1762年

書籍、41.5×55.0×5.0 cm

購入

保存修復

P.1962-5

カルロ・クリヴェッリ

《ある司教の肖像》

油彩、板、140.7×39.6 cm

P.1959-21

ジャック＝エミール・ブランシュ

《若い娘》

油彩、カンヴァス、205×125 cm

P.1978-1

パブロ・ピカソ

《横たわる女》

油彩、カンヴァス、60×73.2 cm

G.1996-2/8

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ

《「ローマの古代遺跡の景観」》(計7点)

エッチング、エングレーヴィング

G.1998-20

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ

《ローマとカンパス・マルティウスの地図》

エッチング、エングレーヴィング、121.5×75.0 cm

G.1999-60

15世紀後半フィレンツェ派版画家

《鷲に乗るキューピッド》

エングレーヴィング、本紙は円形、直径5 cm

G.1999-61

15世紀後半フィレンツェ派版画家

《若者に冠を授ける乙女》

エングレーヴィング、本紙は円形、直径5 cm

S.1959-45

オーギュスト・ロダン

《地獄の門》

ブロンズ、540×390×100 cm

展覧会

1999-1

「記憶された身体—アビ・ヴァールブルクのイメージの宝庫 アルベルティーナ版画素描館/オーストリア国立図書館より」

会期：平成11年7月6日～8月29日

主催：国立西洋美術館、アルベルティーナ版画素描館、西洋美術振興財団

出品内容：絵画1点、水彩・素描48点、版画75点

観覧者数：29,392人

1999-2

「オルセー美術館展1999—19世紀の夢と現実」

会期：平成11年9月14日～12月12日

主催：国立西洋美術館、オルセー美術館、日本経済新聞社

出品内容：絵画62点、彫刻21点、水彩・素描68点、工芸16点、その他47点

観覧者数：586,273人

1999-3

【小企画展】

「東京国立近代美術館所蔵 20世紀前半のヨーロッパ前衛絵画」

会期：平成12年1月4日～9月30日

主催：国立西洋美術館

出品内容：絵画8点

1999-4

「顔 絵画を突き動かすもの」

会期：平成12年1月12日～2月13日

主催：国立西洋美術館、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館

出品内容：絵画65点、彫刻5点、水彩・素描9点、版画19点

観覧者数：24,407人

1999-5

「ピカソ 子供の世界」

会期：平成12年3月14日～6月18日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社

出品内容：絵画72点、水彩・素描63点、版画23点、その他1点

観覧者数：377,834人

教育普及

1) 講演会

[エルミタージュ美術館所蔵 イタリア・ルネサンス美術展 フィレンツェとヴェネツィア]

第1回 平成11年4月10日

「ルネサンスの芸術都市—フィレンツェとヴェネツィア」

高階秀爾 (*館長)

第2回 平成11年4月24日

「ティツィアーノの《マグダラのマリア》—対抗宗教改革時代のヒロイン像」

越川倫明 (*主任研究官)

第3回 平成11年5月15日

「コジモ1世とその画家たち—メディチ家とフィレンツェ・マニエリスム美術」

越川倫明 (*主任研究官)

特別講演会 平成11年6月18日

「ラファエッロの芸術」

タチヤーナ・クストジエワ (エルミタージュ美術館上級学芸員)

「パオロ・ヴェロネーゼの芸術」

イリーナ・アルテミエワ (エルミタージュ美術館上級学芸員)

[夏休み子どもプログラム]

第1回 平成11年7月10日

「絵画の光と技法」

河口公夫 (*主任研究官)

第2回 平成11年8月8日

「人間と光」

上橋菜穂子 (川村学園女子大学講師・児童文学作家)

[記憶された身体—アビ・ヴァールブルクのイメージの宝庫]

平成11年8月7日

「アビ・ヴァールブルクのムネモシュネー・アトラスについて」

加藤哲弘 (関西学院大学教授)

[オルセー美術館展1999—19世紀の夢と現実]

第1回 平成11年9月14日

「植物誌、動物誌—オルセー美術館展1999」

マルク・バスクー (オルセー美術館主任学芸員)

第2回 平成11年10月2日

「ノスタルジア、夢の始まり—19世紀における18世紀絵画のリヴァイヴァルとその変容」

大野芳材 (青山学院女子短期大学助教授)

第3回 平成11年10月9日

「夢と現実のはざま—美術家とモデル」

高橋明也 (*主任研究官)

第4回 平成11年11月6日

「異界の創世—19世紀の幻想空間」

喜多崎親 (*主任研究官)

第5回 平成11年11月9日

「アール・ヌーヴォーの夢」

フィリップ・ティエボー (オルセー美術館主任学芸員)

[顔 絵画を突き動かすもの]

平成12年1月29日

「〈顔〉の現象学—顔はほんとうに見えるのか」鷺田清一 (大阪大学教授)

[ピカソ 子供の世界]

第1回 平成12年3月18日

「描かれた子供の世界—ラファエロからピカソまで」

高階秀爾 (*館長)

2) シンポジウム

[記憶された身体—アビ・ヴァールブルクのイメージの宝庫]

「The Faces of Skin / 皮膚の想像力」

平成11年7月16日～7月18日

パネリスト:

高階秀爾 (*館長)

クリストフ・ガイスマール=ブランディ (インディペンデント・キュレーター)

谷川渥 (国学院大学教授)

イルメラ・日地谷=キルシュネライト (ドイツ=日本研究所所長)

佐藤直樹 (*研究員)

クラウディア・ベンティーン (ベルリン自由大学、ポストドクター・プログラム「身体演出」)

深井晃子 (京都服飾文化研究財団理事)

池田忍 (千葉大学助教授)

アン=ゾフィー・レーマン (ユトレヒト大学博士課程)

稲賀繁美 (国際日本文化研究センター助教授)

ウルズラ・パンハンス=ビューラー (カッセル大学教授)

吉田憲司 (国立民族学博物館助教授)

カタリーナ・カハーネ (トリアー大学博士課程)

喜多崎親 (*主任研究官)

ゲルハルト・ヴォルフ (トリアー大学教授)

コンラート・オーバーフーバー (アルベルティーナ版画素描館館長)

加藤哲弘 (関西学院大学教授)

ロタール・レッダーローゼ (ハイデルベルク大学教授)

[ピカソ 子供の世界]

平成12年3月14日

パネリスト：ヴェルナー・シュピーズ（パリ・ポンピドゥー・センター国立近代美術館長）

マリア・テレサ・オカーニャ（バルセロナ・ピカソ美術館長）

高階秀爾（*館長）

3) ギャラリートーク

[エルミタージュ美術館所蔵 イタリア・ルネサンス美術展：フィレンツェとヴェネツィア]展

実施日：平成11年4月2日・16日、5月7日・21日、6月4日

[夏休み子どもプログラム]

国立西洋美術館／東京国立博物館

実施日：平成11年7月31日、8月15日

「記憶された身体—アビ・ヴァールブルクのイメージの宝庫」

実施日：平成11年7月30日、8月13日

4) スライドトーク

「オルセー美術館展1999—19世紀の夢と現実」展

実施日：平成11年9月24日、10月8日・29日

5) 創作体験プログラム

[夏休み子どもプログラム]

「虹ノカンサツ、虹ヲアツメル」

実施日：平成11年7月4日・25日

吉田重信（美術家）

「光ではかられた時」

実施日：平成11年7月24日

渡辺好明（東京藝術大学助教授／美術家）

「ひかり絵」

実施日：平成11年8月1日・7日

松村泰三（東北芸術工科大学講師／美術家）

6) 特別プログラム

「記憶された身体—アビ・ヴァールブルクのイメージの宝庫」

音楽と美術の夕べ

実施日：平成11年7月9日

講師：コンラート・オーバファーバー（アルベルティーナ版画素描館館長）

演奏者：ヴィクトリア・マルティエノ（ヴァイオリン）、
ビエーロ・ボナゲーリ（ギター）

情報資料

平成11年5月18日

「デジタルギャラリー：超高精細画像検索表示システム」及び「資料コーナー」の公開運用開始

この年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：353,980千円

歳出予算：1,297,658千円

開館日数：295日

平常展示：83日（平常展示のみ）

特別展：212日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：1,089,236人（1日平均3,692人）

平常展示：71,839人（1日平均330人）

特別展：1,017,397人（1日平均4,799人）

所蔵作品数：2,395点

2000 1

平成12年度

主要記事

平成12年

- 4月1日 遠山敦子館長が就任
- 6月5日 第34回国立西洋美術館評議員会開催
- 6月12日 第1回美術作品購入選考委員会並びに同
価格審査委員会開催
版画51点の購入を決定
- 6月14日 皇后陛下、「ピカソ 子供の世界」展御観覧
のため御来館
- 6月18日 「ピカソ 子供の世界」展終了
- 7月3日 「レンブラント、フェルメールとその時代」
展開会式
- 7月4日 修復、免震化が完了した《考える人》、《カ
レーの市民》を一般公開
- 7月25日 「西美をうたう—短歌と美術が会おうとき—」
開催
- 8月8日 資料展示「前庭彫刻 免震化と修復」開始
- 8月10日 開館以来の入場者数が2,500万人超
- 8月28日 皇太子同妃両殿下、「レンブラント、フェル
メールとその時代」展御観覧のため御来館
- 9月24日 「レンブラント、フェルメールとその時代」
展終了
- 10月10日 「死の舞踏—中世末期から現代まで」展開
会式
- 11月27日 第2回美術作品購入選考委員会並びに同
価格審査委員会開催
版画1,710点、彫刻1点の購入を決定
- 12月3日 「死の舞踏—中世末期から現代まで」展終了
- 12月11日 文化庁と共催で美術館等運営研究～12日
協議会を開催

平成13年

- 2月19日 第3回美術作品購入選考委員会並びに同
価格審査委員会開催
絵画1点の購入を決定
- 3月12日 第35回国立西洋美術館評議員会開催
- 3月19日 「イタリア・ルネサンス—宮廷と都市の文化
展」展開会式
皇太子同妃両殿下、並びにランベルト・ディーニ、
イタリア外務大臣御臨席・御観覧
- 3月27日 「国立西洋美術館所蔵 フランス素描名作
展」開催

新収作品

P.2000-1

ジャン＝オノレ・フラゴナール
《丘を下る羊の群》1763-65年頃
油彩、カンヴァス、52×73 cm
購入

S.2000-1

アントワヌ・コワズヴォ
《ド・ヴィルヌーヴ・ダッシー夫人の胸像》1715年
大理石、79（基台共）/65（彫刻のみ）×60×30 cm
購入

G.2000-1

ヤーコブ・ピンク
《傭兵に襲いかかる死》1530年頃
エングレーヴィング、8.1×6.1 cm
購入

G.2000-2/41

アルブレヒト・アルドルファー
〈人類の墮罪と、キリストの生涯と受難によるその救済〉
（40点連作）1513年頃
購入

G.2000-42/49

ハインリヒ・アルデグレーファー
〈死の力〉（8点連作）1541年
エングレーヴィング
購入

G.2000-50

ステーファノ・デッラ・ベッラ
《子どもを運ぶ死》1648年頃
エッチング、15.3×18.7 cm（紙）/15.1×18.4 cm（版）
購入

G.2000-51

ハンス・ホルバイン (子)

《死の紋章盾》1525-26年

木版画、7.2×5.1 cm (紙) / 6.5×4.9 cm (版)

購入

G.2000-52/1752

オノレ・ドーミエ

〈版画作品 (1,701点)〉 1831-72年頃

リトグラフ

購入

G.2000-1753

アルブレヒト・デューラー

《産着の幼児キリストと聖母》1520年

エングレーヴィング、14.2×9.5 cm

購入

G.2000-1754

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン

《三本の木》1643年

エッチング (ドライポイント、ビュラン併用)

21.2×28.1 cm

購入

G.2000-1755

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン

《良きサマリア人》1633年

エッチング、エングレーヴィング、25.6×21.3 cm

購入

G.2000-1756

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン

《アブラハムの犠牲》1655年

エッチング、ドライポイント、16.4×13.9 cm

購入

G.2000-1757

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン

《蠟燭の明かりのもとで机に向かう書生》1642年頃

エッチング、15.2×13.8 cm (紙)、14.7×13.2 cm (版)

購入

G.2000-1758

エドゥアール・マネ

《バリケード》1871年頃

リトグラフ、チャイナ紙、55.9×71.7 cm (紙)、33.1×46.4 cm (版)

購入

G.2000-1759

ルカス・クラナハ (父)

《聖アントニウスの誘惑》1506年

木版画、40.7×27.8 cm

購入

保存修復

P.1959-181

ピエール＝オーギュスト・ルノワール

《帽子の女》

油彩、カンヴァス、56.0×46.5 cm

P.1959-34

シャルル・コッテ

《捨てられた舟》

油彩、カルトン、48.3×53.5 cm

P.1959-86

エティエンヌ・ディネ

《負傷者》

油彩、カンヴァス、147.5×116.5 cm

P.1974-4

パブロ・ピカソ

《アトリエのモデル》

油彩、カンヴァス、50.0×61.0 cm

P.1959-87

エティエンヌ・ディネ

《モスクからの帰り》

油彩、カンヴァス、162×131 cm

P.1959-124

レオン・オーギュスタン・レルミット

《農民の家族》

油彩、カンヴァス、45.7×38.2 cm

G.1997-1/6

ジョヴァンニ・バティスタ・ピラネージ

《ローマの古代遺跡の景観》(計6点)

エッチング、エングレーヴィング、57.8×75.5 cm

D.1959-55

オーギュスト・ロダン

《カンボジアの女》

水彩、紙、31.0×22.0 cm

D.1977-1

マリー・ジュスヴィエーヴ

《自画像》

パステル、紙、57.8×33.7 cm

D.1959-57

オーギュスト・ロダン

《ダンテとヴェルギリウス》

インク、紙、17.0×12.0 cm

S.1959-8

オーギュスト・ロダン

《カレーの市民》

ブロンズ、180×230×220 cm、重量2.2 t

S.1959-40

オーギュスト・ロダン

《考える人》

ブロンズ、186×102×144 cm、重量0.8 t

展覧会

2000-1

「レンブラント、フェルメールとその時代

アムステルダム国立美術館所蔵 17世紀オランダ美術」

会期：平成12年7月4日～9月24日

主催：国立西洋美術館、東京新聞

出品内容：絵画49点、水彩・素描16点、版画28点

観覧者数：280,259人

2000-2

「西美をうたうー短歌と美術が会おうときー」

会期：平成12年7月25日～10月29日

主催：国立西洋美術館、現代歌人協会、財団法人西洋美術振興財団

出品内容：絵画58点、彫刻8点、水彩3点、版画11点

2000-3

「死の舞踏—中世末期から現代まで

デュッセルドルフ大学版画素描コレクションによる」

会期：平成12年10月11日～12月3日

主催：国立西洋美術館、デュッセルドルフ大学、西洋美術振興財団

出品内容：水彩・素描24点、版画343点、その他10点

観覧者数：30,034人

2000-4

「イタリア・ルネサンス 宮廷と都市の文化展」

会期：平成13年3月20日～7月8日

主催：国立西洋美術館、日本経済新聞社、フィレンツェ・

ピストイア・プラート美術監督局

出品内容：絵画72点、彫刻25点、素描4点、工芸54点、その他23点

観覧者数：422,721人

2000-5

【版画素描展示室】

「国立西洋美術館所蔵 フランス素描名作展」

会期：平成13年3月27日～6月24日

主催：国立西洋美術館

出品内容：素描37点

教育普及

1) 講演会等

[ピカソ 子供の世界]

第2回 平成12年4月22日

「《ラス・メニーナス》連作について」

林道郎（武蔵大学助教授）

第3回 平成12年5月27日

「近代の子供観とピカソ」

田中正之（*研究員）

[レンブラント、フェルメールとその時代]

第1回 平成12年7月22日

「みにくい女：レンブラントの反古典主義」

幸福輝（*学芸課長）

第2回 平成12年9月2日

「プリューゲルからステーン：教訓と楽しみの世界」

森洋子（明治大学教授）

[死の舞踏—中世末期から現代まで]

第1回 平成12年10月11日

「近代ヨーロッパ文化の中の健康、病、死—文化人類学と歴史からみて」

アルフォンス・ラービッシュ（デュッセルドルフ大学医学史学部教授）

第2回 平成12年11月11日

「死の舞踏の成立とその周辺」

小池寿子（國學院大学助教授）

[イタリア・ルネサンス 宮廷と都市の文化展]

第1回 平成13年3月31日

「15世紀フィレンツェ彫刻」

遠山公一（慶應義塾大学助教授）

2) ギャラリートーク

[死の舞踏—中世末期から現代まで]

実施日：平成12年10月27日、11月17日

3) スライドトーク

[ピカソ 子供の世界]

平成12年4月7日・28日、6月2日

[17世紀オランダ美術展 レンブラント、フェルメール
とその時代]

平成12年8月4日・11日・18日・25日

4) 特別プログラム

「西美をうたうー短歌と美術が会おうときー」

平成12年7月28日

司会：大滝貞一（現代歌人協会理事）

座談：「美術の中の叙情」

高階秀爾（前国立西洋美術館長）、俵万智（歌人）

講演：「近代短歌にうたわれた美術作品」

篠弘（現代歌人協会理事長）

自作朗詠：「西美をうたう」

男女8名の歌人による作品朗詠（岡野弘彦、沖ななも、
奥村晃作、尾崎左永子、春日真木子、小島ゆかり、
高瀬一誌、藤原龍一郎、松平盟子）

乙の年度の数字

歳入・歳出

歳入決算：218,205千円

歳出予算：1,298,237千円

開館日数：292日

平常展示：94日（平常展示のみ）

特別展：198日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：941,509人（1日平均3,224人）

平常展示：261,600人（1日平均1,001人）

特別展：679,909人（1日平均3,434人）

所蔵作品数：4,173点

2001 2

平成13年度

主要記事

平成13年

- 4月1日 独立行政法人国立美術館法の施行により、
国立西洋美術館は独立行政法人国立美術館となる。
理事長（国立西洋美術館長）に遠山敦子が就任
- 4月26日 遠山敦子館長が辞任
- 6月11日 第1回独立行政法人国立美術館国立西洋美術館評議員会開催
- 7月1日 館長に樺山紘一が就任
- 7月6日 第1回美術作品購入委員会開催
版画7点の購入を決定
- 7月8日 「イタリア・ルネサンス—宮廷と都市の文化展」展終了
- 7月10日 副館長に松元昭憲が就任
- 8月6日 「肖像が語るアメリカ史／アメリカン・ヒロイズム」展開会式
- 9月4日 「水の誘い」展開催
- 10月14日 「肖像が語るアメリカ史／アメリカン・ヒロイズム」展終了
- 11月13日 「デジタル技術とミュージアム：情報・機器展示セミナーによる公開プログラム」開催

平成14年

- 1月11日 第2回美術作品購入委員会開催
絵画3点、版画10点の購入を決定
- 3月4日 「プラド美術館展—スペイン王室コレクションの美と栄光」展開会式
- 3月5日 「平成11年-13年度新収版画作品展」開催
- 3月5日 常設展示の小中学生観覧料金を無料化した。
- 3月15日 研究資料センターを開設

新収作品

P.2001-1

グイド・レーニ

《ルクレティア》1636-38年頃

油彩、カンヴァス、101.5×82.0 cm

購入

P.2001-2

マリー＝ガブリエル・カペ

《自画像》（デッサンをする画家）1783年頃

油彩、カンヴァス、77.5×59.5 cm

購入

P.2001-3

フランク・ウィリアム・ブラングイン

《しけの日》1889年

油彩、カンヴァス、98.0×124.0 cm

購入

S.2001-1

レオナルド・ビストルフィ

《セガンティーニ記念碑：物質から解放された[美]》

大理石、350×154×156 cm

江口滋子氏より寄贈

S.2001-2

レオナルド・ビストルフィ

《ドゥリオ家のための墓碑：思い出によって癒される悲しみ》

大理石、245×509×130 cm

江口滋子氏より寄贈

S.2001-3

レオナルド・ビストルフィ

《アベグの墓碑：生と死、または光に向かって、死の魅惑の虜となる生》

ブロンズ、高さ：生170 cm/死195 cm/台座全体355×250×20 cm

江口滋子氏より寄贈

S.2001-4

レオナルド・ビストルフィ

《死の花嫁たち》

ブロンズ、271×100 cm

江口滋子氏より寄贈

S.2001-5

レオナルド・ビストルフィ

《アンヘロ・ヒオレロの墓碑：労働の英雄の埋葬》

大理石、78×40.7×60.5 cm

江口滋子氏より寄贈

S.2001-6

レオナルド・ビストルフィ

《恋人たち》

大理石、57×58×104.5 cm

江口滋子氏より寄贈

S.2001-7

レオナルド・ビストルフィ

《“生と死”のための習作》

ブロンズ、40×60×46 cm

江口滋子氏より寄贈

S.2001-8

レオナルド・ビストルフィ

《“犠牲”ーヴィットリオ・エマヌエーレ2世記念碑のための習作》

ブロンズ、49×23×26.5 cm

江口滋子氏より寄贈

D.2001-1

アドルフ・ムイユロン (?)

《自作エッチング「ヤン・シックス」を見るレンブラント》

(ニコラース・ピーネマンの油彩画による) 1852年頃

灰色の紙に黒チョーク、ハイライト、34.6×26.0 cm

ヘルムート・H. ルンブラー/ベトラ・ルンブラー夫妻より寄贈

G.2001-1

ルカス・クラナハ (父)

《聖ヨハネス・クリュストムスの悔悛》1509年

エングレーヴィング、25.4×19.9 cm

購入

G.2001-2/7

フェリックス・ブラックモン

《ラ・フォンテーヌの寓話》(モローの原画による) [全6点] 1886年出版

エッチング

購入

G.2001-8

ルカス・ファン・レイデン

《幼子イエスを抱く聖母マリアと二天使》1523年

エングレーヴィング、14.8×10.2 cm

購入

G.2001-9

15世紀イタリア派

《洗礼者聖ヨハネ》

ニエロ版画、6.9×3.5 cm

購入

G.2001-10

シャルル・メリヨン

《吸血鬼》1853年

エッチング、ドライポイント、茶色のインク、薄い緑色の紙、24.0×19.3 cm (紙) / 20.2×13.2 cm (版)

購入

G.2001-11

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン

《柔らかな帽子と刺繍付きの外套をまとった自画像》

1631年

エッチング、14.8×13.5 cm (画面)

購入

G.2001-12

ステーファノ・デッラ・ベッラ

《メディチ家の壺》1656年

エッチング、30.7×27.5 cm

購入

G.2001-13

ステーファノ・デッラ・ベッラ

《噴水のある道》1656年

エッチング、20.6×38.4 cm

購入

G.2001-14

セバスティアノ・デ・ヴァレンティニス

《エジプト逃避途上の休息》

エッチング、20.9×14.0 cm

購入

G.2001-15

ルカス・クラナハ (父)

《マルクス・クルティウスの殉教》(第二版)、17世紀前半 (初版は1506年頃)

木版、33.5×24.2 cm

古賀知章氏より寄贈

G.2001-16

パブロ・ピカソ

《貧しき食事》1913年

エッチング、ヴェン・ゲルダー紙、65.8×50.7 cm (紙)
/46.3×37.7 cm (版)

購入

G.2001-17

ハインリヒ・アルデグレーファー

《レア・シルウィア》1532年

エングレーヴィング、14.9×9.9 cm

購入

G.2001-18

ハンス・バルドゥング・グリーン

《闘う雄馬》1534年

木版、21.4×32.2 cm

購入

G.2001-19

イスラエル・ファン・メッケネム

《荊冠を受けるキリスト》1480年頃

エングレーヴィング、20.0×14.5 cm

購入

G.2001-20

アルブレヒト・デューラー

《フォルトゥーナ (小)》1495年頃

エングレーヴィング、14.9×8.9 cm (紙) /11.9×6.6
cm (版)

購入

G.2001-21

アルブレヒト・デューラー

《馬に乗る女性と傭兵》1497年頃

エングレーヴィング、13.4×9.8 cm (紙) /10.6×7.6
cm (版)

購入

G.2001-22

ウジェーヌ・カリエール

《エドモン・ド・ゴンクール》1896年

リトグラフ (石版を2版使用)、雁皮紙貼付、67.7×
49.2 cm (紙) /53.2×41.2 cm (版)

購入

G.2001-23

ウジェーヌ・カリエール

《ポール・ヴェルレーヌ》1896年

リトグラフ (石版を2版使用)、和紙に雁皮紙貼付、
62.0×49.9 cm (紙) /52.2×41.0 cm (版)

購入

G.2001-24

ウジェーヌ・カリエール

《アンリ・ロシュフォール》1896年

リトグラフ (石版を2版使用)、雁皮紙貼付、69.2×
49.2 cm (紙) /54.2×39.8 cm (版)

購入

G.2001-25

ウジェーヌ・カリエール

《ピュヴィ・ド・シャヴァンヌ》1897年

リトグラフ (石版を2版使用)、雁皮紙貼付、69.7×
50.0 cm (紙) /54.0×40.0 cm (版)

購入

OA.2001-1

オービュッソン製

《姉たちに贈り物をするブシュケ》17世紀後半

羊毛、絹、310×340 cm

社団法人糖業協会より寄贈

OA.2001-2

フランドル製

《アタランタとヒッポメネス》17世紀中頃

羊毛、絹糸、323.5×719.5 cm

日本興業銀行より寄贈

OA.2001-3

ブリュッセル・レニエルス兄弟とレダムスの工房

《キモンの戦い》18世紀前半

羊毛、絹、256.6×614 cm

日本興業銀行より寄贈

OA.2001-4

ブリュッセル・ヨッセ・デ・フォスの工房

《村祭》1735年頃

羊毛、絹、303.2×590 cm

日本興業銀行より寄贈

OA.2001-5

ベルリン、シャルル・ヴィーニユの工房

《田舎の集い》1740年頃

羊毛、絹、320.5×446 cm

日本興業銀行より寄贈

OA.2001-6

オドゥナルド製

《神話の一場面》18世紀初頭

羊毛、絹、312.2×396.5 cm

日本興業銀行より寄贈

保存修復

G.1999-48よりG.1999-57まで10点

漆原木虫

《木版画集》

彩色木版画

G.2001-2よりG.2001-7まで6点

フェリックス・ブラックモン

《複製版画（原作：ギュスターヴ・モロー）》

G.1981-1

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン

《病人たちを癒すキリスト》（百グルテン版）

エッチング、ドライポイント、エングレーヴィング、和紙、

28.0×38.6 cm

G.1997-7からG.1997-12まで計6点

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ

《ローマの古代遺跡の景観》（計6点）

エッチング、エングレーヴィング

G.1987-423からG.1987-425、G.1987-428から

G.1987-429、G.1987-431からG.1987-433まで計8点

ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ

《牢獄》（第2版／計8点）

展覧会

2001-1

「アメリカが創った英雄たち 肖像が語るアメリカ史／
アメリカン・ヒロイズム」

会期：平成13年8月7日～10月14日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社、財団法人西洋
美術振興財団

出品内容：絵画118点

観覧者数：44,020人

2001-2

【子どもから楽しめる美術展】

「水の誘い」

会期：平成13年9月4日～11月4日

主催：国立西洋美術館

出品内容：計38点

2001-3

「デジタル技術とミュージアム：情報・機器展示、セミ
ナーによる公開プログラム」

会期：平成13年11月13日～12月2日

主催：国立西洋美術館

入場者数：8,084人

2001-4

「ブラド美術館展—スペイン王室コレクションの美と栄光」

会期：平成14年3月5日～6月16日

主催：国立西洋美術館、ブラド美術館、読売新聞社

出品内容：絵画76点、彫刻1点、計77点

観覧者数：516,711人

教育普及

1) 小企画展

「子どもから楽しめる美術展：水の誘い」

会期：平成13年9月4日～11月4日

2) 講演会等

「イタリア・ルネサンス 宮廷と都市の文化展」

第2回 平成13年4月14日

「ルネサンスの“ル”」

高梨光正（*研究員）

第3回 平成13年5月19日

「マニエリスムとマニエーラー—16世紀フィレンツェ・ロ
ーマ絵画を中心に」

甲斐教行（茨城大学助教授）

第4回 平成13年6月9日

「ヴェネツィア絵画のルネサンス」

越川倫明（東京大学助教授）

特別講演会 平成13年6月12日

「ファッションから見るイタリア・ルネサンス」

深井晃子（静岡文化芸術大学教授）

「肖像が語るアメリカ史／アメリカン・ヒロイズム」

特別講演会 平成13年8月7日

「肖像が語るアメリカ史」

エレン・G. マイルズ（スミソニアン・ナショナル・ポー
ートレート・ギャラリー、キュレーター）

第1回 平成13年8月25日

「統一の象徴としての英雄：南北戦争と歴史画」

田中正之（*主任研究官）

第2回 平成13年9月8日

「アメリカ史を動かした人たち」

本間長世（成城学園学園長）

「子どもから楽しめる美術展：水の誘い」

第1回 平成13年9月15日

「水の神話—東と西」

吉田敦彦（学習院大学教授）

第2回 平成13年10月6日

「水の百面相」

千足伸行（成城大学教授）

〔ブラド美術館展—スペイン王室コレクションの美と栄光〕
特別講演会 平成14年2月23日、3月30日

「絵画は何を語るのか」

高階秀爾(西洋美術振興財団理事・東京大学名誉教授)

第1回 平成14年3月5日

「フェリペ4世とベラスケス」

マリア・ピラル・シルバ(ブラド美術館絵画部学芸員)

第2回 平成14年3月29日

「フェリペ2世から4世に至る王室コレクションの形成」

フェルナンド・チェカ・クレマデス(マドリッド大学教授)

3) シンポジウム

〔デジタル技術とミュージアム〕

「イコノテークの未来像—デジタル技術でミュージアム
はどこまで変わるか—」

実施日:平成13年11月15日

4) セミナー

〔デジタル技術とミュージアム〕

実施日:平成13年11月13日・21日・28日

5) ギャラリートーク

〔子どもから楽しめる美術展:水の誘い〕

対象:小・中・高校生の団体

〔肖像が語るアメリカ史／アメリカン・ヒロイズム〕

実施日:平成13年8月10日・24日、9月7日・21日、
10月5日

6) スライドトーク

〔イタリア・ルネサンス 宮廷と都市の文化展〕

実施日:平成13年4月6日・20日、5月11日・25日、
6月15日・29日

7) 先生のための観賞プログラム

〔イタリア・ルネサンス 宮廷と都市の文化展〕

実施日:平成13年4月5日・13日

〔肖像が語るアメリカ史／アメリカン・ヒロイズム〕

実施日:平成13年8月31日

8) 創作・体験プログラム

〔子どもから楽しめる美術展:水の誘い〕

実施日:平成13年9月9日

「体で感じる水の重さとかたち」

八柳尚樹(彫刻家)

実施日:平成13年9月16日

「水と遊ぶ」

城戸孝充(美術家)

実施日:平成13年9月22日・23日

「街の中の水の造形—多摩編」

関根伸夫(美術家・環境美術研究所代表)

実施日:平成13年9月29日・30日

「街の中の水の造形—葛西編」

9) コンサート

〔子どもから楽しめる美術展:水の誘い〕

実施日:平成13年10月20日

「水の調べ」

企画:瀧井敬子(東京藝術大学演奏芸術センター助手)

朗読:原知佐子(女優)

演奏指導:長唄三味線 大塚睦子(東京藝術大学助
教授)

邦楽囃子 望月太喜雄(東京藝術大学助教授)

演奏:東京藝術大学音楽学部有志

情報資料

平成13年11月13日～12月2日

「デジタル技術とミュージアム—情報・機器展示、セ
ミナーによる公開プログラム」開催

平成14年3月15日

「研究資料センター」開設

この年度の数字

収入・支出

収入予算:1,022,726千円

支出予算:1,022,726千円

開館日数:285日

平常展示:115日(平常展示のみ)

特別展:170日(特別展・平常展示併設)

観覧者数:799,851人(1日平均2,806人)

平常展示:259,439人(1日平均887人)

特別展:540,412人(1日平均3,179人)

所蔵作品数:4,216点

2002 3

平成14年度

主要記事

平成14年

- 4月1日 インターンシップ制度を発足した。
- 4月1日 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育研究における連携・協力が行われた。
- 6月3日 第2回独立行政法人国立美術館国立西洋美術館評議員会開催
- 6月16日 「ブラド美術館展—スペイン王室コレクションの美と栄光」展終了
- 6月18日 「手と心—モネ、ドニ、ロダン」開催
- 7月8日 「大英博物館所蔵フランス素描展 フォンテーヌブローからヴェルサイユへ」展開会式
- 9月1日 「大英博物館所蔵フランス素描展 フォンテーヌブローからヴェルサイユへ」展終了
- 9月13日 「ウィンスロップ・コレクション フォック美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画」展開会式
- 9月14日 「クリシェ・ヴェール（ガラス版画）—コロートバルビゾン派の版画—」展開催
- 12月8日 「ウィンスロップ・コレクション フォック美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画」展終了

平成15年

- 1月27日 文化庁との共催で美術館・歴史博物館学～31日 芸員専門研修会を開催
- 3月4日 「受難伝—国立西洋美術館所蔵のドイツ・ルネサンス版画による」開催
- 3月17日 第3回国立西洋美術館評議員会開催
- 3月18日 「織りだされた絵画—国立西洋美術館所蔵17・18世紀タピスリー—」開催
- 3月 前庭彫刻（ロダン作《アダムとエヴァ》）の

設置工事（修復・免震化）が竣工した。
3月 展示場内扉のバリアフリー（自動扉化）工事が竣工した。

新収作品

P.2002-1

ヤン・ブリューゲル（父）
《アブラハムとイサクのいる森林風景》1599年
油彩、板、49.5×64.7 cm
購入

P.2002-2

フランク・ウィリアム・ブランゲイン
《煙草をくわえた男》
油彩、カンヴァス、44×36 cm
佐藤直樹氏より寄贈

D.2002-1

マックス・クリンガー
《私室での陵辱》1882年
インク、紙、12.7×12.7 cm（画面）
購入

G.2002-1

ジョルジョ・ギージ
《エゼキエルの幻想》1554年
エングレーヴィング、40.8×68.3 cm
購入

G.2002-2

ニコラス・ベアトリゼ
《イフィゲネイアの犠牲》1553年
エングレーヴィング、28.5×39.8 cm
購入

G.2002-3

フィリップ・ハレ
《聖母の死》1574年
エングレーヴィング、30.6×41.8 cm
購入

G.2002-4

ルカス・クラナハ（父）
《サムソンのタペスリーのある馬上試合（第二トーナメント）》1509年
木版画、29.2×41.5 cm
購入

G.2002-5

ヤン・ヨリス・ファン・フリート

《聖ヒエロニムス》(レンブラントの構図による) 1631年
エッチング、エングレーヴィング、35.2×28.6 cm

購入

G.2002-6

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン

《薬剤師アブラハム・フランケンの肖像》1657年頃
エッチング、ドライポイント、ビュラン、15.7×20.9 cm

購入

D.2002-7

ハンス・ゼーバルト・ペーハム

《キリストの頭部》1519年
エングレーヴィング、3.7×2.8 cm

購入

展覧会

2002-1

【Fun with Collection】

「手と心—モネ、ドニ、ロダン」

会期：平成14年6月18日～9月1日

主催：国立西洋美術館

出品内容：絵画20点、彫刻8点

2002-2

「大英博物館所蔵フランス素描展—フォンテーヌブローからヴェルサイユへ」

会期：平成14年7月9日～9月1日

主催：国立西洋美術館、東京新聞、財団法人西洋美術振興財団

出品内容：素描101点

観覧者数：64,023人

2002-3

「ウインスロップ・コレクション フォッグ美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画 夢想と現実のあわいに」

会期：平成14年9月14日～12月8日

主催：国立西洋美術館、東京新聞、ハーヴァード大学付属フォッグ美術館

出品内容：絵画36点、水彩・素描57点

観覧者数：186,361人

2002-4

【版画素描展示室】

「クリシエ・ヴェール（ガラス版画）—コローとバルビゾン派の版画—」

会期：平成14年9月14日～12月8日

主催：国立西洋美術館

出品内容：版画37点

2002-5

【版画素描展示室】

「受難伝—国立西洋美術館所蔵のドイツ・ルネサンス版画による」

会期：平成15年3月4日～5月18日

主催：国立西洋美術館

出品内容：版画72点

2002-6

「織り出された絵画：国立西洋美術館所蔵 17-18世紀タピスリー」

会期：平成15年3月18日～5月25日

主催：国立西洋美術館

出品内容：工芸7点

観覧者数：48,558人

教育普及

1) Fun with Collection

「手と心—モネ、ドニ、ロダン」

会期：平成14年6月18日～9月1日

2) 講演会

「プラド美術館展—スペイン王室コレクションの美と栄光」

第3回 平成14年4月20日

「ゴヤとブルボン朝の宮廷美術」

木下亮（昭和女子大学助教授）

第4回 平成14年4月27日

「ベラスケスと宮廷肖像画」

大高保二郎（早稲田大学教授）

第5回 平成14年5月11日

「プラド美術館—王室コレクションからパブリック・コレクションへ」

ジョナサン・ブラウン（ニューヨーク大学教授）

第6回 平成14年6月1日

「スペイン絵画による静物表現」

雪山行二（横浜美術館館長）

「大英博物館所蔵フランス素描展」

第1回 平成14年7月27日

「フランス近世絵画と素描」

栗田秀法（愛知県美術館学芸員）

第2回 平成14年8月10日

「イタリアからフランスへ—フォンテーヌブロー派の美術」

越川倫明（東京藝術大学助教授）

「ウインスロップ・コレクション フォッグ美術館所蔵
19世紀イギリス・フランス絵画」

第1回 平成14年9月14日

「ウインスロップ・コレクションと教育機関としてのフォッグ美術館」

ジェームズ・クノー（フォッグ美術館館長）

「グレンヴィル・ウインスロップ：蒐集家とそのコレクション」

ステファン・ウォロフォジアン（フォッグ美術館絵画部学芸員）

「ウインスロップとイギリス美術」

ミリアム・スチュアート（フォッグ美術館素描部学芸員）

第2回 平成14年10月19日

「ロセッティ絵画の身振りと言葉」

山口恵理子（筑波大学講師）

第3回 平成14年11月2日

「侵出するヴィジョン」

喜多崎親（一橋大学大学院助教授）

3) ギャラリートーク

「手と心—モネ、ドニ、ロダン」展

対象：小・中・高校生の団体

29団体が参加

「ウインスロップ・コレクション」展

平成14年9月27日、10月11日・25日、11月8日・22日

「織りだされた絵画」展

平成15年3月28日

4) スライド・トーク

「プラド美術館展—スペイン王室コレクションの美と栄光」

平成14年4月12日・26日、5月10日

5) 先生のための観賞プログラム

「プラド美術館展—スペイン王室コレクションの美と栄光」

平成14年4月5日、4月13日

「手と心—モネ、ドニ、ロダン」展

平成14年6月21日

「大英博物館所蔵フランス素描展」

平成14年8月2日・3日

「ウインスロップ・コレクション」展

平成14年9月20日・21日

「織りだされた絵画」展

平成15年3月28日

6) 創作・体験プログラム

「手と心—モネ、ドニ、ロダン」展

I アーティストのここが好き

1回目 平成14年7月25日・26日、8月1日・2日

2回目 平成14年8月22日・23日・29日・30日

II 表現方法を考える

A. チューブ絵具は絵画をどう変えたか？

平成14年7月21日

真鍋千恵（東北芸術工科大学助教授）

B. 現代作家の表現方法

平成14年7月28日

辰野登恵子（画家）

平成14年8月4日

中沢研（美術家）

平成14年8月25日

河田政樹（美術家）

7) ウィークエンド・ファミリー・プログラム

「手と心—モネ、ドニ、ロダン」展

平成14年7月7日・14日・21日・28日、8月4日・11日・

18日・25日

8) コンサート

「大英博物館所蔵フランス素描展」

平成14年8月30日 「ルイ14世と15世治下の宮廷音楽」

企画・進行：瀧井敬子（東京藝術大学演奏芸術センター助手）

演奏：竹内太郎（バロック・ギター）、東京藝術大学有志
バロック・ダンス：市瀬陽子

9) インターンシップ・プログラム

「教育普及」

インターン：荒木なつみ、実川梨恵、丹沢玲香、

寺田鮎美、富岡進一、山口百合

前期：平成14年4月10日～平成15年3月31日

指導：寺島洋子・藤田千織

課題：「手と心—モネ、ドニ、ロダン」展ギャラリートーク、創作体験プログラム補助、および「びじゅつーる」

開発・作成、子ども用パンフレット開発

「西洋美術史」

テーマ：「ウインスロップ・コレクション」展調査

前期：平成14年4月10日～12月8日

指導：大屋美那

インターン：田中麻野

「西洋美術史」

テーマ：イタリア・ルネサンスの作品資料調査

前期：平成14年4月10日～平成15年2月10日

指導：田邊幹之助・高梨光正

インターン：東孝子

この年度の数字

収入・支出

収入予算：942,960 千円

支出予算：942,960 千円

開館日数：302 日

平常展示：339,752 人（1 日平均 809 人）

特別展：189 日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：986,098 人（1 日平均 3,265 人）

平常展示：339,752 人（1 日平均 809 人）

特別展：646,346 人（1 日平均 3,420 人）

所蔵作品数：4,226 点

2003 4

平成15年度

主要記事

平成15年

- 4月 学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を図った。
- 6月9日 第4回独立行政法人国立美術館国立西洋美術館評議員会開催
- 6月23日 「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」展開会式
- 7月1日 「ココロのマドー絵のかたち」開催
- 7月25日 副館長に高橋誠記が就任
- 8月24日 「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」展終了
- 9月12日 「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」展開会式
- 9月13日 「ジャック・カロの版画—17世紀フランス、イタリアの人々、宮廷、戦争—」開催
- 12月10日 皇后陛下、「レンブラントとレンブラント派」御観覧のため御来館
- 12月14日 「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」展終了

平成16年

- 1月 年始の休館日数を短縮し、1月2日から開館した。
- 3月 前庭彫刻(プーデル作『弓を引くヘラクレス』)の免震工事竣工
- 3月 インターネット上に蔵書検索システム(OPAC)を公開
- 3月1日 「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証—古代ローマ人と肖像」展開会式
- 3月1日 「ドラクロワ版画展『ファウスト』と『ハムレット』」展開会式

新収作品

P.2003-1

エティエンヌ・クレマンテル

《太陽を背に飛ぶコウノトリの群れ》1915-20年頃
油彩、カンヴァス、35×135 cm

久我太郎氏より寄贈

P.2003-2

ジョルジュ・ド・ラ・トゥール

《聖トマス》

油彩、カンヴァス、64.6×53.9 cm

購入

G.2003-1

ハンス・ゼーバルト・ペーハム

《楕円形メダイヨンのある二重ゴブレット》1530年
エングレーヴィング、9.2×5.3 cm

購入

G.2003-2

ハンス・ゼーバルト・ペーハム

《円形メダイヨンのあるゴブレット》1530年
エングレーヴィング、9.3×5.2 cm

購入

G.2003-3

ハンス・ゼーバルト・ペーハム

《二重ゴブレット》1530年
エングレーヴィング、9.3×5.2 cm

購入

G.2003-4

ハンス・ゼーバルト・ペーハム

《二重ゴブレットとふたりの精霊》1531年
エングレーヴィング、9.4×5.2 cm

購入

G.2003-5

マティアス・ツェント

《ゴブレットのデザイン》1551年
エングレーヴィング、16.4×11.2 cm

購入

G.2003-6/11

ヨーハン・ヴィルヘルム・ヘール

『宝飾品と装飾のデザイン集』(全6点) 1666年頃
購入

G.2003-12

ステーファノ・デッラ・ベッラ
《パンと「名声」の洞窟》1653年頃
エッチング、24.5×37.0 cm
購入

G.2003-13

ステーファノ・デッラ・ベッラ
《巨大なアペニン像》1653年頃
エッチング、25.7×38.7 cm
購入

G.2003-14

ジョルジョ・ギージ
《ウェヌスとアドニス》1557年以降
エングレーヴィング、32.1×22.6 cm
購入

G.2003-15

ジョルジョ・ギージ
《休息するヘラクレス》1567年
エングレーヴィング、27.2×40.0 cm
購入

G.2003-16

ヘンドリック・ホルツイウス
《ベルヴェデーレのアポロン》1592年頃
エングレーヴィング、40.2×29.2 cm
購入

G.2003-17

アルブレヒト・デューラー
《梨の聖母子》1511年
エングレーヴィング、15.7×10.7 cm
購入

G.2003-18

アルブレヒト・デューラー
《ばったのいる聖家族》1495年頃
エングレーヴィング、24.8×18.7 cm
購入

G.2003-19

バルテル・ペーハム
《ヒエロニムス・バウムガルトナーの蔵書票》
1525年以前
エングレーヴィング、8.3×6.7 cm
購入

G.2003-20

フェリックス・ブラックモン
《もぐら》1854年
エッチング、26.9×19.8 cm (版寸)
購入

G.2003-21

シャルル・メリヨン
《吸血鬼》1853年
エッチング、ドライポイント、17.3×12.8 cm (版寸)
購入

G.2003-22

アンリ・ファンタン＝ラトゥール
《ローエングリン序曲(第二版)》1898年
リトグラフ、チャイナ紙、51.5×34.5 cm
購入

G.2003-23

ルイ・シエルグ、ジャン＝アントワヌ・ヴァトー
《シテール島の愉しみ》1730年頃
エングレーヴィング、30.0×40.2 cm
購入

G.2003-24

ヘンドリック・ホルツイウス
《旗手》1587年
エングレーヴィング、27.5×19.5 cm (版寸)
購入

G.2003-25

コルネリス・ベガ
《老女の横顔》
エッチング、5.6×4.7 cm
購入

G.2003-26/31

アルフレート・レーテル
《死の舞踏》(6点連作) 1849年
木版画
購入

G.2003-32/55

アルフレート・クビーネ
《死の舞踏》(全24点) 1918年
エッチング
購入

G.2003-56

ケーテ・コルヴィッツ

《戦場『農民戦争』第6葉》1907年(1921年の刷り)

エッチング、ドライポイント、アクアティント、エメリー
を用いた孔版、40.8×53.0 cm

購入

G.2003-57

ケーテ・コルヴィッツ

《カール・リープクネフト追悼》1920年

木版、33.5×50.0 cm

購入

G.2003-58

ケーテ・コルヴィッツ

《失業》1909年(1918年の刷り)

エッチング、ドライポイント、アクアティント、エメリー
を用いた孔版、38.2×53.5 cm(画寸)

購入

G.2003-59

ハインリッヒ・フォークラー

《愛》1896年

エッチング、アクアティント、35.0×37.5 cm

購入

G.2003-60

エルンスト・バルラッハ

《子供の死》1919年

木版、24.2×36.2 cm

購入

G.2003-61

エドヴァルド・ムンク

《接吻》1895年

エッチング、アクアティント、ドライポイント、34.5×
27.8 cm

購入

G.2003-62

マックス・エルンスト

《二羽の鳥》1975年

リトグラフ、34.5×62.2 cm

購入

G.2003-63

フェリシアン・ロップス

《パリの女ともだち》1881年

エッチング、15.7×17.6 cm

購入

G.2003-64

フェリシアン・ロップス

《東洋の好色な花》

エッチング、10.9×15.3 cm

購入

G.2003-65

フェリシアン・ロップス

《ボルノクラテスあるいは豚を連れた女》1881年

エッチング、アクアティント、45.0×69.0 cm

購入

G.2003-66

フェリシアン・ロップス

《呪文》

ソフト・グラウンド・エッチング、ドライポイント、27.5
×43.0 cm

購入

G.2003-67

フェリシアン・ロップス

《音楽的幻想》

ソフト・グラウンド・エッチング、ドライポイント、30.2
×34.2 cm

購入

G.2003-68/76

フェリシアン・ロップス

〈レ・ディアボリック(バルベー・ドールヴィーの短編
集のための挿絵)〉(全9点)

ヘリオグラヴェール、18.7×14.0 cm

購入

G.2003-77

フェリシアン・ロップス

《犠牲》

ソフト・グラウンド・エッチング、34.3×16.7 cm

購入

G.2003-78

ジェイムズ・アンソール

《大食(連作『大罪』より)》1904年

エッチング、ドライポイント、手彩色、9.1×14.5 cm

購入

G.2003-79

ヤン・トーロップ

《森の中の鹿》1895年

ドライポイント、14.9×16.5 cm(版寸)

購入

G.2003-80
ヤン・トーロップ
《木ぎれを集める子ども》1899年
ドライポイント、15.7×18.6 cm (版寸)
購入

G.2003-81
ヤン・トーロップ
《網を繕う人たち》1899年
ドライポイント、15.9×18.8 cm (版寸)
購入

G.2003-82
ヤン・トーロップ
《『守られたるヴェニス』(演劇のためのポスター) 1895年
リトグラフ、49.5×33.0 cm (版寸)
購入

G.2003-83
ヤン・トーロップ
《種を蒔く人》1895年
リトグラフ、紙、21.9×33.3 cm (版寸)
購入

G.2003-84/87
ハンス・ゼーバルト・ペーハム
〈四福音書記者〉(全4点) 1541年
エングレーヴィング
購入

G.2003-88
ハンス・ゼーバルト・ペーハム
《聖クリュソストムスの悔悛》
エングレーヴィング
購入

G.2003-89
ハンス・ゼーバルト・ペーハム
《ルクレティア》
エングレーヴィング、7.6×4.5 cm
購入

G.2003-90
ハンス・ゼーバルト・ペーハム
《トリトンとネレイス》1523年
エングレーヴィング
購入

G.2003-91
ハンス・ゼーバルト・ペーハム

《パリスの審判》1546年
エングレーヴィング、7.0×4.8 cm
購入

G.2003-92
ハンス・ゼーバルト・ペーハム
《ヘラクレスの十二功業：ケンタウロスと戦うヘラクレス》
1543年
エングレーヴィング、5.0×7.8 cm
購入

G.2003-93
ハンス・ゼーバルト・ペーハム
《ヘラクレスの十二功業：ネメアのライオンを殺すヘラク
レス》1548年
エングレーヴィング、5.6×7.8 cm
購入

G.2003-94
ハンス・ゼーバルト・ペーハム
《ヘラクレスの十二功業：ヒュドラを退治するヘラクレ
ス》1545年
エングレーヴィング、5.2×7.5 cm
購入

G.2003-95
ハンス・ゼーバルト・ペーハム
《ヘラクレスの十二功業：トロイア人と戦うヘラクレス》
1545年
エングレーヴィング、5.5×8.0 cm
購入

G.2003-96
ハンス・ゼーバルト・ペーハム
《バクパイプを吹くサテュロス》
エングレーヴィング、4.1×3.3 cm
購入

G.2003-97
ハンス・ゼーバルト・ペーハム
《バクパイプ奏者と恋人》1520年
エッチング、11.7×7.3 cm
購入

G.2003-98
ハンス・ゼーバルト・ペーハム
《旗手、鼓手、笛吹き》1543年
エングレーヴィング、7.0×4.8 cm
購入

G.2003-99

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《旗手》1526年

エングレーヴィング、7.3×5.0 cm

購入

G.2003-100

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《男女の道化》

エングレーヴィング、3.6×5.2 cm

購入

G.2003-101

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《仮面を掲げる2人のブットー》1544年

エングレーヴィング、4.9×7.1 cm

購入

G.2003-102

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《小さな道化》1542年

エングレーヴィング、4.6×8.0 cm

購入

G.2003-103

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《仮面のあるパネル》1543年

エングレーヴィング、5.3×8.0 cm

購入

G.2003-104

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《高貴で栄光ある女たちの凱行進》1542年

エングレーヴィング、2.4×13.5 cm

購入

G.2003-105

バルテル・ベーハム

《ユディット》1525年

エングレーヴィング、5.5×3.7 cm

購入

G.2003-106

バルテル・ベーハム

《武器に座る裸婦》

エングレーヴィング、5.1×3.4 cm

購入

G.2003-107

マルティン・ショーンガウアー

《エッケ・ホモ（『受難伝』より）》1475-85年頃

エングレーヴィング、16.0×11.3 cm

購入

G.2003-108

マルティン・ショーンガウアー

《キリストの復活（『受難伝』より）》1475-85年頃

エングレーヴィング、16.3×11.6 cm

購入

G.2003-109

AGのモノグラミスト

《玉座のキリスト（ショーンガウアーに基づく）》

エングレーヴィング

購入

G.2003-110

ハインリヒ・アルデグレーファー

《サテュロスの脚と2人の子供が表された縦長の装飾》

1549年

エングレーヴィング、10.4×4.2 cm

購入

G.2003-111

アルブレヒト・アルトドルファー

《聖母子を礼拝する聖職者》1519-20年

木版、168.0×122.0 cm

購入

G.2003-112

アルブレヒト・アルトドルファー

《翼のついた球体の飾りのあるゴブレットの図案》

1520-25年頃

エッチング、18.5×11.0 cm

購入

G.2003-113

ハンス・ブローザマー

《博士と議論するキリスト》

エングレーヴィング、直径3.9 cm

購入

G.2003-114

ゲオルグ・ベンツ

《偶像崇拜をするソロモン》1531年頃

エングレーヴィング、4.7×7.8 cm

購入

G.2003-115

ゲオルグ・ベンツ

《渴く者に水を与える(連作『慈悲の行い』より)》(6点連作)

1534年

エングレーヴィング、直径5.6 cm

購入

G.2003-116

アルブレヒト・デューラー

《天使に王冠を授けられる聖母》1520年

エングレーヴィング、13.4×9.8 cm

購入

G.2003-117

アルブレヒト・デューラー

《書斎の聖ヒエロニムス》1514年

エングレーヴィング、24.9×18.9 cm

購入

G.2003-118

アルブレヒト・デューラー

《魔女》1500年頃

エングレーヴィング、11.5×7.1 cm

購入

G.2003-119

ハンス・バルドゥング・グリーン

《磔刑》1505-07年頃

木版、23.7×16.3 cm

購入

G.2003-120

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン

《東洋風を装った自画像》1634年

エッチング

購入

G.2003-121

アンリ・マティス

《版画を彫るアンリ・マティス》1900-03年頃

ドライポイント、15.0×19.9 cm

購入

G.2003-122

パブロ・ピカソ

《男の頭部》1912年(制作は1911年夏にセレにて)

エッチング、13.0×11.0 cm(画寸)

購入

展覧会

2003-1

「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描—ユリウス・シュノルの「風景画帳」、フリードリヒ、コッホ、オリヴィエなど—」

会期：平成15年6月24日～8月24日

主催：国立西洋美術館、ドレスデン版画素描館、財団法人西洋美術振興財団

出品内容：素描103点

観覧者数：48,114人

2003-2

【Fun with Collection】

「ココロのマド—絵のかたち」

会期：平成15年7月1日～8月31日

主催：国立西洋美術館

出品内容：計18点

2003-3

「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」

会期：平成15年9月13日～12月14日

主催：国立西洋美術館、NHK、NHKプロモーション

出品内容：絵画63点、版画29点

観覧者数：272,526人

2003-4

【版画素描展示室】

「ジャック・カロの版画—17世紀フランス、イタリアの人々、宮廷、戦争」

会期：平成15年9月13日～12月14日

主催：国立西洋美術館

出品内容：計64点

2003-5

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証—古代ローマ人と肖像」

会期：平成16年3月2日～5月30日

主催：国立西洋美術館、ヴァチカン美術館、NHK、NHKプロモーション

出品内容：彫刻46点、工芸37点

観覧者数：130,618人

2003-6

【版画素描展示室】

「ドラクロワ版画展〈ファウスト〉〈ハムレット〉」

会期：平成16年3月2日～5月30日

主催：国立西洋美術館

出品内容：版画31点

1) Fun with Collection

「ココロのマドー絵のかたち」

会期：平成15年7月1日～8月31日

2) 講演会

「織りだされた絵画—国立西洋美術館所蔵17-18世紀タピスリー」

第1回 平成15年4月5日

「タピスリーの保存と修復—庭園婦女之図を中心に」

石井美恵（染織品保存修復家）

第2回 平成15年5月10日

「絵画と工芸の間で—ヨーロッパのタピスリー芸術」

高橋明也（*主任研究官）

「ドレスデン版画素描館所蔵ドイツ・ロマン主義の風景素描」

第1回 平成15年6月24日

「ルートヴィヒ・リヒターの絵画における準備／素描」

ベトラ・クールマン＝ホディック（ドレスデン版画素描館学芸員）

第2回 平成15年7月20日

「C. D. フリードリヒの素描—写生、構想、作品」

大原まゆみ（明治学院大学教授）

第3回 平成15年8月10日

「ナザレ派と美術アカデミー」

尾関幸（東京大学助手）

第4回 平成15年8月17日

「C. G. カールスとゲーテ—風景について」

眞岩啓子（早稲田大学非常勤講師）

「Fun with Collection ココロのマドー絵のかたち」

平成15年8月24日

「絵画の矩形と近代の思考」

高山宏（東京都立大学教授）

「レンブラントとレンブラント派—聖書、神話、物語」

第1回 平成15年10月11日

「わたしのレンブラント」

中林忠良（東京藝術大学教授／版画家）

第2回 平成15年11月8日

「物語画家レンブラント」

幸福輝（*学芸課長）

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証—古代ローマ人と肖像」

第1回 平成16年3月2日

「VIXERVNT OMNES 彼らはみんな生きた」

パオロ・リヴェラーニ（ヴァチカン美術館古典考古学部長）

高梨光正（*研究員）

日向太郎（*客員研究員）

筒井賢治（東京大学非常勤講師）

第2回 平成16年3月13日

「恋愛を指南するローマの詩人—オウィディウスを中心に」

日向太郎（*客員研究員）

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証—古代ローマ人と肖像」 関連記念共催講演会「文明の発祥地：古代ローマ帝国と地中海」

平成16年3月27日

共催：NHK、イタリア文化会館（東京）

後援：イタリア大使館、協賛：鹿島美術財団

「基調講演」

「トラヤヌス帝と彼のローマにおける公共記念建造物」

エウジェニオ・ラ・ロッカ（ローマ考古財監督局総監／ラ・サピエンツァ大学教授）

「セプティミウス・セウェルス帝とその妻、そして息子たち：ローマ帝国と属州レプティス・マグナの間のイメージと政治的プロパガンダ」

ルイーザ・ムッソ（ローマ第三大学教授）

「コメンテーター」

日高健一郎（筑波大学教授）

芳賀京子（日本学術振興会特別研究員／東京大学非常勤講師）

「モデレーター」

小佐野重利（東京大学教授）

3) シンポジウム

国際シンポジウム「レンブラントと17世紀オランダ物語画」

企画構成：幸福輝（*学芸課長）、小林頼子（目白大学／*客員研究員）

平成15年9月13日

「レンブラント研究の現在」

ヤン・ケルヒ（ベルリン国立絵画館）

「物語画家レンブラント／肖像画家レンブラント—展覧会によせて」

幸福輝（*学芸課長）

「レンブラント作《聖家族》のアトリビューション変遷史（1722～今日）」

ターコ・ディビッツ（アムステルダム国立美術館）

「レンブラントと彼のパトロンと聖書」

フォルカー・マヌート（ネイメーヘン大学）

平成15年9月14日

「模倣と独自性—レンブラントの弟子たちの物語画をめぐって」

ジョナサン・ビッケル（アムステルダム国立美術館）

「アールト・デ・ヘルデルとヤン・ステーンとハウブラーケンの『完全なる絵画』」

デイヴィッド・デ・ウィット (クウィーンズ大学アグネス・
イサーリント・アート・センター)
「レンブラントの物語画とトロニー」
小林頼子 (目白大学)
「レンブラントのヌードー《ダナエ》をめぐって」
尾崎彰宏 (東北大学)
「レンブラントとネーデルラントの『版画聖書』」
高橋達史 (青山学院大学)
「オランダ物語画の需要層をめぐって」
マルテン・ヤン・ボク (アムステルダム大学)
「レンブラント作《目を潰されるサムソン》—ルーベンス
への挑戦作としての位置づけをめぐって」
中村俊春 (京都大学)

4) ギャラリートーク

「織りだされた絵画—国立西洋美術館所蔵17-18世紀
タピスリー」展
平成15年4月4日、5月16日
「ドレスデン版画素描館所蔵ドイツ・ロマン主義の風景
素描」展
平成15年7月18日、8月15日
「ココロのマドー絵のかたち」展
対象：小・中・高校生の団体
46団体 (小学校：15、中学校：24、高等学校：6、小
学校PTA：1) が参加

5) スライド・トーク

「レンブラントとレンブラント派—聖書、神話、物語」展
平成15年9月26日、10月10日・24日、11月7日・21日
「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証
—古代ローマ人と肖像」展
平成16年3月12日

6) 先生のための観賞プログラム

「Fun with Collection ココロのマドー絵のかたち」
平成15年7月4日
「ドレスデン版画素描館所蔵ドイツ・ロマン主義の風景
素描」
平成15年8月1日
「レンブラントとレンブラント派—聖書、神話、物語」
平成15年10月17日
「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証
—古代ローマ人と肖像」
平成15年3月19日

7) 創作・体験プログラム

「Fun with Collection ココロのマドー絵のかたち」
平成15年7月26日
「体験東西の絵のかたち」
平成15年8月6日、7日

「タイムトラベラー」(2日間プログラム)

平成15年8月2日、9日、10日
「幻視写真」(3日間プログラム)
講師：伊藤義彦 (写真家)
平成15年8月16日、17日
「マンガのコマで美術を遊ぶ」
(2日間プログラム)
講師：夏目房之助 (マンガ・コラムニスト)

8) ウィークエンド・ファミリー・プログラム

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証
—古代ローマ人と肖像」展
平成16年3月20日、21日
「はくの、わたしの大切なもの」

9) コンサート

「ドレスデン版画素描館所蔵ドイツ・ロマン主義の風景
素描」展
平成15年7月11日
「シュノル父子とメンデルスゾーン」
企画・トーク：瀧井敬子 (東京藝術大学演奏芸術セン
ター助手)
演奏：浦川宣也、佐々木倫子 (ヴァイオリン)、千本珠里
(ヴィオラ)、関根優子 (チェロ)、赤井裕美 (ピアノ)、
王真紀 (ソプラノ)、八鍬圭 (アルト)

11) インターンシップ・プログラム

「教育普及」
インターン：岡村有希子、吉備久美子、清家三智、千
葉薫、広川未央、山内舞子
期間：平成15年4月1日～平成16年3月31日
指導：寺島洋子・藤田千織
課題：①「Fun with Collection ココロのマドー絵
のかたち」関連のギャラリートークおよび創作・体験
プログラム補助
②「'03年度びじゅつーる」の開発・作成：「絵をめぐ
る本」(千葉)、「かるたブック」(山内)、「わたしのしるし」
(広川)、「みるっとバック」(岡村)、インストラクション・
シート (清家)

情報資料

平成16年3月
OPAC (オンライン蔵書目録)のインターネット公開開始

この年度の数字

収入・支出

収入予算：958,490 千円

支出予算：958,490 千円

開館日数：306日

平常展示：146日（平常展示のみ）

特別展：160日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：624,753人（1日平均2,042人）

平常展示：271,641人（1日平均948人）

特別展：353,112人（1日平均2,207人）

所蔵作品数：4,350点

2004 5

平成 16 年度

主要記事

平成 16 年

- 4 月 1 日 開館時間の拡大(平成 16 年度より原則として春の企画展開催日から秋の企画展閉館日まで)閉館時間について従来より 30 分間延長
- 5 月 30 日 「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証—古代ローマ人と肖像」展終了
- 5 月 30 日 「ドラクロワ版画展『ファウスト』と『ハムレット』」展終了
- 6 月 3 日 国立西洋美術館ボランティア活動開始
- 6 月 14 日 第 5 回独立行政法人国立美術館国立西洋美術館評議会開催
- 6 月 28 日 「聖杯—中世の金工美術：ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」展開会式
- 6 月 29 日 「建築探検—ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」開催
- 8 月 15 日 「聖杯—中世の金工美術：ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」展終了
- 9 月 9 日 「マティス展」開会式
- 9 月 10 日 「オランダ・マニエリスム版画展」開催
- 12 月 3 日 皇后陛下、「マティス展」御観覧のため御来館

平成 17 年

- 2 月 企画展示場内扉のバリアフリー(自動扉化)工事竣工
- 3 月 7 日 「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—光と闇の世界」展開会式
- 3 月 8 日 「マックス・クリンガー版画展《イヴと未来》《ある生涯》《ある愛》」開催

新収作品

P.2004-1

アルベール・グレーズ
《収穫物の脱穀》1912 年
油彩、カンヴァス、269×353 cm
購入

D.2004-1

ル・コルビュジエ
《国立西洋美術館およびその周囲の構想スケッチ》
1956 年
鉛筆、色鉛筆、ヴェラム紙、88.9×57.2 cm
購入

G.2004-1

アルブレヒト・デューラー
《聖グレゴリウスのミサ》1511 年
木版、29.5×20.5 cm
購入

G.2004-2

アンリ・マティス
《マグノリアのあるオダリスク》1923 年
リトグラフ、和紙、30.0×40.2 cm (画寸)、50.0×64.5 cm (紙寸)
購入

G.2004-3

アンリ・マティス
《レースの襟のエマ》1915 年
モノタイプ、17.8×12.6 cm (画寸)、37.5×28.0 cm (紙寸)
購入

G.2004-4

ゲオルグ・ペンツ
《毒をあおるソフォニスバ》
エングレーヴィング、19.0×12.5 cm
購入

G.2004-5

ロドルフ・ブレダン
《イボリット・ド・ティエリー＝ファルタン作『寓話と物語』のための扉絵》1873 年
リトグラフ、24.0×19.7 cm
購入

G.2004-6

ロドルフ・ブレダ

《死の喜劇(第4版)》1861年

リトグラフ、チャイナ紙、21.8×15.2 cm(画寸)、
25.5×17.8 cm(紙寸)

購入

G.2004-7

ロドルフ・ブレダ

《死の喜劇》1899年

リトグラフ、チャイナ紙(?), 21.9×15.0 cm(画寸)、
32.1×20.6 cm(紙寸)

購入

G.2004-8

ロドルフ・ブレダ

《善きサマリア人》1867年

リトグラフ、チャイナ紙、57.1×44.4 cm(画寸)、68.1
×49.1 cm(紙寸)

購入

G.2004-9

ボール＝アルベール・ベナール

《手厳しくも》1900年

エッチング、14.1×11.1 cm(画寸)

購入

G.2004-10

ボール＝アルベール・ベナール

《見知らぬ人》1900年

エッチング、14.0×11.1 cm(画寸)

購入

G.2004-11

フェルナン・クノッップ

《仮面》1899年

ドライポイント、17.9×10.0 cm(画寸)

購入

G.2004-12

カルロス・シュヴァーベ

《第1回「薔薇十字」展のためのポスター》1892年

リトグラフ、199.0×80.0 cm

購入

G.2004-13

ヘンドリック・ホルツィウス

《ミダス王の審判》1590年

エングレーヴィング、44.2×75.1 cm

購入

G.2004-14

ヘンドリック・ホルツィウス

《ヘラクレスとカクス》1590年

キアロスクーロ木版、40.8×33.0 cm

購入

G.2004-15

エネア・ヴィーコ

《ピーエリデスの歌合戦》1553年

エングレーヴィング、24.2×38.0 cm

購入

G.2004-16

ジョヴァンニ・ヤーコポ・カラーリオ

《神々の集い》

エングレーヴィング、37.6×53.7 cm

購入

G.2004-17

バルトロメオ・コリオラーノ

《巫女(グイド・レーニの原画)》1645年頃

キアロスクーロ木版、30.4×22.0 cm

購入

G.2004-18

メルヒオール・キューセル

《皇帝レオポルト一世とスペインのマルガレーテの結婚
式》1666年?

エングレーヴィング、29.6×33.6 cm(画寸)、32.7×
38.1 cm(紙寸)

購入

G.2004-19

アルブレヒト・デューラー

《枢機卿アルブレヒト・フォン・ブランデンブルク(小)》
1519年

エングレーヴィング、14.6×9.7 cm

購入

G.2004-20

ピーダ・イルステズ

《朝の日ざし》1913年

カラーメゾティント(ア・ラ・プベ)、43.4×39.1 cm

購入

G.2004-21

ピーダ・イルステズ

《リーセルン城のダイニングルーム》1917年

カラーメゾティント(ア・ラ・プベ)、50.3×43.2 cm

購入

G.2004-22

ピーダ・イルステズ

《冬の風景》1930年

カラーメゾティント（ア・ラ・ブペ）、22.5×36.0 cm

購入

G.2004-23

ウジェーヌ・カリエール

《オーギュスト・ロダン》1897年

リトグラフ、厚手のアルシュ紙にシンコレ、53.2×34.8 cm（画寸）

購入

G.2004-24

オディロン・ルドン

《キリスト》1887年

リトグラフ、チャイナ紙、33.0×27.0 cm

購入

G.2004-25

アンリ＝ジャン＝ギヨーム・マルタン

《荊冠を被った女（沈黙）》1897年

多色刷りリトグラフ、チャイナ紙、49.0×32.3 cm

購入

G.2004-26

ケーテ・コルヴィッツ

《蜂起（連作＜農民戦争＞）の第5葉》1902-03年

エッチング、ドライポイント、アクアティント、布を用いたソフトグラウンド・エッチング、40.8×53.0 cm

購入

G.2004-27

バルトロメオ・コリオラーノ

《平和と豊饒の寓意（グイド・レーニの原画）》1642年

キアロスクーロ木版、21.3×15.2 cm

ヘルムート・H. ルンブラー氏より寄贈

G.2004-28

アルブレヒト・アルトドルファー

《人類の墮罪と、キリストの生涯と受難によるその救済（23）むち打ち》1513年頃

木版、7.2×4.8 cm

有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-29

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《ヘラクレスとカクス》1545年

エングレーヴィング、5.0×7.2 cm

有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-30

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《聖ペテロと聖パウロ》1520年

エングレーヴィング、6.2×4.5 cm

有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-31

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《聖バルトロマイと聖マルティヌス》1520年

エングレーヴィング、6.2×4.5 cm

有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-32

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《キリストとサマリアの女》1520年

エングレーヴィング、3.8×7.9 cm

有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-33

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《子供と三つの頭蓋骨》

エングレーヴィング、4.3×5.6 cm

有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-34

ハンス・ゼーバルト・ベーハム

《文法》

エングレーヴィング、8.9×5.5 cm

有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-35

ゲオルグ・ペンツ

《水をワインに変えるキリスト》

エングレーヴィング、3.5×5.8 cm

有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-36

サルヴァトーレ・カスティリオーネ（?）

《ラザロの復活》1645年

エッチング、10.8×20.9 cm

有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-37

作者不詳（ジョヴァンニ・ベネデット・カスティリオーネの原画）

《正直者を探すディオゲネス》

エッチング、18.4×13.7 cm

有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-38

ジョヴァンニ・ベネデット・カステリオーネ
《羽根を差した毛皮帽とスカーフを身につける男》
エッチング、18.0×14.9 cm
有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-39

ジョヴァンニ・ベネデット・カステリオーネ
《頭飾りと毛皮帽を身につけ右を向く髭の長い男》
エッチング、18.4×13.7 cm
有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-40

ニコラース・ベルヘム
《啼く羊》
エッチング、10.1×11.2 cm
有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-41

ニコラース・ベルヘム
《二匹の羊》
エッチング、10.2×12.8 cm
有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-42

カレル・デュジャルディン
《二頭のロバ》
エッチング、14.7×13.1 cm
有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-43

カレル・デュジャルディン
《眠る三匹の豚》
エッチング、14.8×13.2 cm
有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-44

カレル・デュジャルディン
《眠る犬》
エッチング、15.0×13.3 cm
有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-45

エサイアス・ファン・ド・フェルド
《風景》
エッチング、8.0×16.8 cm
有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-46

エルンスト・バルラッハ

《母と子》1914年

ジンコグラフ、36.5×25.0 cm (画寸)、47.3×31.8 cm (紙寸)
有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-47

リュック・オリヴィエ・メルソン
《ユディット》
リトグラフ、手彩色、34.5×19.0 cm (画寸)、40.5×30.5 cm (紙寸)
有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-48

エルベール・レスピナス
《沖合の停泊地》1956年
木口木版、25.2×33.0 cm
有限会社ガレリア・グラフィカより寄贈

G.2004-49

エティエンヌ・カルジャ
《ドーミエの肖像》1860年頃
リトグラフ、29.0×22.6 cm
東武鉄道株式会社より寄贈

G.2004-50

ジュール・ルトゥーラ
《ドーミエの肖像》1888年頃?
リトグラフ、21.0×18.0 cm
東武鉄道株式会社より寄贈

L.2004-1

マックス・クリンガー
《アモールとプシュケー》1881年
エッチング、36.0×27.0 cm (書籍の寸法)
購入

L.2004-2

藤田嗣治
《お梅さんの第三の春》1926年
ソフト・グラウンド・エッチング、アクアティント、ヴェラム紙、22.0×27.0 cm (書籍の寸法)
購入

保存修復

P.1959-133

アンリ・ジャン＝ギョーム・マルタン
《ヴェネツィアの大運河》
油彩、厚紙、64.7×62.6 cm

P.1959-115

エルネスト・ローラン

《しゃくやく》

油彩、カンヴァス、46.0×55.0 cm

P.1991-5

アンドレ・ドラン

《果物》

油彩、カンヴァス、64.8×89.5 cm

S.2001-2

レオナルド・ビストルフィ

《ドゥリオ家のための墓碑：思い出によって癒される悲しみ》

地山装飾2部、大理石、245.0×509.0×130.0 cm

展覧会

2004-1

「聖杯—中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」

会期：平成16年6月29日～8月15日

主催：国立西洋美術館、ザクセン・プロテスタント教会、ザクセン・プロテスタント教会文化財団、財団法人西洋美術振興財団

出品内容：版画12点（参考作品）、工芸63点

観覧者数：37,329人

2004-2

【Fun with Collection】

「建築探検—ぐるぐるめぐるル・コルビュジェの美術館」

会期：平成16年6月29日～9月5日

主催：国立西洋美術館

2004-3

「マティス展」

会期：平成16年9月10日～12月12日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション

出品内容：絵画54点、水彩・素描51点、版画5点、彫刻11点、その他31点

観覧者数：451,105

2004-4

【版画素描展示室】

「オランダ・マニエリスム版画展」

会期：平成16年9月10日～12月12日

主催：国立西洋美術館

出品内容：版画37点

2004-5

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—光と闇の世界」

会期：平成17年3月8日～5月29日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社

出品内容：絵画29点、素描2点、版画3点

観覧者数：245,064人

2004-6

「マックス・クリンガー版画展：『イヴと未来』『ある生涯』『ある愛』」

会期：平成17年3月8日～5月29日

主催：国立西洋美術館

出品内容：版画31点

教育普及

1) 講演会

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証—古代ローマ人と肖像」

第4回 平成16年4月24日

「ローマの家族生活」

小池和子（東京大学西洋古典学研究室）

「聖杯—中世の金工美術」

第1回 平成16年6月29日

「中世の金細工師と展示作品について」

ヨハン・ミヒャエル・フリッツ（前ハイデルベルク大学教授）

「ザクセン・プロテスタント教会の美術文化財」

ベッティーナ・ザイデルヘルム（ザクセン・プロテスタント教会美術文化財監督）

第2回 平成16年7月17日

「タシロの聖杯—中世美術史学の森へ」

越宏一（東京藝術大学教授）

第3回 平成16年7月31日

「中世末期から初期近世にかけての典礼と聖杯」

江藤直純（ルーテル学院大学教授／日本ルーテル神学校校長）

「Fun with Collection 建築探検—ぐるぐるめぐるル・コルビュジェの美術館」

第1回 平成16年7月24日

「国立西洋美術館が建った頃」

藤木忠善（建築家／東京藝術大学名誉教授）

高階秀爾（大原美術館館長／*元館長）

第2回 平成16年8月21日 東京都美術館講堂

「ル・コルビュジェと私」

安藤忠雄（建築家／東京大学名誉教授）

〔マティス展〕

第1回 平成16年9月11日

「マティスの色彩」

イザベル・モノ＝フォンテース（ボンビドゥーセンター・国立近代美術館副館長）

第2回 平成16年10月16日

「アンリ・マティス、プロセスとヴァリエーション」

天野知香（お茶の水女子大学助教授）

第3回 平成16年11月13日

「マティスの彫刻におけるプロセス」

田中正之（*主任研究官）

第4回 平成16年12月4日

「マティスのデッサンをめぐって」

関直子（東京都現代美術館学芸員）

〔ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—光と闇の世界〕

第1回 平成17年3月8日

「90歳の若い画家ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—再発見の軌跡と最近の研究動向について」

ジャン・ピエール・キュザン（元ルーヴル美術館絵画部長）、田中英道（東北大学教授）

第2回 平成17年3月19日

「17世紀ヨーロッパ世界とラ・トゥールの芸術」

樺山紘一（*前館長）

2) ギャラリートーク

「聖杯—中世の金工美術」

実施日：平成16年7月16日・30日、8月6日・13日

「Fun with Collection 建築探険—ぐるぐるめぐるル・コルビュジェの美術館」

実施期間：平成16年6月29日～9月5日

3) スライド・トーク

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証—古代ローマ人と肖像」

実施日：平成16年4月2日・16日・30日、5月7日・5月21日

「マティス」

実施日：平成16年9月24日、10月8日・22日、11月5日・12日・26日

4) 先生のための観賞プログラム

「Fun with Collection 建築探険—ぐるぐるめぐるル・コルビュジェの美術館」

実施日：平成16年7月2日

「聖杯—中世の金工美術」

実施日：平成16年7月9日

「マティス」

実施日：平成16年9月17日

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—光と闇の世界」

実施日：平成17年3月25日

5) 創作・体験プログラム

「Fun with Collection 建築探険—ぐるぐるめぐるル・コルビュジェの美術館」

「ガイドツアー」

対象：高校生以上

実施日：平成16年7月11日 藤木忠善（建築家／東京藝術大学名誉教授）

実施日：平成16年7月18日 藤森照信（建築家／東京大学教授）

実施日：平成16年8月1日 松隈洋（京都工芸繊維大学助教授）

実施日：平成16年8月8日 岡部憲明（建築家／神戸芸術工科大学教授）

対象：小学4年生～中学生

実施日：平成16年8月3日、8月17日

「カラダで感じる美術館—モデュールで測る—」

実施日：平成16年7月27日

講師：鈴木明（建築家／神戸芸術工科大学教授）

「着せ替えドミノ」(2回)

実施日：平成16年8月6日・7日

講師：T*O（タカマヨシコ・おくやめぐみ）

「頭でっかちフォトハット：かぶりもので創造・想像するセイビ」

実施日：平成16年8月22日

講師：T*O（タカマヨシコ・おくやめぐみ）

6) ファミリープログラム

「びじゅつ—」(6回)

実施日：平成16年11月13日・27日、12月11日・25日、平成17年1月8日・22日

「どうぶじゅつ：おもいで風景」(8回)

実施日：平成17年2月12日・26日、3月12日・26日

7) レクチャー・コンサート

「聖杯—中世の金工美術」

実施日：平成16年7月23日

「グレゴリオ聖歌とドイツ・コラールの連続性」

企画・進行：瀧井敬子（東京藝術大学演奏芸術センター助手）

演奏：杉木峯夫（トランペット／東京藝術大学教授）、東京藝術大学有志（合唱）

8) インターンシップ

「教育普及室」

前期：平成16年4月1日～9月30日

指導：寺島洋子・藤田千織

課題：①ギャラリートークの実態調査

「Fun with Collection 建物探険—ぐるぐるめぐる

ル・コルビュジエの美術館」において実施

②「Fun with Collection 建物探検—ぐるぐるめぐ
るル・コルビュジエの美術館」関連プログラムの補助
インターン：大西景子、奥本素子、寺村奈津子、
長井理佐、茨田美緒、光岡寿郎、森住香織、
吉田公子

後期：平成16年10月1日～平成17年3月31日

課題：①「びじゅつーる」の改善調査

2003年度に制作された4つの「びじゅつーる」（観賞
用教材）について、改善調査を実施

インターン：大西景子、大村都、黄姍暲、寺村奈津子、
茨田美緒、吉田公子

情報資料

平成17年3月

ALC(Art Libraries' Consortiumの略)美術図書館横
断検索へ参加

国立美術館4館の共同事業として独立行政法人国立
美術館所蔵作品総合目録検索システム（試行版）公開

この年度の数字

収入・支出

収入予算：929,570千円

支出予算：929,570千円

開館日数：309日

平常展示：109日（平常展示のみ）

特別展：200日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：999,917人（1日平均3,236人）

平常展示：354,816人（1日平均1,142人）

特別展：645,101人（1日平均3,226人）

所蔵作品数：4,405点

2005 6

平成17年度

主要記事

平成17年

- 4月1日 館長に青柳正規が就任
- 4月22日 皇后陛下、「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—光と闇の世界」展御観覧のため御来館
- 5月1日 副館長に金口恭久が就任
- 5月12日 紀宮清子内親王殿下、「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—光と闇の世界」展御観覧のため御来館
- 5月22日 皇太子殿下、「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—光と闇の世界」展御観覧のため御来館
- 5月29日 「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—光と闇の世界」展終了
- 6月8日 第1回美術作品購入選考委員会、評価員会開催
絵画1点、版画9点の購入を決定
- 6月27日 「ドレスデン国立美術館展「世界の鏡」」開会式
- 7月1日 「いろいろメガネPart1—あなたの見かた教えてください」開催
- 7月19日 第6回独立行政法人国立美術館国立西洋美術館評議員会開催
- 7月22日 皇太子殿下、「ドレスデン国立美術館展「世界の鏡」」御観覧のため御来館
- 9月19日 「ドレスデン国立美術館展「世界の鏡」」終了
- 10月7日 「キアロスクーロールネサンスとバロックの多色木版画」展開会式
- 10月8日 「《ローマの景観》：ピラネージのまなざし」展開催
- 11月25日 版画素描収蔵庫へ版画素描閲覧室を併設
- 11月29日 「Museum X'mas in 国立西洋美術館」実施期間は11月29日から翌年1月9日まで
- 12月11日 「キアロスクーロールネサンスとバロックの

多色木版画」展終了

平成18年

- 1月2日 「美術館へ行こう～A Day in the Museum」実施
- 1月11日 第2回美術作品購入選考委員会、評価員会開催
絵画6点、版画8点の購入を決定
- 2月1日 「いろいろメガネPart2—みんなの見かた紹介します」開催
- 2月13日 本館身障者便所改修工事竣工
- 3月6日 「ロダンとカリエール」展開会式
- 3月7日 「芸術家とアトリエ」展開催

新収作品

P.2005-1

ボール・ランソン

《ジギタリス》1899年

デトランプ、カンヴァス、150×70 cm

購入

P.2005-2

ピーテル・ブリューゲル（子）

《鳥罟のある冬景色》

油彩、板、40.6×56.8 cm

購入

P.2005-3

フランチェスコ・ボッティチーニ

《聖ニコラウスと聖カタリナ、聖ルチア、聖マルゲリータ、聖アポローニア》

テンペラ、板（ベニヤに移し換え）、115×122.5 cm

購入

P.2005-4

ボニファーチョ・デ・ピターティ、通称ボニファーチョ・ヴェロネーゼ

《聖家族、トビアスと大天使、聖ドロテアと幼い洗礼者聖ヨハネ》

油彩、カンヴァス、114.5×152.5 cm

購入

P.2005-5

シモン・ヴァエに帰属

《アレクサンドリアの聖カタリナ》

油彩、カンヴァス、98×77.5 cm

購入

P.2005-6

ヤーコブ・ヨルダーンス

《聖家族》1620年頃

油彩、カンヴァス、116×76 cm

購入

P.2005-7

ギュスターヴ・ドレ

《ラ・シエスタ：スペインの思い出》1868年頃

油彩、カンヴァス、278.1×191.8 cm

購入

P.2005-8

アードリアン・イーゼンブラントに帰属

《王座の聖母子》

油彩、板、35.0×35.1 cm

エムアンドアイアートシステム株式会社より寄贈

P.2005-9

ジョヴァン・アントニオ・ペッレグリーニに帰属

《アレクサンドリアの聖カタリナ》

油彩、カンヴァス、99×72 cm

エムアンドアイアートシステム株式会社より寄贈

D.2005-1

アレクサンドル・ガブリエル・ドゥカン

《法学者に囲まれたキリスト》1833年頃

紙に透明水彩、グワッシュ、38.0×48.3 cm

エムアンドアイアートシステム株式会社より寄贈

G.2005-1

ケーテ・コルヴィッツ

《耕す者（連作〈農民戦争〉の第1葉）》1907年

エッチング、ドライポイント、アクアティント、ソフトグ

ラウンド、エッチング、31.5×45.4 cm

購入

G.2005-2

ケーテ・コルヴィッツ

《刃を研ぐ者（連作〈農民戦争〉の第3葉）》1905年
（1908年の刷り）

エッチング、ドライポイント、アクアティント、ソフトグ

ラウンド、エッチング、29.7×29.7 cm

購入

G.2005-3

ジョルジュ・ブラック

《小さなキュビズムのギター（テーブルの上のギター）

1909-10年（1954年のマージによる刷り）

エッチング、13.0×19.5 cm

購入

G.2005-4

アルブレヒト・デューラー

《最後の晩餐》1523年

木版、21.4×30.0 cm

購入

G.2005-5

アルブレヒト・デューラー

《博士の夢》1498年

エングレーヴィング、18.8×11.9 cm

購入

G.2005-6

ピーダ・イルステズ

《お客を待ちながら》1911年

カラー・メゾチント（ア・ラ・プベ）、33.5×38.7 cm

購入

G.2005-7

ピーダ・イルステズ

《白い椅子》1915年

カラー・メゾチント（ア・ラ・プベ）、43.0×32.5 cm

購入

G.2005-8

ドメニコ・ベッカフーミ

《ふたりの男》1537年頃

エッチング、エングレーヴィング、27.2×17.0 cm

購入

G.2005-9

ステーファノ・デッラ・ベッラ

《クローヴィスとクロティルド》1650年頃

エッチング、29.7×21.4 cm

購入

G.2005-10

マリー・ローランサン

《イフィジェニー、あるいは3人の踊り子》1914年

エッチング

内藤満枝氏より寄贈

G.2005-11/18

フェルディナント・オリヴィエ

〈ザルツブルグとベルヒテスガーデンの7つの地方 一週
間の7日に合わせて（全9点のうち8点）

1818-28年

リトグラフ、各19.3-27.5×26.8-37.5 cm（画寸）、37.2
×53.4 cm（紙寸）

購入

G.2005-19

ルイ・リーガル

《現代産業装飾芸術国際博覧会、記念ディプロム》

1925年

エッチング、42.0×60.0 cm (画寸)、53.8×74.3 cm (紙寸)

久我太郎氏より寄贈

保存修復

P.1978-7

ロヒール・ファン・デル・ウェイデン派

《ある男の肖像》

油彩、板、33.0×21.5 cm

P.1996-2

ピエール・ボナール

《花》

油彩、カンヴァス、67.0×38.0 cm

P.1965-1

ロジェ・ビシエール

《花を持つ婦人》

油彩、カンヴァス、124.5×54.0 cm

P.2001-3

フランク・ブラングイン

《しけの日》

油彩、カンヴァス、98.0×124.0 cm

P.1959-39

シャルル・コッテ

《悲嘆、海の犠牲者》

油彩、カンヴァス、263.0×347.0 cm

S.2001-2

レオナルド・ピストルフィ

《ドゥリオ家のための墓碑：思い出によって癒される悲しみ》

大理石、245.0×509.0×130.0 cm

展覧会

2005-1

「ドレスデン国立美術館展 [世界の鏡]」

会期：平成17年6月28日～9月19日

主催：国立西洋美術館、日本経済新聞社

出品内容：絵画44点、彫刻3点、素描9点、版画27点、
工芸54点、その他97点

観覧者数：286,330人

2005-2

【Fun with Collection】

「いろいろメガネPart1—あなたの見かた教えてください」

会期：平成17年7月1日～12月27日

油彩：国立西洋美術館

2005-3

「キアロスクーロールネサンスとバロックの多色木版画」

会期：平成17年10月8日～12月11日

主催：国立西洋美術館、クストディア財団、財団法人
西洋美術振興財団

出品内容：版画83点

観覧者数：30,176人

2005-4

【版画素描展示室】

「《ローマの景観》：ピラネージのまなざし」

会期：平成17年10月8日～12月11日

主催：国立西洋美術館

出品内容：版画45点

2005-5

【Fun with Collection】

「いろいろメガネPart2—みんなの見かた紹介します」

会期：平成18年2月1日～9月3日

主催：国立西洋美術館

2005-6

「ロダンとカリエール」

会期：平成18年3月7日～6月4日

主催：国立西洋美術館、毎日新聞社、TBS

出品内容：絵画38点、素描26点、版画11点、彫刻
54点、その他7点

観覧者数：106,128人

巡回先：オルセー美術館(平成18年7月10日～10月1日)

2005-7

【版画素描展示室】

「芸術家とアトリエ」

会期：平成18年3月7日～6月4日

主催：国立西洋美術館

教育普及

1) Fun with Collection いろいろメガネ
Part1—あなたの見かた教えてください

「あなたがつづるこの1点」

応募期間・応募数：平成17年7月1日～10月31日／
433点

公開発表：当館常設展示室とホームページ

(平成18年1月～8月)

審査員：内館牧子(脚本家)／みうらじゅん(イラストレーター)／青柳正規(＊館長)

「みうらじゅんの大講評会」

講師：みうらじゅん(イラストレーター)

実施日：平成17年12月3日

「君の名は？—あなたも作品の名づけ親」

実施期間：平成17年7月1日～平成18年5月28日

「感じたままに詠んでみよう！—セイビ de ハ・イク(俳句)」2回

進行：ゴウヤスノリ(ワークショップ・プランナー)

実施日：平成17年7月24日(午前・午後)

「国立西洋美術館いいとこ撮り—子ども撮影隊が行く!」

進行：山本良子(映像制作)4日間プログラム

実施日：平成17年7月30日・31日、8月1日・7日

「集まれ!こども審査員—お気に入りの賞をつけよう!」

進行：ゴウヤスノリ(ワークショップ・プランナー)

実施日：平成17年8月9日

「ファインダー越しの美術館—自分だけの写真集を作ろう」2日間プログラム

講師：中島古英(フォトグラファー)

実施日：平成17年8月20日・21日

「日曜日の美術館—私のメガネで見えます?」4回

平成17年9月18日 高畑勲(アニメーション映画監督)

平成17年10月2日 林英哲(太鼓奏者)

平成17年10月16日 舟田詠子(東海大学非常勤講師)

平成17年11月6日 森英恵(ファッション・デザイナー)

「美術館のクリスマス」

進行：ボランティア・スタッフ

実施日：平成17年12月17日・18日 4回

「クリスマス・キャロル」

企画・進行：岡伊陽子、小島里枝子、二宮由希(東京藝術大学大学院)

合唱：東京藝術大学声楽科有志

実施日：平成17年12月17日・18日 4回

「サンタクロースの物語」

講師：葛野浩昭(聖心女子大学助教授)

実施日：平成17年12月23日 1回

2)特別展関連プログラム

□講演会

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—光と闇の世界」

第3回 平成17年4月2日

「アトリビュートから読み解く、ラ・トゥール作『聖トマス』」

木村三郎(日本大学教授)

第4回 平成17年4月23日

「私とラ・トゥール『夜の画家』研究ノート」

田中英道(東北大学教授)

第5回 平成17年4月30日

「ラ・トゥールとロレーヌ公国の美術」

大野芳村(青山学院女子短期大学教授)

第6回 平成17年5月7日

「見えないものを描く—17世紀フランス思想とジョルジュ・ド・ラ・トゥールの作品世界」

塩川徹也(東京大学教授)

第7回 平成17年5月21日

「ラ・トゥールの光と闇—ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展解題」

高橋明也(＊主任研究官)

「ドレスデン国立美術館展—世界の鏡」

第1回 平成17年7月3日

「ビルニッツ城保管の日本製輸出漆器」

加藤寛(東京国立文化財研究所修復技術部長)

第2回 平成17年7月24日

「ヨーロッパにとってのトルコ—歴史的文脈から」

新井政美(東京外国語大学教授)

第3回 平成17年8月14日

「ヨーロッパ近世科学機器と日本・中国への伝播」

中村士(国立天文台助教授)

第4回 平成17年9月11日

「ドレスデン「世界の鏡」：展覧会のコンセプト」

佐藤直樹(＊主任研究官)

「キアロスクーロールネサンスとバロックの多色木版画
フリッツ・ルフト・コレクションの所蔵作品による」

第1回 平成17年10月15日

「ドイツのキアロスクーロ木版画」

保井重弓(金沢美術工芸大学助教授)

第2回 平成17年10月29日

「オランダのキアロスクーロ木版画—ホルツィウスを中心に」

幸福輝(＊学芸課長)

第3回 平成17年11月12日

「キアロスクーロ木版画の技法を推理する」

柄澤齋(版画家)

第4回平成17年11月26日

「イタリアのキアロスクーロ木版画」

渡邊晋輔(＊研究員)

〔ロダンとカリエール〕

第1回 平成18年3月7日

「ロダンと『偉大なる芸術家のアトリエ』」

アントワネット・ル・ノルマン＝ロマン

(パリ、ロダン美術館主任学芸員)

「19世紀フランスにおけるロダンとカリエール」

エマニュエル・エラン (パリ、オルセー美術館学芸員)

□ギャラリートーク・スライドトーク

〔ジョルジュ・ド・ラ・トゥール—光と闇の世界〕

実施日：平成17年4月1日・15日・29日、5月13日・20日

スライドトーク：大谷公美 (慶應義塾大学大学院博士課程)

〔ドレスデン国立美術館展—世界の鏡〕

実施日：平成17年7月8日・22日、8月5日・19日、9月2日・16日

スライドトーク：落合桃子 (早稲田大学大学院博士課程)

〔キアロスクーロールネサンスとバロックの多色木版画〕

実施日：平成17年10月14日・28日、11月11日・25日、12月2日

ギャラリートーク：渡邊晋輔 (*研究員)

〔ロダンとカリエール〕

実施日：平成18年3月24日

スライドトーク：近藤真彰 (駒澤大学非常勤講師)

□コンサート

「ラ・トゥールの聴いた響きをもとめて」

実施日：平成17年5月12日・14日・15日

企画協力：大橋マリ、富田三紀子

制作：アンフィニ

演奏：ル・ポエム・アルモニーク (仏の古楽アンサンブル)

「オスマン・トルコへの恐怖と憧憬—帝国拡張がもたらした音楽文化の多様性」

実施日：平成17年9月9日

企画・トーク：瀧井敬子 (東京藝術大学演奏芸術センター助手)

特別ゲスト：斉藤完 (トルコ音楽研究家)

演奏：FUJI (サズ)、立岩潤三 (ダルブッカ)、東京藝術大学有志

ベリーダンス：Nenuphar、Yumi

3) ファミリープログラム

□びじゅつ—る

対象：6～10歳の子どもの同伴の大人

貸出日：平成17年4月9日・23日、5月14日・28日、9月10日・24日、10月8日・22日、11月12日・26日、平成18年3月11日・25日

□どようびじゅつ

「暑中お見舞い申し上げます」

対象：6～10歳の子どもの同伴の大人

実施日：平成17年7月9日・23日、8月13日・27日

「キラキラ色のヒミツ」

対象：6～10歳の子どもの同伴の大人

実施日：平成18年2月11日、25日

4) 学校関連プログラム

□スクール・ギャラリートーク

平成17年度：1214名 (41件)

□先生のための観賞プログラム

「ドレスデン国立美術館展〔世界の鏡〕」

実施日：平成17年7月15日

講師：佐藤直樹 (*主任研究官)

「キアロスクーロールネサンスとバロックの多色木版画」

実施日：平成17年10月21日

講師：渡邊晋輔 (*研究員)

「ロダンとカリエール」

実施日：平成18年3月17日

講師：大屋美那 (*主任研究官)

5) インターンシップ

〔教育普及室〕

インターン：海老名熱実、斉藤佳代

期間：平成17年5月1日～10月31日

指導：寺島洋子・藤田千織

内容：①ジュニア・パスポートの改善調査とキアロスクーロ展のジュニア・パスポート作成

②Fun with Collection「いろいろメガネPart1」関連プログラムの補助

情報資料

収蔵作品管理システム「Artize MA」導入

この年度の数字

収入・支出

収入予算：887,748千円

支出予算：887,748千円

開館日数：294日

平常展示：90日 (平常展示のみ)

特別展：204日 (特別展・平常展示のみ)

観覧者数：824,336人 (1日平均2,804人)

平常展示：295,178人 (1日平均1,244人)

特別展：529,158人 (1日平均2,594人)

所蔵作品数：4,434点

2006 7

平成18年度

主要記事

平成18年

- 4月1日 東京藝術大学及び東京国立博物館と物品の共同契約を実施
- 4月18日 観覧券販売にクレジットカード決済を導入
- 4月29日 「ウエル.com美術館」映像ガイド一般向けデモンストレーション実施
期間は7月10日から10月1日まで
- 6月4日 「ロダンとカリエール」展終了
- 6月16日 第1回美術作品購入選考委員会、評価員会開催
絵画1点、版画10点、書籍2点の購入を決定
- 7月10日 第7回独立行政法人国立美術館国立西洋美術館評議員会開催
- 7月10日 「ロダンとカリエール」展がオルセー美術館に巡回
会期は7月10日から10月1日まで
- 7月18日 本館の創建経緯に関する資料調査を開始
(社団法人日本建築学会に委嘱、9月に「国立西洋美術館資料調査ワーキンググループ」を設置)
- 9月11日 「ベルギー王立美術館展」開会式
常陸宮同妃両殿下御臨席・御観覧
- 9月12日 「フランク・ブラングイン版画展」開催
- 9月26日 本館デジタルギャラリー撤去
- 11月3日 「ウエル.com美術館」サービス・トライアル及び映像ガイド・オンデマンド印刷サービス運用実験の実施
期間は11月3日から11月19日まで
- 12月1日 「Museum X'mas in 国立西洋美術館」実施
期間は12月1日から翌年1月8日まで
- 12月6日 皇太子同妃両殿下「ベルギー王立美術館

展」御観覧のため御来館

12月10日 「ベルギー王立美術館展」終了

平成19年

- 1月2日 「美術館へ行こう～A Day in the Museum」実施
- 1月18日 第2回美術作品購入選考委員会、評価員会開催
絵画3点、版画47点、素描1点の購入を決定
- 2月13日 本館休憩コーナー設置
- 3月5日 「イタリア・ルネサンスの版画―チューリッヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による」展開会式
- 3月6日 19世紀ホールの彫刻に地震対策として新しい台座と簡易免震滑り板を設置
- 3月6日 「平成14-18年度新収蔵版画作品展」開催
- 3月31日 本館建造物に関する調査資料を作成

新収作品

P.2006-1

ホーファールト・フリント

《キリスト哀悼》1637年

油彩、カンヴァス、90.1×71.9 cm

購入

P.2006-2

ジャン＝ヴィクトール・ベルタン

《イタリア風景》1812年

油彩、カンヴァス、75×109 cm

購入

P.2006-3

ジャン＝ヴィクトール・ベルタン

《ギリシアの風景》1812年

油彩、カンヴァス、75×109 cm

購入

P.2006-4

ビーダ・イルステズ

《イーダの肖像》1889年頃

油彩、カンヴァス、23.2×18.5 cm

購入

D.2006-1

ビーダ・イルステズ

《縫い物をするイーダ》1889年頃

鉛筆、紙、18.7×14.7 cm

購入

D.2006-2

フェリックス・レガメー

《日本の日常生活について講演するレガメー》

1891年頃

グワッシュ、紙

高橋明也氏より寄贈

G.2006-1

ピーダ・イルステズ

《半円形のテーブルの若い女性》1909年頃

カラー・メゾティント（ア・ラ・ブベ）、15.8×19.8 cm

購入

G.2006-2

ピーダ・イルステズ

《フォルスターの風景》1930年ごろ

カラー・メゾティント、25.1×28.5 cm

購入

G.2006-3

ピーダ・イルステズ

《青い食器棚》1924年

カラー・メゾティント（ア・ラ・ブベ）、43.0×31.8 cm

購入

G.2006-4

ピーダ・イルステズ

《遊ぶ二人の少女》1911年

カラー・メゾティント（ア・ラ・ブベ）、47.0×44.5 cm

購入

G.2006-5

ステーファノ・デッラ・ベッラ

《カルロ・カントゥ》1646年

エッチング、エングレーヴィング、24.6×19.0 cm

購入

G.2006-6

マルティン・ショーンガウアー

《受難伝（4）：キリストの鞭打ち》1475年頃

エングレーヴィング、16.0×11.3 cm

購入

G.2006-7

バルトロメオ・コリオラーノ

《ユピテルの雷電に押し潰される巨人族（上部）》

1647年

キアロスクーロ木版、43.5×61.0 cm（画寸）、47.0×64.5 cm（紙寸）

購入

G.2006-8

バルトロメオ・コリオラーノ

《ユピテルの雷電に押し潰される巨人族（下部）》1647年
キアロスクーロ木版、43.5×61.0 cm（画寸）、46.5×64.5 cm（紙寸）

購入

G.2006-9

フィレンツェ派

《荒野の聖ヒエロニムス》

エングレーヴィング、21.4×17.0 cm

購入

G.2006-10

ジョルジュ・ブラック

《コンポジション（コップのある静物）》

1912年（1950年のマーグによる刷り）

エッチング、34.5×21.0 cm（画寸）、56.5×38.0 cm（紙寸）

購入

G.2006-11

イスラエル・ファン・メッケネム

《寺院の少年キリスト》1490-1500年頃

エングレーヴィング、26.8×18.5 cm

購入

G.2006-12

ゲオルグ・ペンツ

《ザクセン選帝侯ヨハン・フリードリヒ寛大公》

エングレーヴィング、40.5×31.0 cm

購入

G.2006-13

ハンス・ラウテンザック

《風景》1554年

エッチング、16.6×11.8 cm

購入

G.2006-14

マルカントニオ・ライモンディ

《クオス・エゴ（波を鎮める鎮めるネプトゥス）》

1515-16年

エングレーヴィング、42.6×32.7 cm

購入

G.2006-15

マルコ・デンテ

《ばらの棘に傷つくウェヌス》

エングレーヴィング、29.1×19.5 cm

購入

G.2006-16

サイコロ印の版画家

《足の裏からとげを抜くウエヌス》1532年

エングレーヴィング、19.2×16.7 cm

購入

G.2006-17

モノグラミストM

《虚栄と死》

エングレーヴィング、36.1×25.3 cm

購入

G.2006-18

ジョヴァンニ・ブリット

《乳搾りの女のいる風景》1525年頃

木版、38.0×53.7 cm

購入

G.2006-19

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『死』より

《第1葉：トランペットをもち馬に乗る死》1648年

エッチング、19.1×15.1 cm (版寸)、30.8×21.5 cm (紙寸)

購入

G.2006-20

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『死』より

《第5葉：老人を墓に連れ込む死》1648年

エッチング、ピュラン仕上げ、18.7×15.3 cm (版寸)、

19.8×15.7 cm (紙寸)

購入

G.2006-21

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第1葉：タイトル『素描の法則』》1641年

エッチング、13.0×15.9 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-22

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第2葉：目、鼻、口の7つの習作》1641年

エッチング、12.7×15.7 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-23

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第3葉：3つの耳と2つの口の習作》1641年

エッチング、12.7×15.7 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-24

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第4葉：4つの手の習作》1641年

エッチング、11.8×15.4 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-25

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第5葉：5つの手の習作》1641年

エッチング、12.8×15.8 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-26

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第6葉：5つの足の習作》1641年

エッチング、12.3×15.4 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-27

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第7葉：4つの足の習作》1641年

エッチング、12.5×15.6 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-28

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第8葉：2段階の兵士の横顔習作》1641年

エッチング、12.0×15.5 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-29

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第9葉：老人と若者、幼児の頭部習作》1641年

エッチング、11.9×15.3 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-30

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第10葉：ふたりの兵士の頭部習作》1641年

エッチング、11.9×15.4 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-31

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第11葉：女性の横顔の習作》1641年

エッチング、11.5×15.0 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-32

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第12葉：幼児の頭部習作》1641年

エッチング、12.2×15.6 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-33

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第13葉：若者の頭部習作》1641年

エッチング、11.9×15.0 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-34

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第14葉：帽子をかぶった若者の頭部》1641年

エッチング、11.8×15.2 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-35

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第15葉：兵士の頭部習作》1641年

エッチング、11.9×15.2 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-36

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第16葉：老人の頭部習作 (聖ペテロ?)》1641年

エッチング、11.9×15.3 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-37

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第17葉：老人の頭部習作 (聖ペテロ?)》1641年

エッチング、12.3×14.9 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-38

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第18葉：老人の頭部習作 (聖ペテロ?)》1641年

エッチング、11.6×15.1 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-39

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第19葉：老人の頭部習作 (聖ペテロ?)》1641年

エッチング、12.0×14.7 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-40

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第20葉：月桂冠をかぶった老人の頭部習作 (ホメロス?)》1641年

エッチング、12.1×14.7 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-41

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第21葉：ターバンをかぶった男性の頭部習作》
1641年

エッチング、11.8×15.3 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-42

ステーフアノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第22葉：月桂冠をかぶった老人の頭部習作 (ホメロス?)》1641年

エッチング、11.8×15.0 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-43

ステーファノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第23葉：ターバンをかぶった男性の頭部習作》

1641年

エッチング、12.9×16.1 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-44

ステーファノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第24葉：叫ぶ兵士の頭部習作》 1641年

エッチング、12.1×15.4 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-45

ステーファノ・デッラ・ベッラ

連作『素描の法則』より

《第25葉：若者の頭部習作》 1641年

エッチング、12.9×15.6 cm (版寸)、19.0×29.1 cm (紙寸)

購入

G.2006-46

ステーファノ・デッラ・ベッラ

連作『戦争と平和のためのいくつかの素描』より

《第1葉：表紙葉・要塞の城門》 1641年

エッチング、10.8×25.3 cm (版寸)、23.0×33.8 cm (紙寸)

購入

G.2006-47

ステーファノ・デッラ・ベッラ

連作『戦争と平和のためのいくつかの素描』より

《第2葉：大砲の運搬》 1641年

エッチング、11.1×25.3 cm (版寸)、23.1×34.7 cm (紙寸)

購入

G.2006-48

ステーファノ・デッラ・ベッラ

連作『戦争と平和のためのいくつかの素描』より

《第3葉：大砲の運搬》 1641年

エッチング、11.1×25.3 cm (版寸)、23.1×34.7 cm (紙寸)

購入

G.2006-49

ステーファノ・デッラ・ベッラ

連作『戦争と平和のためのいくつかの素描』より

《第4葉：騎兵隊の戦闘》 1641年

エッチング、10.8×25.1 cm (版寸)、23.2×34.7 cm (紙寸)

購入

G.2006-50

ステーファノ・デッラ・ベッラ

連作『戦争と平和のためのいくつかの素描』より

《第5葉：海戦》 1641年

エッチング、11.1×25.3 cm (版寸)、22.7×34.8 cm (紙寸)

購入

G.2006-51

ステーファノ・デッラ・ベッラ

連作『戦争と平和のためのいくつかの素描』より

《第6葉：海戦》 1641年

エッチング、11.1×25.3 cm (版寸)、23.5×34.5 cm (紙寸)

購入

G.2006-52

ピーダ・イルステズ

《縫い物をする少女》 1910年

メゾティント、紙、16.5×12.6 cm

購入

G.2006-53

ピーダ・イルステズ

《縫い物をする少女》 1910年

メゾティント、シルク、16.5×12.6 cm

購入

G.2006-54

ピーダ・イルステズ

《朝のコーヒー》 1899年

エッチング、和紙、18.5×14.8 cm (画寸)、21.8×

17.8 cm (版寸)

購入

G.2006-55

ピーダ・イルステズ

《ヴィラ・デステの庭からの眺め》 1914年

メゾティント、紙、38.2×48.6 cm

購入

G.2006-56

ピーダ・イルステズ

《リースルトンのアメリカツタ》 1920年

メゾティント、紙、25.6×35.0 cm

購入

G.2006-57

アリスティード・マイヨール

《波》 1895-98年

木版、17.0×19.7 cm

購入

L.2006-1

ハンス・ゼーバルト・ペーハム

《ヨハネの黙示録による像》1539年(フランクフルト、
クリスティアン・エーゲンオルフより出版)

木版挿絵本、17.2×13.0 cm

購入

L.2006-2

《古代ローマ建築図集》1569年

書籍

購入

保存修復

P.1962-3

アレッサンドロ・ベードリ・マッツォーラ

《ウェヌスとアモル》

油彩、カンヴァス、104×62 cm

P.1959-89

ヴィクトリア・デュブル

《静物》

油彩、カンヴァス、

42.5×50.5 cm

S.2001-2

レオナルド・ピストルフィ

《ドゥリオ家のための墓碑:思い出によって癒される悲しみ》

大理石、地山装飾「花のある台座」の右半分、245×
509×130 cm

S.1959-4

オーギュスト・ロダン

《接吻》

ブロンズ、87×51×55 cm、彫刻単体重量88 kg

S.1959-5

オーギュスト・ロダン

《美しかりしオーミエール》

ブロンズ、50×31×24 cm

S.1959-10

オーギュスト・ロダン

《石を負うカリアティード》

ブロンズ、44×32×30 cm

S.1959-20

オーギュスト・ロダン

《うづくまる女》

ブロンズ、96×58×55 cm、彫刻単体重量136.5 kg

S.1959-22

オーギュスト・ロダン

《フギット・アモール(去りゆく愛)》

ブロンズ、36×45×20 cm

S.1959-35

オーギュスト・ロダン

《ネレイスたち》

ブロンズ、43×47×35 cm

S.1959-37

オーギュスト・ロダン

《オルフェウス》

ブロンズ、146×80×126 cm

S.1959-52

オーギュスト・ロダン

《説教する洗礼者ヨハネ》

ブロンズ、201×58×127 cm

S.1959-56

エミール＝アントワーン・ブールデル

《瀕死のケンタウロス》

ブロンズ、72×52×22 cm、彫刻単体重量45kg

S.1959-61

ポール・ダルデ

《永遠の苦悩》

ブロンズ、50×45×37 cm、彫刻単体重量40.5 kg

S.1969-1

エミール＝アントワーン・ブールデル

《首のあるアポロンの頭部》

ブロンズ、50×22×23 cm、彫刻単体重量10 kg

展覧会

2006-1

「ベルギー王立美術館展」

会期:平成18年9月12日～12月10日

主催:国立西洋美術館、読売新聞社、ベルギー王立美術館

出品内容:絵画70点、素描39点

観覧者数:247,009人

2006-2

【版画素描展示室】

「フランク・プラングイン版画展」

会期:平成18年9月12日～12月10日

主催:国立西洋美術館

出品内容:計39点

2006-3

「イタリア・ルネサンスの版画—ルネサンス美術を広めたニュー・メディア チューリヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による」

会期：平成19年3月6日～5月6日

主催：国立西洋美術館、チューリヒ工科大学版画素描館、財団法人西洋美術振興財団

出品内容：版画112点

観覧者数：33,432人

2006-4

【版画素描展示室】

「平成14-18年度新収蔵版画作品展」

会期：平成19年3月6日～6月3日

主催：国立西洋美術館

出品内容：版画48点

教育普及

1) Fun with Collection 2006 いろいろメガネPart2
—みんなの見かたを紹介します

「あなたがつづるこの1点」

公開発表：当館常設展示室とホームページ

(平成18年1月～8月)

審査員：内館牧子(脚本家)／みうらじゅん(イラストレーター)／青柳正規(*館長)

「君の名は」関連プログラム「君はどこ？—クイズに挑戦」

実施期間：平成18年6月～8月

場所：常設展示室内

「続・日曜日の美術館—私のメガネで見えます？」

平成18年6月4日

「時を駆ける美術鑑賞—『美しい』を見直そう」

森村泰昌(美術家)

平成18年6月18日

「美術は僕の栄養源」

高木康政(パティシエ／ショコラティエ)

平成18年7月30日

「知りたい。ロダン彫刻のこと、ブロンズ鑄造のこと」

大屋美那(*主任研究員)

「即興歌人—思いを言葉に!」

講師：篠弘(現代歌人協会理事長)

実施日：平成18年7月29日

「セイビ探偵団が行く!—美術館からの挑戦状～“わたしを探して”」

進行：ゴウヤスノリ(ワークショップ・プランナー)

実施日：平成18年8月3日

「上野で、パラシュートとマキオー空から降るメッセージ」

進行：磯崎道佳(美術家)

実施日：平成18年8月5日・6日

「美術館でおどる、心もおどる!」

進行：早川朋子(振付家)

実施日：平成18年8月10日

2) 特別展関連プログラム

□講演会

「ロダンとカリエール」

第2回 平成18年4月15日

「ロダン、カリエールと同時代の文化・社会」

小倉孝誠(慶應義塾大学教授)

第3回 平成18年5月20日

「1890年代のロダンとカリエール」

大屋美那(*主任研究員)

「ベルギー王立美術館展」

第1回 平成18年9月23日

「ルネサンス期フランドルの都市文化—ブリュージュからアントウェルペンへ」

河原温(首都大学東京助教授)

第2回 平成18年10月7日

「初期フランドル絵画の世界」

荒木成子(清泉女子大学教授)

第3回 平成18年10月21日

「イカロスのゆくえ—ブリュゲル・オア・ノット・ブリュゲル」

幸福輝(*上席主任研究員)

第4回 平成18年11月4日

「画家たちの競演—ルーベンスの時代のアントウェルペンの絵画」

中村俊春(京都大学教授)

第5回 平成18年11月18日

「ベルギー象徴派の時代」

福満葉子(長崎県美術館学芸員)

「イタリア・ルネサンスの版画—チューリヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による」

第1回 平成18年3月17日

「ルネサンスの版画と装飾文様をめぐって」

吉澤京子(跡見学園女子大学教授)

第2回 平成18年3月31日

「ルネサンス美術の規範と版画—マンテーニャを中心として」

渡邊晋輔(*研究員)

□ギャラリートーク・スライドトーク

[ロダンとカリエール]

平成18年4月7日・21日、5月12日・26日

スライドトーク：近藤真彫（駒澤大学非常勤講師）

[ベルギー王立美術館展]

平成18年9月29日、10月13日・27日、11月10日・24日

スライドトーク：廣川暁生（ベルギー王立美術館展アシスタント・キュレーター）

[イタリア・ルネサンスの版画—チューリヒ工科大学版
画素描館の所蔵作品による]

平成19年3月23日・30日

スライドトーク：小林明子（慶應義塾大学大学院）

□コンサート

ロダンとカリエール展 レクチャーコンサート

「音楽における現実の幻視者—ドビュッシーとショーン」

実施日：平成18年5月3日

企画・トーク：瀧井敬子（東京藝術大学演奏芸術センター助手）

照明：海藤春樹

演奏：ジュラル・ブーレ（ヴァイオリン）、川島余理（ピアノ）、王真紀（メゾ・ソプラノ）、坂上賀奈子（メゾ・ソプラノ）、吉原 教夫（テノール）

朗読：斉藤由織

制作アシスタント：酒井千亜希

3) ファミリープログラム

□びじゅつーる

対象：6～10歳の子どもと同伴の大人

貸出日：平成18年4月8日・22日、5月13日・27日、
9月9日・23日、10月14日・28日、11月11日・25日、
平成19年3月10日・24日

□どようびじゅつ

対象：6～10歳の子どもと同伴の大人

「なぞ☆謎☆びじゅつかん」

日時：平成18年7月8日・22日、8月12日・26日

「ごきげんいかが？（^0^）（°0°）（>_<）」

日時：平成19年1月13日・27日、2月10日・24日

4) 学校関連プログラム

□スクール・ギャラリートーク

平成18年度：2165名（69件）

□先生のための観賞プログラム

[ベルギー王立美術館展]

実施日：平成18年9月22日

講師：幸福輝（*出席主任研究員）

[イタリア・ルネサンスの版画—チューリヒ工科大学版

画素描館の所蔵作品による]

実施日：平成19年3月16日

講師：渡邊晋輔（*研究員）

5) インターンシップ

[教育普及室]

インターン：大塚梓、片多祐子、弘中智子、宮原ゆうき、
山口敦子

期間：平成18年4月1日～9月30日

指導：寺島洋子・酒井敦子・横山佐紀

内容：①はじめてガイド（小中学生対象の常設展ガイド）
の改善調査と中学生用ガイドの作成

②Fun with Collection いちいろメガネPart2関連
プログラムの補助

[絵画・彫刻・版画素描室]

インターン：横井麻子

期間：平成18年4月1日～平成19年3月31日

指導：高橋明也

内容：所蔵作品（絵画・彫刻・素描）の美術史的研究、
所蔵品カタログ編纂のための資料収集補佐

インターン：古川法子

期間：平成18年4月1日～9月30日

指導：高橋明也

内容：コロ展補佐

インターン：高木麻紀子

期間：平成18年4月1日～9月30日

指導：幸福輝

内容：ベルギー王立美術館展補佐

インターン：芦刈歩

期間：平成18年10月1日～平成19年3月31日

指導：幸福輝

内容：所蔵作品（絵画・彫刻・素描）の美術史的研究、
所蔵品カタログ編纂のための資料収集補佐

インターン：正路佐知子

期間：平成18年4月1日～平成19年3月31日

指導：佐藤直樹

内容：ムンク展およびハンマースホイ展補佐

情報資料

「ウェル.com美術館：ユビキタスネットワーク」プロジェ
クト立ち上げ

平成18年8月

資料コーナー及びデジタルギャラリー撤去

この年度の数字

収入・支出

収入予算：858,781千円

支出予算：858,781千円

開館日数：305日

平常展示：147日（平常展示のみ）

特別展：158日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：612,330人（1日平均2,008人）

平常展示：273,421人（1日平均1,039人）

特別展：338,909人（1日平均2,145人）

所蔵作品数：4,500点

2007 8

平成 19 年度

主要記事

平成 19 年

- 4 月 1 日 国立美術館キャンパスメンバーズ開始
- 4 月 1 日 本館の現状調査並びに歴史調査を開始(社団法人日本建築学会に委嘱、「国立西洋美術館歴史調査ワーキンググループ」を設置)
- 5 月 6 日 「イタリア・ルネサンスの版画—チューリッヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による」展終了
- 5 月 12 日 美術館無料開放日「FUN DAY」実施
期間は5月12日から5月13日まで
- 5 月 28 日 「パルマーイタリア美術、もう一つの都」展開会式
高円宮妃殿下御臨席・御観覧
- 6 月 12 日 「祈りの中世—ロマネスク美術写真展」開催
- 6 月 21 日 第1回美術作品購入選考委員会、評価員会開催
版画13点の購入を決定
- 6 月 25 日 「OPEN museum」事業にEPSONの支援が決定
- 7 月 3 日 Suica電子マネー決済を導入
- 7 月 3 日 「見る楽しみ・知る喜び—美術史・市場・修復編」開催
- 7 月 23 日 第8回独立行政法人国立美術館国立西洋美術館評議員会開催
- 7 月 30 日 国立西洋美術館Webサイトをリニューアル
- 8 月 1 日 副館長に甲野正道が就任
- 8 月 26 日 「パルマーイタリア美術、もう一つの都」展終了
- 9 月 3 日 新館空調設備改修工事準備に伴う常設展展示替のため全館休館

期間は9月3日から9月13日まで

- 9 月 14 日 空調設備改修工事準備のため新館閉館
 - 9 月 14 日 フランス政府が関係各国共同で進める世界遺産登録計画(「ル・コルビュジェの建築と都市計画」)の構成資産の一つとして、本館の世界遺産暫定一覧表(日本)への掲載並びにフランス政府への世界遺産仮推薦書提出を日本政府が決定
 - 9 月 28 日 本館の資料調査、現状調査並びに歴史調査を完了、『国立西洋美術館本館歴史調査報告書』を刊行
 - 9 月 30 日 フランス政府が「ル・コルビュジェの建築と都市計画」関係国(7カ国)分を取りまとめ、本館の世界遺産推薦書(暫定版)を世界遺産センターへ提出
 - 10 月 5 日 「ムンク展」開会式
 - 10 月 30 日 「光彩時空'07—光はミュージアムから—」実施
期間は10月30日から11月4日まで
 - 11 月 4 日 「国立西洋美術館所蔵ヨーロッパ美術の精華—神々と自然のかたち—」開催
 - 11 月 23 日 「Museum X' mas in 国立西洋美術館《美術館でクリスマス》」実施
期間は11月23日から翌年1月6日まで
 - 12 月 7 日 本館を国の重要文化財に指定することを、文化審議会より文部科学大臣に答申
 - 12 月 11 日 「国立西洋美術館所蔵ヨーロッパ美術の精華—神々と自然のかたち—」開催
 - 12 月 21 日 本館が国の重要文化財(建造物)指定を受ける(平成19年12月21日 号外291号 文部科学省告示第145号)
- #### 平成 20 年
- 1 月 6 日 「ムンク展」終了
 - 1 月 7 日 本館の世界遺産登録推薦を日本政府が正式に決定
 - 1 月 7 日 新館空調設備改修工事に伴い全館休館
期間は1月7日から3月3日
 - 1 月 15 日 新館空調設備改修工事着工
 - 1 月 17 日 第2回美術作品購入選考委員会、評価員会開催
絵画2点、版画1点の購入を決定
 - 1 月 30 日 パリ・仏文化・コミュニケーション省において、「ル・コルビュジェの建築と都市計画」推薦書署名式を開催
 - 2 月 1 日 フランス政府が「ル・コルビュジェの建築と都市計画」関係国(6カ国)分を取りまとめ、現地時間2月1日に、本館の世界遺産推薦書をユネスコ世界遺産センターへ提出
 - 3 月 3 日 「ウルビーノのヴィーナス—古代からルネサンス、美の女神の系譜」開会式

- 高円宮妃殿下御臨席・御観覧
- 3月4日 高校生及び18歳未満の無料化を実施
- 3月4日 国立西洋美術館Webサイトにおいて国立西洋美術館所蔵作品データベースを公開
- 3月11日 常陸宮妃殿下、「ウルビーノのヴィーナス—古代からルネサンス、美の女神の系譜」展御観覧のため御来館
- 3月11日 台東区が「台東区国立西洋美術館世界遺産登録推進会議」を発足
- 3月18日 OPEN museum オフィシャルパートナー EPSON が「春の OPEN museum」を実施 期間は3月18日から3月31日まで
- 3月25日 「春の OPEN museum」国立西洋美術館内 イベント実施 期間は3月25日から3月30日まで

新収作品

P.2007-1

ディルク・パウツ (派)

《悲しみの聖母》

油彩、板、45.0×31.0 cm

購入

P.2007-2

ジョヴァンニ・セガンティーニ

《羊の剪毛》1883-84年

油彩、カンヴァス、117.0×216.5 cm

購入

D.2007-1

作者不詳

《兵士と家族》1927年10月2日

水彩、紙、17×22 cm

岡本和子氏より寄贈

G.2007-1

マルティン・ショーンガウアー

《祭司長アンナスの前のキリスト、受難伝 (12点連作)》

1480年頃

エングレーヴィング、16.0×11.3 cm

購入

G.2007-2

イスラエル・ファン・メッケネム

《聖アグネス》1475-80年頃

エングレーヴィング、15.5×11.0 cm

購入

G.2007-3

アルブレヒト・デューラー

《頭蓋骨のある紋章》1503年

エングレーヴィング、15.7×21.8 cm

購入

G.2007-4

N. H. の画家 (ニコラウス・ホーゲンペルク)

《裸体の男性と農民の戦い》1522年

木版、紙、14.8×29.6 cm

購入

G.2007-5

アウグスティン・ヒルシュフォーク

《曲がりくねった橋のある川辺の風景》1546年

エッチング、13.8×21.0 cm

購入

G.2007-6/11

クロード・ジロ

《ボルティエール図集 (6点連作)》1737年出版

エッチング、xx×xx cm

購入

G.2007-12

ルイ・フランソワ・ルジュース

《コサック騎兵》1806年

リトグラフ、26.8×21.8 cm

購入

G.2007-13

テオドール・ジェリコー

《ローマの牛追い》1817年

リトグラフ、18.8×25.0 cm (画寸)、26.6×35.2 cm (紙寸)

購入

G.2007-14

フィリップ・ハレ

《キリスト復活 (ピーテル・ブリューゲルの下絵による)》

1562年頃

エングレーヴィング、47.7×34.8 cm

購入

保存修復

P.1959-53

シャルル・コッテ

《ヴェネツィア》

油彩、カルトン、61.5×88.0 cm

P.1962-3

エミリア派

《ヴィーナスとキュービッド》

油彩、カンヴァス、104.0×62.0 cm

S.2001-4

レオナルド・ビストルフィ

《死の花嫁たち》

ブロンズ、271.0×100.0 cm

S.1966-3

オーギュスト・ロダン

《ヴィクトル・ユゴー》

ブロンズ、45×25×26 cm

S.1959-50

オーギュスト・ロダン

《ラッセル婦人の胸像》

ブロンズ、43×20×24 cm

S.1959-27

オーギュスト・ロダン

《鼻のつぶれた男》

ブロンズ、43×20×22 cm

S.1959-17

オーギュスト・ロダン

《エスクレピオス》

ブロンズ、40×40×22 cm

S.1959-33

オーギュスト・ロダン

《瞑想》

ブロンズ、155×72×65 cm

S.1959-2

オーギュスト・ロダン

《青銅時代》

ブロンズ、181×70×66 cm

S.1963-2

アリスティード・マイヨール

《イル・ド・フランス》

ブロンズ、167×47×49 cm

S.1987-1

アリスティード・マイヨール

《夜》

ブロンズ、106×57×108 cm

S.1963-5

アリスティード・マイヨール

《調和のための習作》

ブロンズ、106×57×108 cm

S.1963-3

アリスティード・マイヨール

《ヴィーナスのためのトルソ》

ブロンズ、114×47×30 cm

S.1963-4

アリスティード・マイヨール

《両腕を上げた浴女》

ブロンズ、157×67×59 cm

S.1991-1

エミール・アントワース・ブールデル

《果実》

ブロンズ、58×27×14 cm

S.1959-59

エミール・アントワース・ブールデル

《我が子を捧げる聖母》

ブロンズ、65×25×16 cm

S.1990-3

エミール・アントワース・ブールデル

《ヴェールの踊り》

ブロンズ、66×56.5×17.5 cm

S.1959-56

エミール・アントワース・ブールデル

《瀕死のケンタウロス》

ブロンズ、72×52×22 cm

S.1969-1

エミール・アントワース・ブールデル

《首のあるアポロンの頭部》

ブロンズ、50×22×23 cm

S.1959-55

エミール・アントワース・ブールデル

《バックアント》

ブロンズ、83×52×22 cm

S.1959-58

エミール・アントワース・ブールデル

《横たわるセレネ》

ブロンズ、85×75×21 cm

S.1959-51

オーギュスト・ロダン

《洗礼者ヨハネの首》

大理石、25×42×45 cm

S.2000-1

アントワーン・コワズヴォ

《ド・ヴィルヌーヴ・ダッシー夫人の胸像肖像》

65 (台座とも79)×60×30 cm

DEP.1959-1

エドヴァルド・ムンク

《雪の中の労働者たち》

油彩、カンヴァス、223.5×162.0 cm

P.2000-1

ジャン＝オノレ・フラゴナール

《丘を下る羊の群れ》

油彩、カンヴァス、52.0×73.0 cm

P.1959-73

モーリス・ドニ

《若い母》

油彩、カンヴァス、160.0×98.0 cm

P.1988-2

ジョゼフ・ヴェルネ

《夏の夕べ・イタリア風景》

油彩、カンヴァス、89.0×133.0 cm

P.2005-4

ボニファーチョ・デ・ビターディ (通称ボニファーチョ・ヴェロネーゼ)

《聖家族、トビアスと大天使、聖ドロアテと幼い洗礼者聖ヨハネ》額縁

油彩、114.0×152.5 cm

展覧会

2007-1

「パルマ―イタリア美術、もう一つの都」

会期：平成19年5月29日～8月26日

主催：国立西洋美術館、読売新聞社、パルマ・ピャチェンツァ歴史美術民族文化財監督局

出品内容：絵画81点、素描23点、版画4点、彫刻2点、工芸1点、書籍3点、その他11点

観覧者数：167,934人

2007-2

【小企画展】

「祈りの中世-ロマネスク美術写真展」

会期：平成19年6月12日～8月26日

主催：国立西洋美術館

出品内容：その他54点

2007-3

【Fun with Collection】

「夏の楽しみ・知る喜び―美術史・市場・修復編」

会期：平成19年7月1日～8月31日

主催：国立西洋美術館

2007-4

「ムンク展」

会期：平成19年10月6日～平成20年1月6日

主催：国立西洋美術館、東京新聞

出品内容：絵画54点、素描41点、版画12点、彫刻1点
観覧者数：263,907人

2007-5

「ウルビーノのヴィーナス―古代からルネサンス、美の女神の系譜」

会期：平成20年3月4日～5月18日

主催：国立西洋美術館、イタリア文化財省、フィレンツェ文化財・美術館特別監督局、読売新聞社

出品内容：絵画34点、素描2点、彫刻13点、工芸19点、書籍6点、その他2点

観覧者数：238,352人

国立美術館巡回展

「国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの美術の精華―神々と自然のかたち―」

会場：姫路市立美術館

会期：平成19年11月4日～12月2日

主催：国立西洋美術館、姫路市立美術館、兵庫県教育委員会、神戸新聞社

出品内容：絵画21点、版画62点、彫刻10点

観覧者数：7,577人

「国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの美術の精華―神々と自然のかたち―」

会場：松本市美術館

会期：平成19年12月11日～平成20年2月3日

主催：国立西洋美術館、松本市美術館、長野県教育委員会

出品内容：絵画21点、版画62点、彫刻10点

観覧者数：11,272人

教育普及

1) Fun with Collection 2007 見る楽しみ・知る喜び—美術史・市場・修復編
＜コレクションと出会う＞

「常設展ツアー」

実施日：平成19年7～8月

＜美術史の視点から＞

「見る、見える、見えてくる—美術史家が作品に向かうとき」

実施日：平成19年7月9日

講師：高梨光正（*主任研究員）

「多面体のモネ—美術史のアプローチ」

実施日：平成19年7月21日

講師：馬淵明子（日本女子大学教授）

「セイビ探偵団が行く!part2—怪盗ロダヘンに挑戦!」

実施日：平成19年7月24日

進行：ゴウヤスノリ（ワークショップ・プランナー）

「もっとモネ—人を知って、絵を見る」

実施日：平成19年8月14日

＜市場の視点から＞

「美術品オークションの歴史とその社会的役割及び仕組み」

実施日：平成19年7月8日

講師：畑中俊彦（クリスティーズ・ジャパン、顧問）

「絵を蒐める」

実施日：平成19年7月22日

講師：福富太郎（キャバレー経営者）

「コレクションと美術館」

実施日：平成19年7月29日

講師：大屋美那（*主任研究員）

「ギャラリー散策」

実施日：8月4日

場所：小山登美夫ギャラリー

「アートマーケット—その構造と動向」

実施日：平成19年8月5日

講師：瀬木慎一（総合美術研究所所長）

＜保存修復の視点から＞

「彫刻の修復」

実施日：平成19年8月12日

講師：藤原徹（東北芸術工科大学教授）

「絵画の修復」

実施日：平成19年8月19日

講師：河口公生（*主任研究員）

□FUN DAY 2007 ファン・デー

実施日：平成19年5月12日・13日

プログラム内容：

1 びじゅつ—る貸し出し

2 ギャラリートーク

3 建築ツアー

4 謎ときスタンプラリー

5 ひみつの版画工房—みる・きく・かぐ・さわる—

6 あおぞらコンサート

企画：国立西洋美術館教育普及室

企画協力スタッフ：長井理佐、大塚梓、片多祐子、宮原ゆうき

協力：東京藝術大学版画研究室、フィルハーモニア東京

□春・うえの・桜—上野公園コラボ・イベント—講演会

実施日：平成19年4月7日

「花と古代ローマ」

青柳正規（*館長）

□障がい者のためのプログラム

「常設展特別鑑賞会」

実施日：平成19年4月14日

共同実施：三菱商事株式会社 社会・環境室

□クリスマス・プログラム

「クリスマス・キャロル」

実施日：平成19年12月18日～21日

平成19年12月22日・23日

企画：浴ゆかり、奥田もも子、高嶋真希

演奏：山下徳子、渡邊麻子（ソプラノ）、渡辺有夏（アルト）、市川浩平、小俣貴弘、田中研（テノール）、関口直仁、斎藤洵（バス）

「絵でたのしむクリスマス」

実施日：平成19年12月22日・23日

2) 特別展関連プログラム

□講演会

「イタリア・ルネサンスの版画—チューリヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による」

第3回 平成19年4月21日

「版画家の眼で見たイタリア・ルネサンスの版画」

中林忠良（版画家・東京藝術大学名誉教授）

「パルマ—イタリア美術、もう一つの都」

第1回 平成19年6月16日

「コレッジの世界—優美の規範」

甲斐教行（茨城大学准教授）

第2回 平成19年7月14日

「ルネサンスの危機とバルミジャンーノの芸術」

若桑みどり（千葉大学名誉教授）

第3回 平成19年7月28日

「ローマのランフランコーコレッジの遺産と法悦のヴァイジョン」

新保淳乃（千葉大学非常勤講師）

第4回 平成19年8月18日

「パルマの美術品を巡る過酷な運命」

高梨光正（*主任研究員）

〔ムンク展〕

第1回 平成19年10月6日

「〈いまや労働の時代だ〉、ムンク晩年のモニュメンタル・プロジェクト」

ゲルド・ヴォル（オスロ市立ムンク美術館シニア・キュレーター）

第2回 平成19年11月10日

「絵の中の劇、劇の中の絵—ムンクとイブセン」

毛利三彌（成城大学教授）

第3回 平成19年12月8日

「装飾プロジェクトとしての〈生命のフリーズ〉」

田中正之（武蔵野美術大学准教授／*客員研究員）

〔ウルビーノのヴィーナス—古代からルネサンス、美の女神の系譜〕

第1回 平成20年3月4日

「フィレンツェ美術館特別監督局—伝統と未来のはざまの美術館」

クリスティーナ・アチディーニ（フィレンツェ美術館特別監督局長官）

第2回 平成20年3月15日

「古代美術における横たわる裸婦」

芳賀京子（東北大学准教授）

〔祈りの中世—ロマネスク美術写真展〕

平成19年7月16日

「ロマネスク彫刻の世界」

越宏一（東京藝術大学教授）

□シンポジウム

〔ウルビーノのヴィーナス—古代からルネサンス、美の女神の系譜〕

平成20年3月29日

テーマ「ルネサンスのエロティック美術—図像と機能—」

「女性ヌードをめぐる闘い—ミケランジェロ、レオナルド、ティツィアーノ—」

ジョナサン・K・ネルソン（シラキューズ大学フィレンツェ校）

「16世紀ヴェネツィア絵画における女性の身体と男性の眼差し—ティツィアーノ、ティントレット、ヴェロネーゼ—」

アウグスト・ジェンティーリ（ヴェネツィア、カ・フォスカリ大学）〔原稿代読による〕

「触覚礼賛—コレッジとマリオ・エクイーカラー—」

高梨光正（*主任研究員）〔原稿代読による〕

「ヴィーナスの変容—ヌード、薔薇、復活と五感—」

池上英洋（恵泉女学園大学）

「ルネサンス美術の性的イマジナリー—象徴性から猥褻性へ—」

ベット・タルヴァッキア（コネティカット大学）

「アゴスティーノ・カラッチの好色版画」

マルツィア・ファイエット（ウフィツィ美術館版画素描室長）

「アドニスを引きとめようとするヴィーナス—ティツィアーノ作《ヴィーナスとアドニス》の文学的典拠と祝婚画としての機能—」

細野喜代（慶應義塾大学大学院）

「ヴェネツィア絵画におけるヤコポ・カラーリオのエロティック版画の反響」

越川倫明（東京藝術大学准教授）

□ギャラリートーク・スライドトーク

〔イタリア・ルネサンスの版画—チューリヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による〕

実施日：平成19年4月6日・13日・27日

スライドトーク：小林明子（慶應義塾大学大学院）

〔パルマ—イタリア美術、もう一つの都〕

実施日：平成19年6月15日・22日、7月6日・20日、8月3日・17日

スライドトーク：深田麻里亜（東京藝術大学大学院）

〔ムンク展〕

実施日：平成19年10月12日・26日、11月9日・30日、12月14日

スライドトーク：土山亮子（パリ第4大学大学院）

〔ウルビーノのヴィーナス—古代からルネサンス、美の女神の系譜〕

実施日：平成20年3月14日・21日

スライドトーク：小林明子（慶應義塾大学大学院）

□映画上映

「ムンク—愛のレクイエム」

平成19年10月20日／12月1日

□コンサート

「音楽の都パルマ—メルロとヴェルディ」

日時：平成19年6月30日

企画・トーク：瀧井敬子（東京藝術大学演奏芸術センター助手）

照明：ハーバーライトカンパニー

演奏：脇田英里子（オルガン）、高橋明日香（リコーダー）、吉武優（ピアノ）、辻博之（指揮）、小村朋代、梶田真未、谷垣千沙（ソプラノ）、小野綾香、平井美紀、明石千穂（アルト）、山際隼人、鈴木秀和（テノール）、菅谷公博、杉浦隆大（バス）

制作アシスタント：酒井千亜希（東京藝術大学）

☐障がい者のための特別鑑賞会

「コンサートとともに楽しむムンク展特別鑑賞会」

実施日：平成19年11月17日

演奏者：山瀬理桜（ヴァイオリン、ハルダンゲルヴァイオリン）、城綾乃（ピアノ）、山瀬クリスティーナ静佳（ハルダンゲルヴァイオリン、歌）

音響：小林企画

共同実施：三菱商事株式会社 社会・環境室

3) ファミリープログラム

☐びじゅつ

対象：6～10歳の子どもと同伴の大人

実施日平成19年4月14日・28日、5月12日・13日・26日、8月10日・15日・23日・30日

☐どようびじゅつ

対象：6～10歳の子どもと同伴の大人

「美術館でアニマル・ウォッチング」

実施日：平成19年7月14日・28日、8月11日・25日

「アートでカルタ」

実施日：平成20年3月8日・22日

4) 学校関連プログラム

☐スクール・ギャラリートーク

平成19年度：2313名（80件）

5) インターンシップ

「教育普及室」

インターン：金谷里子、小見ふづき、鄭鉉暻、花房太一

期間：平成19年4月1日～10月31日

内容：来館者調査、教育普及プログラムの補助と企画

指導：寺島洋子・酒井敦子・横山佐紀

関連プログラムの補助

「絵画・彫刻版画素描室」

インターン：小林明子

期間：平成19年4月1日～平成20年3月31日

指導：渡邊晋輔

内容：展覧会の準備、カタログ編集業務などの補佐（イタリア・ルネサンス展補佐）

インターン：土山亮子

期間：平成19年8月23日～平成20年1月18日

指導：村上博哉

内容：展覧会の準備、カタログ編集業務などの補佐（ムンク展補佐）

インターン：窪内美緒

期間：平成19年5月1日～10月31日

内容：研究資料センターにおける資料収集・整理およ

び利用者サービスの補佐

指導：川口雅子

この年度の数字

収入・支出

収入予算：854,463千円

支出予算：854,463千円

開館日数：254日

平常展示：43日（平常展示のみ）

特別展：211日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：830,838人（1日平均3,271人）

平常展示：297,437人（1日平均2,230人）

特別展：533,401人（1日平均2,528人）

所蔵作品数：4,517点

2008 9

平成20年度

主要記事

平成20年

- 4月11日 第1回美術作品購入選考委員会、評価員会開催
絵画3点、版画15点の購入を決定
- 5月18日 「ウルビーノのヴィーナス―古代からルネサンス、美の女神の系譜」展終了
- 6月13日 「コロー 光と追憶の変奏曲」展開会式
高円宮妃殿下御臨席・御観覧
- 7月4日 「見る楽しみ・知る喜び―宗教・芸術家・修復編」開催
- 7月7日 第9回独立行政法人国立美術館国立西洋美術館評議員会開催
- 8月4日 開館50周年記念特設サイトを開設
- 8月13日 皇后陛下、「コロー 光と追憶の変奏曲」展御観覧のため御来館
- 8月31日 「コロー 光と追憶の変奏曲」展終了
- 9月1日 創立50周年記念事業募金開始
期間は9月1日から翌年12月27日まで
- 9月20日 美術館無料開放日「FUN DAY」実施
期間は9月20日から9月21日まで
- 9月29日 「ヴィルヘルム・ハンマースホイ 静かなる詩情」展開会式
- 10月23日 イコモス(ICOMOS:国際記念物遺跡会議)による世界遺産登録のための現地調査
期間は10月23日から10月24日まで
- 11月28日 「Museum X' mas in 国立西洋美術館《美術館でクリスマス》」実施
期間は11月28日から平成21年1月4日まで
- 12月7日 「ヴィルヘルム・ハンマースホイ 静かなる詩情」展終了

平成21年

- 1月2日 「美術館へ行こう～A Day in the Museum」開催
- 2月10日 「TOUCH THE MUSEUM^β 映像と音でめぐる常設展」期間限定プレオープン
期間は2月10日から15日まで
- 2月26日 新館空調設備その他工事(建築・電気設備・機械設備)竣工
- 2月27日 「ルーヴル美術館展 17世紀ヨーロッパ絵画」展開会式
高円宮妃殿下御臨席・御観覧
- 3月28日 「春のOPEN museum」国立西洋美術館内イベント実施
期間は3月28日から3月29日まで

新収作品

P.2008-1

カルロ・インノチェンツォ・カルローネ
《聖フェリックスと聖アダウクトゥスの栄光》1759年頃
油彩、カンヴァス、90.0×120.0 cm
購入

P.2008-2

ウジェーヌ・カリエール
《自画像》1895～1900年頃
油彩、カンヴァス、42.0×33.0 cm
購入

P.2008-3

ヴィルヘルム・ハンマースホイ
《ピアノを弾く妻イーダのいる室内》1910年
油彩、カンヴァス、76×61.5 cm
購入

P.2008-4

ウィリアム＝アドルフ・ブーグロー
《少女》1878年
油彩、カンヴァス、45.5×38 cm
田中三郎氏より寄贈

G.2008-1

イスラエル・ファン・メッケネム
《三王礼拝》15世紀末～16世紀初
エングレーヴィング、26.7×18.4 cm
購入

G.2008-2

イスラエル・ファン・メッケネム
《不釣り合いなカップル》1496年頃
エングレーヴィング、16.1×10.8 cm
購入

G.2008-3

MZの画家（おそらくマテウス・ツァジンガー）
《恋人たち（抱擁）》1500年頃
エングレーヴィング、14.7×12.2 cm
購入

G.2008-4

アルブレヒト・デューラー
《聖母の賛美、「聖母伝」連作より》1501～1502年頃
木版、29.6×21.3 cm
購入

G.2008-5

アルブレヒト・デューラー
《聖母の婚約、「聖母伝」連作より》1504～1505年頃
木版、29.5×20.7 cm
購入

G.2008-6

アルブレヒト・アルトドルファー
《森の中の恋人たち》1511年
エングレーヴィング、13.5×10.0 cm
購入

G.2008-7

アウグスティン・ヒルシュフォーゲル
《岩山に挟まれた川のある風景》1546年
エッチング、13.9×16.8 cm
購入

G.2008-8

メルヒオール・ロルヒ
《十字架の男（ハマン）》1550年
エングレーヴィング、16.5×9.7 cm
購入

G.2008-9～14

オラツィオ・スカラベッリ
《「トスカーナ大公フェルディナンド一世とクリスティーヌ・ド・ロレーヌの結婚式」連作より》1589年
エッチング
購入

G.2008-15

作者不詳
《「トスカーナ大公フェルディナンド一世とクリスティーヌ・ド・ロレーヌの結婚式」連作より》1589年
エッチング
購入

G.2008-16

オラツィオ・スカラベッリ
《「トスカーナ大公フェルディナンド一世とクリスティーヌ・ド・ロレーヌの結婚式」連作より》1589年
エッチング
購入

G.2008-17

エピファニーニオ・ダルフィアーノ
《「トスカーナ大公フェルディナンド一世とクリスティーヌ・ド・ロレーヌの結婚式」連作より》1589年
エッチング
購入

G.2008-18～29

ステーファノ・デッラ・ベッラ
《「さまざまな風景」連作より》1643～1646年頃
エッチング
購入

G.2008-30～41

ステーファノ・デッラ・ベッラ
《「軍隊のデッサン」連作より》1644年頃
エッチング
購入

G.2008-42

ステーファノ・デッラ・ベッラ
《ポーランドの騎兵》1648～1650年頃
エッチング
購入

G.2008-43

ルカス・フォルステルマン（父）
《農民の喧嘩》
エッチング、エングレーヴィング
42.6×52.2 cm
購入

G.2008-44

シャルル・メリヨン

《ル・プティ・ボン》1850年

エッチング、エングレーヴィング、ドライポイント、薄緑色の紙

26.2×18.9 cm

購入

G.2008-45

シャルル・メリヨン

《死体公示所》1854年

エッチング、ドライポイント、シン・コレ

21.2×19.2 cm

購入

保存修復

P.2008-3

ヴィルヘルム・ハンマースホイ

《ピアノを弾く妻イダのいる室内》

油彩、カンヴァス、76×61.5 cm

P.2008-4

ウィリアム＝アドルフ・ブーグロー

《少女》

油彩、カンヴァス、45.5×38 cm

P.1998-2

カルロ・ドルチ

《悲しみの聖母》

油彩、カンヴァス、82.5×67 cm

展覧会

2008-1

「コロー 光と追憶の変奏曲」

会期：平成20年6月14日～8月31日

主催：国立西洋美術館、読売新聞東京本社、NHK

出品内容：絵画119点

観覧者数：286,173人

2008-2

【Fun with Collection】

「見る楽しみ・知る喜び—宗教・芸術家・修復編」

会期：平成20年7月4日～8月31日

主催：国立西洋美術館

2008-3

「ヴィルヘルム・ハンマースホイ 静かなる詩情」

会期：平成20年9月30日～12月7日

主催：国立西洋美術館、日本経済新聞社、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ

出品内容：絵画105点

観覧者数：179,556人

2008-4

「ルーヴル美術館展—17世紀ヨーロッパ絵画」

会期：平成21年2月28日～6月14日

主催：国立西洋美術館、ルーヴル美術館、日本テレビ放送網、読売新聞東京本社

出品内容：絵画71点

観覧者数：216,758人（3月31日現在）

教育普及

1) Fun with Collection 2008 見る楽しみ・知る喜び—宗教・芸術家・修復編

<コレクションと出会う>

「常設展ツアー」

実施日：平成20年7～8月

<宗教の視点から>

「聖人・聖書のトークシリーズ」

実施日：①平成20年8月5日・8日

②平成20年8月12日・15日

講師：①巖谷睦月（東京藝術大学大学院生）

②袴田紘代（東京藝術大学大学院生）

<芸術家の視点から>

「イタリア・ルネサンスの画家と顧客と社会」

実施日：平成20年8月2日

講師：越川倫明（東京藝術大学准教授）

「マティスとピカソ」

実施日：平成20年8月30日

講師：関直子（東京都現代美術館主任学芸員）

<保存修復の視点から>

「タビスリーの修復」

実施日：平成20年7月19日

講師：石井美恵（修復家）

「水彩画を素敵に見せるコツ—もっとよく紙を知る」

実施日：平成20年8月14日

講師：坂本雅美（修復家・東北芸術工科大学講師）

「紙の修復」

実施日：平成20年8月16日

講師：坂本雅美（修復家・東北芸術工科大学講師）

□FUN DAY 2008 ファン・デー

実施日：平成20年9月20日・21日

プログラム内容：

- 1 ギャラリー・トーク
- 2 建築ツアー
- 3 常設展クイズ
- 4 フォトサービス
- 5 拡大作品パズル
- 6 前庭コンサート

企画：国立西洋美術館学芸課教育普及室

協力：フィルハーモニア東京

□障がい者のためのプログラム

「コロー 光と追憶の変奏曲」展

実施日：平成20年6月28日

共同実施：三菱商事株式会社 社会・環境室

□クリスマス・プログラム

「10分トーク クリスマス編」

実施日：平成20年12月16日～19日

「クリスマス・キャロル」

実施日：平成20年12月20日・21日

企画：西山奈々子（東京藝術大学）

演奏：東京藝術大学声楽家有志

「絵でたのしむクリスマス」

対象：6～10歳の子どもと同伴の大人

実施日：平成20年12月20日・21日

2) 特別展開連プログラム

□講演会

「ウルビーノのヴィーナス—古代からルネサンス、美の女神の系譜」

第3回 平成20年4月12日

「イタリア文学におけるヴィーナスとその周辺人物たち」

浦一章（東京大学准教授）

第4回 平成20年4月19日

「《オランピア》から《ウルビーノのヴィーナス》へ—近代絵画と伝統」

三浦篤（東京大学教授）

第5回 平成20年5月10日

「ルネサンス美術に表されたヴィーナス—《ウルビーノのヴィーナス》を中心として」

渡邊晋輔（*研究員）

「コロー 光と追憶の変奏曲」

第1回 平成20年6月14日

「コロー：絵画における音楽的概念」

ヴァンサン・ボマレッド（ルーヴル美術館絵画部長・

統括学芸員）

高橋明也（三菱一号館美術館長／*客員研究員）

第2回 平成20年7月6日

「コローと日本人：受容の歴史—展覧会とコレクションを中心に」

井出洋一郎（東京純心女子大学教授）

第3回 平成20年7月27日

「コロー 19世紀美術の体现者」

高橋明也（三菱一号館美術館長／*客員研究員）

第4回 平成20年8月3日

「風景画家コローの人物画—その魅力と秘密」

隠岐由紀子（帝京平成大学専任講師）

「ヴィルヘルム・ハンマースホイ 静かなる詩情」

第1回 平成20年9月30日

「カール・ドライヤーの映画におけるハンマースホイの影響」

アネ=ビアギデ・フォンスマーク（コペンハーゲン、オードロブゴ美術館長）

第2回 平成20年10月4日

「ハンマースホイと象徴主義」

フェリックス・クレマー（フランクフルト、シュテューデル美術館学芸員）

第3回 平成20年11月22日

「19世紀末デンマーク、黒衣の女性が語るもの」

田辺欧（大阪大学世界言語研究センター准教授）

「ルーヴル美術館展—17世紀ヨーロッパ絵画」

第1回 平成21年2月28日

「古典主義時代の変革—新しい「黄金の世紀のために」ブレース・デュコス

（ルーヴル美術館 絵画部 キュレーター）

第2回 平成21年3月7日

「17世紀ヨーロッパに流れ込んだアジアのモノ」

羽田正（東京大学教授）

□ギャラリートーク・スライドトーク

「ウルビーノのヴィーナス—古代からルネサンス、美の女神の系譜」

実施日：平成20年4月11日・25日・5月9日

スライドトーク：渡邊晋輔（*研究員）

「コロー 光と追憶の変奏曲」

実施日：平成20年6月20日、7月11日・25日、8月8日・22日

スライドトーク：鈴木伸子（東京藝術大学大学院）

「ヴィルヘルム・ハンマースホイ 静かなる詩情」

実施日：平成20年10月10日・24日、11月7日・21日

スライドトーク：佐藤直樹（*主任研究員）／萬屋健司（大阪大学大学院）

【ルーヴル美術館展—17世紀ヨーロッパ絵画】

実施日：平成21年3月6日・27日

スライドトーク：高城靖之（慶應義塾大学大学院）

□コンサート

「コロアの音楽趣味」

日時：平成20年7月10日

企画・トーク：瀧井敬子（東京藝術大学演奏藝術センター客員教授）

演奏：青山忠、小野朋子（マンドリン）、岩城晶子（ハープ）、北川森央（フルート）、原裕子（ヴィオラ）

3) ファミリープログラム

□どようびじゅつ

「アートでカルタ」

対象：6-10歳の子どもと同伴の大人

実施日：平成20年4月12日・26日、5月10日・24日

「イチ、ニ、サン、シ、Go! ロダン」

実施日：平成20年7月12日・26日、8月9日・23日、9月13日・27日

4) スクール・ギャラリートーク

平成20年度：2,146名（74件）

5) インターンシップ

〔教育普及室〕

インターン：福田京、江崎瑠里子、三石恵莉

期間：平成20年5月26日～平成21年3月31日

内容：当館の建築に関する資料収集補助

指導：寺島洋子

西洋美術史

〔絵画彫刻室〕

インターン：田代有甚

期間：平成20年4月21日～平成20年8月31日

指導：高梨光正

内容：当館所蔵作品の美術史的研究、所蔵品カタログ編纂のための資料収集補佐

〔版画素描室〕

インターン：矢野ゆかり

期間：平成20年4月17日～平成20年8月31日

指導：大屋美那

内容：当館で実施予定の展覧会準備、カタログ編集業務などの補佐のうち、イギリス近代美術に関する内容

この年度の数字

収入・支出

収入予算：910,417千円

支出予算：910,417千円

開館日数：309日

平常展示：110日（平常展示のみ）

特別展：199日（特別展・平常展示併設）

観覧者数：1,235,130人（1日平均3,997人）

平常展示：394,300人（1日平均1,126人）

特別展：840,830人（1日平均4,225人）

所蔵作品数：4,566点



国立西洋美術館外観 2007年 (写真: 新 良太)

資料

沿革	200

作品	
(1) 所蔵作品統計	206
(2) 所蔵作品修復統計	208
(3) 所蔵作品貸出統計	209

展示	
(1) 入場者数の推移	210
(2) 共催展観覧者数	211
(3) 特別展観覧者数	213
(4) 平常展示観覧者数	214
(5) 巡回展観覧者数	216

出版	
(1) 刊行物一覧	218

施設	
(1) 土地・建物・施設整備	226
(2) 施設の推移	229

予算	
(1) 歳入・歳出一覧	244

組織	
(1) 組織・機構の変遷	246
(2) 定員の変遷	248
(3) 評議員名簿	250
(4) 職員名簿	252
(5) 歴代館長・副館長(次長)	255

沿革

昭和26年(1951)

- 4月 株式会社川崎造船所の社長であった(在任期間 1896-1928年)故松方幸次郎氏が、大正5年から十数年にわたりヨーロッパ各地で集めた絵画、彫刻など、いわゆる松方コレクションは、サンフランシスコ平和条約により、連合国の管理下にある日本国民の財産として、フランス政府の所有に帰した。しかし、同条約調印の際、日本国全権吉田首相は、フランス国全権シューマン外相に対し、同コレクションの返還方を考慮されたい旨申し入れ、以後この交渉は、日仏両国政府間の交渉に移された。

昭和28年(1953)

- 6月 フランス大使から外務大臣あてに覚書が提出され、日本側が東京にフランス美術館を創設することが、コレクション返還の不可欠の条件である旨の要望があった。
- 7月 外務大臣からフランス大使に対し、フランス美術館設置に必要な措置をとる旨の確認をした。
- 12月 「松方コレクション受入れについて」の閣議了解がなされ、日本政府において「フランス美術館」(仮称)を設置することとし、その準備を進めることとなった。これより文部省に「フランス美術館」(仮称)設置準備協議会が置かれた。

昭和29年(1954)

- 5月 「松方氏旧蔵コレクションの受入れについて」閣議決定があり、国立の美術館を新設すること、敷地は上野公園地域内にすることなどの施策が認められた。

昭和30年(1955)

- 3月 国立フランス美術館(仮称)の建築設計者としてル・コルビュジエ氏を、また日本側協力者として坂倉準三氏、前川國男氏、吉阪隆正氏を決定した。

昭和33年(1958)

- 12月 ド・ゴール大統領の行政命令により松方コレクション返還の許可がなされた。

昭和34年(1959)

- 1月 フランス政府-日本政府間の松方コレクション寄贈返還の正式調印がなされた。
- 3月 国立西洋美術館建物が落成した。
- 4月 文部省設置法の施行により国立西洋美術館が設置された。
- 4月 日本郵船の浅間丸にて寄贈返還美術作品が横浜港中央棧橋に到着した。
- 6月 開館式、一般公開を行った。

昭和35年(1960)

- 5月 開館1周年を記念して、松方コレクション名作選抜展を開催した。

昭和39年(1964)

- 7月 講堂、事務庁舎が竣工した。

昭和42年(1967)

- 8月 新館建設用地として、隣接する寛永寺所有地1,488m²を買収した。

昭和43年(1968)

- 6月 新館建設用地として、前年度に引続き、隣接する寛永寺所有地720m²を買収した。(計2,208m²)
- 6月 文部省設置法の一部改正(文化庁の設置)により、国立西洋美術館は、文化庁附属機関となった。



開館ポスター 昭和34年（1959）



開館準備 昭和34年（1959）



開館式（中央：富永惇一 初代館長） 昭和34年（1959）



美術館概観 昭和34年（1959）



天皇皇后両陛下御来観 昭和34年（1959）6月29日



「20世紀フランス美術展」 昭和35年（1960）



《ミロのビーナス》の展示風景 昭和39年（1964）

昭和44年(1969)

- 3月 売札所が竣工した。
- 6月 開館10周年記念式典を挙行、本館入口に記念碑を設置した。

昭和50年(1975)

- 5月 新館建設調査委員会を設置し、基本構想をかためた。
- 7月 新館基本設計を株式会社前川國男建築設計事務所に委託した。

昭和54年(1979)

- 5月 新館が竣工した。
- 11月 新館開館記念特別展「ヨーロッパ巨匠素描展」を開催した。

昭和59年(1984)

- 7月 文部省設置法の一部改正により、国立西洋美術館は、文化庁の施設等機関となった。

昭和60年(1985)

- 3月 売札所等改修工事が竣工した。

平成元年(1989)

- 6月 開館30周年記念の展示並びに特別展として、「ロダン《地獄の門》展」を開催した。
- 6月 開館30周年を記念し、『国立西洋美術館三十年史』を発行した。
- 11月 整備調査委員会を設置し、中長期整備計画の審議を開始。

平成4年(1992)

- 1月 整備調査委員会から中間報告書(答申)を得た。

平成5年(1993)

- 10月 前庭地下展示場「21世紀ギャラリー」(仮称)の基本計画を策定した。

平成6年(1994)

- 4月 「バーンズ・コレクション展」において、過去最高の100万人を越す入場者を記録した。
- 6月 本館の壁面改修工事終了。

平成7年(1995)

- 3月 国立西洋美術館の支援を主とした財団法人西洋美術振興財団が設立された。
- 8月 21世紀構想検討委員会(略称 プロジェクト21)設置。

平成8年(1996)

- 9月 『西美からのメッセージ』(国立西洋美術館21世紀将来構想)刊行。

平成9年(1997)

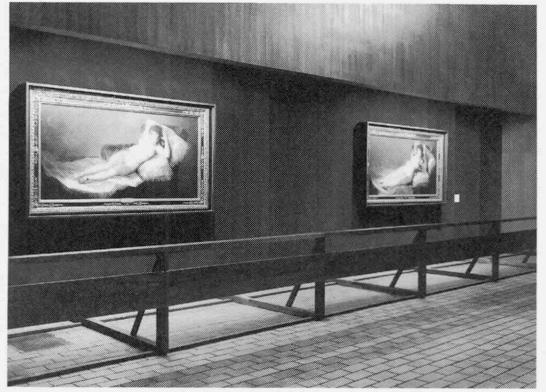
- 3月 国立西洋美術館ニュース『ZEPHYROS』創刊。
- 12月 「企画展示館」が竣工した。

平成10年(1998)

- 3月 本館耐震改修(免震化)等工事が竣工した。
- 4月 本館・新館がリニューアル・オープンした。
- 9月 企画展示館開館記念特別展「イタリアの光：クロード・ロランと理想風景」展を開催した。
- 11月 本館が「公共建築百選」(建設省)の顕彰を受けた。



「ギュスターヴ・モロー展」昭和39年(1964)



「ゴヤ展」昭和46年(1971)



「セザンヌ展」昭和49年(1974)



新館内部 昭和54年(1979)



「マウリッツハイス王立美術館展」昭和59年(1984)



「西洋の美術」展の展示風景 昭和62年(1987)



「ソドムを去るロトとその家族:ルーベンスとその工房」展 平成5年(1993)

平成11年(1999)

- 1月 新展示場開館記念特別展「ゴヤ：版画にみる時代と独創」展を開催した。
- 3月 ロダン作《地獄の門》の設置工事（修復・免震化）が竣工した。
- 3月 国立西洋美術館40周年記念特別展「フィレンツェとヴェネツィア：エルミタージュ美術館所蔵 イタリア・ルネサンス美術展」を開催した。
- 7月 国立西洋美術館40周年記念特別展「記憶された身体：アビ・ヴァールブルクのイメージの宝庫—アルベルティーナ版画素描館／オーストリア国立図書館より」展を開催した。
- 9月 国立西洋美術館40周年記念特別展「オルセー美術館展1999:19世紀の夢と現実」展を開催した。

平成12年(2000)

- 3月 新館第三展示室（版画素描室）改修工事が竣工した。
- 3月 前庭彫刻（ロダン作《考える人》、《カレーの市民》）免震化工事が竣工した。
- 8月 開館以来の入館者が2,500万人を超えた。

平成13年(2001)

- 3月 版画素描室改装記念 小企画展「フランス素描名作展：国立西洋美術館所蔵」を開催した。
- 4月 独立行政法人国立美術館法に基づき独立行政法人国立美術館が発足し、国立西洋美術館は独立行政法人国立美術館が設置する美術館となった。

平成14年(2002)

- 3月 常設展示の小・中学生観覧料を無料化した。
- 3月 研究資料センターを開設した。
- 4月 国立西洋美術館インターンシップ制度を発足した。
- 4月 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育研究における連携・協力が行われた。
- 6月 版画素描閲覧室、収蔵庫を新たに設置した。
- 6月 企画展示館、展示作品安全柵（結界）を設けた。

平成15年(2003)

- 3月 前庭彫刻（ロダン作《アダムとエヴァ》）の設置工事（修復・免震化）が竣工した。
- 3月 展示場内扉のバリアフリー（自動扉化）工事が竣工した。
- 4月 学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を図った。

平成16年(2004)

- 1月 年始の休館日数を短縮し、1月2日から開館した。
- 3月 前庭彫刻（ブールデル作《弓を引くヘラクレス》）免震化工事が竣工した。
- 3月 インターネット上に蔵書検索システム(OPAC)を公開。
- 4月 開館時間の拡大（平成16年度より原則として春の企画展開催日から秋の企画展閉館日まで）閉館時間について従来より30分間の延長を行うこととした。
- 6月 国立西洋美術館ボランティア活動が開始された。

平成17年(2005)

- 2月 企画展示場内扉のバリアフリー（自動扉化）工事が竣工した。
- 11月 版画素描閲覧室を開設した。

平成18年(2006)

- 2月 本館身障者便所改修工事が竣工した。
- 4月 観覧券販売にクレジットカード決済を導入した。

平成19年(2007)

- 4月 国立美術館キャンパスメンバーズ開始
- 7月 Suica電子マネー決済を導入した。
- 9月 本館が世界遺産暫定一覧表へ記載された。
- 9月 本館の世界遺産推薦書(暫定版)がユネスコ世界遺産センターへ提出された。
- 12月 本館が国の重要文化財に指定された。

平成20年(2008)

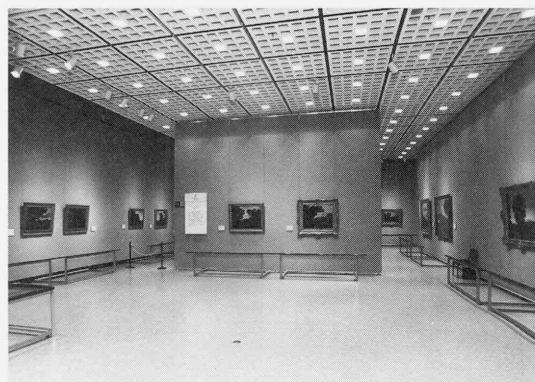
- 1月 本館がユネスコ世界遺産に推薦されることが決定した。
- 2月 本館の世界遺産推薦書がユネスコ世界遺産センターに提出された。
- 3月 常設展の高校生及び18歳未満の無料化を実施。
- 10月 イコモス(ICOMOS:国際記念物遺跡会議)により、本館の現地調査が行なわれた。

平成21年(2009)

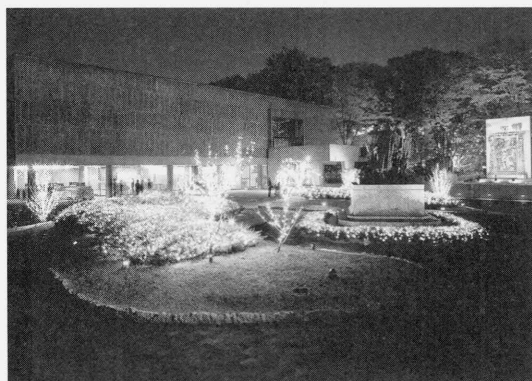
- 2月 新館空調設備その他工事(建築・電気設備・機械設備)が竣工した。



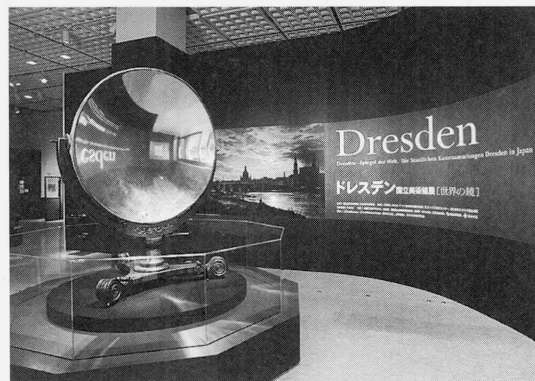
「バーンズ・コレクション展」平成6年(1994)



「イタリアの光:クロード・ロランと理想風景」展平成10年(1998)



ミュージアム・クリスマス平成16年(2004)



「ドレスデン国立美術館展」平成17年(2005)

作品(1) 所蔵作品統計

増加分

年度	絵画	彫刻	素描	版画	工芸	書籍	参考作品	計
昭和34(1959)	196	63	80	26			5	370
昭和35(1960)	6	1		3				10
昭和36(1961)			1					1
昭和37(1962)	5	1	2	7				15
昭和38(1963)	3	5	2					10
昭和39(1964)	1			18			86	105
昭和40(1965)	11		1	3			1	16
昭和41(1966)		3	3	1				7
昭和42(1967)	1	2	1	3			1	8
昭和43(1968)	3		2	4				9
昭和44(1969)	5	1	1				1	8
昭和45(1970)	3		1	18				22
昭和46(1971)	3			8				11
昭和47(1972)	2		1					3
昭和48(1973)	4	1		13				18
昭和49(1974)	5	2	3	5	1			16
昭和50(1975)	8	3	1	2				14
昭和51(1976)	4		1	5				10
昭和52(1977)	7		1	7	1			16
昭和53(1978)	7	1		5		1		14
昭和54(1979)	6		1	7				14
昭和55(1980)	3		1	2				6
昭和56(1981)	4		1	34				39
昭和57(1982)	1	1		176				178
昭和58(1983)	1		2	4				7
昭和59(1984)	5		2	97				104
昭和60(1985)	1		1	16		1		19
昭和61(1986)	2		4	1		1		8
昭和62(1987)	4	1		440		7		452
昭和63(1988)	2	1		33				36
昭和64・平成元(1989)	1		2	101		1		105
平成2(1990)	10	5	12	43	2	4		76
平成3(1991)	5	1		124				130
平成4(1992)	6			68		29		103
平成5(1993)	4			119				123
平成6(1994)	3			18				21
平成7(1995)	2		1	47				50
平成8(1996)	2			8				10
平成9(1997)	1		1	67				69
平成10(1998)	6			80		1		87
平成11(1999)	3			68		4		75
平成12(2000)	1	1		1,759			17	1,778
平成13(2001)	3	8	1	25	6			43
平成14(2002)	2		1	7				10
平成15(2003)	2			122				124
平成16(2004)	1		1	50		2	1	55
平成17(2005)	9		1	19				29
平成18(2006)	4		2	57		2	1	66
平成19(2007)	2		1	14				17
平成20(2008)	4			45				49
計	374 (209)	101 (71)	136 (81)	3,779 (26)	10 (6)	53	113 (5)	4,566 (398)

*上記の数字は、平成19年度末現在で整理したデータにより作成したものである。

* ()内の数字は、うち松方コレクション

購入	寄贈	管理換	絵画	彫刻	素描	版画	工芸	書籍	参考作品	計
	370		196	63	80	26	0	0	5	370
	10		202	64	80	29	0	0	5	380
	1		202	64	81	29	0	0	5	381
3	12		207	65	83	36	0	0	5	396
5	5		210	70	85	36	0	0	5	406
105			211	70	85	54	0	0	91	511
4	12		222	70	86	57	0	0	92	527
6	1		222	73	89	58	0	0	92	534
4	4		223	75	90	61	0	0	93	542
6	3		226	75	92	65	0	0	93	551
7	1		231	76	93	65	0	0	94	559
19		3	234	76	94	83	0	0	94	581
6	5		237	76	94	91	0	0	94	592
2	1		239	76	95	91	0	0	94	595
5	13		243	77	95	104	0	0	94	613
7	9		248	79	98	109	1	0	94	629
7	5	2	256	82	99	111	1	0	94	643
9	1		260	82	100	116	1	0	94	653
11	4	1	267	82	101	123	2	0	94	669
6	7	1	274	83	101	128	2	1	94	683
9	5		280	83	102	135	2	1	94	697
5		1	283	83	103	137	2	1	94	703
5	34		287	83	104	171	2	1	94	742
153	25		288	84	104	347	2	1	94	920
4	3		289	84	106	351	2	1	94	927
100	4		294	84	108	448	2	1	94	1,031
1	18		295	84	109	464	2	2	94	1,050
2	6		297	84	113	465	2	3	94	1,058
452			301	85	113	905	2	10	94	1,510
3	33		303	86	113	938	2	10	94	1,546
102	3		304	86	115	1,039	2	11	94	1,651
44	32		314	91	127	1,082	4	15	94	1,727
117	13		319	92	127	1,206	4	15	94	1,857
100	3		325	92	127	1,274	4	44	94	1,960
107	16		329	92	127	1,393	4	44	94	2,083
20	1		332	92	127	1,411	4	44	94	2,104
48	2		334	92	128	1,458	4	44	94	2,154
8	2		336	92	128	1,466	4	44	94	2,164
68	1		337	92	129	1,533	4	44	94	2,233
86	1		343	92	129	1,613	4	45	94	2,320
75	0		346	92	129	1,681	4	49	94	2,395
1,761	17		347	93	129	3,440	4	49	111	4,173
27	16		350	101	130	3,465	10	49	111	4,216
9	1		352	101	131	3,472	10	49	111	4,226
123	1		354	101	131	3,594	10	49	111	4,350
30	25		355	101	132	3,644	10	51	112	4,405
24	5		364	101	133	3,663	10	51	112	4,434
64	2		368	101	135	3,720	10	53	113	4,500
16	1		370	101	136	3,734	10	53	113	4,517
48	1		374	101	136	3,779	10	53	113	4,566
3,823	735	8								

作品(2) 所蔵作品修復統計

種別

年度	絵画	素描	版画	彫刻	工芸	その他	合計
昭和34(1959)	-	-	-	-	-	-	-
昭和35(1960)	-	-	-	-	-	-	-
昭和36(1961)	-	-	-	-	-	-	-
昭和37(1962)	-	-	-	-	-	-	-
昭和38(1963)	-	-	-	-	-	-	-
昭和39(1964)	-	-	-	-	-	-	-
昭和40(1965)	-	-	-	-	-	-	-
昭和41(1966)	-	-	-	-	-	-	-
昭和42(1967)							
昭和43(1968)	13	3	0	0	0	0	16
昭和44(1969)							
昭和45(1970)	-	-	-	-	-	-	-
昭和46(1971)	-	-	-	-	-	-	-
昭和47(1972)	22	0	0	0	0	0	22
昭和48(1973)	4	0	0	0	0	0	4
昭和49(1974)	1	0	0	0	0	0	1
昭和50(1975)	7	0	0	0	0	0	7
昭和51(1976)	7	0	0	0	0	0	7
昭和52(1977)	4	0	0	0	0	0	4
昭和53(1978)	4	0	0	0	0	0	4
昭和54(1979)	2	0	0	0	0	0	2
昭和55(1980)	39	0	0	0	0	0	39
昭和56(1981)	1	0	0	0	0	0	1
昭和57(1982)	2	0	0	0	0	0	2
昭和58(1983)	1	0	0	0	0	0	1
昭和59(1984)	1	0	0	0	0	0	1
昭和60(1985)	6	0	1	0	0	0	7
昭和61(1986)							
昭和62(1987)	8	0	3	0	0	0	11
昭和63(1988)							
昭和64・平成元(1989)	14	0	0	0	0	0	14
平成2(1990)	1	0	0	0	0	0	1
平成3(1991)	4	0	0	0	0	0	4
平成4(1992)	6	0	0	0	0	0	6
平成5(1993)	2	0	0	0	0	0	2
平成6(1994)	5	0	0	0	0	0	5
平成7(1995)	6	0	0	0	0	0	6
平成8(1996)	11	4	0	1	0	0	16
平成9(1997)	3	1	1	5	0	0	10
平成10(1998)	3	2	29	3	0	0	37
平成11(1999)	3	0	10	1	0	0	14
平成12(2000)	6	3	6	2	0	0	17
平成13(2001)	0	0	31	0	0	0	31
平成14(2002)	0	0	0	0	0	0	0
平成15(2003)	0	0	0	0	0	0	0
平成16(2004)	3	0	0	1	0	0	4
平成17(2005)	5	0	0	1	0	5	6
平成18(2006)	2	0	0	12	0	0	14
平成19(2007)	6	0	0	21	0	1	28
平成20(2008)	3	0	0	0	0	0	3

作品(3) 所蔵作品貸出統計

年度	件数	点数	国内								国外				
			件数	点数	絵画	素描	版画	彫刻	書籍	工芸	件数	点数	絵画	素描	彫刻
昭和40(1965)	1	1									1	1	1		
昭和41(1966)	1	2	1	2				2							
昭和42(1967)															
昭和43(1968)	4	4	4	4	1	3									
昭和44(1969)	2	8	2	8	6			2							
昭和46(1971)	1	4	1	4	3		1								
昭和52(1977)	1	1									1	1	1		
昭和53(1978)	2	30	2	30	29		1								
昭和54(1979)	4	8	3	3	2		1				1	5	5		
昭和55(1980)	3	11	3	11		1	10								
昭和56(1981)	9	35	5	30	20	10					4	5	2	3	
昭和57(1982)	6	20	4	16	15		1				2	4	4		
昭和58(1983)	4	11	3	9	6			3			1	2	1	1	
昭和59(1984)	8	16	7	15	9			6			1	1	1		
昭和60(1985)	11	12	6	7	6		1				5	5	5		
昭和61(1986)	9	25	8	23	15	3	1		4		1	2	2		
昭和62(1987)	9	19	6	12	6		4	2			3	7	7		
昭和63(1988)	14	32	12	30	14		13	3			2	2	2		
昭和64・平成元(1989)	19	48	17	46	16		30				2	2	1	1	
平成2(1990)	19	26	13	23	20		3				6	3	3		
平成3(1991)	10	11	9	7	7						1	4			4
平成4(1992)	7	77	7	77	41		26	10							
平成5(1993)	14	11	9	8	5			3			5	3	3		
平成6(1994)	12	46	9	45	14	2	24	5			3	1	1		
平成7(1995)	11	21	10	20	16	1	1	2			1	1	1		
平成8(1996)	14	32	12	31	7		19	5			2	1		1	
平成9(1997)	4	13	3	12	2		2	1	7		1	1		1	
平成10(1998)	8	14	4	10	2	1	5			2	4	4	2	2	
平成11(1999)	4	4	2	2		2					2	2	2		
平成12(2000)	5	5	1	1	1						4	4	4		
平成13(2001)	10	27	8	25	5		8	10	2		2	2	2		
平成14(2002)	2	4	1	3			3				1	1	1		
平成15(2003)	2	2	1	1	1						1	1	1		
平成16(2004)	6	7	3	3	3						3	4	4		
平成17(2005)	4	8	3	7	5			2			1	1	1		
平成18(2006)	16	19	7	9	6	2	1				9	10	8	2	
平成19(2007)	8	10	5	8	6		2				3	2	2		
平成20(2008)	17	22	14	19	16	1		2			3	3	3		
計	281	646	205	561	305	26	157	58	13	2	76	85	70	11	4

展示(1) 入場者数の推移

年度	平常展 (人)	特別展 (人)	共催展 (人)	合計 (人)
昭和34(1959)	584,861	-		584,861
昭和35(1960)	174,804	-	224,084	398,888
昭和36(1961)	246,236	33,821	-	280,057
昭和37(1962)	206,840	-	133,730	340,570
昭和38(1963)	182,043	87,840	173,218	443,101
昭和39(1964)	137,338	76,386	831,198	1,044,922
昭和40(1965)	181,585	-	210,362	391,947
昭和41(1966)	119,662	-	569,769	689,431
昭和42(1967)	131,192	61,133	372,119	564,444
昭和43(1968)	81,097	63,808	613,770	758,675
昭和44(1969)	212,149	99,558	-	311,707
昭和45(1970)	180,233	58,745	184,181	423,159
昭和46(1971)	147,317	88,376	698,820	934,513
昭和47(1972)	186,566	73,056	177,792	437,414
昭和48(1973)	242,139	71,214	17,362	330,715
昭和49(1974)	82,780	68,397	787,817	938,994
昭和50(1975)	212,927	46,713	128,155	387,795
昭和51(1976)	235,442	64,395	435,160	734,997
昭和52(1977)	229,881	51,805	216,206	497,892
昭和53(1978)	87,396	78,389	181,845	347,630
昭和54(1979)	54,940	54,208	60,893	170,041
昭和55(1980)	134,190	45,708	751,131	931,029
昭和56(1981)	175,776	52,176	423,407	651,359
昭和57(1982)	104,813	66,231	917,325	1,088,369
昭和58(1983)	233,168	38,414	131,717	403,299
昭和59(1984)	126,918	62,555	314,563	504,036
昭和60(1985)	169,773	34,423	557,445	761,641
昭和61(1986)	172,374	56,674	584,729	813,777
昭和62(1987)	181,735	50,598	589,440	821,773
昭和63(1988)	153,725	73,617	508,891	736,233
昭和64・平成元(1989)	139,986	69,576	475,838	685,400
平成2(1990)	208,407	15,975	415,331	639,713
平成3(1991)	135,926	126,813	580,085	842,824
平成4(1992)	234,840	48,507	129,770	413,117
平成5(1993)	138,125	113,622	1,317,930	1,569,677
平成6(1994)	64,992	28,240	679,709	772,941
平成7(1995)	130,989	58,281	177,260	366,530
平成8(1996)	-	145,457	-	145,457
平成9(1997)	-	125,420	-	125,420
平成10(1998)	114,658	56,275	243,434	414,367
平成11(1999)	71,839	29,392	988,005	1,089,236
平成12(2000)	261,600	30,034	649,875	941,509
平成13(2001)	259,439	44,020	496,392	799,851
平成14(2002)	339,752	64,023	582,323	986,098
平成15(2003)	271,641	48,114	304,998	624,753
平成16(2004)	354,816	37,329	607,772	999,917
平成17(2005)	295,178	30,176	498,982	824,336
平成18(2006)	273,421	11,881	327,028	612,330
平成19(2007)	297,437	21,551	511,850	830,838
平成20(2008)	394,300	-	840,830	1,235,130
合計	9,357,246	2,662,926	20,622,541	32,642,713

展示(2) 共催展観覧者数

年度	展覧会名	開催日数	観客数	一日平均
昭和35(1960)	松方コレクション名作選抜展	50	80,825	1,616
	20世紀フランス美術展	53	114,141	2,153
	ル・コルビュジェ展	24	29,118	1,213
昭和37(1962)	ミロ版画展	26	46,771	1,798
	ピカソ・ゲルニカ展	45	86,959	1,932
昭和38(1963)	シャガール展	38	173,218	4,558
昭和39(1964)	ミロのビーナス：特別公開	38	831,198	21,873
昭和40(1965)	ルオー遺作展	57	210,362	3,690
昭和41(1966)	ロダン展	44	318,880	7,249
	ソ連国立美術館近代名画展	62	250,889	4,046
昭和42(1967)	ボンベイ古代美術展	44	323,302	7,347
	ボナール展	42	274,424	6,533
昭和43(1968)	レンブラントとオランダ絵画巨匠展	56	187,704	3,351
	ロートレック展	29	200,459	6,912
昭和45(1970)	英国風景画展	39	184,181	4,722
昭和46(1971)	ヨーロッパ巨匠水彩素描展	45	124,318	2,762
	ゴヤ展	54	574,502	10,638
昭和47(1972)	デューラーとドイツ・ルネッサンス展	44	177,792	4,040
昭和48(1973)	セザンヌ展	49	541,149	11,043
昭和49(1974)	ヨーロッパ絵画名作展	56	264,030	4,714
昭和50(1975)	ホドラー展	44	128,155	2,912
昭和51(1976)	ヴァン・ゴッホ展	44	435,160	9,890
昭和52(1977)	エルミタージュ美術館展	38	216,206	5,689
昭和53(1978)	ボストン美術館展	42	181,845	4,329
昭和54(1979)	フラゴナール展	48	371,168	7,733
昭和55(1980)	ギリシャ美術の源流	48	138,383	2,882
	イタリア・ルネッサンス美術展	44	302,473	6,874
昭和56(1981)	アングル展	43	339,491	7,895
	エミール・ノルデ展	38	83,916	2,208
昭和57(1982)	ミレーの「晩鐘」と19世紀フランス名画展	51	531,144	10,415
	モネ展	44	386,181	8,776
昭和58(1983)	エルミタージュ美術館展II	38	131,717	3,466
昭和59(1984)	マウリッツハイス王立美術館展	42	152,360	3,627
	ウィーン美術史美術館展	44	162,203	3,686
昭和60(1985)	点描の画家たち	44	159,357	3,622
	ゴッホ展	50	398,088	7,962
昭和61(1986)	ターナー展	44	310,148	7,049
	エル・グレコ展	50	252,038	5,041
	西洋の美術	68	611,983	9,000
昭和63(1988)	ジャポニスム展	69	466,372	6,759
	ヴァチカン美術館特別展	54	289,976	5,370
昭和64・平成元(1989)	ドラクロワとフランス・ロマン主義展	50	181,571	3,631
	ブリュゲルとネーデルラント風景画	60	335,553	5,593
平成2(1990)	ウィリアム・ブレイク展	56	126,588	2,261
平成3(1991)	ルーヴル美術館特別展	65	469,426	7,222
	スペイン・リアリズムの美	54	153,497	2,843

年度	展覧会名	開催日数	観客数	一日平均
平成4(1992)	オーストラリア絵画の200年	54	86,932	1,610
平成5(1993)	ヴァチカンのルネサンス美術展	60	323,514	5,392
	バーンズ・コレクション展	62	1,071,352	17,280
平成6(1994)	聖なるかたち	54	106,517	1,973
	1874年ーパリ:「第一回印象派展」とその時代	60	476,550	7,943
	ギュスターヴ・モロー展	48	196,966	4,103
平成10(1998)	イタリアの光:クロード・ロランと理想風景	72	186,974	2,597
	フィレンツェとヴェネツィア	80	402,896	5,036
平成11(1999)	オルセー美術館展 1999	78	586,273	7,516
	顔:絵画を突き動かすもの	29	24,407	842
	ピカソ:子供の世界	84	377,834	4,498
平成12(2000)	レンブラント、フェルメールとその時代	72	280,259	3,892
	イタリア・ルネサンス	97	422,721	4,358
平成13(2001)	ブラド美術館展	91	516,711	5,678
平成14(2002)	ウィンスロップ・コレクション	74	186,361	2,518
平成15(2003)	レンブラントとレンブラント派	80	272,526	3,407
	古代ローマ彫刻展	79	130,618	1,653
平成16(2004)	マティス展	83	451,105	5,435
	ジョルジュ・ド・ラ・トゥール	73	245,064	3,357
平成17(2005)	ドレスデン国立美術館展	74	286,330	3,869
	ロダンとカリエール	79	106,128	1,343
平成18(2006)	ベルギー王立美術館展	78	247,009	3,167
平成19(2007)	バルマ	79	167,934	2,126
	ムンク展	76	263,907	3,472
	ウルビーノのヴィーナス	67	238,352	3,557
平成20(2008)	コロー	69	286,173	4,147
	ヴィルヘルム・ハンマースホイ	60	179,556	2,993

展示(3) 特別展観覧者数

年度	展覧会名	開催日数	観客数	一日平均
昭和36(1961)	エドヴァルド・ムンク展	26	33,821	1,300
昭和38(1963)	マイヨール展	39	87,840	2,252
昭和39(1964)	ギュスターヴ・モロー展	50	76,386	1,527
昭和42(1967)	デュフィ回顧展	39	61,133	1,567
昭和43(1968)	ブールデル展	43	63,808	1,483
昭和44(1969)	18世紀フランス美術展	51	99,558	1,952
昭和45(1970)	ドイツ表現派展	51	58,745	1,151
昭和46(1971)	ローマ・バロック展	41	88,376	2,155
昭和47(1972)	フランスの中世美術	43	73,056	1,698
昭和48(1973)	イタリア・ルネッサンスのブロンズと素描	51	71,214	1,396
昭和49(1974)	ヨーロッパ素描名作展	50	68,397	1,367
昭和50(1975)	英国の肖像画	44	46,713	1,061
昭和51(1976)	全米美術館収集世界名作展	32	64,395	2,012
昭和52(1977)	ルネッサンス装飾美術展	37	51,805	1,400
昭和53(1978)	ヨーロッパの風景画	37	78,389	2,118
昭和54(1979)	ヨーロッパ巨匠素描展	38	54,208	1,426
昭和55(1980)	ヨーロッパ版画名作展	38	45,708	1,202
昭和56(1981)	モーリス・ドニ展	42	52,176	1,242
昭和57(1982)	アメリカ絵画展	48	66,231	1,379
昭和58(1983)	ハインリヒ・フュースリ展	32	38,414	1,200
昭和59(1984)	ドイツ美術展	48	62,555	1,303
昭和60(1985)	近世ヨーロッパ素描名作展	38	34,423	906
昭和61(1986)	アルノルト・ベックリーン展	38	56,674	1,491
昭和62(1987)	イギリスのカリカチュア	44	50,598	1,150
昭和63(1988)	マックス・クリンガー展	50	73,617	1,472
昭和64・平成元(1989)	ロダン《地獄の門》展	50	69,576	1,392
平成2(1990)	ドイツの素描	54	89,155	1,651
平成3(1991)	マルティン・ショーンガウアーと15世紀ドイツ銅版画	48	53,633	1,117
平成4(1992)	フランス近世素描展	48	48,507	1,011
平成5(1993)	冬の国：ムンクとノルウェー絵画	54	113,622	2,104
平成6(1994)	宗教改革時代のドイツ木版画	44	28,240	642
平成7(1995)	大英博物館所蔵 イタリア素描展	54	69,115	1,280
平成10(1998)	ゴヤ	48	56,275	1,172
平成11(1999)	記憶された身体	48	29,392	612
平成12(2000)	死の舞踏	47	30,034	639
平成13(2001)	肖像が語るアメリカ史／アメリカン・ヒロイズム	60	44,020	734
平成14(2002)	大英博物館所蔵フランス素描展	48	64,023	1,334
平成15(2003)	ドイツ・ロマン主義の風景素描	54	48,114	891
平成16(2004)	聖杯：中世の金工美術	43	37,329	868
平成17(2005)	キアロスクーロ	56	30,176	539
平成18(2006)	イタリア・ルネッサンスの版画	55	33,432	608

展示(4) 平常展示観覧者数

年度	開館日数			入場者数		
	平常展	企画展	計	平常展	企画展	総入場者数
昭和34(1959)	241		241	584,861		584,861
昭和35(1960)	151		151	174,804		174,804
昭和36(1961)	269		269	246,236		246,236
昭和37(1962)	225		225	206,840		206,840
昭和38(1963)	199		199	182,043		182,043
昭和39(1964)	176		176	137,338		137,338
昭和40(1965)	191		191	181,585		181,585
昭和41(1966)	101		101	119,662		119,662
昭和42(1967)	179		179	131,192		131,192
昭和43(1968)	90		90	81,097		81,097
昭和44(1969)	235		235	212,149		212,149
昭和45(1970)	186		186	180,233		180,233
昭和46(1971)	137		137	147,317		147,317
昭和47(1972)	176		176	186,566		186,566
昭和48(1973)	205		205	242,139		242,139
昭和49(1974)	92		92	82,780		82,780
昭和50(1975)	180		180	212,927		212,927
昭和51(1976)	198		198	235,442		235,442
昭和52(1977)	197		197	229,881		229,881
昭和53(1978)	76		76	87,396		87,396
昭和54(1979)	71	50	121	54,545	395	54,940
昭和55(1980)	122	166	288	130,217	3,973	134,190
昭和56(1981)	181	123	304	168,747	7,029	175,776
昭和57(1982)	138	143	281	101,272	3,541	104,813
昭和58(1983)	235	70	305	231,255	1,913	233,168
昭和59(1984)	159	134	293	117,296	9,622	126,918
昭和60(1985)	158	132	290	163,459	6,314	169,773
昭和61(1986)	137	132	269	165,818	6,556	172,374
昭和62(1987)	162	44	206	175,938	5,797	181,735
昭和63(1988)	141	79	220	150,584	3,141	153,725
昭和64・平成元(1989)	123	155	278	126,322	13,664	139,986
平成2(1990)	172	117	289	193,864	14,543	208,407
平成3(1991)	102	198	300	108,051	27,875	135,926
平成4(1992)	174	113	287	212,202	22,638	234,840
平成5(1993)	94	114	208	116,834	21,291	138,125
平成6(1994)	48	0	48	64,992	0	64,992
平成7(1995)	132	0	132	130,989	0	130,989
平成8(1996)	0	0	0	0	0	0
平成9(1997)	0	0	0	0	0	0
平成10(1998)	120	130	250	26,359	88,299	114,658
平成11(1999)	83	212	295	27,411	44,428	71,839
平成12(2000)	94	198	292	94,064	167,536	261,600
平成13(2001)	115	170	285	102,053	157,386	259,439
平成14(2002)	113	189	302	91,429	248,323	339,752
平成15(2003)	146	160	306	138,344	133,297	271,641
平成16(2004)	109	200	309	124,439	230,377	354,816
平成17(2005)	90	204	294	111,928	183,250	295,178
平成18(2006)	147	158	305	152,775	120,646	273,421
平成19(2007)	43	211	254	95,881	201,556	297,437
平成20(2008)	110	199	309	123,807	270,493	394,300
計	7,023	3,801	10,824	7,363,363	1,993,883	9,357,246

一日平均入場者数 (平常展のみ)	無料観覧日内数 (カッコ内は実施回数)	
2,427		
1,158		
915		
919		
915		
780		
951		
1,185		
733		
901		
903	(3)	9,447
969	(7)	13,585
1,075	(6)	13,847
1,060	(7)	16,261
1,181	(9)	23,829
900	(4)	5,548
1,183	(6)	12,274
1,189	(7)	17,689
1,167	(7)	15,891
1,150	(4)	8,088
768	(3)	3,831
1,067	(3)	6,480
932	(5)	8,572
734	(6)	9,287
984	(9)	16,082
738	(7)	15,111
1,035	(6)	25,875
1,210	(5)	24,435
1,086	(5)	13,097
1,068	(6)	17,803
1,027	(4)	9,362
1,127	(8)	19,677
1,059	(4)	10,818
1,220	(6)	15,888
1,243	(8)	11,047
1,354	(3)	6,203
992	(11)	16,425
0	0	0
0	0	0
220	(20)	13,030
330	(20)	7,692
1,001	(24)	10,205
887	(24)	12,309
809	(24)	10,352
948	(25)	13,124
1,142	(26)	14,196
1,244	(25)	17,714
1,039	(27)	23,785
2,230	(23)	21,283
1,126	(29)	20,783
49,730	(426)	530,925

展示(5) 巡回展観覧者数

年度	開催地	巡回展名	会場	開催日数	総観覧者数 (人)	一日平均 (人)
昭和37(1962)	神戸市	巡回展	白鶴美術館	17	85,301	5,018
	名古屋市	巡回展	愛知県文化会館美術館	23	151,434	6,584
昭和38(1963)	松江市	巡回展	島根県立博物館	16	82,778	5,174
	久留米市	巡回展	石橋美術館	16	103,030	6,439
昭和39(1964)	札幌市	巡回展	道立札幌中島スポーツセンター	23	164,436	7,149
昭和40(1965)	金沢市	巡回展	石川県美術館	19	78,665	4,140
	岡山市	巡回展	岡山県総合文化センター	19	114,210	6,011
昭和41(1966)	和歌山市	巡回展	和歌山県立美術館	21	77,754	3,703
	大分市	巡回展	大分文化会館	16	157,946	9,872
昭和42(1967)	鹿児島市	巡回展	鹿児島市立美術館	24	65,554	2,731
	高松市	巡回展	香川県文化会館	22	106,134	4,824
昭和43(1968)	新潟市	巡回展	新潟県美術博物館	22	116,056	5,275
	広島市	巡回展	広島県立美術館	23	78,764	3,425
昭和44(1969)	水戸市	巡回展	茨城県立県民文化センター	30	63,514	2,117
昭和45(1970)	長崎市	巡回展	長崎県立美術博物館	29	90,573	3,123
昭和46(1971)	富山市	巡回展	富山県民会館美術館	23	88,430	3,845
昭和47(1972)	長野市	巡回展	長野県信濃美術館	25	114,932	4,597
昭和48(1973)	高知市	巡回展	高知県立郷土文化会館	29	105,498	3,638
昭和49(1974)	福岡市	巡回展	福岡県文化会館	29	88,709	3,059
	佐賀市	巡回展	佐賀県立博物館	16	50,379	3,149
昭和50(1975)	山形市	巡回展	山形美術博物館	30	115,488	3,850
昭和51(1976)	鳥取市	巡回展	鳥取県立博物館	30	51,809	1,727
昭和52(1977)	奈良市	巡回展	奈良県立美術館	26	56,645	2,179
昭和53(1978)	熊本市	巡回展	熊本県立美術館	27	74,884	2,773
	大分市	巡回展	大分県立芸術会館	33	72,267	2,190
昭和55(1980)	広島市	文化庁巡回展	広島県立美術館	-	12,470	-
	大分市	文化庁巡回展	大分県立芸術会館	-	11,880	-
	熊本市	文化庁巡回展	熊本県立美術館	-	6,732	-
	長崎市	文化庁巡回展	長崎県立美術博物館	-	9,180	-
昭和56(1981)	弘前市	文化庁巡回展	弘前市立博物館	-	12,777	-
	盛岡市	文化庁巡回展	岩手県民会館	-	9,512	-
	福島市	文化庁巡回展	福島県文化センター	-	7,115	-
昭和57(1982)	鳥取市	文化庁巡回展	鳥取県立博物館	-	8,485	-
	高松市	文化庁巡回展	香川県文化会館	-	6,573	-
	高知市	文化庁巡回展	高知県立郷土文化会館	-	11,308	-
昭和58(1983)	富山市	文化庁巡回展	富山県民会館美術館	-	7,831	-
	福井市	文化庁巡回展	福井県立美術館	-	5,475	-
	豊橋市	文化庁巡回展	豊橋市美術博物館	-	9,211	-
昭和61(1986)	長崎市	巡回展	長崎県立美術博物館	15	2,133	142
	佐世保市	巡回展	佐世保市博物館島瀬美術センター	9	1,304	145
昭和63(1988)	倉吉市	巡回展	倉吉博物館	27	15,090	559
昭和64・平成元(1989)	都城市	巡回展(新聞共催あり)	都城市立美術館	-	-	-
	名古屋市	巡回展(新聞共催あり)	名古屋市美術館	-	-	-
平成2(1990)	井原市	文化庁巡回展	井原市立田中美術館	-	6,903	-
	高松市	文化庁巡回展	香川県文化会館	-	26,661	-
	豊田市	文化庁巡回展	豊田市民文化会館	-	12,437	-

年度	開催地	巡回展名	会場	開催日数	総観覧者数 (人)	一日平均 (人)
平成3(1991)	八戸市	文化庁巡回展	八戸市美術館	-	6,057	-
	天童市	文化庁巡回展	天童市美術館	-	5,013	-
平成4(1992)	浦添市	地方美術館との連携協力展	浦添市美術館	-	11,293	-
平成6(1994)	唐津市	地方美術館との連携協力展	唐津市近代図書館美術ホール	-	5,555	-
	八代市	国立博物館・美術館巡回展	八代市立博物館未来の森ミュージアム	-	9,284	-
	姫路市	国立博物館・美術館巡回展	兵庫県立歴史博物館、姫路市立美術館	-	18,590	-
平成7(1995)	長崎市	国立博物館・美術館巡回展	長崎県立美術博物館	-	14,373	-
平成8(1996)	岐阜市	国立博物館・美術館巡回展	岐阜県美術館	-	9,498	-
	唐津市	国立博物館・美術館巡回展	唐津市近代美術館、(財)河村美術館	-	9,857	-
平成19(2007)	姫路市	国立美術館巡回展	姫路市立美術館	25	7,577	303
	松本市	国立美術館巡回展	松本市美術館	45	11,272	250
巡回展合計					2,373,717	
文化庁巡回展合計					175,620	
地方美術館との連携協力展合計					16,848	
国立博物館・美術館巡回展合計					61,602	
国立美術館巡回展合計					18,849	
総合計					2,646,636	

出版(1) 刊行物一覧

以下は、国立西洋美術館が刊行または監修・執筆に関わった展覧会カタログなどの出版物、小冊子、逐次刊行物、および当館事業に関連する刊行物の一覧である（ただし展覧会で配布した小冊子等については省略した）。

作品目録・展覧会カタログ等 Catalogues

書名は原則として標題紙に記載された表記を採用した。配列は出版年順。

同一出版年のなかでは作品総目録、展覧会カタログ、その他の刊行物（名作選を含む）の順。作品総目録には*を付す。

[]は情報源以外によるものを示す。展覧会に関連する刊行物には展覧会番号（『国立西洋美術館展覧会総覧 1960-2009』参照のこと）を掲載した。

昭和34年(1959)

C1959.01 **Catalogue de la Collection Matsukata.** [94] pp. (表紙に『国立西洋美術館開館記念目録』と記載)

C1959.02 『観賞のしおり』12 pp. (1959年刊行?)

昭和35年(1960)

C1960.01 **Masterpieces of the Ex-Matsukata Collection.** [102] pp. (表紙に『松方コレクション名作選抜展図録』と記載) →E1960.01

C1960.02 『20世紀フランス美術展』(=Ecole de Paris: Art Décoratif.) [168] pp. →E1960.02

C1960.03 **Catalogue of the National Museum of Western Art.** [96] pp. (表紙に『国立西洋美術館陳列目録』と記載)

C1960.04 **A Short Guide to the National Museum of Western Art.** [32] pp.

昭和36年(1961)

C1961.01 *『国立西洋美術館総目録』[302] pp. (Cover title: *Catalogue du Musée National d'Art Occidental.*)

C1961.02 『ル・コルビュジエ展』76 pp. →E1961.01

C1961.03 『エドヴァルト・ムンク版画展』(=Exhibition of Edvard Munch Prints.) [30] pp. →E1961.02

C1961.04 『ルーヴルを中心とするフランス美術展』(=Exposition d'Art Français au Japon 1840-1940.) 206 pp. →E1961.03

C1961.05 **Catalogue of the National Museum of Western Art.** [96] pp. (裏表紙に『国立西洋美術館陳列目録』と記載)

C1961.06 『鑑賞のしおり』[20] pp. (1961年刊行?)

昭和37年(1962)

C1962.01 『ミロ版画展』(=Art Graphique.) [66] pp. (Cover title: *Miró.*) →E1962.01

C1962.02 『松方コレクション展』[60] pp. (会場: 白鶴美術館) →E1962.02

C1962.03 『ピカソ・ゲルニカ展』(=Picasso: Guernica.) [84] pp. →E1962.03

C1962.04 『松方コレクション展』[60] pp. (会場: 愛知県文化会館) →E1962.04

C1962.05 **Catalogue of the National Museum of Western Art.** [96] pp. (裏表紙に『国立西洋美術館陳列目録』と記載)

昭和38年(1963)

C1963.01 『マイヨール展』(=Maillol.) [78] pp. →E1963.01

C1963.02 **Marc Chagall.** 188 pp. (背表紙に『シャガール展』と記載) →E1963.02

C1963.03 『松方コレクション展』[60] pp. (会場: 島根県立博物館) →E1963.03

C1963.04 『松方コレクション展』[60] pp. (会場: 石橋美術館) →E1963.04

昭和39年(1964)

C1964.01 『ミロのビーナス』(=Presentation exceptionnelle de la Vénus de Milo.) 118 pp. →E1964.01

C1964.02 『松方コレクション展』[96] pp. (会場: 札幌中島スポーツセンター) →E1964.02

C1964.03 『ギュスターヴ・モロー展』(=Gustave Moreau.) [165] pp. →E1964.03

C1964.04 **Les soixante chefs-d'oeuvres du musée national d'art occidental.** [91] pp. (裏表紙に『国立西洋美術館名作選』と記載)

C1964.05 **Guide du Musée national d'art occidental.** (=Guide to the National Museum of Western Art.) [72] pp.

昭和40年(1965)

- C1965.01 『松方コレクション展』[90] pp. (会場: 石川県美術館) →E1965.01
C1965.02 『ルオー遺作展』(=*Georges Rouault.*) 139 pp. →E1965.02
C1965.03 『松方コレクション展』[90] pp. (会場: 岡山県総合文化センター) →E1965.03

昭和41年(1966)

- C1966.01 『ロダン展』(=*Rodin.*) [163] pp. →E1966.01
C1966.02 『ソ連国立美術館近代名画展』(=*Masterpieces of Modern Painting from U.S.S.R.*) [196] pp. →E1966.02
C1966.03 『松方コレクション展』[89] pp. (会場: 和歌山県立美術館) →E1966.03
C1966.04 『松方コレクション展』[89] pp. (会場: 大分文化会館) →E1966.04

昭和42年(1967)

- C1967.01 『ボンベイ古代美術展』(=*Pompei.*) [186] pp. →E1967.01
C1967.02 『松方コレクション展』[87] pp. (会場: 鹿児島市立美術館) →E1967.02
C1967.03 『デュフィ回顧展』(=*Raoul Dufy.*) [184] pp. →E1967.03
C1967.04 『松方コレクション展』[84] pp. (会場: 香川県文化会館) →E1967.04

昭和43年(1968)

- C1968.01 『ボナール展』(=*Bonnard.*) [200] pp. →E1968.01
C1968.02 『ブールデル展』(=*Bourdelle.*) [134] pp. →E1968.02
C1968.03 『松方コレクション展』[103] pp. (会場: 新潟県美術博物館) →E1968.03
C1968.04 『レンブラントとオランダ絵画巨匠展』(=*The Age of Rembrandt.*) [256] pp. →E1968.04
C1968.05 『松方コレクション展』[103] pp. (会場: 広島県立美術館) →E1968.05

昭和44年(1969)

- C1969.01 『ロートレック展』(=*Lautrec.*) [201] pp. →E1969.01
C1969.02 『18世紀フランス美術展』(=*Art Français du 18ème siècle.*) [viii, 316] pp. →E1969.02
C1969.03 『松方コレクション展』[107] pp. (会場: 茨城県立県民文化センター) →E1969.03
C1969.04 『国立西洋美術館名作選』(=*Les cent chefs-d'oeuvre du musée national d'art occidental.*) 134 pp.

昭和45年(1970)

- C1970.01 『英国風景画展』(=*English Landscape Painting.*) [204] pp. →E1970.01
C1970.02 『松方コレクション展』[107] pp. (会場: 長崎県立美術博物館) →E1970.02

昭和46年(1971)

- C1971.01 『ドイツ表現派展』(=*Der Deutsche Expressionismus.*) [214] pp. →E1971.01
C1971.02 『ヨーロッパ巨匠水彩素描展』(=*From Cézanne through Picasso.*) [160] pp. →E1971.02
C1971.03 『ローマ・バロック展』(=*Il Barocco Romano.*) [180] pp. →E1971.03
C1971.04 『松方コレクション富山展』[105] pp. →E1971.04
C1971.05 『ゴヤ展』(=*El Arte de Goya.*) [212] pp. →E1971.05

昭和47年(1972)

- C1972.01 『デューラーとドイツ・ルネッサンス展』(=*Deutsche Kunst der Dürer-Zeit.*) 233 pp. →E1972.01
C1972.02 『フランスの中世美術』(=*L'Art du Moyen Age en France.*) [180] pp. →E1972.02
C1972.03 『松方コレクション長野展』[108] pp. →E1972.03

昭和48年(1973)

- C1973.01 『イタリア・ルネッサンスのブロンズと素描』(=*Italianische Kleinbronzen und Handzeichnungen der Renaissance und des Manierismus.*) [156] pp. →E1973.01
C1973.02 『松方コレクション展』[107] pp. (会場: 高知県立郷土文化会館) →E1973.02

昭和49年(1974)

- C1974.01 『セザンヌ展』(=Exposition Cézanne.) [156] pp. →E1974.01
C1974.02 『モナ・リザ展』(=Exposition La Joconde.) 69 pp. →E1974.02
C1974.03 『ヨーロッパ絵画名作展』(=Meisterwerke der europäischen Malerei.) 174 pp. →E1974.03
C1974.04 『松方コレクション展』[111] pp. (会場:福岡県文化会館) →E1974.04
C1974.05 『松方コレクション展』[111] pp. (会場:佐賀県立博物館) →E1974.05

昭和50年(1975)

- C1975.01 『ヨーロッパ素描名作展』(=Old Master Drawings from Chatsworth.) [118] pp. →E1975.01
C1975.02 『ホドラー展』(=Exposition Ferdinand Hodler.) [132] pp. →E1975.02
C1975.03 『英王室秘蔵素描展』(=English Drawings from the Collection of H. M. Queen Elizabeth II at Windsor Castle.) [60] pp. →E1975.03
C1975.04 『英国の肖像画』(=English Portraits.) [176] pp. →E1975.04
C1975.05 『松方コレクション山形展』[110] pp. (会場:山形美術博物館) →E1975.05
C1975.06 『国立西洋美術館名作選』(=Les chefs-d'oeuvre du Musée National d'Art Occidental.) [166] pp.
C1975.07 『「モナ・リザ展」記録』(文化庁編集・発行) 80 pp.

昭和51年(1976)

- C1976.01 『全米美術館収集世界名作展』(=Masterpieces of World Art from American Museums.) [195] pp. →E1976.01
C1976.02 『松方コレクション展』[112] pp. (会場:鳥取県立博物館) →E1976.02
C1976.03 『ヴァン・ゴッホ展』(=Vincent Van Gogh Exhibition.) [208] pp. →E1976.03

昭和52年(1977)

- C1977.01 『エルミタージュ美術館展』(=Master Paintings from the Hermitage Museum Leningrad.) [157] pp. →E1977.01
C1977.02 『松方コレクション展』[109] pp. (会場:奈良県立美術館) →E1977.02
C1977.03 『ルネッサンス装飾美術展』(=Renaissance Decorative Arts.) [132] pp. →E1977.03

昭和53年(1978)

- C1978.01 『ボストン美術館展』(=Boston Museum Exhibition.) [186] pp. →E1978.01
C1978.02 『ヨーロッパの風景画』(=European Landscape Painting.) [218] pp. →E1978.02
C1978.03 『国立西洋美術館名品展』[125] pp. (会場:熊本県立美術館) →E1978.03
C1978.04 『国立西洋美術館名品展』[125] pp. (会場:大分県立芸術会館) →E1978.04
C1978.05 『国立西洋美術館名作選』(=Masterpieces of the National Museum of Western Art, Tokyo.) [186] pp.

昭和54年(1979)

- C1979.01 *『国立西洋美術館総目録:絵画篇』(=Catalogue of Paintings.) [250] pp.
C1979.02 『ヨーロッパ巨匠素描展』(=European Master Drawings of Six Centuries.) [198] pp. →E1979.01

昭和55年(1980)

- C1980.01 『フラゴナール展』(=Fragonard.) [290] pp. →E1980.01
C1980.02 『ギリシャ美術の源流』(=The Ancient Greek Art of the Aegean Islands.) 223 pp. →E1980.02
C1980.03 『内外美術名品展』135 pp. →E1980.03; E1980.04; E1980.07; E1980.08
C1980.04 『スペイン絵画・ベラスケスとその時代』(=Velázquez y la Pintura Española de su Tiempo.) [132] pp. →E1980.05
C1980.05 『スペイン絵画・ベラスケスとその時代』(=Velázquez y la Pintura Española de su Tiempo.) [12] pp. (別冊) →E1980.05
C1980.06 『イタリア・ルネッサンス美術展』(=Capolavori del Rinascimento Italiano.) [208] pp. →E1980.06

昭和56年(1981)

- C1981.01 『ヨーロッパ版画名作展』(=Sechs Jahrhunderte europäischer Druckgraphik.) [317] pp. →E1981.01
C1981.02 『アングル展』(=Ingres.) [224] pp. →E1981.02
C1981.03 『モーリス・ドニ展』(=Maurice Denis.) [218] pp. →E1981.03
C1981.04 『内外美術名品展』135 pp. →E1981.04; E1981.05; E1981.07
C1981.05 『エミール・ノルデ展』(=Emil Nolde.) [218] pp. →E1981.06

昭和57年(1982)

- C1982.01 『ミレーの「晩鐘」と19世紀フランス名画展』(=*L'Angelus de Millet: Tendances du Realisme en France 1848-1870.*) [122] pp. →E1982.01
C1982.02 『アメリカ絵画展』(=*American Paintings 1730-1960.*) [174] pp. →E1982.02
C1982.03 『国立美術館所蔵内外美術名品展』 135 pp. →E1982.03; E1982.05; E1982.06
C1982.04 『モネ展』(=*Monet.*) [164] pp. →E1982.04

昭和58年(1983)

- C1983.01 『エルミタージュ美術館展Ⅱ』(=*17th Century Dutch and Flemish Paintings and Drawings from the Hermitage Leningrad.*) [192] pp. →E1983.01
C1983.02 『内外美術名品展』 135 pp. →E1983.02; E1983.03; E1983.04
C1983.03 『ハインリヒ・フュースリ展』(=*Henry Fuseli.*) 151 pp. →E1983.05
C1983.04 『国立西洋美術館名作選』(=*Masterpieces of the National Museum of Western Art, Tokyo.*) [232] pp.

昭和59年(1984)

- C1984.01 『マウリッツハイス王立美術館展』(=*Dutch Painting of the Golden Age from the Royal Picture Gallery Mauritshuis.*) 115 pp. →E1984.01
C1984.02 『ドイツ美術展』(=*Deutsche Kunst und Kultur zwischen Mittelalter und Neuzeit.*) 195 pp. →E1984.02
C1984.03 *Deutsche Kunst und Kultur zwischen Mittelalter und Neuzeit: Deutscher Katalogtext.* 55 pp. →E1984.02
C1984.04 『ヨーロッパのタピスリー』(=*Les fastes de la tapisserie.*) 76 pp. →E1984.03
C1984.05 『ウィーン美術史美術館展』(=*Meistergemälde aus dem Kunsthistorischen Museum in Wien.*) 157 pp. →E1984.04

昭和60年(1985)

- C1985.01 『点描の画家たち』(=*Exposition du Pointillisme.*) 158 pp. →E1985.01
C1985.02 『ゴッホ展』(=*Vincent van Gogh Exhibition.*) 266 pp. →E1985.02

昭和61年(1986)

- C1986.01 『近世ヨーロッパ素描名作展』(=*Europäische Zeichnungen des 15.-18. Jahrhunderts.*) 203 pp. →E1986.01
C1986.02 『マックス・クリンガー版画展』 [12] pp. →E1986.02; E1986.03
C1986.03 『ターナー展』(=*Turner Exhibition*) 297 pp. →E1986.04
C1986.04 『エル・グレコ展』(=*El Greco Exhibition.*) 217 pp. →E1986.05

昭和62年(1987)

- C1987.01 『アルノルト・ベックリーン展』(=*Arnold Böcklin.*) 143 pp. →E1987.01
C1987.02 『西洋の美術』(=*Space in European Art.*) 301 pp. →E1987.02
C1987.03 『イギリスのカリカチュア』(=*The Exhibition of British Caricature from Hogarth to Hockney.*) 145 pp. →E1987.03
C1987.04 『国立西洋美術館設置の状況』第1巻 236 pp.
C1987.05 『「西洋の美術」展開催記念：国際美術史シンポジウム』 176 pp. (経団連会館国際会議場で1987年4月2日-4日に開催されたシンポジウムの報告書) →E1987.02

昭和63年(1988)

- C1988.01 『マックス・クリンガー展』(=*Max Klinger.*) 233 pp. →E1988.01
C1988.02 『ロダン展：国立西洋美術館所蔵』 [60] pp. →E1988.02
C1988.03 『ジャポニスム展』 409 pp. →E1988.03
C1988.04 *Le Japonisme.* Paris: Ministère de la culture et de la communication, Editions de la Réunion des musées nationaux. 341 pp. →E1988.03
C1988.05 『ゴッホ展記念シンポジウム』(=*Vincent Van Gogh: International Symposium.*) 486 pp. (東京千代田区の日本プレスセンターで1985年10月17-19日に開催された国際シンポジウムの報告書) →E1985.02
C1988.06 『国立西洋美術館設置の状況』第2巻 161 pp.

- C1989.01 『ヴァチカン美術館特別展』（=Masterpieces from the Vatican-Japan 1989.）187 pp. →E1989.01
C1989.02 『近代フランス絵画展：国立西洋美術館所蔵』[54] pp. →E1989.02
C1989.03 『マックス・クリンガー版画展：国立西洋美術館所蔵』123 pp. →E1989.03
C1989.04 『ドラクロワとフランス・ロマン主義』（=Delacroix et le romantisme français.）183 pp. →E1989.05
C1989.05 *Delacroix et le romantisme français*. 183 pp. →E1989.05
C1989.06 『ロダン—地獄の門—展』（=Rodin et la Porte de l'Enfer.）155 pp. →E1989.06
C1989.07 『国立西洋美術館名作選』（=Masterpieces of the National Museum of Western Art, Tokyo.）190 pp.
C1989.08 『国立西洋美術館三十年史』（=Thirty Years of the National Museum of Western Art Tokyo.）288 pp.
C1989.09 『国立西洋美術館設置の状況』第3巻 397 pp.

- C1990.01 *『国立西洋美術館新収蔵絵画目録：昭和54年－平成元年』（=Catalogue of Painting Acquisitions: 1979-1989.）85 pp.
C1990.02 『ブリューゲルとネーデルラント風景画』（=Bruegel and Netherlandish Landscape Painting.）193 pp. →E1990.01
C1990.03 *Bruegel and Netherlandish Landscape Painting*. 193 pp. →E1990.01
C1990.04 『国立西洋美術館所蔵作品による近代フランス美術展』61 pp. →E1990.02; E1990.03; E1990.04
C1990.05 『ウィリアム・ブレイク展』（=William Blake.）311 pp. →E1990.05
C1990.06 『ロダン作『地獄の門』の研究』2 vols.（科学研究費補助金研究成果報告書）

- C1991.01 『ドイツの素描』（=Deutsche Zeichnungen）281 pp. →E1991.01
C1991.02 『国立西洋美術館所蔵作品による「近代フランス美術展」』61 pp. →E1991.02; E1991.03
C1991.03 『マルティン・ショーンガウアーと15世紀ドイツ銅版画』（=Martin Schongauer und der Deutsche Kupferstich des 15. Jahrhunderts.）336 pp. →E1991.04
C1991.04 『ルーヴル美術館特別展』（=Visages du Louvre.）237 pp. →E1991.05
C1991.05 *Visages du Louvre*. 235 pp. →E1991.05
C1991.06 『国立西洋美術館 平成3年度新収作品』[16] pp.

- C1992.01 『スペイン・リアリズムの美』（=Pintura española de bodegones y floreros.）135 pp. →E1992.01
C1992.02 『オーストラリア絵画の200年』（=Two Hundred Years of Australian Painting.）183 pp. →E1992.02
C1992.03 *Two Hundred Years of Australian Painting*. [12] pp. →E1992.02
C1992.04 『フランス近世素描展』（=Maîtres Français 1550-1800.）341 pp. →E1992.03
C1992.05 『近代フランス美術展』：国立西洋美術館所蔵 70 pp. →E1992.04

- C1993.01 『冬の国：ムンクとノルウェー絵画』（=Winter Land.）211 pp. →E1993.01
C1993.02 *Winter Land: Norwegian Visions of Winter*. Oslo: De norske Bokklubbene. 226 pp. →E1993.01
C1993.03 『ソドムを去るロトとその家族』15 pp.（タイトルは奥付による。）→E1993.02
C1993.04 『ヴァチカンのルネサンス美術展』（=High Renaissance in the Vatican.）274 pp. →E1993.03
C1993.05 *High Renaissance in the Vatican: English Text Supplement*. 119 pp. →E1993.03
C1993.06 *The National Museum of Western Art, Tokyo: Brief Guide*. [10] pp.（タイトルは表紙による）

- C1994.01 『バーンズ・コレクション展』（=Exhibition: Great French Paintings from the Barnes Foundation.）135 pp. →E1994.01
C1994.02 『聖なるかたち』（=Heilige und Menschen.）279 pp. →E1994.02
C1994.03 『1874年：パリ「第1回印象派展」とその時代』（=Paris en 1874.）260 pp. →E1994.03
C1994.04 『ヨーロッパ美術への招待：国立西洋美術館所蔵作品による』[52] pp. →E1994.04
C1994.05 *Rubens and His Workshop: The Flight of Lot and His Family from Sodom*. 140 pp. →E1993.02
C1994.06 『カロとマニエリスム版画の研究』137, 341, [31] pp.（科学研究費補助金研究成果報告書）

平成7年(1995)

- C1995.01 『宗教改革時代のドイツ木版画』(=*Der deutsche Holzschnitt der Reformationszeit*) 147 pp. →E1995.01
C1995.02 *Der deutsche Holzschnitt der Reformationszeit*. 149 pp. →E1995.01
C1995.03 『絵画の流れ：伝統と革新』(=*Painting: Tradition and Innovation.*) 74 pp. →E1995.02
C1995.04 『絵画の流れ：伝統と革新』(=*Painting: Tradition and Innovation.*) 74 pp. →E1995.03
C1995.05 『ギュスターヴ・モロー』(=*Gustave Moreau.*) 279 pp. →E1995.04
C1995.06 『描かれたふしぎな世界を旅する』24 pp. (タイトルは表紙による) →E1995.05
C1995.07 『近代日本の美術：東洋と西洋のはざまに』(=*Modern Japanese Art.*) 152 pp. →E1995.06

平成8年(1996)

- C1996.01 『大英博物館所蔵イタリア素描展』(=*Italian 16th and 17th Century Drawings from the British Museum.*) 273 pp. →E1996.01
C1996.02 *Italian 16th and 17th Century Drawings from the British Museum: English text supplement*. 48 pp. →E1996.01
C1996.03 『どうして像はつくられたの?』21 pp. (タイトルは表紙による) →E1996.03
C1996.04 『どうして像はつくられたの?』[34] pp. (タイトルは表紙による。裏表紙に*Teacher's Guide*と記載) →E1996.03
C1996.05 『交差するまなざし』(=*The Crossing Visions.*) 267 pp. →E1996.04
C1996.06 『ロダン展：国立西洋美術館所蔵』93 pp. →E1996.05
C1996.07 『西美からのメッセージ：国立西洋美術館21世紀将来構想』126 pp. (タイトルは表紙による)
C1996.08 『上野忍ヶ岡遺跡：国立西洋美術館地点』442 pp. (発掘調査報告書)

平成9年(1997)

- C1997.01 *『国立西洋美術館所蔵作品カタログ：絵画・彫刻』(=*Illustrated Summery Catalogue of Paintings and Sculptures.*) 118 pp.
C1997.02 『近代絵画の歩み：目と心の窓』103 pp. →E1997.01; E1997.02
C1997.03 『国立西洋美術館展：愛と生命の響き』166 pp. →E1997.03
C1997.04 『素材と表現：国立西洋美術館所蔵作品を中心に』22 pp. →E1997.04
C1997.05 『ものがたりの森：子どものための美術展』38 pp. (タイトルは表紙による) →E1997.05

平成10年(1998)

- C1998.01 『イタリアの光：クロード・ロランと理想風景』(=*Claude Lorrain and the Ideal Landscape.*) 223 pp. →E1998.01
C1998.02 『アサヒビール・コレクションの名品』(=*Three Paintings from the Collection of the Asahi Breweries, Ltd.*) 15 pp. →E1998.02
C1998.03 *The "Confraternity Altarpiece" by Mariotto di Nardo: The Coronation of the Virgin and the Life of Saint Stephen*. 77 pp. →E1998.02
C1998.04 『国立西洋美術館名作選』(=*Masterpieces of the National Museum of Western Art, Tokyo.*) 179 pp.
C1998.05 『紙本作品貸出のためのガイドライン』40 pp.
C1998.06 『西洋美術研究支援画像データベースと画像処理』99 pp. (科学研究費補助金研究成果報告書)

平成11年(1999)

- C1999.01 『ゴヤ』(=*Goya.*) 380 pp. →E1999.01
C1999.02 『フィレンツェとヴェネツィア』(=*Florence and Venice.*) 314 pp. →E1999.02
C1999.03 『記憶された身体』(=*Rhetorik der Leidenschaft*) 257 pp. →E1999.03
C1999.04 *Rhetorik der Leidenschaft*. 259 pp. →E1999.03
C1999.05 『オルセー美術館展1999』(=*Rêve et réalité.*) 292 pp. →E1999.05
C1999.06 *Rêve et réalité: collections du Musée d'Orsay*. 268 pp. →E1999.05
C1999.07 『セルフガイド：光』[10] pp. (タイトルは表紙による)

平成12年(2000)

- C2000.01 『20世紀前半のヨーロッパ前衛絵画』[10] pp. (タイトルは表紙による) →E2000.01
C2000.02 『顔』(=*Visage.*) 197 pp. →E2000.02
C2000.03 『ピカソ：子供の世界』(=*Picasso's World of Children.*) 237 pp. →E2000.03
C2000.04 『ピカソ：子供の世界』(=*Picasso's World of Children: Essays.*) 102 pp. (別冊 研究論文篇) →E2000.03
C2000.05 『レンブラント、フェルメールとその時代』(=*Dutch Art in the Age of Rembrandt and Vermeer.*) 261 pp. →E2000.04
C2000.06 『西美をうたう』115 pp. →E2000.05
C2000.07 『死の舞踏』(=*Totentanz.*) 275 pp. →E2000.07
C2000.08 *Totentanz: vom Spätmittelalter bis zur Gegenwart*. 289 pp. →E2000.07

平成 13 年 (2001)

- C2001.01 『イタリア・ルネサンス』(=*Il Rinascimento in Italia*) 277 pp. →E2001.01
C2001.02 *Il Rinascimento in Italia: La civiltà delle corti*. 268 pp. →E2001.01
C2001.03 『フランス素描名作展：国立西洋美術館所蔵』[10] pp. →E2001.02
C2001.04 『肖像が語るアメリカ史』(=*A Brush with History*.) 217 pp. →E2001.03
C2001.05 *A Brush with History: Paintings from the National Portrait Gallery*. (Smithsonian Institution より刊行。) 216 pp. →E2001.03
C2001.06 『アメリカン・ヒロイズム』(=*American Heroism*.) 117 pp. →E2001.04
C2001.07 『デジタル技術とミュージアム：展示解説』36 pp. →E2001.06
C2001.08 『皮膚の想像力』145 pp. (1999 年 7 月 16–18 日に開催された国際シンポジウムの報告書) →E1999.03
C2001.09 『絵画作品展示・輸送用マイクロクライメイトボックスの開発』302 pp. (科学研究費補助金研究成果報告書)

平成 14 年 (2002)

- C2002.01 『ブラド美術館展』(=*Obras Maestras del Museo del Prado*.) 285 pp. →E2002.01
C2002.02 『大英博物館所蔵フランス素描展』(=*French Drawings from the British Museum*.) 203 pp. →E2002.04
C2002.03 *French Drawings from the British Museum from Fontainebleau to Versailles: English Text Supplement*. 51 pp. →E2002.04
C2002.04 『ウィンスロップ・コレクション』(=*Nineteenth Century British and French Art from the Winthrop Collection*.) 279 pp. →E2002.05
C2002.05 *Gesichter der Haut*. 275 pp. (Papers presented at a conference held at the National Museum of Western Art, Tokyo, 16–18 July 1999.) →E1999.03
C2002.06 『デジタル技術とミュージアム』152 pp. (『人文学と情報処理』Vol. 39. 勉誠出版発行) →E2001.06
C2002.07 *Prado: Obras maestras del Museo del Prado*. 27 pp. (展覧会記録集。読売新聞社発行。和文) →E2002.01

平成 15 年 (2003)

- E2003.01 *『国立西洋美術館所蔵品カタログ』(=*Illustrated Summary Catalogue of Paintings, Sculpture and Decorative Arts*.) 127 pp. (奥付に『国立西洋美術館所蔵作品カタログ：絵画・彫刻・工芸』と記載)
C2003.02 『織りだされた絵画』(=*Woven Pictures*.) 73 pp. →E2003.02
C2003.03 『ドイツ・ロマン主義の風景素描』(=*Deutsche Landschaftszeichnungen der Romantik*.) 330 pp. →E2003.03
C2003.04 『レンブラントとレンブラント派』(=*Rembrandt and the Rembrandt School*.) 210 pp. →E2003.05
C2003.05 『(地獄の門)免震化工事と彫刻の保存』(=*Rodin's The Gates of Hell: Seismic Isolation and Sculptural Conservation*.) 89 pp.
C2003.06 『西洋版画の見かた：ポケットガイド』71 pp.

平成 16 年 (2004)

- C2004.01 『古代ローマ彫刻展』(=*Ritratti romani dai Musei Vaticani*.) 276 pp. →E2004.01
C2004.02 *Ritratti romani dai Musei Vaticani*. 111 pp. (Italian text supplement.) →E2004.01
C2004.03 『聖杯』(=*Kelch*.) 313 pp. →E2004.03
C2004.04 『マティス展』(=*Matisse: processus/variation*.) 264 pp. →E2004.05
C2004.05 *Matisse: processus/variation*. 37 pp. (French text supplement. Title from cover.) →E2004.05
C2004.06 *Rembrandt and Dutch History Painting in the 17th Century*. 180 pp. (The proceedings of the international symposium held on September 13th and 14th, 2003.) →E2003.05
C2004.07 『国立西洋美術館名作選』(=*Masterpieces of the National Museum of Western Art, Tokyo*.) 179 pp. (第3刷)
C2004.08 『美術館はじめてガイド：びじゅつあー』9 pp.

平成 17 年 (2005)

- C2005.01 『ジョルジュ・ド・ラ・トゥール』(=*Georges de La Tour*.) 185 pp. →E2005.01
C2005.02 『ジョルジュ・ド・ラ・トゥール』(=*Georges de La Tour*.) 285 pp. (Text in Japanese and French.) →E2005.01
C2005.03 『ドレスデン国立美術館展：カタログ篇』(=*Dresden: Spiegel der Welt*.) 281 pp. →E2005.03
C2005.04 『ドレスデン国立美術館展：エッセイ篇』(=*Dresden: Spiegel der Welt. Essays*.) 112 pp. →E2005.03
C2005.05 *Dresden: Spiegel der Welt. Die Staatlichen Kunstsammlungen Dresden in Japan*. 164 pp. (German text supplement.) →E2005.03
C2005.06 『キアロスクーロ』(=*Chiaroscuro Woodcuts from the Frits Lugt Collection in Paris*.) 198 pp. →E2005.05
C2005.07 *Chiaroscuro: Chiaroscuro Woodcuts from the Frits Lugt Collection in Paris. English Text Supplement*. 94 pp. →E2005.05

平成 18 年 (2006)

- C2006.01 『ロダン+カリエール』(=*Auguste Rodin, Eugène Carrière*.) 258 pp. →E2006.02
C2006.02 *Auguste Rodin, Eugène Carrière*. Paris: Flammarion. 157 pp. →E2006.02
C2006.03 『ベルギー王立美術館展』(=*Chefs-d'œuvre des Musées royaux des Beaux-Arts de Belgique*.) 181 pp. →E2006.04
C2006.04 『国立西洋美術館名作選』(=*Masterpieces of the National Museum of Western Art, Tokyo*.) 179 pp. (第4刷改訂)
C2006.05 『国立西洋美術館展覧会レポート 1985–2005』(=*Exhibition Report, 1985–2005: National Museum of Western Art*.) 84 pp.
C2006.06 『あなたがつづけるこの1点：いろいろメガネ Part2』235 pp. →E2006.01

平成 19 年 (2007)

- C2007.01 『イタリア・ルネサンスの版画』(=*Italian Renaissance Prints.*) 277 pp. →E2007.01
C2007.02 『パルマ』(=*Parma.*) 323 pp. →E2007.03
C2007.03 *Parma.* 118 pp. (Italian Text Supplement.) →E2007.03
C2007.04 *Edvard Munch: The Decorative Projects.* 200 pp. (奥付と背表紙に『ムンク展』と記載。) →E2007.05
C2007.05 『国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパ美術の精華』119 pp. →E2007.06; →E2007.7
C2007.06 『16-17 世紀における版画出版と古代の受容』53 pp. (科学研究費補助金研究成果報告書)
C2007.07 『国立西洋美術館本館 歴史調査報告書』243 pp.

平成 20 年 (2008)

- C2008.01 『ウルビーノのヴィーナス』(=*La "Venere di Urbino".*) 280 pp. →E2008.01
C2008.02 『コロー』(=*Corot.*) 272 pp. →E2008.02
C2008.03 『ヴィルヘルム・ハンマースホイ』(=*Vilhelm Hammershoi.*) 197 pp. →E2008.03
C2008.04 *Hammershoi.* London: Royal Academy of Arts. 176 pp.

平成 21 年 (2009)

- C2009.01 『ルーヴル美術館展』(=*Les révolutions de l'âge classique.*) 221 pp. →E2009.01
C2009.02 『ルーヴル美術館展』(=*Les révolutions de l'âge classique.*) 308 pp. (Text in Japanese and French.) →E2009.01
C2009.03 *Masterpieces of the National Museum of Western Art, Tokyo.* 179 pp.
C2009.04 『国立西洋美術館ボランティア活動報告: 2004 年度-2007 年度』47 pp.

逐次刊行物 Periodicals

配列は創刊号の発行順。

『国立西洋美術館要覧』(不定期刊)

昭和 37 (1962)、昭和 48 (1973)、昭和 52 (1977)、昭和 55 (1980)、昭和 58 (1983)、昭和 62 (1987)、平成 5 (1992)

『国立西洋美術館年報』(=*Annual Bulletin of the National Museum of Western Art.*) (年刊)

No. 1 (1967) – No. 42 (2009)

『国立西洋美術館概要』(年刊)

昭和 60 (1985) 年 – 平成 8 (1996) 年

『国立西洋美術館要覧』(年刊)

平成 9 (1997) 年 – 平成 20 (2008) 年

『国立西洋美術館研究紀要』(=*Journal of the National Museum of Western Art.*) (年刊)

No. 1 (1997) – No. 13 (2009)

『Zephyros: 国立西洋美術館ニュース』(季刊)

創刊号 (1997) – 第 38 号 (2009)

『独立行政法人国立美術館国立西洋美術館リーフレット』(年刊)

2003 – 2005

施設（１） 土地・建物・施設整備

土地

区分	面積	摘要
所有地・国有地	2,208m ²	1,487.60m ² 寛永寺所有地を購入（42.8.17） 720.42m ² 寛永寺所有地を購入（43.6.7）
借用地・東京都有地	7,080m ²	都より有償借用
計	9,288m ²	

建物

区分	構造・階数	竣工	面積	摘要
本館	RC 地上3階 地下1階	昭和34年2月28日	建 1,587m ² 延 4,399m ²	展示室 1,533m ²
新館	RC 地上2階 地下2階	昭和54年5月31日	建 1,480m ² 延 4,902m ²	展示室 1,525m ² 収蔵庫 676m ²
渡り廊下	RC 地上2階	昭和54年5月31日	建 45m ² 延 89m ²	
企画展示館	SRC 地上2階 地下4階	平成9年12月25日	建 524m ² 延 7,979m ²	展示室 1,362m ² 収蔵庫 421m ²
計			建 3,636m ² 延 17,369m ²	展示室 4,420m ² 収蔵庫 1,097m ²

建物	階	面積	施設
本館	地階	411m ²	機械室, 便所
	1階	1,587.49m ²	展示室, エントランスホール等
	2階	1,432.22m ²	展示室等
	3階	714.95m ²	照明室, 倉庫, 控室等
	屋階	33.89m ²	機械室等
新館	地下2階	90.17m ²	収蔵庫等
	中地下1階	720.43m ²	車庫, 書庫等
	地下1階	1,439.45m ²	版画素描収蔵庫, 倉庫, 機械室等
	1階	1,479.76m ²	展示室, 事務室等
	2階	1,171.47m ²	展示室, 教育普及室等
企画展示館	地下4階	1,103m ²	機械室等
	地下3階	1,503m ²	収蔵庫, 書庫等
	中地下3階	112m ²	資料室
	地下2階	3,266m ²	展示室, 講堂等
	地下1階	792m ²	研究資料センター, 会議室等
	1階	580m ²	修復作業室, 守衛室等
	2階	623m ²	館長室, 副館長室, 事務室等

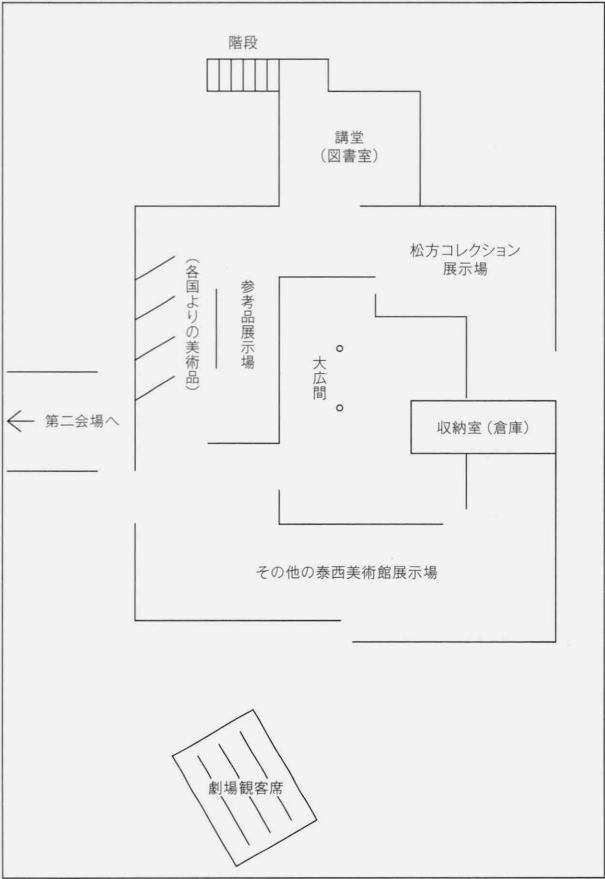
施設整備

年度	件名
昭和34(1959)	なし
昭和35(1960)	なし
昭和36(1961)	作業員室・会計倉庫及び車庫を新営
昭和37(1962)	なし
昭和38(1963)	庁舎(講堂及び事務庁舎)新営 建物新営に伴う講堂等における内部設備
昭和39(1964)	照明設備等改修工事
昭和40(1965)	ボイラー油焚改修工事 本館屋根防水工事
昭和41(1966)	展示場壁面塗替え等改修工事 工作室設備等工事
昭和42(1967)	冷凍機改造 冷却塔設備
昭和43(1968)	売札所及び守衛詰所新営
昭和44(1969)	なし
昭和45(1970)	無線式個別信号標示装置 収蔵庫防火シャッター
昭和46(1971)	電話交換設備改修 野外展示場整備工事
昭和47(1972)	本館屋上雨漏り修理 空調設備改造 中央ホール照明設備改造
昭和48(1973)	除湿展示場間仕切等取設工事 除湿展示場除湿取設工事 展示場除湿装置壁面パネル製作工事
昭和49(1974)	講堂映写幕改修工事 講堂舞台等改修及び機械室塗装工事 講堂機械室及び便所換気工事
昭和50(1975)	非常放送設備取設工事
昭和51(1976)	テレビカメラ監視装置設置工事
昭和52(1977)	外壁補修工事
昭和53(1978)	本館電動シャッター取替工事
昭和54(1979)	本館展示場壁面塗装等補修工事
昭和55(1980)	なし
昭和56(1981)	困障及び門扉改修工事
昭和57(1982)	困障及び門扉改修工事
昭和58(1983)	困障及び門扉改修工事
昭和59(1984)	売札所整備工事
昭和60(1985)	本館改修工事(3-1)
昭和61(1986)	本館改修工事(3-2)
昭和62(1987)	本館改修工事(3-3)
昭和63(1988)	本館空調改修機械設備工事 本館空調改修電気設備工事 本館給水改修工事 事務棟その他改修建築工事
昭和64・平成元(1989)	事務棟サッシュ改修その他工事
平成2(1990)	本館改修その他工事
平成3(1991)	収蔵庫パッケージ取替工事
平成4(1992)	新館空調設備その他改修工事 本館展示室監視用CCTV取替工事
平成5(1993)	本館外壁保存改修その他工事 新館風除扉取設その他工事 本館防災シャッター改修工事 本館2階改修機械設備その他工事 照明管理設備工事 新館展示室監視用CCTV取替工事 火災報知器設備改修工事 身障者便所取設工事 前庭彫刻収納庫新設その他工事

年度	件名
平成6(1994)	21世紀ギャラリー(仮称)新築工事 売店事務室改修工事 控室空調機取設工事 本館1階空調設備取設工事 電話設備改修工事 新館エレベータ改修工事
平成7(1995)	21世紀ギャラリー(仮称)新築工事 新館写真室電気設備工事 新館資料室階段取設工事 新館休憩室他ガラス入替工事 新館客用便所改修工事 水道本館引込み工事 新館収蔵庫絵画ラック取付け金具補強その他工事 新館学芸課情報用電気設備工事 情報用ネットワーク設備工事 新館学芸課空調機取設工事 本館19世紀ホールトッブライト改修その他工事
平成8(1996)	21世紀ギャラリー(仮称)新築工事 本館耐震改修工事 新館給排水設備改修 新館地下1階倉庫他鋼製建具改修工事 新館直流電源設備改修その他工事 新館地下1階便所他改修工事 新館収蔵庫照明器具増設その他工事 本館2階仮設事務所等内装他撤去工事
平成9(1997)	21世紀ギャラリー(仮称)新築工事 本館耐震改修工事 新館仮設事務所等内装他撤去復旧工事 新館仮設事務所等移転に伴う電気工事 本館照明ギャラリー照明器具その他改修工事 情報ネットワーク設備工事 新館研究室増設その他工事
平成10(1998)	地獄の門免震化工事 デジタルギャラリーネットワーク設備工事 企画展示館資料棚取設その他工事 企画展示館展示室ブラケット金物取付工事 企画展示館講堂音響・映像設備工事
平成11(1999)	新館第三展示室その他改修工事 前庭彫刻免震化工事(その1)
平成12(2000)	新館エレベータ設備改修工事 本館等屋上防水改修工事
平成13(2001)	本館等区画扉その他取設工事 新館空調制御更新他工事 本館他空調機清掃及び点検工事
平成14(2002)	新館展示室等区画扉取設その他工事 前庭彫刻免震化工事(その2) 新館版画収蔵庫その他改修工事
平成15(2003)	前庭彫刻免震化工事(その3)
平成16(2004)	企画展示館展示室入口扉改修工事 新館学芸課積層書庫(PAC-1)空調設備改修工事 新館地階機械室空調用加湿給水熱交換装置設置工事
平成17(2005)	本館身障者便所改修その他工事 19世紀ホール彫刻台座免震化工事
平成18(2006)	本館デジタルギャラリー他改修工事
平成19(2007)	新館空調和設備改修その他工事 常設展示彫刻台免震化工事 講堂AV設備改修工事
平成20(2008)	新館空調和設備改修その他工事

施設(2) 施設の推移

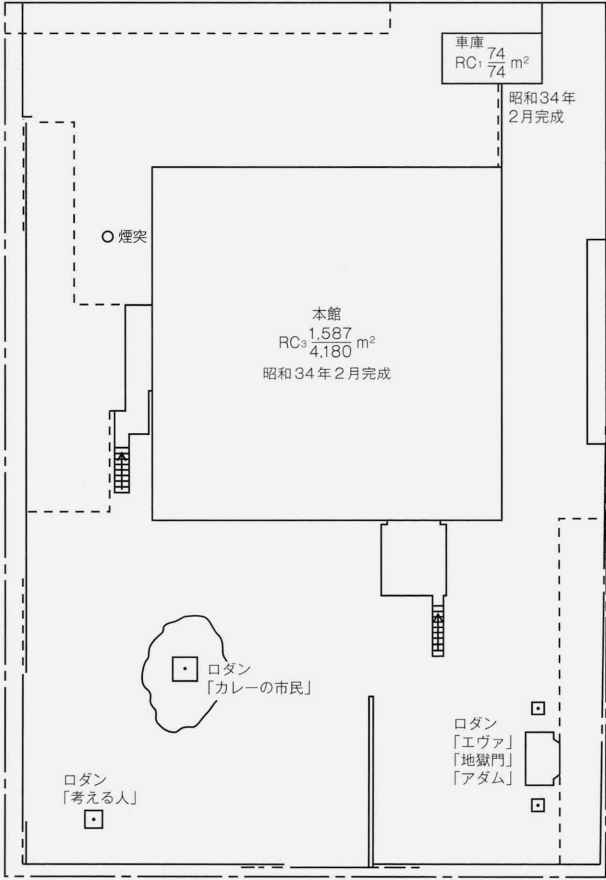
松方コレクション美術館設計素案

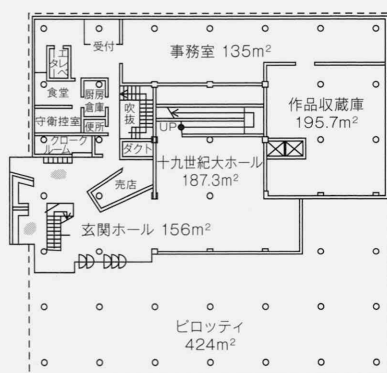
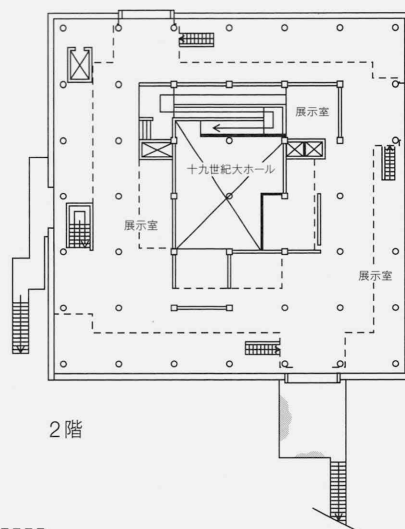


昭和34年6月（開館時）

土地：7,709.83m²（東京都よりの借地）

建物： $\frac{1,661}{4,254}$ m²



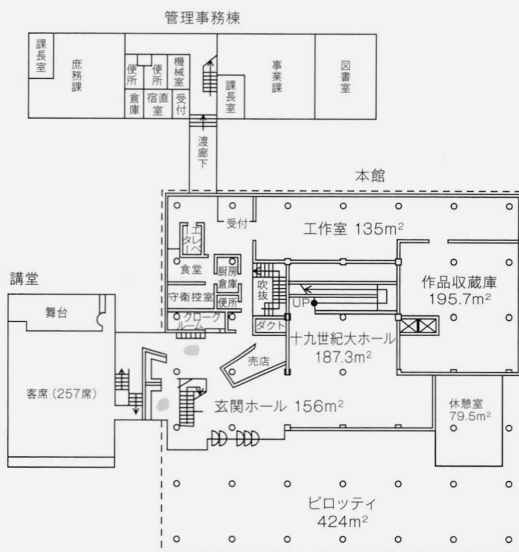
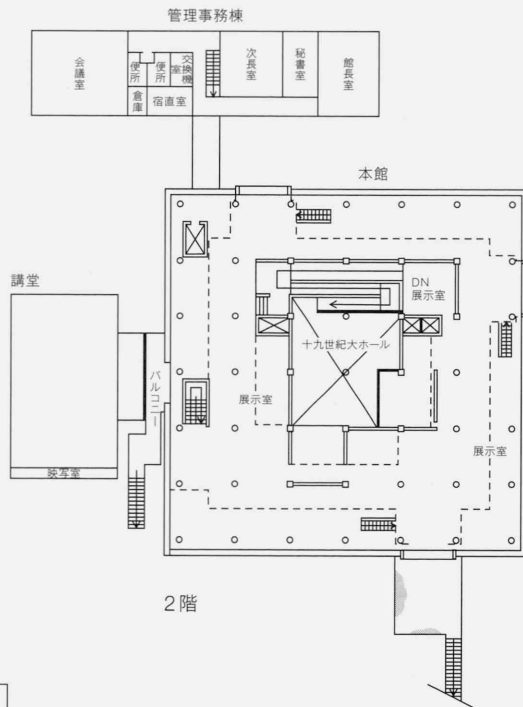


昭和36年6月現在（事務棟、講堂竣工）

土地：7,709.83m²（東京都よりの借地）

建物： $\frac{2,307}{5,398}$ m²

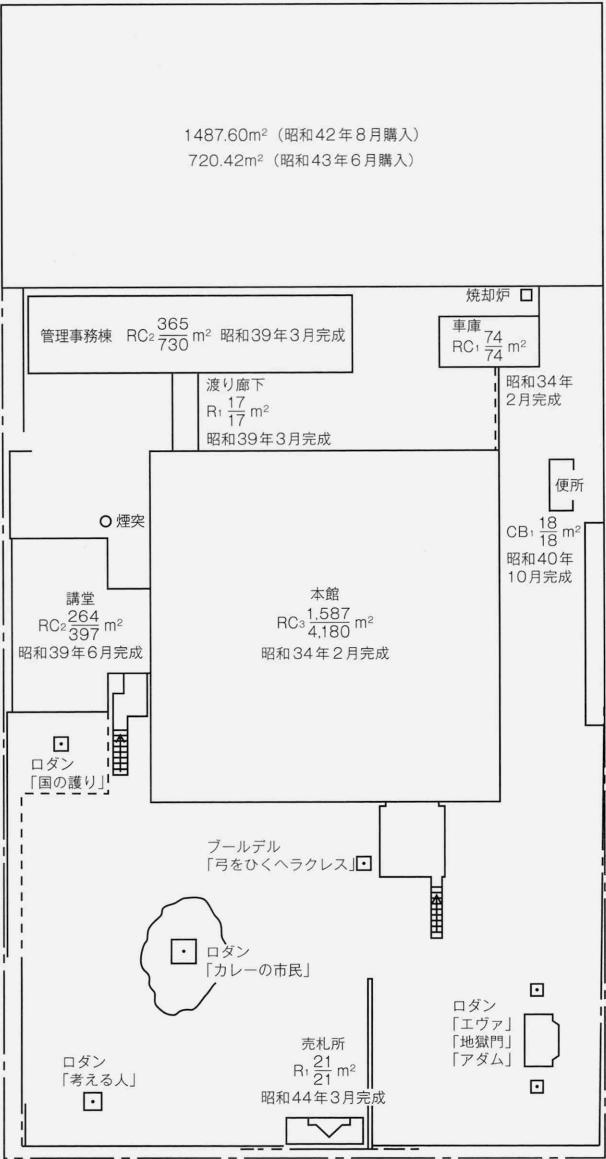




昭和44年3月現在（売札所竣工）

土地：9,287.85m²（借地：7,079.83m²）
（国有地：2,208.02m²）

建物： $\frac{2,346}{5,437}$ m²

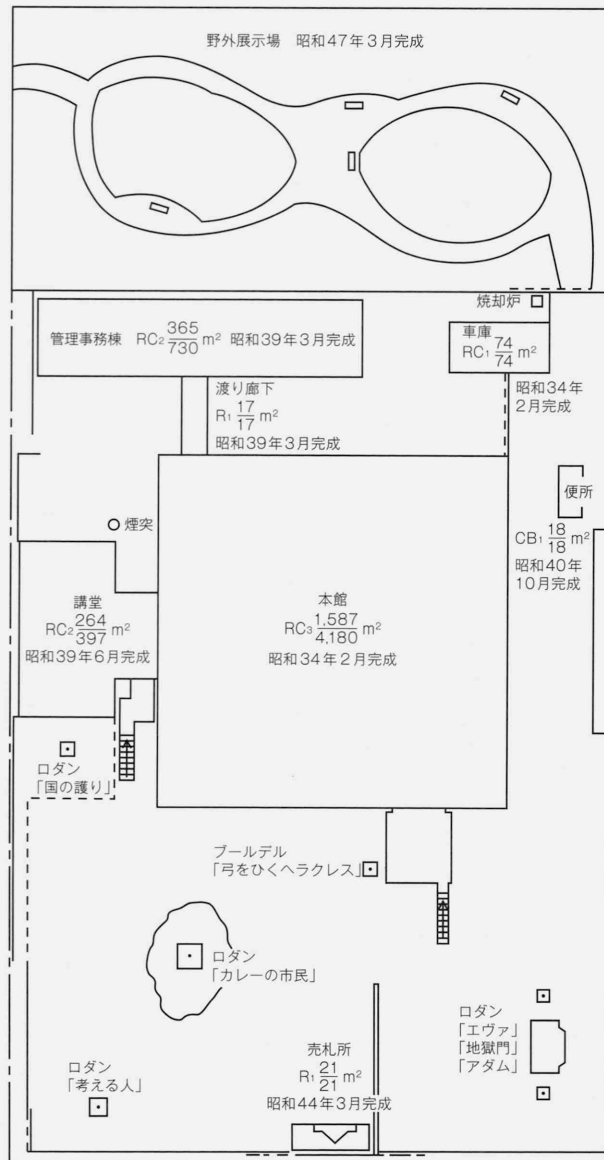


昭和47年3月現在（屋外展示場完成）

土地：9,287.85m²（借 地：7,079.83m²）

（国有地：2,208.02m²）

建物： $\frac{2,346}{5,437}$ m²

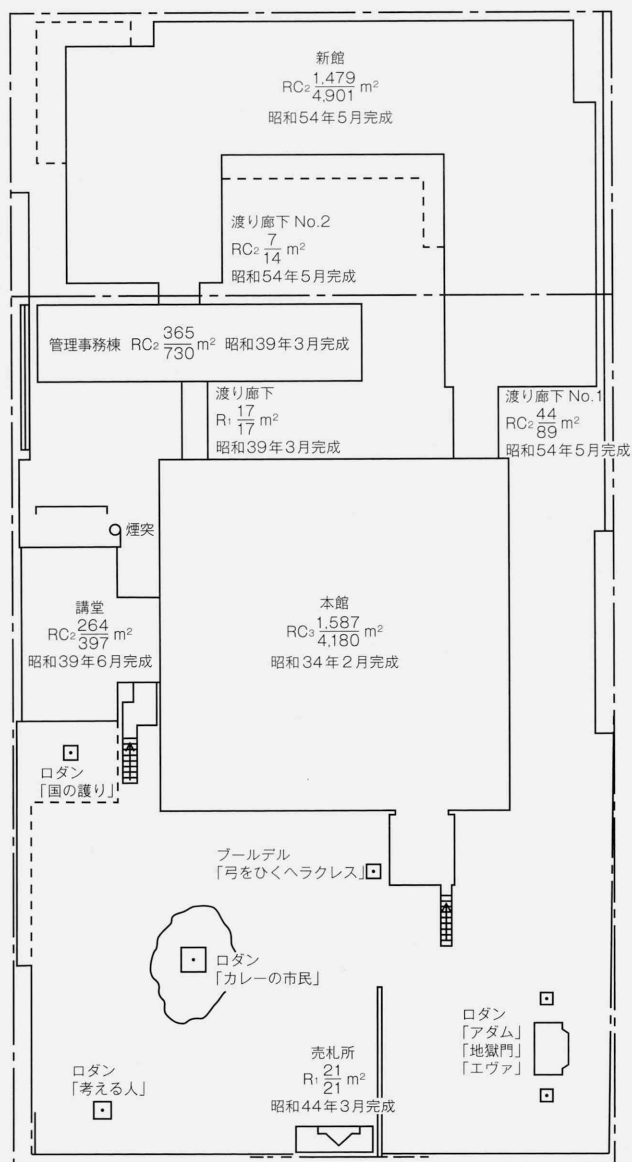


昭和54年5月現在（新館完成）

土地：9,287.85m²（借地：7,079.83m²）

（国有地：2,208.02m²）

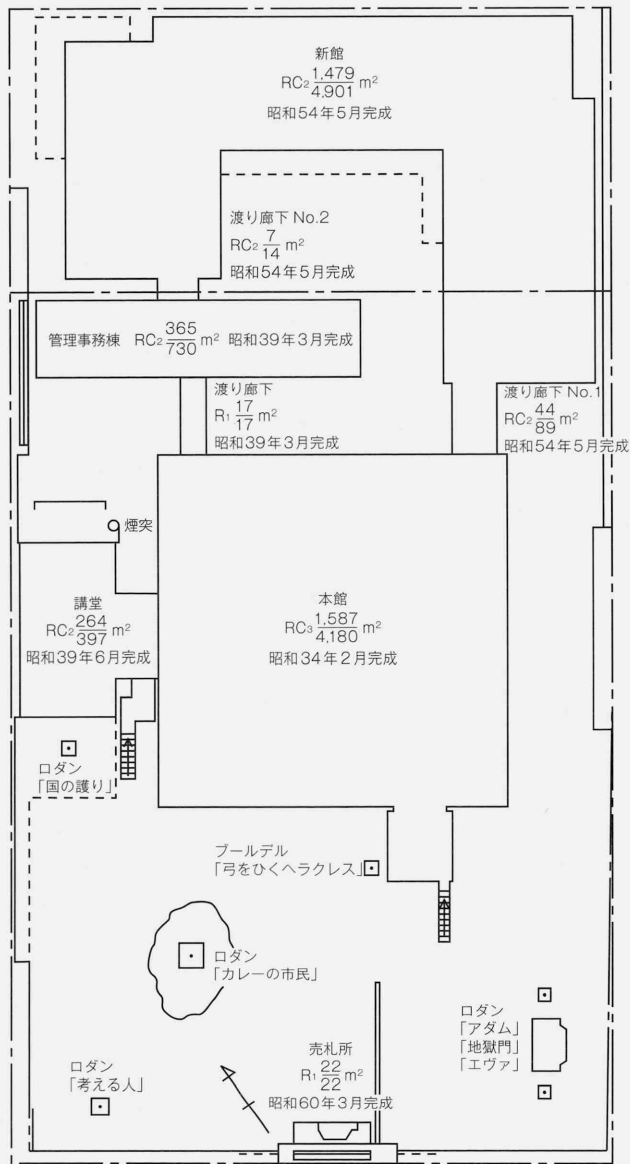
建物： $\frac{3,784}{10,349}$ m²



昭和60年5月現在（売札所改修工事竣工）

土地：9,287.85m²（借地：7,079.83m²）
（国有地：2,208.02m²）

建物： $\frac{3,785}{10,350}$ m²



平成6年12月現在（講堂、事務棟、売札所取こわし）

土地：9,287.85m²（借地：7,079.83m²）

（国有地：2,208.02m²）

建物： $\frac{3,110}{9,170}$ m²

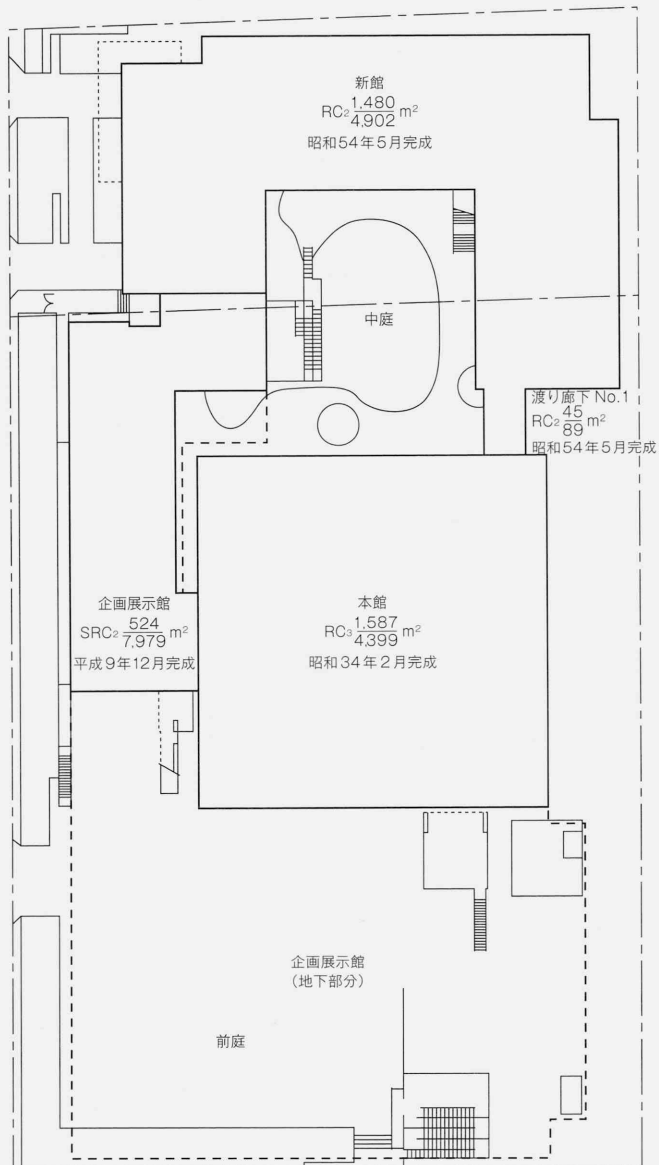


平成9年12月現在（企画展示館竣工）

土地：9,288m²（借地：7,080m²）

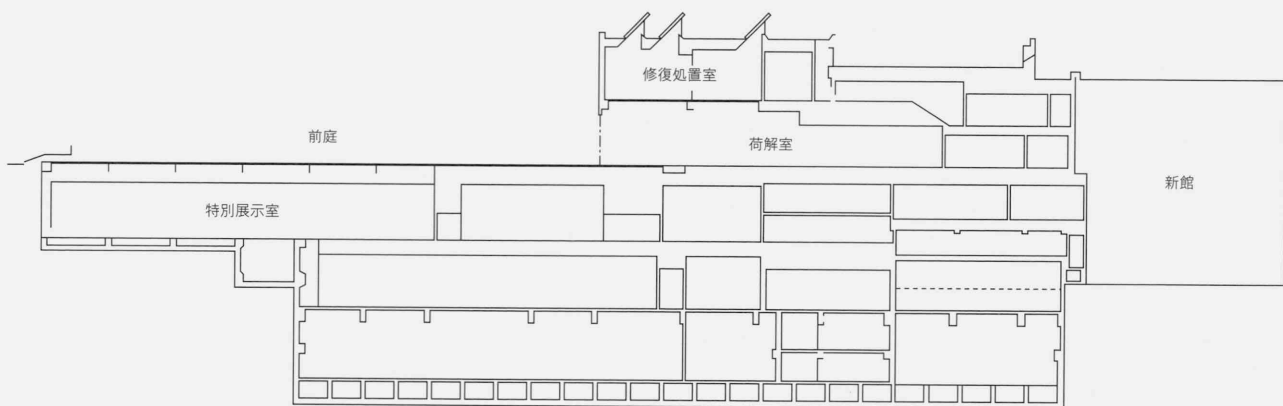
（国有地：2,208m²）

建物： $\frac{3,636}{17,369}$ m²

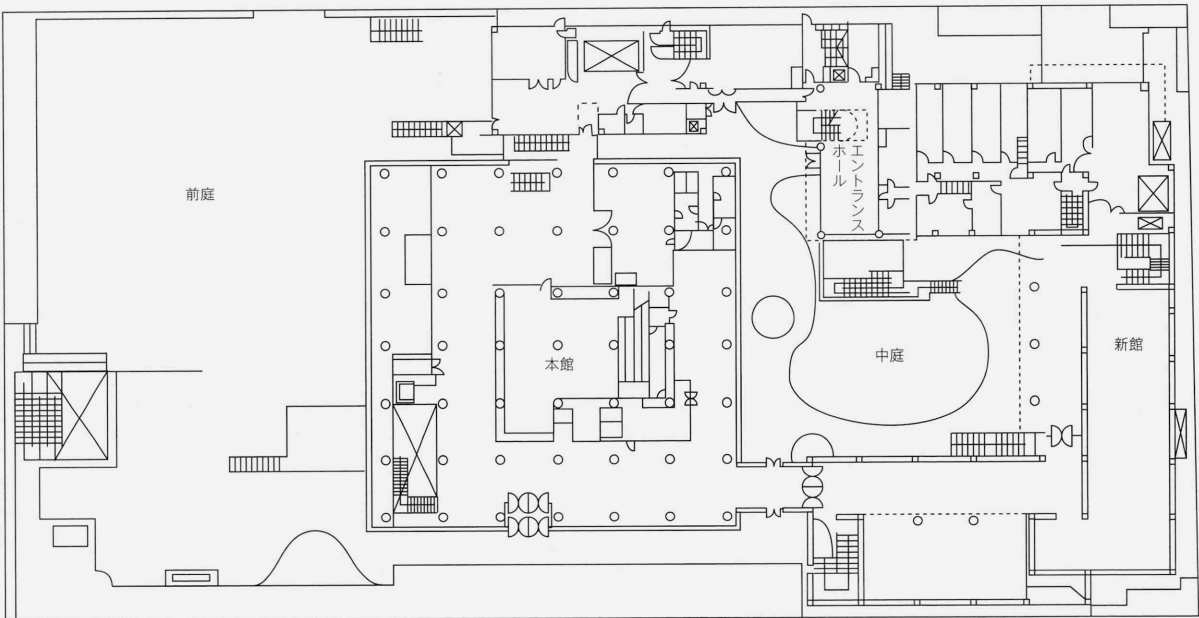
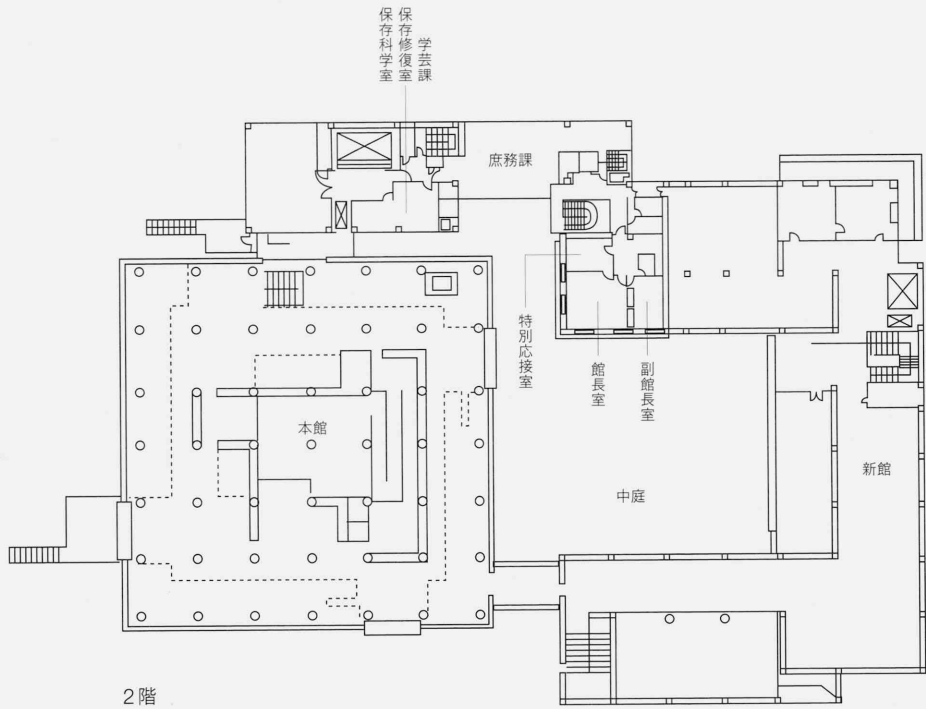


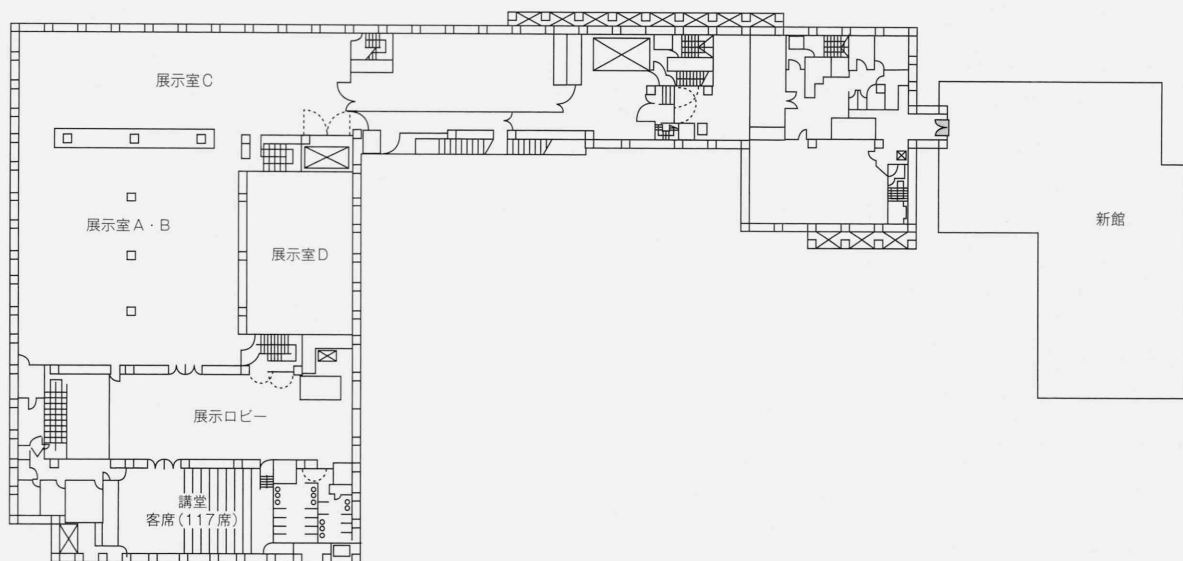
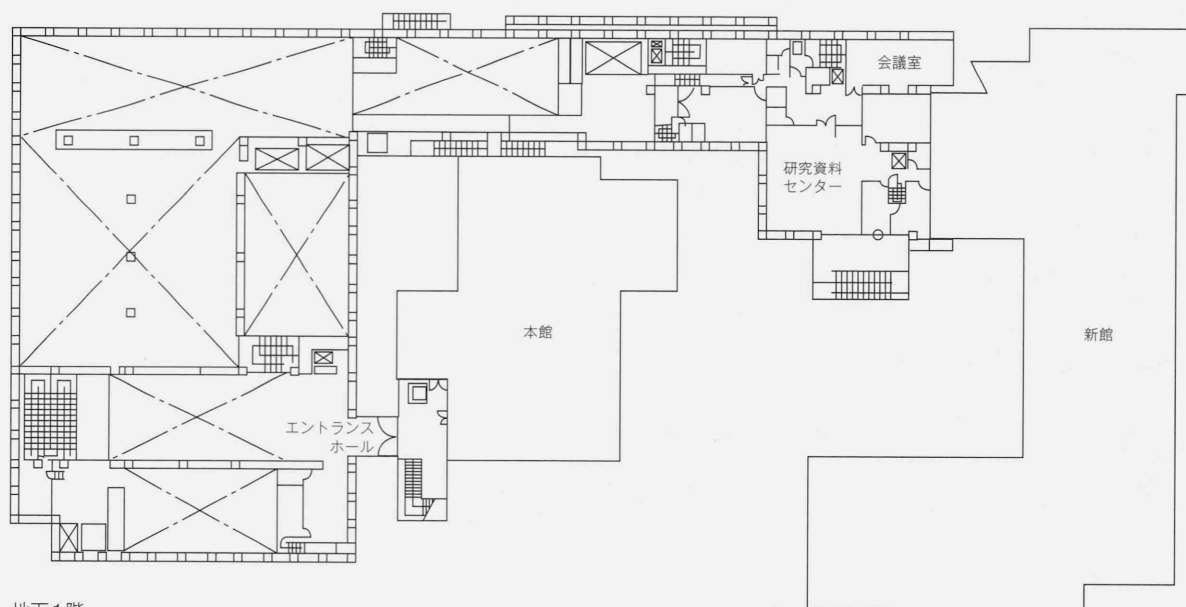
*面積の表記を小数点以下四捨五入とした。

企画展示館断面図



企画展示館平面図





予算(1) 歳入・歳出一覧

歳入

(単位：千円)

年度	入場料等収入	その他	計
昭和34(1959)	22,607	817	23,424
昭和35(1960)	14,365	801	15,166
昭和36(1961)	10,260	330	10,590
昭和37(1962)	19,167	480	19,647
昭和38(1963)	24,096	405	24,501
昭和39(1964)	43,617	381	43,998
昭和40(1965)	25,808	223	26,031
昭和41(1966)	27,726	510	28,236
昭和42(1967)	36,587	501	37,088
昭和43(1968)	53,080	542	53,622
昭和44(1969)	31,978	669	32,647
昭和45(1970)	31,862	691	32,553
昭和46(1971)	60,917	734	61,651
昭和47(1972)	36,870	1,083	37,953
昭和48(1973)	31,457	397	31,854
昭和49(1974)	65,974	542	66,516
昭和50(1975)	32,343	652	32,995
昭和51(1976)	82,438	681	83,119
昭和52(1977)	64,909	648	65,557
昭和53(1978)	74,904	889	75,793
昭和54(1979)	34,334	830	35,164
昭和55(1980)	111,258	1,404	112,662
昭和56(1981)	108,526	1,148	109,674
昭和57(1982)	175,286	1,105	176,391
昭和58(1983)	63,134	1,169	64,303
昭和59(1984)	98,778	1,201	99,979
昭和60(1985)	139,232	1,070	140,302
昭和61(1986)	161,585	1,301	162,886
昭和62(1987)	162,745	1,653	164,398
昭和63(1988)	177,492	1,214	178,706
昭和64・平成元(1989)	176,552	2,148	178,700
平成2(1990)	140,918	1,899	142,817
平成3(1991)	235,591	2,380	237,971
平成4(1992)	111,695	1,577	113,272
平成5(1993)	484,192	1,702	485,894
平成6(1994)	212,099	1,541	213,640
平成7(1995)	114,380	1,396	115,776
平成8(1996)	7,102	357	7,459
平成9(1997)	3,966	355	4,321
平成10(1998)	125,675	4,102	129,777
平成11(1999)	346,462	7,518	353,980
平成12(2000)	211,867	6,338	218,205

収入

(単位：千円)

年度	運営費交付金	自己収入相当 (入場料等収入)	その他 (作品購入費留保分等)	計
平成13(2001)	900,463	122,263		1,022,726
平成14(2002)	819,474	123,486		942,960
平成15(2003)	833,769	124,721		958,490
平成16(2004)	803,602	125,968		929,570
平成17(2005)	758,001	129,747		887,748
平成18(2006)	709,253	178,495	△28,967	858,781
平成19(2007)	718,815	164,288	△28,640	854,463
平成20(2008)	677,152	165,931	67,334	910,417

歳出

(単位：千円)

年度	定員に伴う経費	運営費	美術作品購入費	施設費	計
昭和34(1959)	8,222	7,598	0	0	15,820
昭和35(1960)	10,044	12,937	0	0	22,981
昭和36(1961)	13,671	8,339	0	872	22,882
昭和37(1962)	16,828	9,978	10,000	0	36,806
昭和38(1963)	19,393	18,942	30,000	70,576	138,911
昭和39(1964)	23,786	20,720	29,100	6,083	79,689
昭和40(1965)	26,470	22,477	27,000	10,688	86,635
昭和41(1966)	29,455	55,622	50,000	9,636	144,713
昭和42(1967)	33,576	170,867	50,000	8,942	263,385
昭和43(1968)	38,361	106,904	50,000	2,556	197,821
昭和44(1969)	42,856	60,387	44,200	0	147,443
昭和45(1970)	50,843	47,835	60,000	3,628	162,306
昭和46(1971)	59,185	54,053	70,000	7,476	190,714
昭和47(1972)	66,486	57,834	140,000	7,577	271,897
昭和48(1973)	76,378	55,310	80,000	12,852	224,540
昭和49(1974)	102,325	54,582	105,500	3,791	266,198
昭和50(1975)	118,399	81,601	123,000	3,111	326,111
昭和51(1976)	128,684	144,315	128,000	2,956	403,955
昭和52(1977)	136,690	92,173	141,000	7,238	377,101
昭和53(1978)	134,048	98,306	617,600	9,572	859,526
昭和54(1979)	150,876	198,676	160,600	9,680	519,832
昭和55(1980)	158,453	211,555	152,570	0	522,578
昭和56(1981)	168,723	204,954	155,990	16,287	545,954
昭和57(1982)	163,420	195,464	147,780	22,941	529,605
昭和58(1983)	175,540	191,207	152,706	20,812	540,265
昭和59(1984)	181,119	201,252	152,706	16,355	551,432
昭和60(1985)	182,320	202,417	152,706	19,502	556,945
昭和61(1986)	179,799	199,496	152,706	39,163	571,164
昭和62(1987)	185,398	205,054	932,706	33,841	1,356,999
昭和63(1988)	185,200	222,302	152,706	33,841	594,049
昭和64・平成元(1989)	187,456	254,357	169,126	27,079	638,018
平成2(1990)	196,415	254,517	169,126	36,599	656,657
平成3(1991)	210,328	275,181	169,126	34,002	688,637
平成4(1992)	230,510	296,096	169,126	22,869	718,601
平成5(1993)	230,191	316,305	169,126	25,605	741,227
平成6(1994)	225,720	323,153	289,126	871,467	1,709,466
平成7(1995)	243,887	349,269	289,126	805,381	1,687,663
平成8(1996)	244,698	353,623	289,126	1,448,541	2,335,988
平成9(1997)	257,811	338,849	289,126	1,844,821	2,730,607
平成10(1998)	269,041	717,181	289,126	9,734	1,285,082
平成11(1999)	271,236	737,296	289,126	0	1,297,658
平成12(2000)	261,352	747,759	289,126	0	1,298,237

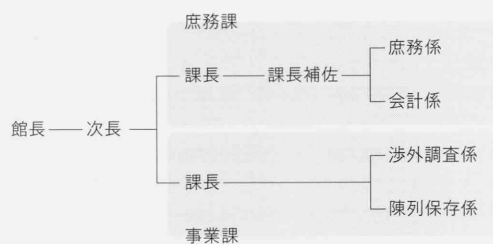
支出

(単位：千円)

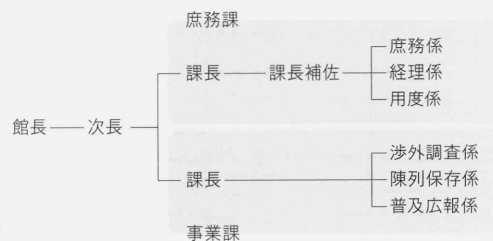
年度	一般管理費	展示事業費	調査研究事業費	教育普及事業費	施設整備費補助金	計
平成13(2001)	287,642	601,533	25,408	108,143	0	1,022,726
平成14(2002)	265,207	554,618	23,426	99,709	0	942,960
平成15(2003)	274,836	558,142	23,879	101,633	0	958,490
平成16(2004)	270,269	538,261	23,027	98,013	0	929,570
平成17(2005)	188,670	521,865	47,295	129,918	0	887,748
平成18(2006)	203,364	460,515	69,085	125,817	0	858,781
平成19(2007)	239,814	421,904	69,656	123,089	496,176	1,350,639
平成20(2008)	210,641	525,578	75,090	99,108	767,239	1,677,656

組織(1) 組織・機構の変遷

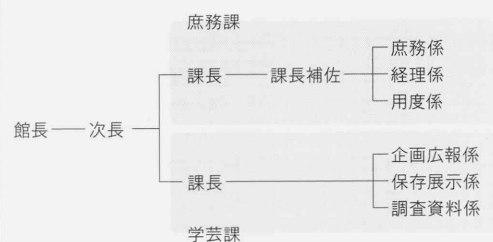
昭和34年度～昭和39年度(1959-1964)



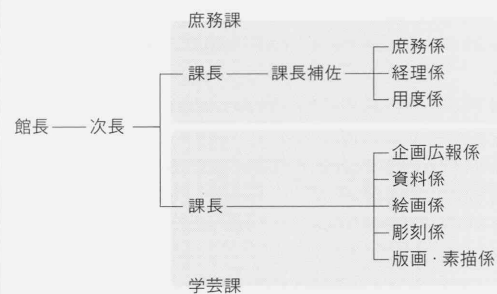
昭和40年度～昭和51年度(1965-1976)



昭和52年度～昭和53年度(1977-1978)



昭和54年度(1979)



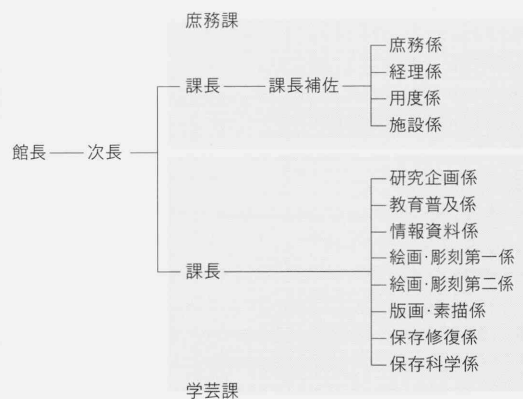
昭和55年度～平成2年度(1980-1990)



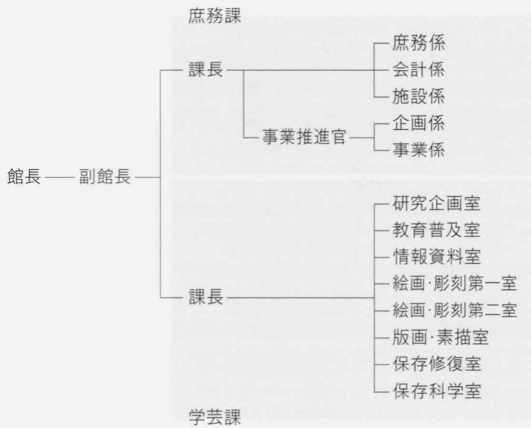
平成3年度～平成8年度(1991-1996)



平成9年度～平成12年度(1997-2000)



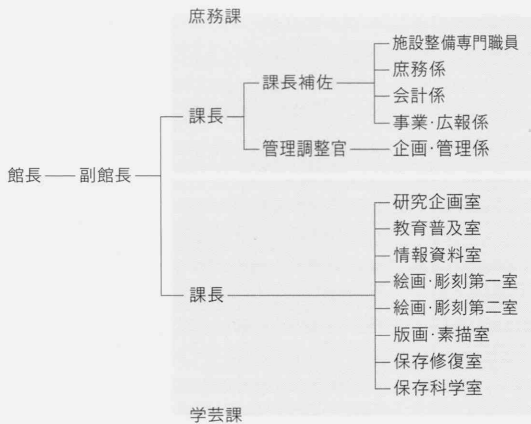
平成13年度～平成15年度（2001～2003）



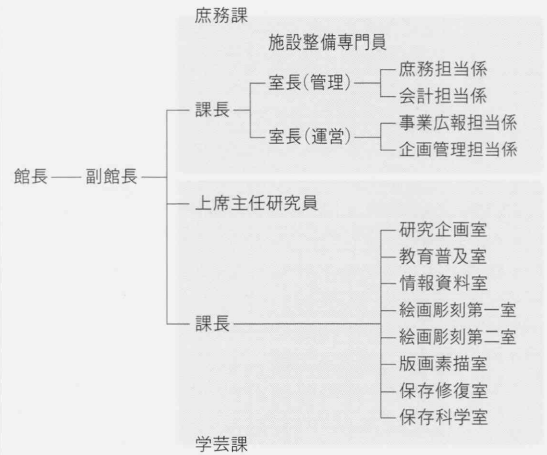
平成16年度（2004）



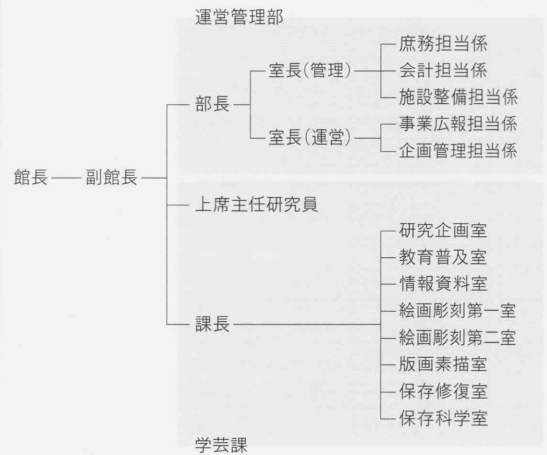
平成17年度（2005）



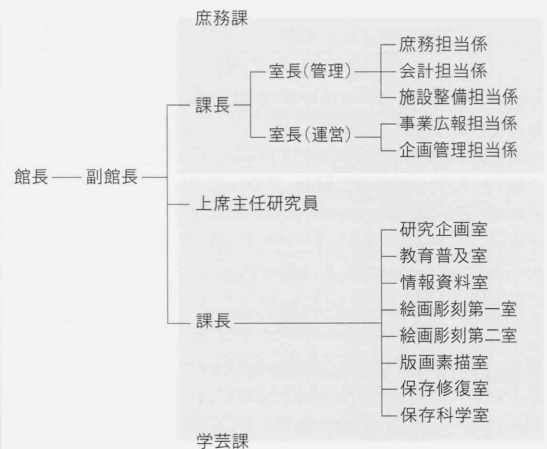
平成18年度（2006）



平成19年度～平成20年度（2007～2008）



平成21年度～現在（2009～）



組織(2) 定員の変遷

俸給表

俸給表	研究職 適用				33 39 年度は 指定職	行政職 (一)				行政職 (二)				
職名	館長	副館長	部長 (課長)	室長 (事業推進官、 管理調整官、 課長補佐)	専門員	係長	主任	一般職員	計	技能職員甲	技能職員乙	労務職員甲	労務職員乙	計
年度														
昭和33(1958)									8					
昭和34(1959)	1		1	1		2		3	7					
昭和35(1960)	1		1	1		2		7	11					
昭和36(1961)	1		1	1		2		8	12	1	2	7	2	12
昭和37(1962)	1		1	1		2		11	15	1	2	10	2	15
昭和38(1963)	1		1	1		2		11	15	1	2	10	2	15
昭和39(1964)	1		1	1		2		11	15	1	3	11	2	17
昭和40(1965)	1		1	1		3		10	15	1	3	11	2	17
昭和41(1966)	1		1	1		3		10	15	1	3	11	2	17
昭和42(1967)	1		1	1		3		10	15	1	3	11	2	17
昭和43(1968)	1		1	1		3		10	15	1	3	11	2	17
昭和44(1969)	1		1	1		3		10	15	1	4	10	1	16
昭和45(1970)	1		1	1		3		9	14	1	4	10	1	16
昭和46(1971)	1		1	1		3		9	14	1	4	10	1	16
昭和47(1972)	1		1	1		3		9	14		4	10	1	15
昭和48(1973)	1		1	1		3		9	14		4	10	1	15
昭和49(1974)	1		1	1		3	1	8	14		4	9	1	14
昭和50(1975)	1		1	1		3	1	8	14		4	9		13
昭和51(1976)	1		1	1		3	2	7	14		4	9		13
昭和52(1977)	1		1	1		3	2	7	14		4	9		13
昭和53(1978)	1		1	1		3	2	7	14		4	8		12
昭和54(1979)	1		1	1		3	2	7	14		4	8		12
昭和55(1980)	1		1	1		4	1	7	14		4	7		11
昭和56(1981)	1		1	1		4	1	7	14		4	7		11
昭和57(1982)	1		1	1		4	2	6	14		4	6		10
昭和58(1983)	1		1	1		4	2	6	14		4	5		9
昭和59(1984)	1		1	1		4	2	6	14		4	5		9
昭和60(1985)	1		1	1		4	2	6	14		4	4		8
昭和61(1986)	1		1	1		4	2	6	14		4	4		8
昭和62(1987)	1		1	1		4	2	6	14		4	3		7
昭和63(1988)	1		1	1		4	2	6	14		3	3		6
昭和64・平成元(1989)	1		1	1		4	2	6	14		3	3		6
平成2(1990)	1		1	1		4	2	6	14		3	3		6
平成3(1991)	1		1	1		4	2	6	14		2	3		5
平成4(1992)	1		1	1		4	2	6	14		2	3		5
平成5(1993)	1		1	1		4	2	6	14		2	3		5
平成6(1994)	1		1	1		4	2	6	14		2	3		5
平成7(1995)	1		1	1		4	2	6	14		2	2		4
平成8(1996)	1		1	1		4	2	6	14		2	2		4
平成9(1997)	1		1	1		4	3	5	14		2	2		4
平成10(1998)	1		1	1		4	3	5	14		2	2		4
平成11(1999)	1		1	1		4	3	5	14		2	2		4
平成12(2000)	1		1	1		4	3	5	14		1	2		3
平成13(2001)	1	1	1	1		4	3	5	15		1		2	3
平成14(2002)	1	1	1	1		4	3	5	15		1		2	3
平成15(2003)	1	1	1	1		4	3	5	15		1		2	3
平成16(2004)	1	1	1	1		4	3	6	16				2	2
平成17(2005)	1	1	1	1		4	2	7	16				2	2
平成18(2006)	1	1	1	1	1	3	3	4	14				2	2
平成19(2007)	1	1	1	1	1	4	3	4	15				2	2
平成20(2008)	1	1	1	1		4	3	5	15				2	2
平成21(2009)	1	1	1	2		4	2	4	14				2	2

研究職						計	常勤職員	日々雇用職員	合計
次長	上席主任研究員	学芸課長	主任研究員	研究員	計				
					4	12			12
1		1		5	7	15	8	6	29
1		1		5	7	19	8	6	33
1		1		5	7	32		5	37
1		1		5	7	38			38
1		1		5	7	38			38
1		1	2	3	7	40			40
1		1	3	3	8	41			41
1		1	3	3	8	41			41
1		1	3	3	8	41			41
1		1	3	3	8	41			41
1		1	3	3	8	40			40
1		1	3	3	8	39			39
1		1	3	3	8	39			39
1		1	3	3	8	38			38
1		1	3	3	8	38			38
1		1	3	3	8	37			37
1		1	3	3	8	36			36
1		1	3	3	8	36			36
1		1	3	3	8	36			36
1		1	3	3	8	35			35
1		1	5	2	9	36			36
1		1	5	3	10	36			36
1		1	5	3	10	36			36
1		1	5	4	11	36			36
1		1	5	4	11	35			35
1		1	5	4	11	35			35
1		1	5	4	11	34			34
1		1	5	4	11	34			34
1		1	5	4	11	33			33
1		1	5	4	11	32			32
1		1	5	4	11	32			32
1		1	5	4	11	32			32
1		1	6	4	12	32			32
1		1	6	4	12	32			32
1		1	6	4	12	32			32
1		1	6	4	12	32			32
1		1	6	4	12	31			31
1		1	6	4	12	31			31
1		1	7	4	13	32			32
1		1	7	4	13	32			32
1		1	7	4	13	32			32
1		1	7	4	13	31			31
		1	7	4	12	31			31
		1	8	3	12	31			31
		1	8	3	12	31			31
		1	8	3	12	31			31
		1	9	2	12	31			31
	1	1	7	3	12	29			29
	1	1	5	5	12	30			30
	1	1	6	4	12	30			30
	1	1	7	3	12	29			29

*平成15年度以降は現員を記載。

組織(3) 評議員名簿

現職評議員

(五十音順)

氏名	現職	在任期間
安藤忠雄	建築家	平成15.4.1～現在に至る
石井幹子	照明デザイナー	平成13.4.1～現在に至る
小佐野重利	東京大学教授	平成13.4.1～現在に至る
葛西敬之	東海旅客鉄道株式会社代表取締役会長	平成15.4.1～現在に至る
鹿島昭一	(財)鹿島美術財団会長	平成17.7.1～現在に至る
木島俊介	群馬県立近代美術館長	平成17.7.1～現在に至る
斉藤邦彦	民間外交推進協会顧問	平成19.4.1～現在に至る
斎藤真理	東京芸術大学美術学部非常勤講師	平成15.4.1～現在に至る
佐藤禎一	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館長	平成19.4.1～現在に至る
篠崎昭彦	住友金属鉱山株式会社名誉顧問	平成19.4.1～現在に至る
清水嘉弘	玉川大学学術研究所客員研究員	平成15.4.1～現在に至る
高階秀爾	東京大学名誉教授	平成12.5.1～現在に至る
西崎清久	(財)日本オペラ振興会理事	平成15.4.1～現在に至る
森英恵	服飾デザイナー	平成13.4.1～現在に至る
森まゆみ	作家	平成15.4.1～現在に至る

旧評議員

(五十音順)

氏名	退任時の職務	在任期間
浅尾新一郎	国際交流基金理事長	平成4.5.1～平成10.3.31
浅野長武	東京国立博物館長	昭和34.4.1～昭和44.1.3
安達健二	前東京国立近代美術館長	昭和51.3.1～昭和62.3.31
阿部充夫	東京国立博物館長	平成9.11.1～平成13.3.31
有光次郎	日本芸術院長	昭和50.4.1～平成3.3.31
井内慶次郎	東京国立博物館長	平成元.5.1～平成4.12.31
石井公一郎	ブリヂストンサイクル(株)相談役	平成3.4.1～平成7.3.31
石橋幹一郎	(株)ブリヂストン取締役名誉会長	昭和46.4.1～平成3.3.31
石橋正二郎	(株)ブリヂストンタイヤ株式会社社長	昭和34.6.1～昭和45.12.31
磯崎新	建築家	平成5.4.1～平成15.3.31
磯村光男	東京都副知事	昭和51.3.1～昭和54.2.28
稲田清助	元東京国立博物館長	昭和52.4.1～平成3.3.31
犬丸直	東京国立近代美術館長	昭和62.4.1～昭和63.7.31
井上靖	日本芸術院会員・作家	昭和52.4.1～昭和58.3.31
今泉篤男	評論家	昭和54.4.1～昭和59.1.19
植木浩	東京国立近代美術館長	平成2.7.5～平成8.7.31
上野直昭	日本学士院会員・愛知県立芸術大学長	昭和34.4.1～昭和48.3.31
牛尾治朗	ウシオ電機(株)会長	平成7.4.1～平成13.3.31
内山武夫	京都国立近代美術館長	平成10.5.1～平成13.3.31
内山正	(社)日本音楽著作権協会非常勤顧問	昭和58.4.1～平成5.3.31
大岡信	東京藝術大学客員教授	平成3.4.1～平成13.3.31
大崎仁	東京国立近代美術館長	昭和63.9.16～平成2.7.4
大島清次	世田谷美術館長	平成5.4.1～平成15.3.31
大原総一郎	倉敷レイヨン株式会社社長	昭和34.6.1～昭和43.7.27
岡田譲	東京国立近代美術館長	昭和47.1.1～昭和50.1.16
緒方信一	文部事務次官	昭和35.5.1～昭和37.1.23
岡部長景	国立近代美術館長	昭和34.4.1～昭和35.1.22
小倉忠夫	京都国立近代美術館長	昭和62.4.1～平成4.3.31
鹿島昭一	鹿島建設(株)取締役相談役	平成3.4.1～平成13.3.31
鹿取泰衛	国際交流基金理事長	昭和63.2.1～平成4.3.31
金平輝子	東京都副知事	平成3.10.1～平成7.3.31
嘉門安雄	ブリヂストン美術館長	昭和56.4.1～平成5.3.31
河北倫明	京都国立近代美術館長	昭和44.9.1～平成5.3.31
貫洞哲夫	前東京都副知事	昭和58.5.12～昭和62.10.31
菊地一雄	彫刻家・東京芸術大学名誉教授	昭和60.1.1～昭和60.4.30
小塚新一郎	東京芸術大学長	昭和34.6.1～昭和44.12.20

氏名	現職	在任期間
小林行雄	東京家政学院大学長	昭和62.4.1～平成5.3.31
斉藤正	東京国立博物館長	昭和51.3.1～昭和58.10.4
酒井忠康	神奈川県立近代美術館長	平成5.4.1～平成15.3.31
坂倉準三	坂倉建築研究所長	昭和34.6.1～昭和44.9.1
坂元弘直	東京国立博物館長	平成13.4.1～平成14.3.31
佐藤正二	国際交流基金理事長	昭和60.1.1～昭和63.1.31
佐藤忠良	彫刻家	昭和62.4.1～平成5.3.31
佐野文一郎	東京国立博物館長	平成5.4.1～平成9.10.30
鈴木俊一	東京都副知事	昭和34.11.1～昭和43.1.31
高橋誠一郎	日本芸術院長	昭和34.4.1～昭和56.3.31
滝川精一	キヤノン販売(株)名誉会長	平成5.4.1～平成15.3.31
谷川徹三	評論家	昭和44.1.1～昭和60.3.31
丹下建三	(株)丹下建三都市建築設計研究所代表取締役	昭和62.4.1～平成5.3.31
司忠	株式会社丸善相談役	昭和34.4.1～昭和61.5.1
辻佐保子	名古屋大学名誉教授	平成3.4.1～平成13.3.31
辻村哲夫	東京国立近代美術館長	平成12.3.1～平成13.3.31
寺中作雄	前学徒援護会会長	昭和34.4.1～昭和62.3.31
遠山一行	(財)日本近代音楽財団理事長	平成3.4.1～平成13.3.31
富永惣一	元国立西洋美術館長	昭和44.1.1～昭和55.6.4
富山秀男	京都国立近代美術館長	平成4.5.1～平成10.4.30
内藤誉三郎	文部事務次官	昭和37.5.1～昭和39.7.1
西垣昭	東京海上火災(株)常勤顧問	平成5.4.1～平成15.3.31
西崎清久	東京国立近代美術館長	平成8.8.1～平成11.7.5
野崎弘	独立行政法人国立博物館理事長	平成13.11.22～平成19.3.31
野村銀一	東京都副知事	昭和54.9.1～昭和58.5.11
芳賀徹	京都造形芸術大学学長	平成5.4.1～平成15.3.31
橋口収	広島銀行頭取	昭和52.4.1～平成5.3.31
鳩山威一郎		昭和48.4.1～昭和49.7.8
林健太郎	国際交流基金理事長	昭和56.4.1～昭和58.6.2
樋口廣太郎	アサヒビール(株)取締役相談役	平成9.4.1～平成19.3.31
土方定一	神奈川県立近代美術館長	昭和46.4.1～昭和55.12.23
檜垣正巳	東京都副知事	平成7.8.1～平成12.2.29
福田繁	文部事務次官	昭和41.8.1～昭和42.10.3
福永正通	東京都副知事	平成12.3.1～平成13.3.31
福原義春	(株)資生堂名誉会長	平成5.4.1～平成15.3.31
藤井宏昭	森アーツセンター理事長	平成10.4.1～平成19.3.31
舩橋俊通	東京都副知事	昭和48.4.1～昭和51.2.29
細川護立	文化財保護委員会委員	昭和34.4.1～昭和45.11.18
本間正義	埼玉県立近代美術館長	昭和60.1.1～平成3.3.31
前川国男	(株)前川国男建築設計事務所代表取締役	昭和50.4.1～昭和61.6.26
前川誠郎	新潟県立近代美術館長	平成2.5.1～平成9.3.31
前川春雄	国際電信電話株式会社社長	昭和62.4.1～平成元.9.22
松方三郎	日米文化教育テレビ番組交流協会理事長	昭和34.4.1～昭和48.9.15
松本重治	国際文化会館理事長	昭和34.4.1～平成元.1.10
真仁田勤	東京都副知事	昭和62.11.11～平成3.9.30
三角哲生	(学)二階堂学園理事長	平成5.4.1～平成15.3.31
宮本三郎	日本芸術院会員・画家	昭和46.4.1～昭和49.10.4
村田良策	神奈川県立博物館長	昭和34.5.1～昭和45.1.11
村山松雄	東京国立博物館長	昭和58.10.5～平成元.3.31
矢代幸雄	大和文華館長	昭和34.4.1～昭和45.12.31
山田久就	外務事務次官	昭和34.4.1～昭和36.3.31
山田智三郎	元国立西洋美術館長	昭和54.4.1～昭和59.4.11
吉川逸治	東海大学教授・東京大学名誉教授	昭和48.4.1～昭和52.3.31
脇村義太郎	日本学士院長東京大学名誉教授	昭和46.4.1～平成3.3.31

組織（４） 職員名簿

現職員

氏名	職名	在任期間
青柳正規	館長	平成 17. 4. 1 ～現在に至る
甲野正道	副館長	平成 19. 8. 1 ～現在に至る
池田徹	庶務課長	平成 21. 4. 1 ～現在に至る
櫻井孝幸	室長（管理）	平成 19. 8. 1 ～現在に至る
矢板橋進一	室長（運営）	平成 14. 4. 1 ～現在に至る
神長宏幸	係長（庶務担当）	平成 3. 4. 1 ～現在に至る
竹内隆文	係員（庶務担当）	平成 20. 8. 1 ～現在に至る
宮脇京治	守衛長	昭和 58. 3. 16 ～現在に至る
藤田正直	警務員	昭和 59. 1. 21 ～現在に至る
荒井英俊	係長（会計担当）	平成 21. 4. 1 ～現在に至る
松戸健一	主任（会計担当）	平成 20. 4. 1 ～現在に至る
湯淺仁美	係員（会計担当）	平成 20. 8. 16 ～現在に至る
橋本雅尚	係長（施設整備担当）	平成 19. 4. 1 ～現在に至る
眞壁道代	主任（事業広報担当）	平成 21. 4. 1 ～現在に至る
古澤美久	係員（事業広報担当）	平成 19. 4. 1 ～現在に至る
諏訪部吉洋	係長（企画管理担当）	平成 20. 4. 1 ～現在に至る
羽田野愛	係員（企画管理担当）	平成 20. 4. 1 ～現在に至る
幸福輝	上席主任研究員	昭和 56. 4. 16 ～現在に至る
村上博哉	学芸課長	平成 18. 9. 1 ～現在に至る
佐藤直樹	主任研究員	平成 5. 4. 1 ～現在に至る
寺島洋子	主任研究員	平成 6. 1. 1 ～現在に至る
横山佐紀	研究員	平成 18. 4. 1 ～現在に至る
川口雅子	主任研究員	平成 15. 9. 1 ～現在に至る
高梨光正	主任研究員	平成 11. 4. 1 ～現在に至る
新藤淳	研究員	平成 19. 4. 1 ～現在に至る
陳岡めぐみ	研究員	平成 19. 2. 1 ～現在に至る
大屋美那	主任研究員	平成 13. 4. 1 ～現在に至る
渡邊晋輔	主任研究員	平成 12. 7. 1 ～現在に至る
河口公夫	主任研究員	平成 3. 10. 1 ～現在に至る

旧職員

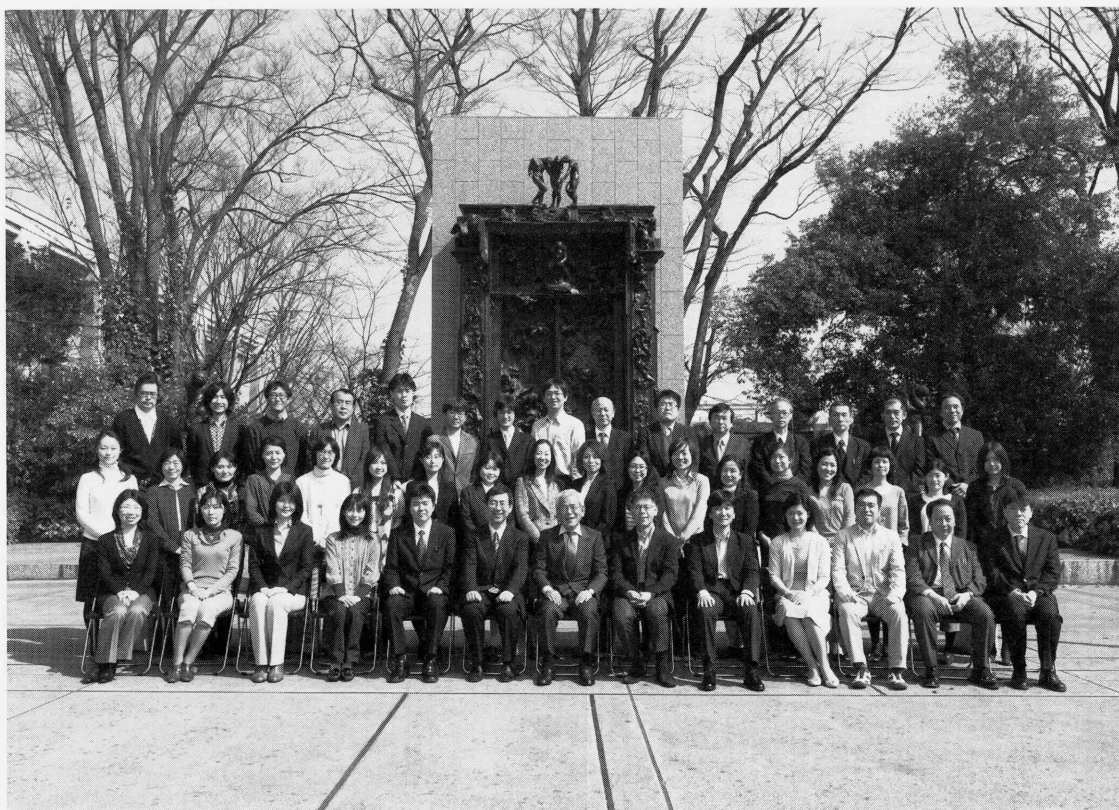
（五十音順）

氏名	離任時の職名	在任期間
會田泰子	電話交換手	昭和 39. 4. 10 ～昭和 46. 8. 31
青木重	次長	平成 7. 7. 1 ～平成 10. 3. 31
青柳健治	事務官	昭和 39. 8. 1 ～昭和 44. 6. 16
青柳マツノ	電話交換手	昭和 36. 8. 1 ～昭和 38. 2. 15
浅田常明	施設係長	平成 7. 4. 1 ～平成 10. 3. 31
足立昭二郎	事務官	昭和 34. 8. 16 ～昭和 37. 2. 16
穴澤一夫	事業課長	昭和 34. 5. 5 ～昭和 51. 4. 15
安部秀明	会計係長	平成 14. 4. 1 ～平成 17. 3. 31
阿部稔	施設係長	平成 10. 4. 1 ～平成 13. 4. 1
荒井敦子	看手	昭和 38. 5. 5 ～昭和 43. 12. 31
荒井久登	係長（事業広報担当）	平成 9. 4. 1 ～平成 21. 3. 31
荒田繁子	看手	昭和 42. 4. 1 ～昭和 50. 3. 1
有川治男	主任研究官	昭和 54. 4. 1 ～平成 4. 3. 31
有森健晴	経理係長	昭和 53. 4. 1 ～平成 2. 3. 31
生田圓	主任研究官	昭和 50. 4. 1 ～平成 7. 3. 31
井口健吾	係員（庶務担当）	平成 17. 4. 1 ～平成 20. 6. 30
井口正美	庶務課課長補佐	平成 2. 4. 1 ～平成 8. 3. 31
石井茂夫	守衛長	昭和 45. 8. 8 ～昭和 63. 3. 31
石垣鉄也	事務官	昭和 56. 1. 1 ～昭和 59. 6. 1
石出孝一	用務員	昭和 34. 7. 2 ～昭和 37. 5. 15
石藤守雄	次長	平成 3. 4. 1 ～平成 4. 12. 15
市川勇	事務官	昭和 47. 2. 1 ～昭和 53. 4. 1
井上武連児	守衛長	昭和 44. 4. 16 ～昭和 58. 4. 1
岩瀬光一	庶務課長	平成 5. 7. 1 ～平成 10. 6. 30

氏名	離任時の職名	在任期間
岩田正一	庶務課長	昭和 38. 9. 16 ～昭和 44. 3. 31
内山正	館長	昭和 54. 1. 16 ～昭和 57. 7. 8
宇野俊郎	事業課長	昭和 42. 2. 1 ～昭和 43. 3. 10
榎本一夫	経理係長	昭和 38. 6. 16 ～昭和 42. 5. 10
海老原綾子	事務官	昭和 35. 9. 1 ～昭和 37. 7. 31
大田周夫	次長	昭和 36. 5. 1 ～昭和 37. 3. 31
大竹乙弘	自動車運転手	昭和 38. 9. 1 ～平成 16. 3. 31
大谷利治	次長	平成 元. 4. 1 ～平成 3. 3. 31
太田原武	施設係長	昭和 34. 3. 16 ～昭和 60. 4. 1
大西浩二	運営管理部長	平成 19. 2. 1 ～平成 21. 3. 31
大山登	会計係長	昭和 34. 4. 1 ～昭和 38. 6. 16
岡崎文憲	事務官	昭和 45. 8. 1 ～昭和 48. 10. 1
織田辰男	庶務課課長補佐	平成 8. 4. 1 ～平成 11. 3. 31
梓田幸恵	看手	昭和 35. 7. 8 ～昭和 45. 3. 31
片岡千栄子	看手	昭和 38. 2. 1 ～昭和 38. 4. 15
金口恭久	副館長	平成 17. 5. 1 ～平成 19. 7. 31
樺山紘一	館長	平成 13. 7. 1 ～平成 17. 3. 31
嘉門安雄	事業課長	昭和 34. 4. 16 ～昭和 41. 11. 15
喜多崎親	主任研究官	昭和 63. 4. 1 ～平成 13. 3. 31
北野傳二	経理係長	平成 6. 4. 1 ～平成 8. 7. 1
木戸一	事務官	昭和 44. 6. 16 ～昭和 49. 1. 1
木藤隆司	作業員	昭和 37. 6. 16 ～昭和 42. 6. 30
木村光夫	庶務課長	平成 2. 5. 1 ～平成 5. 3. 31
栗林猛	専門員（施設整備担当）	平成 13. 4. 1 ～平成 19. 3. 31
紅林孝彰	室長（運営）	平成 18. 4. 1 ～平成 20. 3. 31
黒江光彦	主任研究官	昭和 34. 5. 1 ～昭和 47. 7. 1
黒川征	次長	平成 4. 12. 16 ～平成 6. 3. 31
古池はるみ	事務官	平成 6. 6. 1 ～平成 9. 3. 31
古賀琢之	事務官	昭和 60. 11. 6 ～昭和 63. 4. 1
越宏一	主任研究官	昭和 48. 2. 1 ～昭和 54. 4. 1
越川倫明	主任研究官	昭和 60. 5. 1 ～平成 12. 3. 31
小西多代	事務官	平成 3. 1. 1 ～平成 6. 5. 31
小林清太郎	警務員	昭和 44. 4. 16 ～昭和 49. 4. 1
小林毅	次長	昭和 46. 4. 1 ～昭和 49. 3. 5
小林俊彦	経理係長	平成 8. 7. 1 ～平成 11. 3. 31
小林福三郎	事務官	昭和 34. 12. 1 ～昭和 39. 7. 16
小林優子	係員（企画管理担当）	平成 16. 4. 1 ～平成 18. 12. 31
小松五三夫	事務官	昭和 40. 4. 1 ～昭和 42. 6. 17
小宮勝男	施設整備専門職員付係員	昭和 39. 4. 1 ～平成 17. 3. 31
小宮智子	事務官	昭和 43. 4. 1 ～昭和 46. 12. 17
小谷松誠司	事務官	昭和 54. 1. 1 ～平成 9. 3. 31
斉藤とし子	看手	昭和 38. 10. 1 ～昭和 46. 3. 31
櫻井孝幸	庶務課課長補佐	平成 9. 4. 1 ～平成 18. 3. 31
佐々木英也	主任研究官	昭和 36. 8. 25 ～昭和 51. 1. 1
定永尚代	係員（会計担当）	平成 11. 4. 1 ～平成 18. 3. 31
佐藤剛史	事務官	昭和 54. 3. 10 ～昭和 58. 7. 1
山王堂正行	守衛長	昭和 41. 1. 16 ～昭和 62. 3. 31
三瓶泉	事務官	昭和 52. 1. 1 ～昭和 55. 10. 16
白井澄江	看手	昭和 34. 6. 8 ～昭和 38. 1. 31
白井千春	看手	昭和 34. 7. 28 ～昭和 37. 10. 5
白石治美	庶務課課長補佐	昭和 34. 6. 1 ～昭和 60. 3. 31
白倉由夫	自動車運転手	昭和 36. 4. 1 ～平成 7. 3. 31
菅原章	係長（庶務）	平成 17. 4. 1 ～平成 20. 3. 31
杉本光司	庶務課課長補佐	昭和 48. 4. 1 ～昭和 50. 3. 31
鈴木和枝	事務員	昭和 35. 8. 2 ～昭和 42. 7. 31
鈴木喬	庶務課長	昭和 58. 4. 1 ～昭和 61. 3. 31
鈴木宏	副館長	平成 10. 4. 1 ～平成 13. 7. 9
鈴木誠	係長（会計担当）	平成 18. 4. 1 ～平成 21. 3. 31

氏名	離任時の職名	在任期間
須田文子	事務官	昭和36.8.23～昭和53.4.30
砂子真子	タイピスト	昭和36.4.22～昭和35.2.29
諏訪部吉洋	事務官	平成4.12.1～平成7.9.30
関根正光	事務官	昭和59.12.16～平成2.9.30
千足伸行	主任研究官	昭和40.9.1～昭和54.3.31
高階秀爾	主任研究官	昭和34.7.1～昭和46.7.1
	館長	平成4.4.1～平成12.3.31
高津香織	係員(企画管理担当)	平成18.9.1～平成20.4.15
鷹野由子	事務官	昭和34.8.1～昭和38.10.31
高橋明也	学芸課長	昭和55.4.1～平成18.9.30
高橋志郎	事務官	昭和42.8.16～昭和45.6.1
高橋誠記	副館長	平成15.7.25～平成17.4.30
龍本邦彦	次長	昭和40.6.1～昭和46.3.31
田口賢似	施設係長	平成2.4.1～平成7.3.31
竹内世武	庶務課長	昭和61.4.1～昭和63.3.31
竹林恵美子	看手	昭和37.10.1～昭和41.9.1
田島庄平	庶務課課長補佐	昭和45.7.10～平成6.3.31
田島正幸	庶務係長	昭和59.4.1～平成2.3.31
田近祥子	学芸課事務官	昭和51.5.1～昭和59.3.1
田中克己	庶務課課長補佐	昭和38.5.1～昭和40.4.1
田中英道	技官	昭和45.7.1～昭和48.4.1
田中正美	看手	昭和41.9.1～昭和45.4.15
田中正之	主任研究員	平成8.1.1～平成19.3.31
棚橋愛	看手	昭和35.4.9～昭和38.9.15
棚橋美智子	看手	昭和39.5.16～昭和43.12.31
田邊幹之助	主任研究員	昭和59.4.1～平成18.3.31
玉木茂	事務官	昭和52.4.1～昭和55.7.1
垂木祐三	次長	昭和60.2.1～昭和62.3.31
塚田全彦	主任研究官	平成9.10.1～平成17.12.31
寺尾節子	看手	昭和43.4.1～昭和46.12.20
寺尾敏明	庶務係長	昭和41.8.16～昭和46.4.1
遠山敦子	館長	平成12.4.1～平成13.4.26
戸松靖子	事務官	昭和39.1.1～昭和53.6.1
富永惣一	館長	昭和34.4.3～昭和43.3.31
富山秀男	学芸課長	昭和51.4.16～昭和57.8.1
戸矢庄一	警務員	昭和52.5.1～昭和60.8.31
内藤満枝	出納主任	昭和37.4.1～平成5.3.31
中内昌子	看手	昭和37.7.27～昭和39.3.31
長崎州宏	会計係長	平成15.4.1～平成18.3.31
長崎功子	事務員	昭和45.4.20～昭和46.8.31
長島武夫	警務員	昭和45.5.16～昭和58.12.9
永富雅信	事業係長	平成11.4.1～平成14.3.31
中村俊春	主任研究官	平成元.4.1～平成5.3.31
中村恵	庶務課課長補佐	平成15.4.1～平成17.3.31
中山公男	主任研究官	昭和34.5.1～昭和43.7.31
濱貝一良	次長	昭和57.7.9～昭和60.1.31
新山忠弘	庶務課長	昭和49.4.1～昭和58.3.31
西永岩文	会計係主任	平成11.4.1～平成14.3.31
西森馨	次長	昭和37.4.1～昭和40.5.31
西山博	庶務係長	昭和46.4.1～昭和53.4.1
野口知行	庶務係主任	平成14.4.1～平成17.3.31
野崎勝利	機械主任	平成5.12.16～平成9.3.31
野田晴美	事務員	昭和46.9.1～昭和47.11.4
野田頭勉	庶務課長	平成10.7.1～平成14.3.31
萩原寿郁	庶務課長	平成17.4.1～平成18.6.30
橋本昭二	電気工手	昭和34.3.16～昭和35.12.15
橋本眞	次長	昭和52.5.10～昭和55.4.1
長谷川三郎	学芸課長	昭和46.9.1～平成4.8.31

氏名	離任時の職名	在任期間
波多野宏之	主任研究員	平成4.11.1～平成15.3.31
服部栄次	庶務課長	昭和44.4.1～昭和49.3.31
花村正道	庶務課長	昭和34.3.3～昭和38.8.31
土生武則	次長	昭和49.4.1～昭和52.5.9
浜田孝	守衛長	昭和34.3.16～昭和52.4.1
羽山正公	守衛長	昭和42.7.1～平成11.3.31
原口和明	庶務係長	昭和53.4.1～昭和56.4.1
原田拓	庶務係長	昭和37.11.1～昭和41.8.16
原田道雄	経理係長	昭和58.8.1～平成6.3.31
原田百合子	事務官	昭和39.2.1～昭和43.4.15
東谷憲	係員(会計担当)	平成7.4.1～平成14.3.31
	主任(会計担当)	平成17.4.1～平成20.3.31
樋口泰一	守衛長	昭和37.5.16～昭和55.4.1
肥後豊司	事務官	昭和37.4.1～昭和52.4.1
平井文雄	庶務課課長補佐	昭和35.1.16～昭和48.4.1
平野出見	次長	昭和34.4.1～昭和36.4.30
平野謙一	事務官	平成元.4.1～平成7.3.31
		平成9.4.1～平成11.3.31
平山節子	看手	昭和35.4.1～昭和59.4.1
廣瀬眞澄	警務員	昭和34.8.8～昭和40.1.12
廣戸博之	事務官	昭和55.10.1～昭和58.6.15
福岡敏矩	庶務課課長補佐	昭和34.5.1～昭和38.4.1
藤田不二男	次長	平成6.6.25～平成7.6.30
舟橋さち子	福祉主任	昭和37.9.1～平成3.3.31
古山則夫	事業推進官	昭和49.3.16～平成15.3.31
前川誠郎	館長	昭和55.4.3～平成2.3.31
眞壁道代	係員(事業広報担当)	平成9.11.16～平成18.8.31
松岡進	庶務課長	平成14.4.1～平成17.3.31
松波直樹	会計係員	平成4.2.1～平成16.10.31
松元昭憲	副館長	平成13.7.10～平成15.7.24
馬淵明子	主任研究官	昭和58.4.1～昭和62.4.30
三角哲生	館長	平成2.4.1～平成4.3.31
牟田成	事務官	昭和59.1.1～平成4.1.31
森孝一	庶務課長	昭和63.4.1～平成2.4.30
森脇英一	次長	昭和62.4.1～平成元.3.31
矢板橋進一	事務官	昭和59.1.1～平成4.10.31
	用度主任	平成7.10.1～平成11.3.31
八重樫春樹	学芸課長	昭和43.8.1～昭和63.9.30
矢島絢	係員(会計担当)	平成16.11.5～平成20.7.31
矢代一雄	施設係長	昭和60.4.1～平成2.3.31
安川一江	事務官	昭和35.7.1～昭和44.3.31
安富博	庶務係長	平成4.4.1～平成9.3.31
山恵美子	看手	昭和38.4.16～昭和39.4.30
山崎純子	事務官	昭和42.4.16～昭和45.3.31
山田亜紀子	看手	昭和36.8.1～昭和42.3.31
山田智三郎	館長	昭和43.4.1～昭和54.1.15
山本絢子	事務員	昭和35.11.1～昭和38.9.1
山本昌志	経理係長	昭和37.7.16～昭和45.7.1
	庶務課課長補佐	昭和50.4.1～昭和58.12.1
雪山行二	学芸課長	昭和51.4.1～平成10.9.30
湯口太多史	事務官	昭和48.10.1～昭和51.12.6
横田幹	庶務係長	昭和56.4.1～昭和59.4.1
横森江考子	看手	昭和47.2.1～昭和53.3.31
横山景一	警務員	昭和34.4.1～昭和34.7.26
吉沼佐美子	事務官	昭和35.3.16～昭和39.1.31
渡辺和子	事務官	昭和47.12.1～昭和49.6.12
渡辺康	事業係長	平成11.4.1～平成15.3.31
渡辺康子	技官・研究員	昭和54.4.1～昭和59.9.30



国立西洋美術館 職員一同（《地獄の門》前にて）平成21年4月6日

組織(5) 歴代館長・副館長(次長)

職名	氏名	在任期間
館長	富永惣一	昭和34.4.3 ~ 昭和43.3.31
	山田智三郎	昭和43.4.1 ~ 昭和54.1.15
	内山正	昭和54.1.16 ~ 昭和57.7.8
	前川誠郎	昭和57.7.9 ~ 平成2.3.31
	三角哲生	平成2.4.1 ~ 平成4.3.31
	高階秀爾	平成4.4.1 ~ 平成12.3.31
	遠山敦子	平成12.4.1 ~ 平成13.4.26
	樺山紘一	平成13.7.1 ~ 平成17.3.31
	青柳正規	平成17.4.1 ~ 現在に至る
次長	平野出見	昭和34.4.1 ~ 昭和36.4.30
	大田周夫	昭和36.5.1 ~ 昭和37.3.31
	西森馨	昭和37.4.1 ~ 昭和40.5.31
	瀧本邦彦	昭和40.6.1 ~ 昭和46.3.31
	小林毅	昭和46.4.1 ~ 昭和49.3.5
	土生武則	昭和49.4.1 ~ 昭和52.5.9
	橋本眞	昭和52.5.10 ~ 昭和55.4.1
	前川誠郎	昭和55.4.3 ~ 昭和57.7.8
	浪貝一良	昭和57.7.9 ~ 昭和60.1.31
	垂木祐三	昭和60.2.1 ~ 昭和62.3.31
	森脇英一	昭和62.4.1 ~ 平成元.3.31
	大谷利治	平成元.4.1 ~ 平成3.3.31
	石藤守雄	平成3.4.1 ~ 平成4.12.15
	黒川征	平成4.12.16 ~ 平成6.3.31
	藤田不二男	平成6.6.25 ~ 平成7.6.30
	青木重	平成7.7.1 ~ 平成10.3.31
	鈴木宏	平成10.4.1 ~ 平成13.3.31
副館長	鈴木宏	平成13.4.1 ~ 平成13.7.9
	松元昭憲	平成13.7.10 ~ 平成15.7.24
	高橋誠記	平成15.7.25 ~ 平成17.4.30
	金口恭久	平成17.5.1 ~ 平成19.7.31
	甲野正道	平成19.8.1 ~ 現在に至る

国立西洋美術館50年史 1959-2009

発行 平成21年6月10日

編集発行 国立西洋美術館
東京都台東区上野公園7番7号
<http://www.nmwa.go.jp/>

制作 株式会社 淡交社
ブックデザイン 折原滋・名越京子・折原槇子 [O design]
印刷・製本 株式会社 シナノ

© 2009 by National Museum of Western Art, Tokyo
Printed in Japan
ISBN978-4-906536-49-8



国立西洋美術館

The National Museum of Western Art
